2017年度

事 業 報 告 書

自　2017年　4月　1日
至　2018年　3月 31日

KEIWAKAI

社会医療法人　敬 和 会

目　　次

Ⅰ　ごあいさつ

社会医療法人敬和会 理事長 …… 3
社会医療法人敬和会 統括院長 …… 4
大分岡病院 院長 …… 5
大分リハビリテーション病院 院長 …… 6
大分豊寿苑 施設長 …… 7
在宅支援クリニック すばる 院長…… 8

Ⅱ　事業所概要

1　沿革…… 10
2　事業所一覧…… 16

Ⅲ　大分岡病院

1　病院組織図…… 19
2　会議・委員会組織図…… 20
3　承認及び届出関係…… 21
4　設置基準…… 22
5　教育研修指定病院関係…… 22
6　医事統計…… 23
7　退院患者統計…… 30
8　疾病統計…… 33
9　手術統計…… 35

10　大分岡病院　診療部活動報告…… 42
　1）循環器内科
　2）外科
　3）救急科
　4）整形外科
　5）形成外科
　6）心臓血管外科
　7）サイバーナイフがん治療センター
　8）放射線科
　9）麻酔科
　10）口腔顎顔面外科・矯正歯科

11　大分岡病院　部署別活動報告…… 52
　1）看護部
　2）医療福祉支援部
　3）薬剤部
　4）臨床工学部
　5）検査課
　6）放射線課
　7）総合リハビリテーション課
　8）栄養課
　9）総務・人事部
　10）経理課
　11）医事課
　12）購買・物流課

13）医療情報課
14）施設管理課
15）創薬センター

12　大分岡病院　委員会活動報告…… 69
１）倫理委員会
２）治験審査委員会（IRB委員会）
３）臨床研修運営委員会、臨床研修管理委員会
４）教育・研修委員会
５）医療安全委員会
６）薬事審議委員会
７）感染管理委員会
８）褥瘡対策委員会
９）栄養管理（NST）委員会　（栄養サポートチーム）
10）がん薬物療法委員会
11）栄養改善委員会
12）輸血療法委員会
13）臨床検査適正化委員会
14）RST委員会（呼吸療法サポートチーム）
15）RRT（Rapid Response Team）委員会
16）診断群分類検討委員会
17）労働安全衛生委員会
18）医療ガス安全管理委員会
19）防災・防犯・施設管理委員会
20）災害対策委員会
21）診療情報管理委員会
22）医療情報システム管理委員会
23）CS向上委員会
24）ES向上委員会
25）からだ情報室運営委員会（図書委員会）

13　大分岡病院教育活動…… 94
１）講演・ポスター発表・講義・指導・表彰
①診療部
②メディカルスタッフ
２）投稿・著書・雑誌掲載
①診療部
②メディカルスタッフ

Ⅳ　大分リハビリテーション病院（2017.2～大分東部病院より名称変更）

1　病院組織図…… 105
2　委員会組織図…… 106

3　統計…… 107
１）外来患者数
２）入院患者数
３）診療圏
４）年齢性別
５）疾病統計
６）実績
７）健診センター実績

4　大分リハビリテーション病院　診療部活動報告…… 119
１）整形外科・リハビリテーション科
２）消化器内科
３）漢方内科・小児科
４）放射線科
５）循環器科

5　大分リハビリテーション病院　部署別活動報告…… 121
１）看護部
２）リハビリテーション部
３）健診センター
４）放射線課
５）検査課
６）薬剤部
７）在宅支援部
８）口腔衛生課
９）栄養課
10）医事課
11）経理課
12）総務課

6　大分リハビリテーション病院　委員会活動報告…… 134
１）医療安全管理委員会
２）感染管理委員会
３）労働安全衛生委員会
４）臨床検査適正化委員会
５）診療情報管理委員会
６）褥瘡対策委員会
７）医療ガス安全管理委員会
８）防災・省エネ・施設管理委員会
９）薬事審議委員会
10）給食・栄養管理委員会
11）教育委員会
12）広報委員会
13）サービス向上委員会
14）NST委員会

7　大分リハビリテーション病院教育活動…… 145
１）講演・ポスター発表・講義・指導・表彰
①診療部
②メディカルスタッフ
２）投稿・著書・雑誌掲載
３）資格取得

Ⅴ　大分豊寿苑

1　大分豊寿苑組織図…… 151
2　委員会組織図…… 152
3　年間行事…… 153
4　地域交流・講演　実績表…… 154
5　統計…… 155

6　大分豊寿苑　部署別活動報告…… 156
１）療養棟
２）栄養室

３）居宅介護支援事業所（特定相談支援事業所）
４）居宅介護支援事業所こいけばる
５）通所リハビリテーション
６）訪問看護ステーション
７）介護企画部
８）事務室
９）支援相談室
10）リハビリテーション課
11）有料老人ホームいきいきホームみなはる
12）ヘルパーステーション
13）小規模多機能型居宅介護事業所陽だまりの郷みなはる
14）グループホームおおざい憩いの苑
15）グループホームこいけばる憩いの苑

7　大分豊寿苑　委員会活動報告…… 171
１）労働安全衛生委員会
２）褥瘡対策委員会
３）感染対策委員会
４）サービス向上委員会
５）安全対策委員会
６）エコ委員会
７）地域交流委員会

8　大分豊寿苑　部会活動報告…… 178
１）学術部
２）広報部
３）レクリエーション部
４）福利部
５）園芸部

9　教育活動…… 181
１）講演・ポスター発表
２）投稿・著書・雑誌掲載
３）講師・サロン他
４）資格取得

Ⅵ　在宅支援クリニック すばる

1　統計…… 187
2　在宅支援クリニック すばる　活動報告 …… 189

Ⅶ　佐伯保養院

1　外来実績…… 193
2　入院実績…… 193

Ⅷ　資料

第12回敬和会合同学会…… 197

ご あ い さ つ

平成29年度の敬和会事業報告書の刊行にあたって

社会医療法人敬和会 理事長　**岡　　敬二**

敬和会全体の事業をまとめた、平成29年４月から平成30年３月までの敬和会事業報告書の発刊にあたって、一言ごあいさつ申し上げます。

まず、敬和会においては、創薬センター長に大橋京一医師（理事）が就任されました。大橋理事は、大分大学医学部における長年の臨床薬理学、創薬のご経験を敬和会にお伝えいただき、敬和会創薬センターの質を高めるべくご活躍いただく予定です。

次に、大分岡病院では着々と地域医療支援病院としての急性期医療機能を高める施策が実行されており、①循環器内科の大家医師、脇坂医師によるアブレーション治療体制が確立され、順調に稼働しています。②また、これまで課題であった脳神経外科についても新たに経験豊富な戸井医師が着任され、診療がスタートしています。③さらに、救急医療においては、大分東地域救急ワークステーションの運用が開始され、救急車出動の迅速化と救急部門との連携が強化されています。④そして、日本医療機能評価機構のver.6を平成30年３月に受審し、認定の更新がなされています。このように、大分岡病院においては継続的に診療の質を高め、安全に医療サービスが提供できる体制づくりが行われています。

大分リハビリテーション病院は、回復期リハビリテーションの機能の強化と、ヘルスケアリンクにおけるリハビリテーションサービスの提供という役割を、確実に果たしつつあります。また、施設内の敬和会健診センターは、人間ドック機能評価を受審し、質の高い健診サービスの提供に磨きがかかってきました。

開設から４年目に入った在宅支援クリニックすばるは、在宅医療に特化したクリニックとして確実に地域医療に貢献しています。訪問患者数も着実に増加しており、個々人の価値観を何よりも重視する診療方針が地域に浸透していると思います。また、地域を支える力を強化するため、「すばる塾」という、地域の介護従事者の知識と技能を高めるための研修会を企画し、その第１回が７月に開催されました。敬和会として、地域包括ケアにおける在宅医療と介護を支えるための支援の継続を期待しています。

大分豊寿苑においては、地域や行政、そして企業との連携を強化しながら、現場での課題解決を目指した事業展開が着々と進められ、数多くの新たな事業がスタートしました。①まず、身体障害者の自立訓練（機能訓練）を支援する目的で、「地域生活サポートセンターけいわ」が開設されました。②７月には、大分豊寿苑訪問看護ステーション本部を、小池原のすばる内に移転しました。③同じく７月に居宅介護支援事業所こいけばるが開設しました。④10月には、大分豊寿苑に別保あんしんサポートセンターを開設しました。⑤平成30年３月には、小池原のすばる内に看護小規模多機能型居宅介護を開設しました。これまでの訪問看護の在宅医療の活動をさらに強化する施設であり、病院からの在宅復帰、在宅療養を医療の面から支えることが期待されています。

そして、佐伯保養院では、広瀬院長を中心に、さらに赤田医師、豊岡医師の２名の精神科専門医が加わり、診療機能と病院運営機能の強化が図られています。居宅介護支援事業所「ケアプランセンターさくら」が開設され、国が進める在宅移行に沿うような患者支援が期待されます。

以上、平成29年度の敬和会事業を総括しましたが、敬和会の目指す地域統合ネットワークである敬和会ヘルスケアリンクの機能が着実に構築されつつあると感じています。全ての敬和会職員のご努力に心からの敬意と感謝の意を表します。

ごあいさつ

社会医療法人敬和会 統括院長　**森　　照明**

平成29年４月から平成30年３月までの社会医療法人敬和会事業報告書を作成しました。今年度も経営的にも安定し黒字を計上しました。以下今年度の主な事業内容を紹介します。

大分岡病院は急性期、地域医療支援病院として医療連携施設も250を超え、大分東地域救急ワークステーション運用も開始されました。創薬センター長に大分大学副学長の大橋京一教授をお迎えし治験部門が充実しました。立川院長は９月に第12回敬和会合同学会、10月に日本下肢救済足病学会九州地方会を開催し、第７回世界ハートの日市民公開講座も好評でした。

大分リハビリテーション病院では待望の電子カルテが６月に導入され、人間の尊厳を守る摂食・咀嚼・嚥下、歩行、排尿の各リハ・ケアチームの活動も軌道に乗り、大分リハマルシェも地元に好評でした。健診センター部門も充実し、人間ドック機能評価受審にも合格しました。

大分豊寿苑では地域生活サポートセンターけいわ、訪問型・通所型サービスＣ事業、居宅介護支援事業所こいけばる、別保あんしんサポートセンター、明野地域包括支援センター事業受託、看護小規模多機能型居宅介護の開設等々、新規事業ラッシュの年でした。在宅支援クリニック「すばる」は訪問件数も増え、地域と患者に貢献しており、第１回すばる塾も好評でした。佐伯地域唯一の精神科病院佐伯保養院は指定居宅介護支援事業「ケアプランセンター さくら」を開設しました。

今年特筆すべき一つに岡理事長が「敬和会ダイバーシティセンター」活動を基盤にして、日本初の一般社団法人日本ヘルスケアダイバーシティ学会を７月に創立し、全国から約500名の参加者で好評を博しました。アドバイザリーボードには日本各界代表者がご参加くださり、大きな期待が寄せられました。

今年度も各学会で多くの発表をし、産・学・官・民協働の臨床研究や医療機器開発も進みました。敬和会に事務局を置く大分県排尿リハ・ケア研究会、九州先端リハ・ケアクラスター推進機構、大分県スポーツ医科歯科研究会、大分県医療コンフリクトマネジメント研究会、大分県スポーツ学会と認定スポーツ救護講習会、大分オーラルリハケア研究会らも活発に活動し、質の向上と地域に貢献しました。大分県医療介護ロボ・HAL研究会や歩行リハ研究会でも成果が上がりました。

この一年間、温かいご指導、ご協力を下さった関係各位に感謝いたします。

ありがとうございました。

ごあいさつ

大分岡病院 院長　**立川　洋一**

平成29（2017）年度の事業報告にあたり、大分岡病院院長としてご挨拶申し上げます。平成29年度には以下の６つの中長期基本方針に基づく大分岡病院運営指針（平成30年度には７つの中長期基本方針に変更しています）を掲げ、これに則り病院を運営して参りました。

大分岡病院平成29年度の中長期基本方針

１．地域（医療・介護）連携
２．救急医療・急性期医療
３．当院独自の高度医療・専門医療
４．優れた人材育成・人材確保
５．働きがいのある職場創り
６．国際標準・国際化

診療に関しましては、大分大学から多くのご支援を頂けるようになり、急性期病院としての機能が充実してきました。４月から循環器内科に不整脈チームを招聘することができ、循環器領域の診療の質が高まりました。時期を同じくして南海医療センターと循環器内科の協力体制を構築し、県南地区の地域医療に貢献できています。地域医療センターからは、非常勤ですが、総合診療医を派遣して頂けるようになりました。また、救急科と高度救急救命センターとの交流も深まっています。その他の診療科につきましても、当院独自の高度医療・専門医療に取り組んで頂き、地域医療支援病院としての期待に応えることができています。働きがいのある職場創りの一環として、平成29年12月には健康経営を宣言し、職員保健推進室を設立して職員の健康保持増進と健康経営の取り組みを開始しました。国際標準、国際化の推進につきましては、海外での研修、中国での健康講話などに限られており、外国人の登用等、今後の課題と言えるでしょう。職員の皆さん方が日々切磋琢磨して研鑽されているお陰で未来志向の組織文化が醸成されていると同時に経営的にも磐石化してきました。皆さんのご協力に感謝いたします。ありがとうございます。今後も地域医療支援病院として、急性期、救急医療を提供できる“選ばれる病院”であり続けられるよう、職員一同一緒に努力して参りたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

2017年度の大分リハビリテーション病院

大分リハビリテーション病院 院長　**山口　　豊**

2017年度の大分リハビリテーション病院事業報告書を作成いたしました。

当院は大分東部病院として2014年４月１日に回復期リハビリ病棟とリハビリ科を開設し、その後段階的に99床まで増床して病棟改修を行いました。敬和会施設の機能分化と地域の医療ニーズを鑑み、脊椎外科、総合内科、産婦人科、糖尿病内科、乳腺外科、呼吸器内科の専門診療科を閉鎖して回復期リハビリと健診事業に特化した病院体制の準備を行い、2016年度２月にリハパーク（リハビリ訓練棟）が完成し、さらには主に当院を退院された患者さんを対象にした在宅支援部（通所リハビリおよび訪問リハビリ）を2017年度４月に開設して、全ての体制が整って挑んだ2017年度でした。

改修と増床を終えたばかりで運営体制が不十分であった病棟は、特に６月から７月にかけての実績の低下や、開設したばかりで利用者確保が困難であった在宅支援部の特に前半期の低迷など経営上の問題はありましたが、最終的には全ての部署で過去最高の実績を残すことができ、ほぼ期首予想と同等の結果となりました。この他にも患者家族会や大分リハマルシェ、産業リハケア事業など、地域リハビリテーションを目指す当院の具体的な地域活動も始めることができ、多くの皆さんに参加していただいています。また、2018年度の診療報酬改定を控え、回復期リハビリテーションの質の評価であるアウトカム評価（実績指数）のレベルアップについては、大分県内ではトップの値を示すことができました。これは常日頃から全職員が取り組んだ成果の現れであり、運動機能や生活機能が低下しても、当院で治療を行えば、また自宅で生活ができるようになることを示すものと考えています。

2017年度は各部署とも力をつけ、それを感じることができた年度でした。2018年度はさらに病院全体をレベルアップし、当院の理念である地域の安心と笑顔を守る医療を提供していきます。

2017年度 大分豊寿苑 ご挨拶

大分豊寿苑 施設長 **岸川　正純**

先ずH29年度の大分豊寿苑の新規事業の報告を致します。

６月１日障害者自律訓練（機能訓練）を行う“地域生活サポートセンターけいわ”を在宅総合ケアセンター2Fにオープンしました。

７月１日に訪問看護ステーションの本部を皆春から小池原に移しました。これまでの皆春本部は“皆春サテライト”になりました。同時に小池原に“在宅支援事業所こいけばる”をオープンしました。
大分豊寿苑の電子カルテへの移行は、訪問看護ステーションと“居宅支援事業所こいけばる”が他の部署に先駆けて７月１日に完了しています。残りの部署はH30年９月に移行の予定です。
10月20日より“看護小規模多機能型居宅介護　そら”の開設に向けて、改修工事が始まっています。H30年４月１日にオープンの予定です。

H28年10月に認知症の方の介護を行っている家族が集まれる場所として、認知症カフェ“カフェきちょくれ”を“パールハイツ”にオープンしています。10月14日に別保安心サポートセンター１Ｆに移転しました。大分豊寿苑前の大通り（森町バイパス）に面しており、これまで以上に地域の方々に利用して貰えると思います。認知症の相談に限らず、介護の悩みや家庭の愚痴など、お茶を飲みながら気軽に話せるカフェを目指しています。第２・第４土曜日の14時～16時に開催しています。

11月３日に“ミニむつき庵ほほえみ”を同じく別保安心サポートセンター１Ｆにオープンしました。おむつフィッターが排泄に関する相談・販売・情報提供を行っています。

次に大分豊寿苑ではフィリピン人を外国人介護福祉士候補者として、H21年から受け入れてきました。大分豊寿苑にとって４人目の外国人介護福祉士候補者であるジョベリンさんが、日本語の壁を乗り越えて、３月に介護福祉士国家試験に初めて合格してくれました。大変嬉しく思っています。現在療養棟の介護福祉士として熱心に仕事をしています。12月に５人目の候補者ジャネッサさんが大分豊寿苑に入職しています。彼女も是非国家試験に合格できるように全面的に支援して行きたいと思っています。

９月に大分豊寿苑は、大分県全体の介護サービスの向上を目的としている、大分県介護サービスクオリティ向上事業の施設に選定されました。当苑では５Ｓ活動に取り組むことになり、療養棟２Ｆをモデル職場としました。専門家の御指導の下、長年雑然と置かれていた物品が次第に整理されていきました。動線の確保や効率を考慮した配置・仕組みを検討していく事で、職場環境は劇的に改善しました。綺麗になった環境を維持することは勿論、他の部署にも５Ｓ活動を拡げることで、大分豊寿苑の介護サービスの質の更なる向上に繋げたいと思っています。

H30年４月には６年に１度の、介護報酬と診療報酬の同時改訂が行われます。しっかりと準備をしていきたいと考えています。

ご　挨　拶

在宅支援クリニック すばる 院長　**姫野　浩毅**

社会医療法人敬和会【在宅支援クリニックすばる】は、早いもので2018年10月で５年目を迎えます。10年計画でスタートした長期ビジョンも折り返し地点となりました。

昨年度の実績は、訪問診療総数2532件、往診総数566件、在宅患者数2018年３月102名（重症患者22%）、在宅看取り総数15件でした。

2016年10月より無床診療所へ転換し、他院との連携“機能強化型”在宅療養支援診療所として運営する中、当院施設内に2017年度より大分豊寿苑訪問看護ステーション本部が移転、2018年度より看護小規模多機能型居宅介護そらが開設されました。敬和会ヘルスケア・リンクでの在宅拠点として、『（当院の行動指針）その人の価値観に敬意を払い、要望を理解し、患者・家族にとって適切かつ正確なチーム医療・医療連携を行い、その人の命と生き方を最大限に支援する』体制が整備されました。

以前からの取り組みである地域のケアマネージャーとの定期意見交換会、介護職との医療的連携を踏まえた寺子屋『すばる塾』開催実施、さらに急性期医療と在宅の連携、高齢者救急の観点から“在宅トリアージ”の提唱とともに当院内の職員配置を含め、よりハイブリットな体制作りを進めています。
“すばる”は職員一同一丸となり、これからも日々精進していきます。

事 業 所 概 要

1 沿　革

昭和29年５月22日	岡　医　院	岡医院開設（８床）　院長　岡　宗由（産科、婦人科、外科）
		住所　大分市大字鶴崎1332の１
昭和31年２月13日	岡　医　院	岡医院（19床）増床
昭和38年７月11日	大分岡病院	診療所から病院へ　40床開設
昭和39年６月２日	大分岡病院	救急病院告示承認
昭和39年９月９日	大分岡病院	61床に増床
昭和41年４月17日	大分岡病院	80床に増床
昭和43年４月１日	大分岡病院	副院長　姫野研三就任
昭和45年12月２日	大分岡病院	X線テレビ（日立DR-125VT）導入
昭和53年	大分岡病院	院長　岡宗由　紺綬褒章（内閣総理大臣　福田赳夫）
昭和56年４月７日	大分岡病院	頭部CTスキャナー（東芝TCT-30）導入（大分岡病院）
昭和57年１月12日	大分岡病院	病院内温泉掘削工事
昭和58年３月22日	大分岡病院	110床に増床
昭和59年10月２日	大分岡病院	140床に増床
昭和62年12月２日	大分岡病院	180床に増床
平成元年１月25日	敬　和　会	医療法人　敬和会設立（代表者　理事長　岡宗由）
平成２年11月１日	大分岡病院	基準看護（基本）承認
平成３年10月１日	大分岡病院	基準看護特Ⅰ類承認
平成４年８月１日	大分岡病院	基準看護特Ⅱ類承認
平成５年５月１日	大分岡病院	基準看護特Ⅲ類承認
平成６年10月１日	大分岡病院	院長　姫野研三就任
平成７年６月９日	大分豊寿苑	訪問看護ステーションを大分岡病院内に開設（大分豊寿苑訪問看護ステーション）
平成７年９月８日	大分豊寿苑	老人保健施設大分豊寿苑開設（入所定員90名、通所定員60名）
		施設長　新貝哲一就任
平成９年５月１日	敬　和　会	病児保育センターひまわり開設（大分市委託幼児デイサービス）
平成10年４月１日	大分岡病院	新看護承認（2.5：１看護（A），10：１補助）
平成10年11月１日	大分岡病院	211床に増床
平成10年11月３日	大分岡病院	東芝デジタルアンギオシステム導入
平成10年12月３日	大分岡病院	MR（シーメンス旭メディック）導入
平成11年１月１日	大分岡病院	高気圧酸素治療装置導入
平成11年２月12日	大分岡病院	透析室の開設
平成11年７月１日	大分岡病院	222床に増床
平成12年４月１日	大分岡病院	院外処方箋発行開始
		二次救急病院に指定
		大分岡病院居宅介護支援事業所開設
	大分豊寿苑	介護保険法施行
		通所リハビリテーションの定員を60名へ増員
		大分豊寿苑生きがいデイサービス開始（定員15名）
		大分豊寿苑居宅介護支援事業所開設
平成12年10月２日	大分岡病院	「形成外科外来」新設
平成12年10月３日	大分岡病院	誤投薬防止システム導入
平成13年２月１日	大分岡病院	地域連携室設置
平成13年３月15日	大分豊寿苑	ヘルパーステーション開設
平成13年４月１日	大分岡病院	診療情報管理加算算定開始
		院内PHSシステム導入

平成13年５月１日	大分岡病院	診療科「脳神経外科」標榜
平成13年７月１日	大分岡病院	ブッチャー方式ハウスキーピング導入
平成13年10月１日	大分岡病院	開放型病院認可（５床）
平成14年１月１日	大分岡病院	総合リハビリテーション認可
		「ER救急センター」開設
平成14年２月１日	大分岡病院	シーメンスRI装置導入
平成14年３月12日	大分岡病院	一般病床222床から231床に増床
平成14年６月１日	大分岡病院	新看護承認（２：１看護）
平成14年９月30日	大分岡病院	日本医療機能評価機構病院認定　Ver3.1
平成15年１月１日	大分岡病院	院長　岡敬二、副院長　立川洋一、総院長　姫野研三就任
平成15年３月１日	大分岡病院	副院長　岡治道就任
平成15年４月	大分豊寿苑	大分豊寿苑ヘルパーステーション開設
平成15年５月24日	大分岡病院	「コールセンター」開設
平成15年６月25日	大分岡病院	大分サイバーナイフがん治療センター棟の完成
平成15年７月１日	敬和会	「創薬センター」設立
	大分豊寿苑	通所リハビリテーションの定員を70名へ増員
平成15年７月16日	大分岡病院	地域リハビリテーション支援体制整備推進事業協力の承諾
平成15年９月１日	大分岡病院	ICU（６床）設置
平成15年10月１日	大分豊寿苑	施設長　衛藤英一就任
	大分岡病院	薬剤部クリーンベンチ運用開始
		電子レセプト開始
平成15年10月３日	大分岡病院	管理型臨床研修病院に指定
平成16年１月１日	大分岡病院	日本救急医学会認定医指定施設
平成16年２月１日	大分岡病院	「創傷ケアセンター」開設
平成16年４月１日	大分岡病院	電子カルテ導入
		マルチスライスCT16列（シーメンス）導入
	大分豊寿苑	大分豊寿苑居宅介護支援事業所に大分岡病院居宅介護支援事業所を統合
平成16年６月１日	大分岡病院	「リンパ浮腫治療室」開設
平成16年11月１日	大分岡病院	NST稼動施設認定
		放射線治療（サイバーナイフⅡ）の使用開始
平成16年11月	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問リハビリテーション開始
平成16年12月	大分豊寿苑	訪問看護ステーションを大分岡病院内から大分豊寿苑に併設
平成17年２月16日	大分岡病院	「マキシロ・フェイシャル・ユニット」開設
平成17年４月１日	大分豊寿苑	施設長　柴田興彦就任
平成18年１月12日	大分岡病院	第１回　大分岡病院学会
平成18年２月１日	大分岡病院	「心血管センター」開設
平成18年４月１日	大分東部病院	大分東部病院開設（77床）　院長　下田勝広、副院長　岡田さおり・末松俊洋
		住所　大分市大字志村字谷ヶ迫765番地
		診療科（内科、消化器科、循環器科、外科、肛門科、産婦人科、放射線科）
	大分岡病院	DPC対象病院
		日本形成外科学会教育関連施設認可
	大分豊寿苑	大分豊寿苑総合在宅ケアセンター開設、介護予防開始
平成18年６月	大分豊寿苑	通所リハビリテーションの定員を80名へ増員
平成18年８月１日	大分岡病院	病理解剖室設置
平成18年10月５日	大分岡病院	大分岡病院地域医療支援病院の名称使用許可
平成18年12月１日	大分岡病院	ヘリカルCT（東芝）よりマルチスライスCT16列（シーメンス）に更新
平成19年１月１日	大分岡病院	全館禁煙スタート
		土曜日隔週休診実施

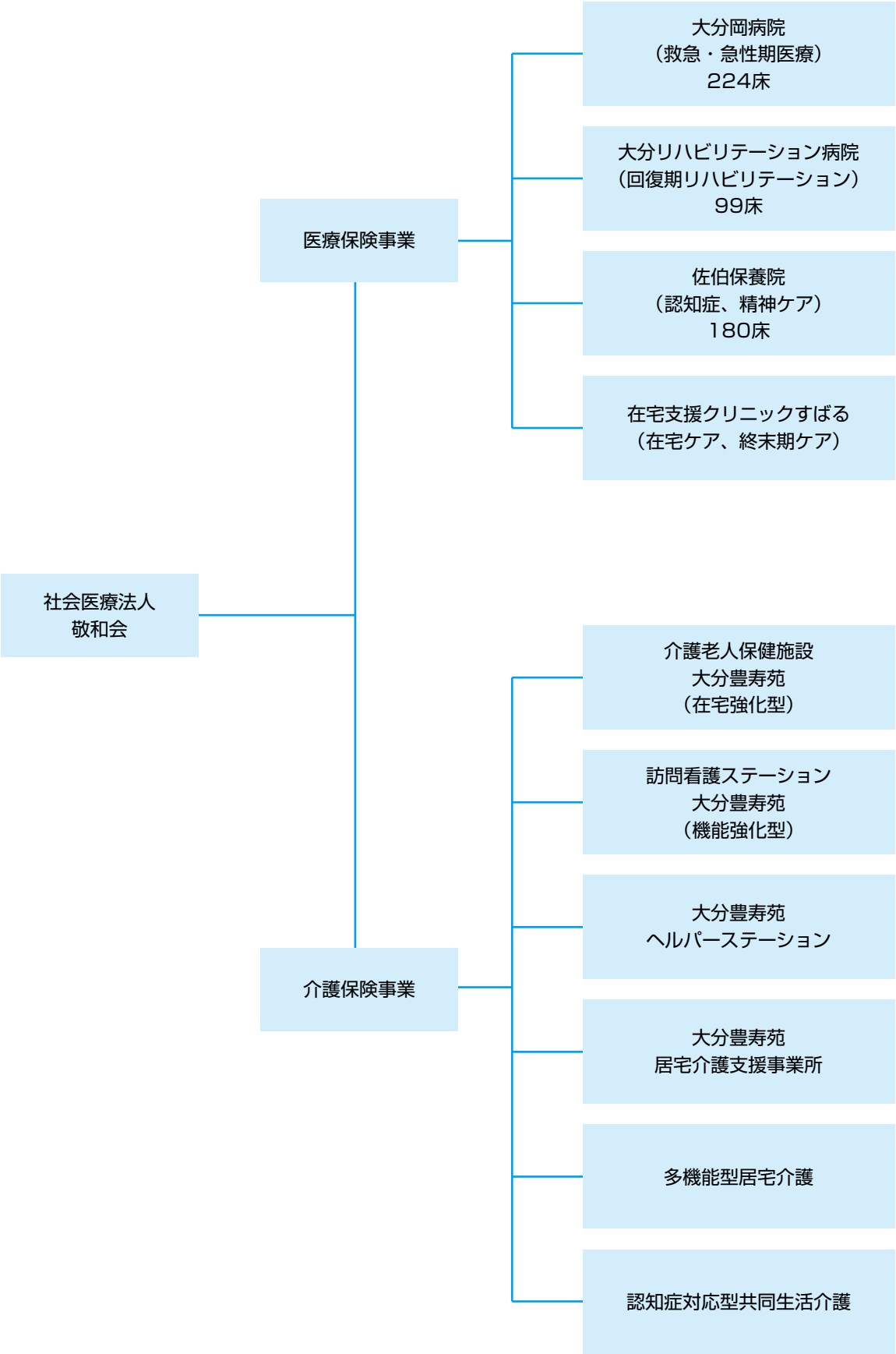
平成19年３月	大分東部病院	看護体制７：１看護承認
		診療情報管理室開設
平成19年４月１日	敬　和　会	会長　岡宗由就任
		理事長　岡敬二就任
	大分岡病院	院長　葉玉哲生就任
		総院長　姫野研三就任
		毎週土曜日休診実施
平成19年４月16日	敬　和　会	敬和会託児所「敬和会ふたば保育園」開設
平成19年５月１日	大分岡病院	看護体制７：１看護承認
平成19年５月20日	敬　和　会	第２回　敬和会合同学会
平成19年６月１日	大分岡病院	MRI1.0Tより1.5Tに更新（シーメンス）
平成19年７月１日	大分岡病院	大分岡病院敷地内禁煙、これに伴い「禁煙外来保険適用」
平成19年８月21日	大分岡病院	日本医療機能評価機構受審（Ver５）
平成20年４月１日	大分岡病院	名誉院長　柳澤繁孝就任（歯科口腔外科）
	大分東部病院	新オーダリングシステム稼働
		助産師外来開始
平成20年４月15日	大分岡病院	副院長　山口豊就任
平成20年４月19日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練
平成20年５月11日	敬　和　会	第３回　敬和会合同学会
平成20年６月	大分岡病院	「外来化学療法」診療開始
	大分東部病院	「乳腺外来」診療開始
平成20年７月１日	大分岡病院	患者用図書室「からだ情報室」開設
平成20年８月１日	大分東部病院	リハビリテーション開始（理学療法士　１名）
平成21年２月13日	大分岡病院	インドネシア看護師候補者２名就任（ステファニーさん、ブリギタさん）
平成21年３月30日	大分岡病院	大分DMAT病院指定
平成21年４月１日	敬　和　会	社会医療法人認定（認定要件：大分岡病院救急医療）
		理事長　岡敬二就任
	大分豊寿苑	新施設長　岸川正純就任
平成21年４月15日	大分岡病院	副院長　迫秀則就任
平成21年５月	大分岡病院	診療科「腫瘍内科」を標榜
平成21年５月17日	敬　和　会	第１回　敬和会合同TQM発表会
平成21年６月１日	大分豊寿苑	グループホーム「おおざい憩いの苑」開設（２ユニット：定員18名）
	大分岡病院	診療科「精神科」を標榜
平成21年６月21日	敬　和　会	第４回　敬和会合同学会
平成21年11月１日	大分岡病院	新規導入ドクターカーの運用開始
平成21年11月	大分豊寿苑	フィリピン人介護福祉士候補生２名着任（ランドルフさん、ジェニファーさん）
平成21年12月１日	大分岡病院	電子カルテ更新
平成22年２月	大分東部病院	病院機能評価Ver.6.0認定取得
平成22年４月１日	大分岡病院	基幹型医師臨床研修病院に呼称変更
	大分東部病院	全国健康保険協会管掌保険生活習慣病予防健診実施医療機関の認定
平成22年４月	大分東部病院	健診センター改築
平成22年５月６日	大分東部病院	健診センターの拡張工事完了
平成22年５月23日	敬　和　会	第５回　敬和会合同学会
平成22年９月５日	敬　和　会	第２回　敬和会合同TQM発表会
平成22年12月１日	大分岡病院	マルチスライスCT64列より128列CTに更新
平成23年３月11日	大分岡病院	東日本大震災へ大分岡病院DMATチーム出動（３/14まで）
平成23年４月11日	大分岡病院	泰达国際心血管病医院（中国）との学術･医療交流を促進するため友好協定（天津）
平成23年５月14日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練

平成23年５月29日	敬　和　会	第６回　敬和会合同学会（鶴崎公民館）
平成23年６月	大分岡病院	地域医療実習生（大分大学医学部６年生）２週間実習受入開始
平成23年７月６日	大分岡病院	姫野研三名誉院長「警察庁長官賞受賞」
平成23年８月	大分豊寿苑	通所リハビリテーションの定員を100名へ増員
平成23年８月10日	大分岡病院	健康ハートの日（心血管センター主催）
平成23年８月23日	大分岡病院	大分県看護協会主催ワークライフバランスモデル事業参加（看護部）
平成23年９月４日	敬　和　会	第３回　敬和会合同TQM発表会
平成23年９月22日	敬　和　会	瀋陽医学院看護学科新入生との交流会（中国瀋陽市）
平成23年９月25日	大分岡病院	世界ハートの日　市民公開講座「見て･聞いて･知ろう、心臓の病気」（コンパルホール）
平成23年10月１日	大分岡病院	QIKPO（医療質改善推進室）設置
平成23年10月	大分岡病院	次世代育成支援「子育てサポート企業」認定（大分県７社認定）
平成24年１月17日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーションサテライト、ヘルパーステーション開設
		訪問看護下郡サテライト
		訪問看護大分東部病院サテライト
		ヘルパーステーション大分東部病院サテライト
平成24年５月	大分東部病院	脊椎整形外科診療開始（岡治道医師　大分岡病院より異動）
平成24年５月12日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練
平成24年６月３日	敬　和　会	第７回　敬和会合同学会（コンパルホール）
平成24年７月14日	大分岡病院	職場環境改善報告会
平成24年８月１日	大分岡病院	MRI（1.5テスラ）更新
平成24年９月29日	大分岡病院	日本医療機能評価（Ver.6.0）認定　認定期間（2012.9.30～2017.9.29）
平成24年11月２日	大分岡病院	第２回世界ハートの日市民公開講座（コンパルホール）
平成25年１月20日	大分岡病院	血管造影室２（造設）稼働（大分岡病院）
平成25年４月１日	敬　和　会	人事管理システム稼働
平成25年４月５日	大分岡病院	日本経営品質クオリティ認証継続Ａクラス認証（2013年８月１日～2016年７月31日）
平成25年４月10日	大分岡病院	血管造影室１（改装・新装置）稼働
平成25年５月25日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練
平成25年６月16日	大分岡病院	第８回敬和会合同学会（コンパルホール）
平成25年７月１日	大分岡病院	院長　森照明就任
平成25年７月	大分豊寿苑	在宅復帰強化型老人保健施設届出（在宅復帰率50％）（大分豊寿苑）
平成25年７月３日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーションサテライト（春日）開設
平成25年８月７日	大分岡病院	第３回健康ハートの日懇話会
平成25年９月７日	大分岡病院	第２回職場環境改善報告会
平成25年９月29日	大分岡病院	第３回世界ハートの日市民公開講座（音の泉ホール）
平成26年１月１日	敬　和　会	敬和会統括院長　森照明就任（大分岡病院院長兼務）
平成26年２月１日	大分岡病院	マキシロフェイシャルユニットが口腔顎顔面外科・矯正歯科へ名称変更
平成26年４月１日	敬　和　会	消化器センター開設
	大分東部病院	院長　岡敬二就任（理事長兼務）
		回復期リハビリテーション病棟開設（40床）
		小児科診療開始（立花秀俊医師　大分岡病院より異動）
	大分豊寿苑	大分豊寿苑総合在宅ケアセンター（新館）完成
		通所リハビリテーションの定員を120名へ増員
平成26年５月18日	大分岡病院	高血圧の日市民公開講座（コンパルホール）
平成26年５月22日	大分岡病院	創立60周年記念日　記念誌発行
平成26年６月１日	大分岡病院	一般病床231床から224床に変更
	敬　和　会	第９回　敬和会合同学会（コンパルホール）
平成26年９月23日	大分岡病院	世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）

平成26年10月１日	敬　和　会	在宅支援クリニックすばる開設（15床）　院長　姫野浩毅就任
		住所　大分市大字小池原1021番地
		敬和会地域連携統括センター開設
		メディカルリンクセンター開設
	大分岡病院	副院長　荒巻政憲就任
	大分豊寿苑	グループホーム「こいけばる憩いの苑」開設（２ユニット：定員18名）
平成27年４月１日	敬　和　会	敬和会学術・研究統括センター開設
平成27年５月17日	大分岡病院	高血圧の日市民公開講座（コンパルホール）
平成27年６月１日	大分東部病院	院長　山口豊就任
平成27年６月14日	敬　和　会	第10回敬和会合同学会（平和市民公園能楽堂）
平成27年８月10日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーション小池原サテライト開設
平成27年９月６日	大分豊寿苑	大分豊寿苑開設20周年記念講演会（鶴崎ホテル）
平成27年９月27日	大分岡病院	世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）
平成27年10月１日	敬　和　会	敬和会人事管理センター開設
		敬和会医事統括センター開設
平成28年４月１日	敬　和　会	会計年度変更
		敬和会ダイバーシティセンター開設
	大分岡病院	院長代行　立川洋一就任
		KAIZEN室開設
	すばる	在宅療養支援診療所（機能強化型）
平成28年４月26日	大分東部病院	リハビリ起工式
平成28年７月１日	敬　和　会	佐伯保養院開設（認知症治療病棟60床、精神療養病棟60床、精神一般病床60床）
		院長　廣瀬就信
		住所　佐伯市東町27番12号
		診療科（精神科、心療内科、老年精神科）
平成28年７月11日	敬　和　会	大分オーラルリハビリテーションケア研究会開設
平成28年８月１日	大分岡病院	院長　立川洋一就任
平成28年８月31日	大分東部病院	糖尿病内科外来閉鎖
平成28年９月20日	大分豊寿苑	有料老人ホーム いきいきホームみなはる開設（入居定員10名）
平成28年９月30日	すばる	入院病棟（病床　15床）閉鎖
平成28年10月１日	大分東部病院	84床から99床に増床
		「敬和会健診センター」名称変更
		敬和会健診センター長　山口　豊就任（院長兼任）
平成28年11月１日	大分岡病院	放射線治療（サイバーナイフM6）の治療装置更新
平成28年11月30日	大分東部病院	乳腺外科外来閉鎖
平成29年１月１日	大分東部病院	全床「回復期リハビリテーション病棟」変更（入院料１）
平成29年１月21日	大分岡病院	心臓大血管外科手術1000例達成記念講演会
平成29年１月28日	大分東部病院	大分東部病院　リハビリ棟完成竣工式・内覧会・祝賀会
平成29年１月31日	大分東部病院	呼吸器内科外来閉鎖
平成29年２月１日	大分岡病院	委託型SPDシステム導入
	大分リハビリテーション病院	大分東部病院名称変更　『大分リハビリテーション病院』
		整形リハビリテーション外来開設
平成29年２月５日	敬　和　会	第11回敬和会合同学会
平成29年３月１日	大分リハビリテーション病院	脳神経リハビリテーション外来開設
平成29年４月１日	大分岡病院	不整脈・アブレーション専門医医師着任
	大分リハビリテーション病院	在宅支援部おおざい開設（通所リハビリ・訪問リハビリ）
平成29年５月１日	大分豊寿苑	自立訓練（機能訓練）　地域生活サポートセンターけいわの開設
平成29年５月10日	大分豊寿苑	大分市パワーアップ教室（訪問型サービスＣ・通所型サービスＣ）事業の開始

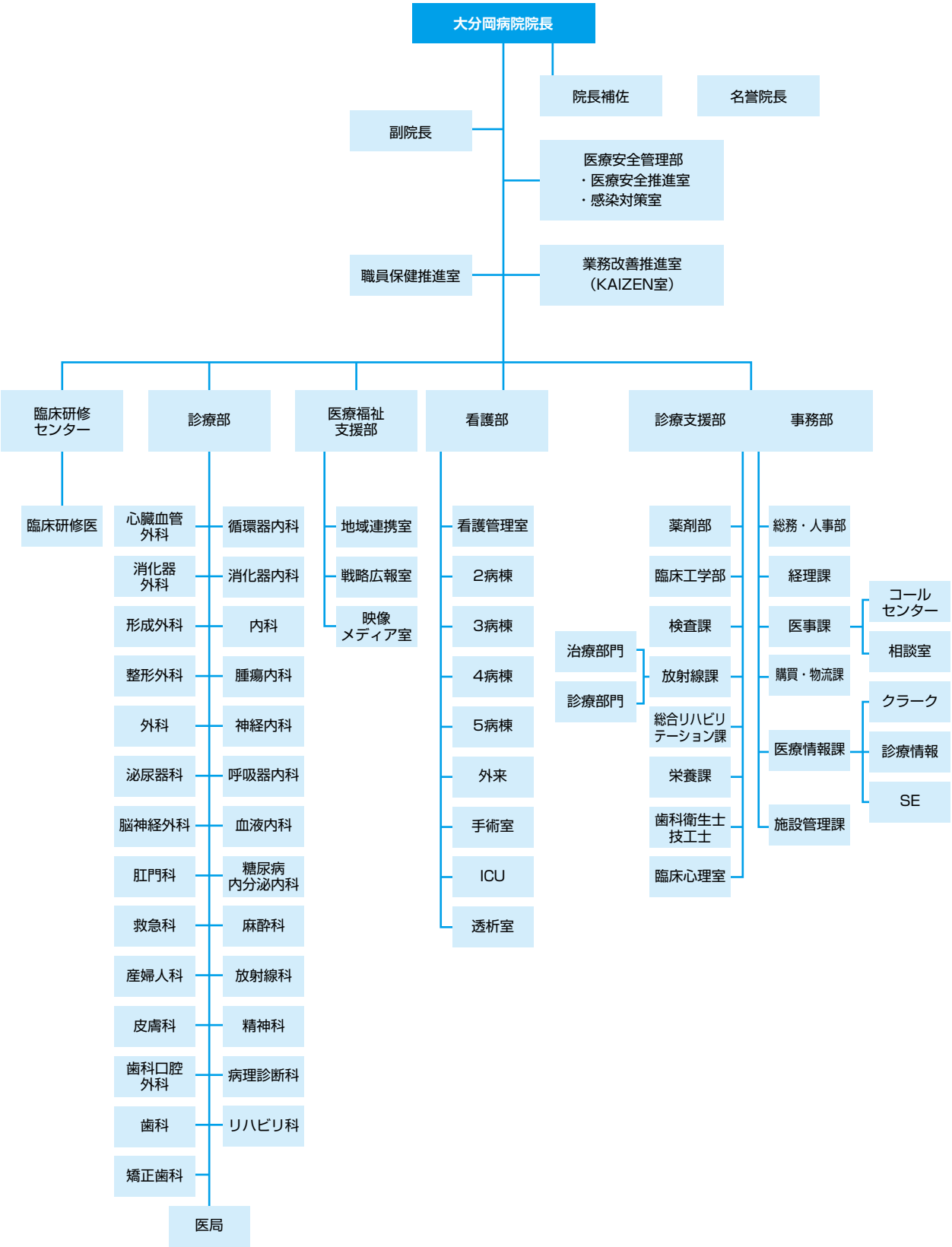
平成29年６月１日	大分岡病院	電子カルテ更新
	大分リハビリテーション病院	電子カルテ導入
平成29年７月１日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーション本部を小池原に移転
		皆春本部を皆春サテライトに変更
		大分豊寿苑居宅介護支援事業所こいけばるの開設
平成29年７月10日	敬和会	指定居宅介護支援事業 「ケアプランセンター さくら」の開設（佐伯保養院内）
平成29年７月23日	敬和会	第１回日本ヘルスケアダイバーシティ学会　大会長　岡　敬二
平成29年９月10日	大分岡病院	第12回　敬和会合同学会（コンパルホール）
平成29年10月14日	大分豊寿苑	別保あんしんサポートセンター開設　ミニむつき庵ほほえみ開設
平成30年２月	敬和会	明野地域包括支援センター事業受託
平成30年２月13日	大分岡病院	大分東地域救急ワークステーション運用開始
平成30年３月７日	大分リハビリテーション病院	人間ドック機能評価受審

2 事業所一覧


社会医療法人
敬和会
医療保険事業
大分岡病院
（救急・急性期医療）
224床
大分リハビリテーション病院
（回復期リハビリテーション）
99床
佐伯保養院
（認知症、精神ケア）
180床
在宅支援クリニックすばる
（在宅ケア、終末期ケア）
介護保険事業
介護老人保健施設
大分豊寿苑
（在宅強化型）
訪問看護ステーション
大分豊寿苑
（機能強化型）
大分豊寿苑
ヘルパーステーション
大分豊寿苑
居宅介護支援事業所
多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

大 分 岡 病 院

1 病院組織図


大分岡病院院長
院長補佐
名誉院長
副院長
医療安全管理部
・医療安全推進室
・感染対策室
職員保健推進室
業務改善推進室
（KAIZEN室）
臨床研修センター
診療部
医療福祉支援部
看護部
診療支援部
事務部
臨床研修医
心臓血管外科
消化器外科
形成外科
整形外科
外科
泌尿器科
脳神経外科
肛門科
救急科
産婦人科
皮膚科
歯科口腔外科
歯科
矯正歯科
循環器内科
消化器内科
内科
腫瘍内科
神経内科
呼吸器内科
血液内科
糖尿病内分泌内科
麻酔科
放射線科
精神科
病理診断科
リハビリ科
医局
地域連携室
戦略広報室
映像メディア室
看護管理室
2病棟
3病棟
4病棟
5病棟
外来
手術室
ICU
透析室
治療部門
診療部門
薬剤部
臨床工学部
検査課
放射線課
総合リハビリテーション課
栄養課
歯科衛生士技工士
臨床心理室
総務・人事部
経理課
医事課
購買・物流課
医療情報課
施設管理課
コールセンター
相談室
クラーク
診療情報
SE

2 会議・委員会組織図

病院長

幹部会議

- 医療機器材料選定会議
- 医師勤務負担軽減対策会議

危機管理会議

- 医療安全審議会
- ハラスメント対策会議

病院運営会議

部門会議

- 病床運営会議
- 医局会議（スタートアップ会議）
- 病棟等各部門運営会議
- ER・外来運営会議
- ICU運営会議
- 手術室運営会議
- 透析室運営会議
- カテ室運営会議
- 糖尿病対策会議
- 心臓リハビリテーション会議
- 診療材料検討会議

		委員長部門長	事務局担当者	開催日程
倫理（古川）	倫理委員会	古川	仲野	1回/2か月
	治験審査委員会（IRB委員会）	柳澤	仲野	1回/2か月
人材育成（迫）	人事・労務委員会	坂本	武石	随時（有事の際）
	臨床研修運営委員会	迫	安東（玲）	1回/月（最終週水曜）
	教育・研修委員会	大久保	武石	第4火曜
医療安全管理（立川）	医療安全委員会	佐藤（博）	生野	第３月曜
	医療機器管理部会	御手洗	二宮	随時
	放射線安全管理部会	香泉	診断部門 松村	年2回（4月･10月）
			治療部門 高野	
	薬事部会（薬事審議会を兼ねる）	井上（真）	遠山	6/13,9/12,12/5,3/6
	診療情報開示検討部会	栗林	佐藤（久）	随時
	感染管理委員会	佐藤（博）	幸（直）	第３金曜
	院内感染防止対策委員会（リンクプラクティシュナー）	佐藤（博）	幸（直）	随時（有事の際）
医療の質確保（荒巻）	褥瘡対策委員会	古川	実山	第４金曜
	栄養管理（NST）委員会（栄養サポートチーム）	小椋	井上（真）	奇数月 第２金曜
	がん薬物療法委員会	佐藤（博）	前嶋	第2金曜（3ヶ月に1回）
	栄養改善委員会	長尾	古屋	第3木曜
	輸血療法委員会	帆足	伊東（佳）	第１金曜
	臨床検査適正化委員会	荒巻	伊東（佳）	最終月曜
	RST委員会（呼吸療法サポートチーム）	鍋田	中田	第１月曜
	RRT（Rapid Response Team）委員会	宮本	麻生（百）	第４月曜
	診断群分類検討委員会	荒巻	栗林	年4回（不定期）
リスク管理（立川）	労働安全衛生委員会	後藤（公）	武石	第2水曜
	医療ガス安全管理委員会	帆足	御手洗	年1回 10月
	防災・防犯・施設管理委員会	後藤（公）	木村（幸）	随時
	災害対策委員会	大久保	村田	第３土曜
情報管理（立川）	診療情報管理委員会（個人情報保護）	立川	村田	第３金曜 不定期開催
	医療情報システム管理委員会	大久保	村田	第３金曜 不定期開催
	診療報酬改善検討委員会	立川	首藤（稔）	定期
顧客満足（後藤公）	CS向上委員会	後藤（忍）	難波	最終火曜
	ES向上委員会	武石	井本	奇数月 第3水曜
	からだ情報室運営委員会	仲野	太田	第2月曜

- 施設基準
- 診療報酬加算
- 労働基準
- 法令順守
- 機能評価

3 承認及び届出関係

施設基準

基本診療関連	地域歯科診療支援病院歯科初診料 一般病棟入院基本料（７対１） 臨床研修病院入院診療加算 特定集中治療室管理料３ 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算 急性期看護補助体制加算（25対１） 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算 退院調整加算 総合評価加算 開放型病院共同指導料 医療機器安全管理料１ 医療機器安全管理料２	検体検査管理加算１ 抗悪性腫瘍薬処方管理加算 がん治療連携指導料 外来化学療法加算２ 透析液水質確保加算１ 感染防止対策加算２ 患者サポート体制加算 救急搬送患者地域連携紹介加算 救急搬送患者地域連携受入加算 院内トリアージ実施料 夜間休日救急搬送医学管理料 外来リハビリテーション診療料 時間内歩行試験 ヘッドアップティルト試験 輸血適正使用加算
手術関連	経皮的冠動脈形成術 （高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの） 経皮的冠動脈形成術 （特殊カテーテルによるもの） 経皮的中隔心筋焼灼術 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 補助人工心臓 ダメージコントロール手術 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 医科点数表第２章第10部手術の通則５及び６に掲げる手術 輸血管理料１ 麻酔管理料１
放射線科	CT撮影及びMRI撮影	
薬剤部	薬剤管理指導料 無菌製剤処理料	病棟薬剤業務実施加算
リハビリ課	心大血管疾患リハビリテーション料１ 脳血管疾患リハビリテーション料１ 運動器リハビリテーション料１	呼吸器リハビリテーション料１ がん患者リハビリテーション料
栄養課	栄養管理実施加算 入院食事療養１・入院時生活療養１	
医療情報課	診療録管理体制加算１ 医師事務作業補助体制加算２（15対１）	データ提出加算
歯科	地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科治療総合医療管理料 歯科技工加算	クラウン・ブリッジ維持管理料 歯科矯正診断料 顎口腔機能診断料

4 設置基準

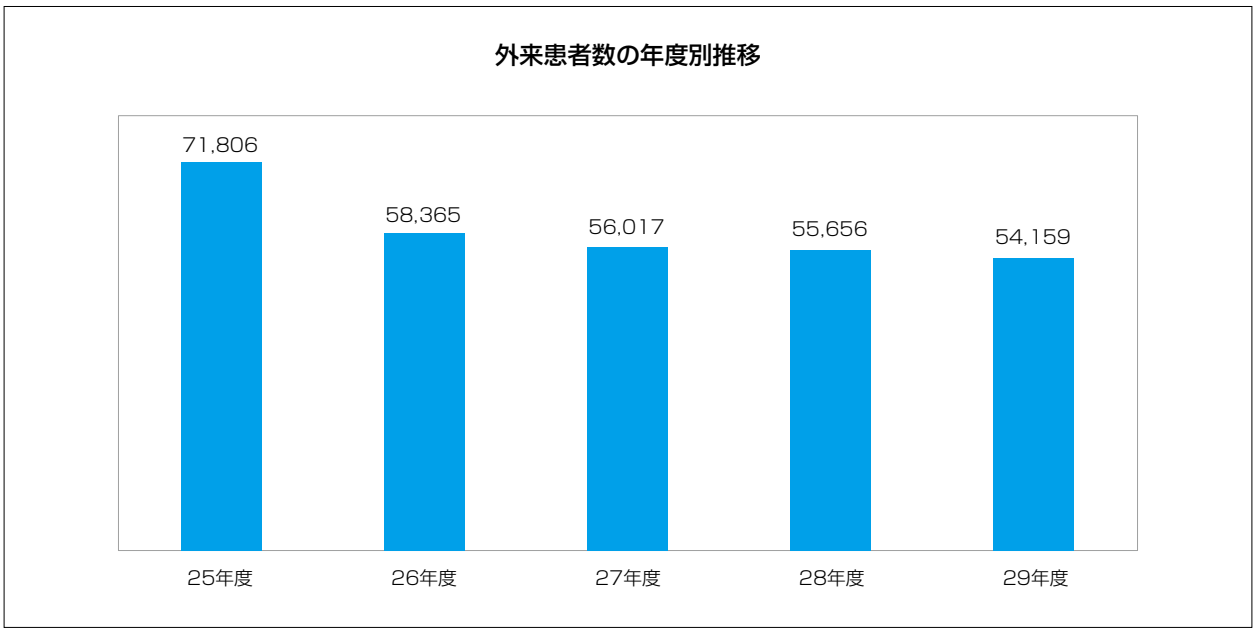
保険医療機関
地域医療支援病院
第２次救急指定病院
開放型病院
小児慢性特定疾病治療研究事業受託
管理型新医師臨床研修指定病院
原爆被爆者健診委託契約
労災保険指定病院
労災保険二次健診等給付医療機関
腎摘出協力医療機関
結核予防法指定病院
生活保護法指定病院
助産施設
特定疾患治療研究事業受託
指定自立支援医療機関
（心臓機能に関する医療、歯科口腔外科に関する医療、形成外科に関する医療）

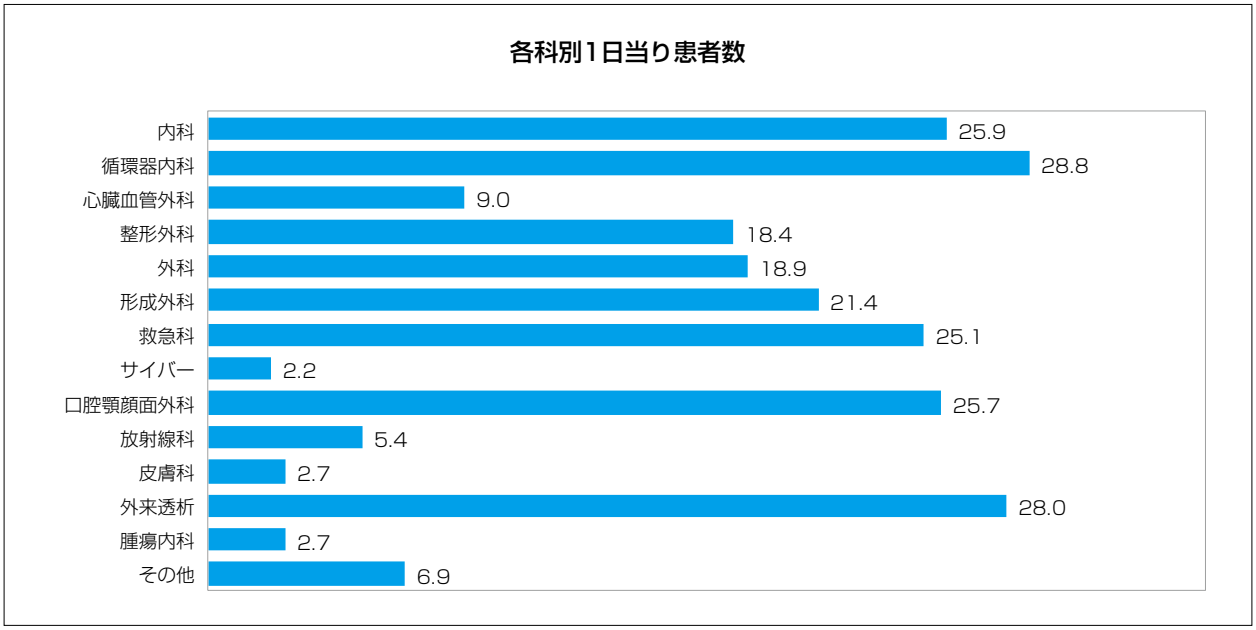
5 教育研修指定病院関係

日本救急医学会救急科専門医指定施設
心臓血管外科専門医認定基幹施設
日本外科学会外科専門医制度指定施設
日本内科学会教育関連病院
日本循環器学会循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本形成外科学会認定施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本口腔外科学会専門医制度指定研修施設
日本矯正歯科学会臨床研修機関指定
日本消化器外科学会修練関連施設
日本大腸肛門病学会関連施設
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会認定薬剤師研修施設
腹部ステントグラフト実施施設
日本脈管学会認定　研修指定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
JSPEN　日本静脈経腸栄養学会　NST稼働施設認定
JCNT　日本栄養療法推進協議会　NST稼働施設認定

6 医事統計

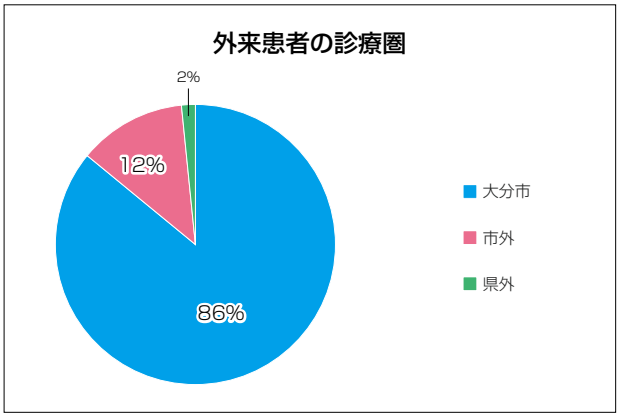
1）外来患者の内訳

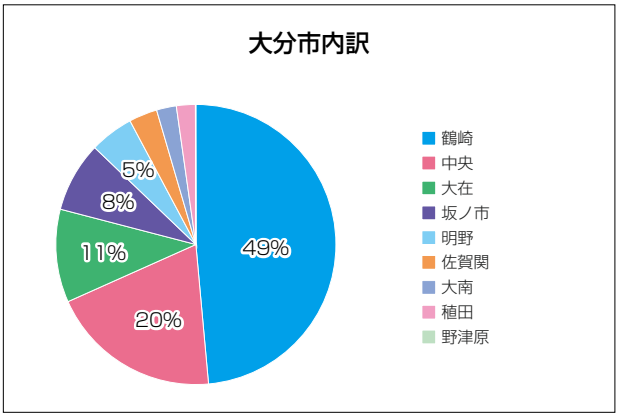


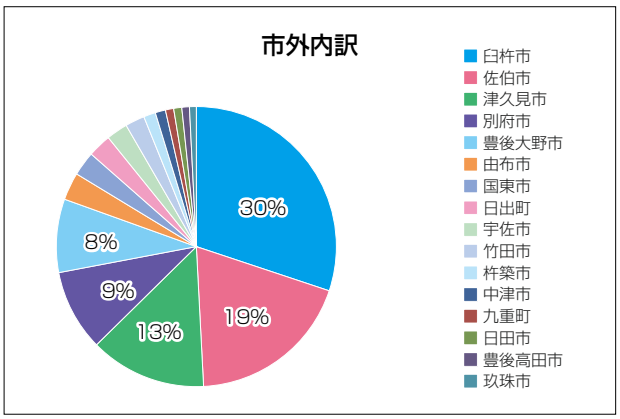


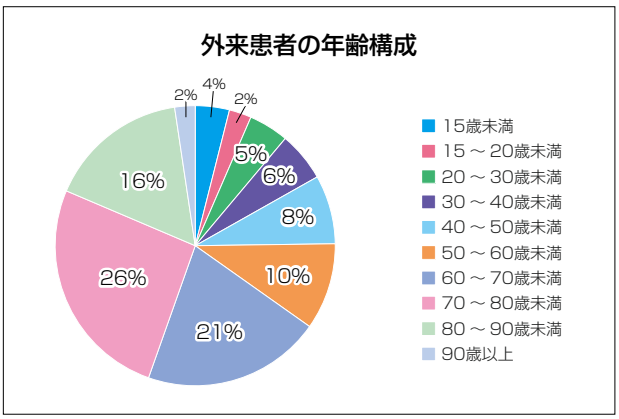
各科別外来患者数（延患者数）　　上段：総数　下段：１日当たり

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	20	19	22	20	22	20	20	20	19	19	20	22	243
内科	474	521	573	497	558	537	548	522	551	514	516	537	6,348
	23.7	27.4	26.0	24.9	25.4	26.9	27.4	26.1	29.0	27.1	25.8	24.4	26.1
循環器内科	489	532	610	544	587	566	589	576	618	622	633	682	7,048
	24.5	28.0	27.7	27.2	26.7	28.3	29.5	28.8	32.5	32.7	31.7	31.0	29.0
心臓血管外科	155	187	181	160	181	172	211	206	193	206	162	198	2,212
	7.8	9.8	8.2	8.0	8.2	8.6	10.6	10.3	10.2	10.8	8.1	9.0	9.1
整形外科	515	563	382	373	379	341	365	332	334	280	308	333	4,505
	25.8	29.6	17.4	18.7	17.2	17.1	18.3	16.6	17.6	14.7	15.4	15.1	18.5
外科	419	398	381	360	413	376	397	380	358	384	333	440	4,639
	21.0	20.9	17.3	18.0	18.8	18.8	19.9	19.0	18.8	20.2	16.7	20.0	19.1
形成外科	358	457	419	391	427	431	444	424	496	481	441	481	5,250
	17.9	24.1	19.0	19.6	19.4	21.6	22.2	21.2	26.1	25.3	22.1	21.9	21.6
救急科	431	547	437	538	509	438	390	413	614	893	523	414	6,147
	21.6	28.8	19.9	26.9	23.1	21.9	19.5	20.7	32.3	47.0	26.2	18.8	25.3
サイバー	56	90	54	31	61	24	38	49	30	36	24	45	538
	2.8	4.7	2.5	1.6	2.8	1.2	1.9	2.5	1.6	1.9	1.2	2.0	2.2
口腔顎顔面外科	508	561	613	519	574	501	468	505	514	492	495	543	6,293
	25.4	29.5	27.9	26.0	26.1	25.1	23.4	25.3	27.1	25.9	24.8	24.7	25.9
放射線科	116	139	123	115	150	115	126	88	74	81	87	107	1,321
	5.8	7.3	5.6	5.8	6.8	5.8	6.3	4.4	3.9	4.3	4.4	4.9	5.4
皮膚科	65	58	60	54	48	67	54	46	59	40	44	56	651
	3.3	3.1	2.7	2.7	2.2	3.4	2.7	2.3	3.1	2.1	2.2	2.5	2.7
外来透析	583	585	587	593	597	593	585	572	547	555	499	552	6,848
	29.2	30.8	26.7	29.7	27.1	29.7	29.3	28.6	28.8	29.2	25.0	25.1	28.2
腫瘍内科	55	43	63	39	70	55	54	59	44	59	54	63	658
	2.8	2.3	2.9	2.0	3.2	2.8	2.7	3.0	2.3	3.1	2.7	2.9	2.7
その他	167	140	161	161	164	151	135	144	142	103	118	115	1,701
	8.4	7.4	7.3	8.1	7.5	7.6	6.8	7.2	7.5	5.4	5.9	5.2	7.0
合計	4,391	4,821	4,644	4,375	4,718	4,367	4,404	4,316	4,574	4,746	4,237	4,566	54,159
	219.6	253.7	211.1	218.8	214.5	218.4	220.2	215.8	240.7	249.8	211.9	207.5	222.9

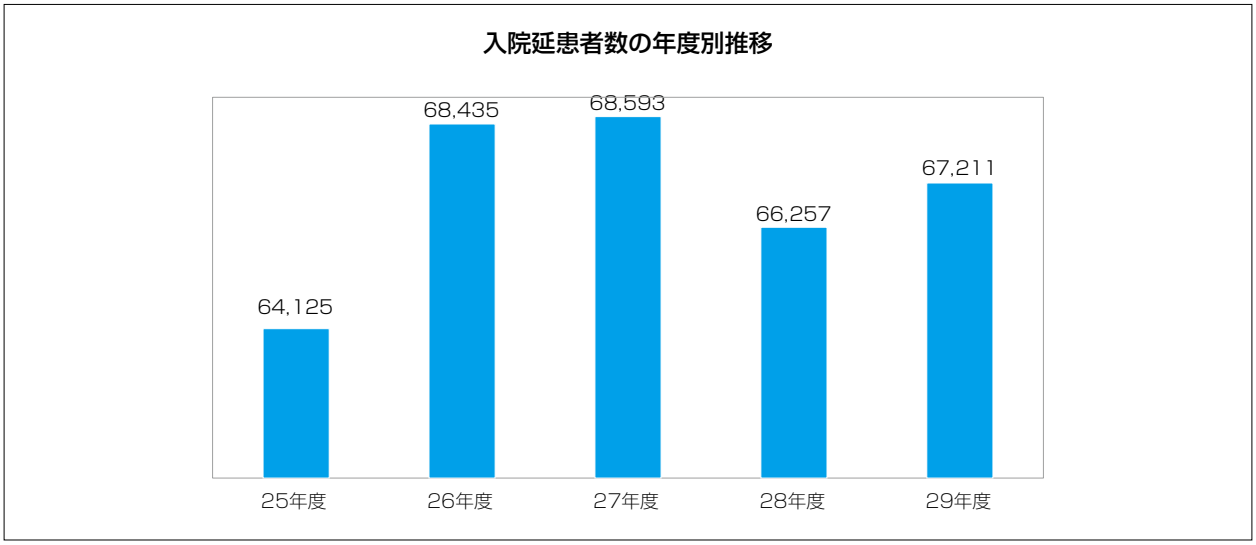


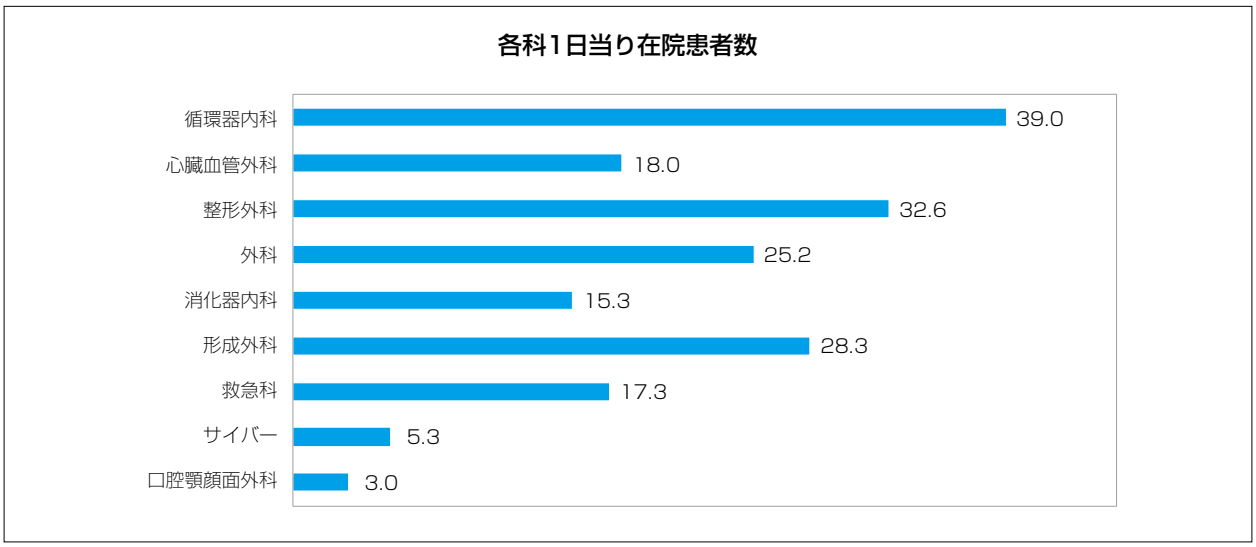






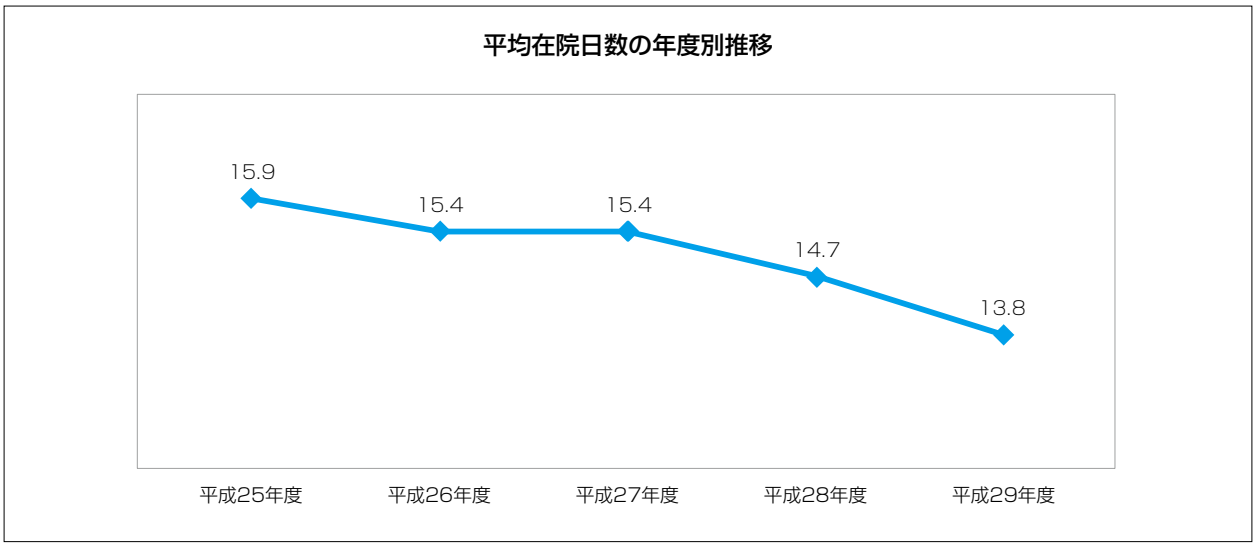
2）入院患者の内訳





各科別入院患者動向（退院患者含む）　　上段：総数　下段：１日当たり

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
循環器内科	1,144	1,345	1,269	1,271	1,292	1,413	1,372	1,296	1,404	1,430	1,234	1,204	15,674
	38.1	43.4	42.3	41.0	41.7	47.1	44.3	43.2	45.3	46.1	44.1	38.8	42.9
心臓血管外科	592	484	589	557	427	474	559	669	666	665	619	597	6,898
	19.7	15.6	19.6	18.0	13.8	15.8	18.0	22.3	21.5	21.5	22.1	19.3	18.9
整形外科	1,245	1,077	964	1,164	1,176	1,084	1,199	891	1,183	770	869	833	12,455
	41.5	34.7	32.1	37.5	37.9	36.1	38.7	29.7	38.2	24.8	31.0	26.9	34.1
外科	1,008	1,058	881	690	735	829	807	718	807	829	901	813	10,076
	33.6	34.1	29.4	22.3	23.7	27.6	26.0	23.9	26.0	26.7	32.2	26.2	27.6
消化器内科	453	606	445	504	563	534	584	416	456	650	420	498	6,129
	15.1	19.5	14.8	16.3	18.2	17.8	18.8	13.9	14.7	21.0	15.0	16.1	16.8
形成外科	967	779	890	811	814	777	786	882	900	1,165	985	1,003	10,759
	32.2	25.1	29.7	26.2	26.3	25.9	25.4	29.4	29.0	37.6	35.2	32.4	29.5
救急科	554	570	626	654	653	493	375	468	603	553	570	583	6,702
	18.5	18.4	20.9	21.1	21.1	16.4	12.1	15.6	19.5	17.8	20.4	18.8	18.4
サイバー	142	570	626	654	653	493	375	468	603	553	570	583	6,290
	4.7	18.4	20.9	21.1	21.1	16.4	12.1	15.6	19.5	17.8	20.4	18.8	17.2
口腔顎顔面外科	92	93	85	106	202	75	95	126	147	68	77	152	0
	3.1	3.0	2.8	3.4	6.5	2.5	3.1	4.2	4.7	2.2	2.8	4.9	0.0
合計	6,197	6,582	6,375	6,411	6,515	6,172	6,152	5,934	6,769	6,683	6,245	6,266	74,983
	206.6	212.3	212.5	206.8	210.2	205.7	198.5	197.8	218.4	215.6	223.0	202.1	205.4



各科別平均在院日数　　単位：日

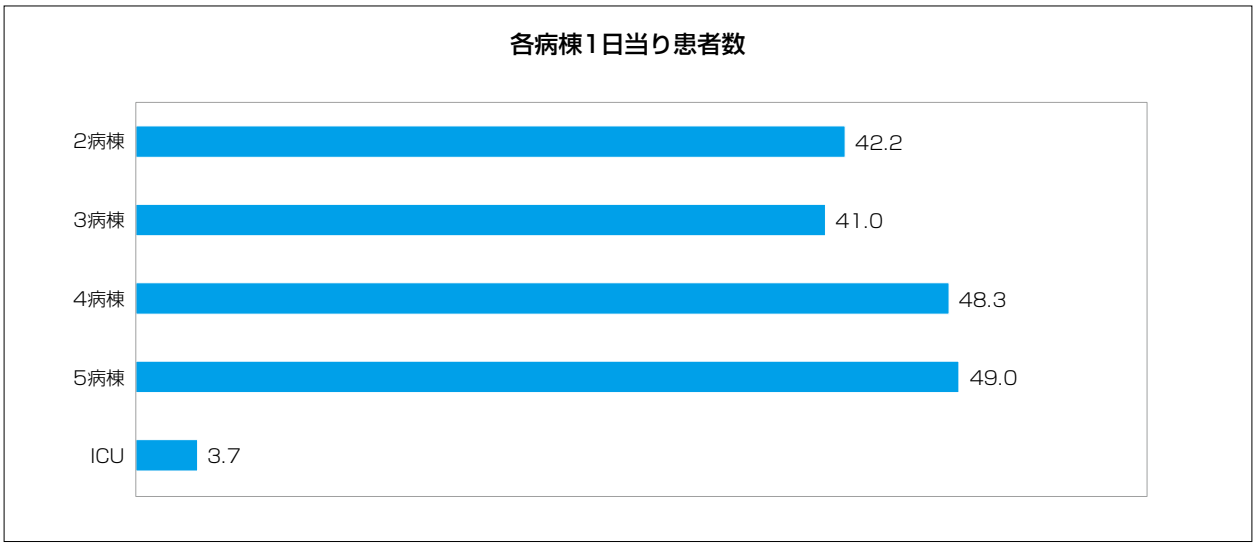
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	13.5	12.5	8.9	10.5	10.6	11.8	9.6	11.2	10.5	11.8	10.7	10.7	10.9
心臓血管外科	21.9	14.7	20.0	24.8	19.0	21.1	22.8	19.7	22.2	20.8	25.3	27.8	21.3
整形外科	23.5	19.9	20.7	30.6	23.5	20.1	21.4	21.0	26.9	24.1	19.5	26.0	22.8
外科	12.7	13.1	12.5	9.9	11.0	10.8	10.6	10.8	10.4	13.0	12.9	12.5	11.7
消化器内科	10.2	11.9	10.6	10.8	12.1	10.7	12.6	9.5	8.8	14.8	12.5	14.2	11.4
形成外科	37.2	30.5	32.4	25.0	22.6	23.2	25.8	22.6	21.2	27.4	22.4	27.1	25.8
救急科	15.8	18.4	23.2	33.5	16.5	15.7	10.3	17.0	18.6	13.5	15.8	17.1	17.1
サイバー	12.9	12.1	13.7	14.6	12.5	11.5	13.1	14.4	11.2	15.9	11.2	13.0	13.0
口腔顎顔面外科	6.1	5.3	6.8	6.4	7.0	5.6	7.0	7.6	6.0	6.5	4.8	5.7	6.2
合計	16.5	14.9	14.4	15.7	14.2	14.1	13.5	14.2	14.1	15.8	14.7	15.5	14.8

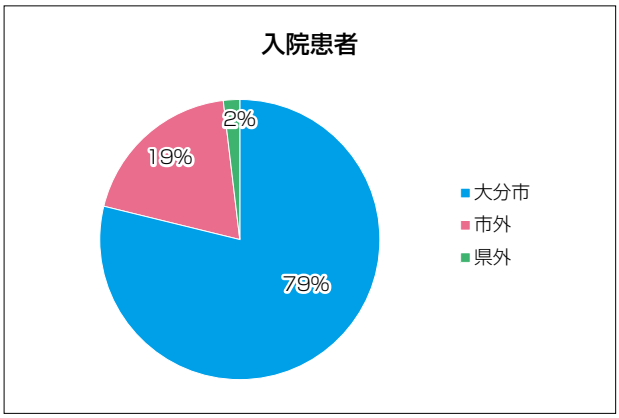
各科別入院患者動向（退院患者含む）　　上段：入院件数　下段：退院件数

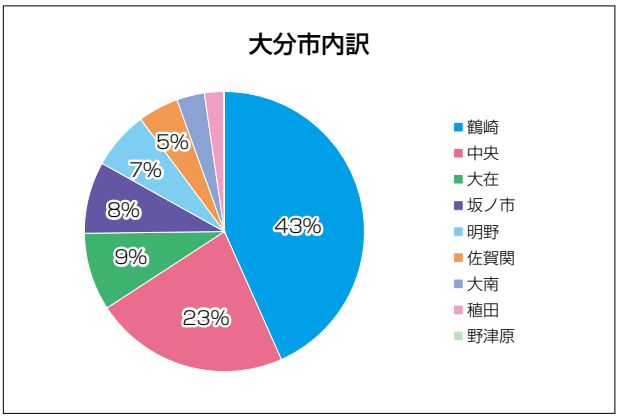
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	90	106	148	122	129	108	148	122	126	130	110	111	1,450
	80	109	137	120	114	132	138	109	141	113	120	114	1,427
心臓血管外科	26	33	28	22	21	23	25	36	29	32	26	21	322
	28	33	31	23	24	22	24	32	31	32	23	22	325
整形外科	54	47	48	37	52	53	51	39	42	29	44	35	531
	52	61	45	39	48	55	61	46	46	35	45	29	562
外科	78	81	66	68	69	76	73	69	78	67	70	59	854
	81	81	75	71	65	77	79	64	77	61	70	71	872
消化器内科	49	49	42	50	45	47	48	44	52	42	35	32	535
	40	53	42	43	48	53	45	44	52	46	32	38	536
形成外科	25	26	23	33	37	31	34	38	45	45	39	40	416
	27	25	32	32	35	36	27	40	40	40	49	34	417
救急科	34	30	30	17	41	30	35	35	32	40	40	32	396
	36	32	24	22	38	33	38	20	33	42	32	36	386
サイバー	9	18	15	16	13	12	13	12	8	15	15	14	160
	13	14	16	14	15	14	14	8	14	9	14	19	164
口腔顎顔面外科	12	18	13	18	27	13	15	16	24	11	16	26	209
	18	17	12	15	31	14	12	17	25	10	16	27	214
合計	377	408	413	383	434	393	442	411	436	411	395	370	4,873
	375	425	414	379	418	436	438	380	459	388	401	390	4,903

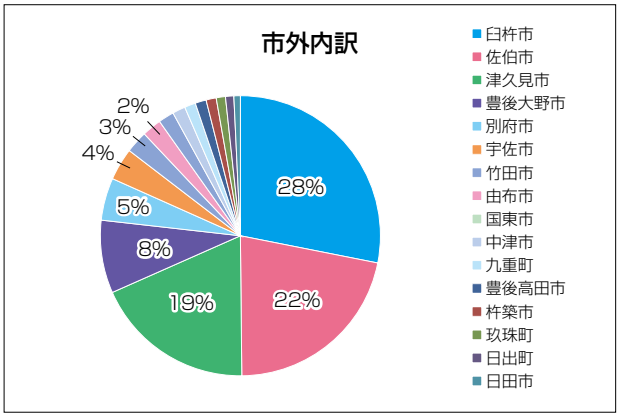
病棟別病床稼働率　（退院患者含む）

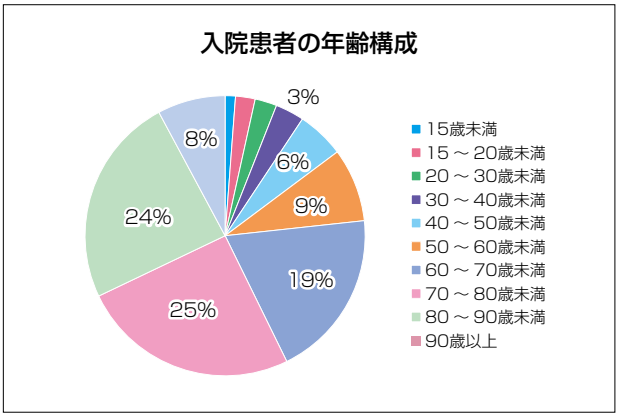
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2病棟 (53)	1,518	1,565	1,379	1,294	1,396	1,434	1,355	1,216	1,411	1,511	1,403	1,430	16,912
	95.5%	95.3%	86.7%	78.8%	85.0%	90.2%	82.5%	76.5%	85.9%	92.0%	94.5%	87.0%	87.4%
3病棟 (49)	1,394	1,291	1,221	1,389	1,377	1,401	1,351	1,094	1,376	1,358	1,270	1,264	15,786
	94.8%	85.0%	83.1%	91.4%	90.7%	95.3%	88.9%	74.4%	90.6%	89.4%	92.6%	83.2%	88.3%
4病棟 (56)	1,546	1,578	1,589	1,532	1,637	1,370	1,432	1,524	1,629	1,680	1,508	1,558	18,583
	92.0%	90.9%	94.6%	88.2%	94.3%	81.5%	82.5%	90.7%	93.8%	96.8%	96.2%	89.7%	90.9%
5病棟 (60)	1,643	1,664	1,661	1,648	1,531	1,537	1,689	1,656	1,717	1,644	1,513	1,550	19,453
	91.3%	89.5%	92.3%	88.6%	82.3%	85.4%	90.8%	92.0%	92.3%	88.4%	90.1%	83.3%	88.8%
ＩＣＵ (6)	96	107	107	113	96	87	127	120	156	128	125	96	1,358
	53.3%	57.5%	59.4%	60.8%	51.6%	48.3%	68.3%	66.7%	83.9%	68.8%	74.4%	51.6%	62.0%
全体 (224)	6,197	6,205	5,957	5,976	6,037	5,829	5,954	5,610	6,289	6,321	5,819	5,898	72,092
	92.2%	89.4%	88.6%	86.1%	86.9%	86.7%	85.7%	83.5%	90.6%	91.0%	92.8%	84.9%	88.2%



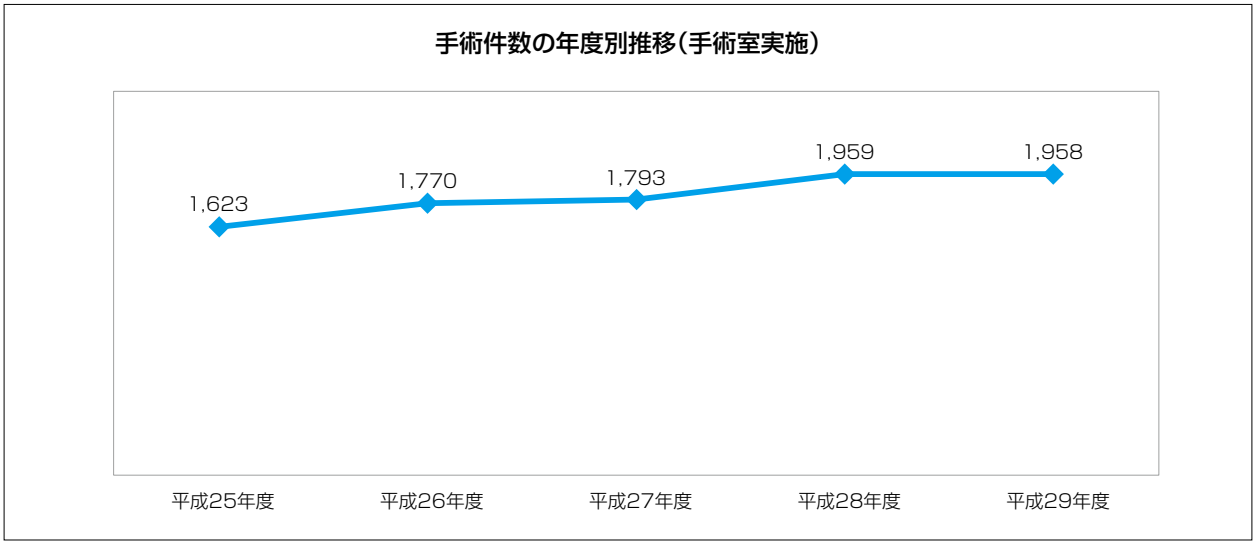


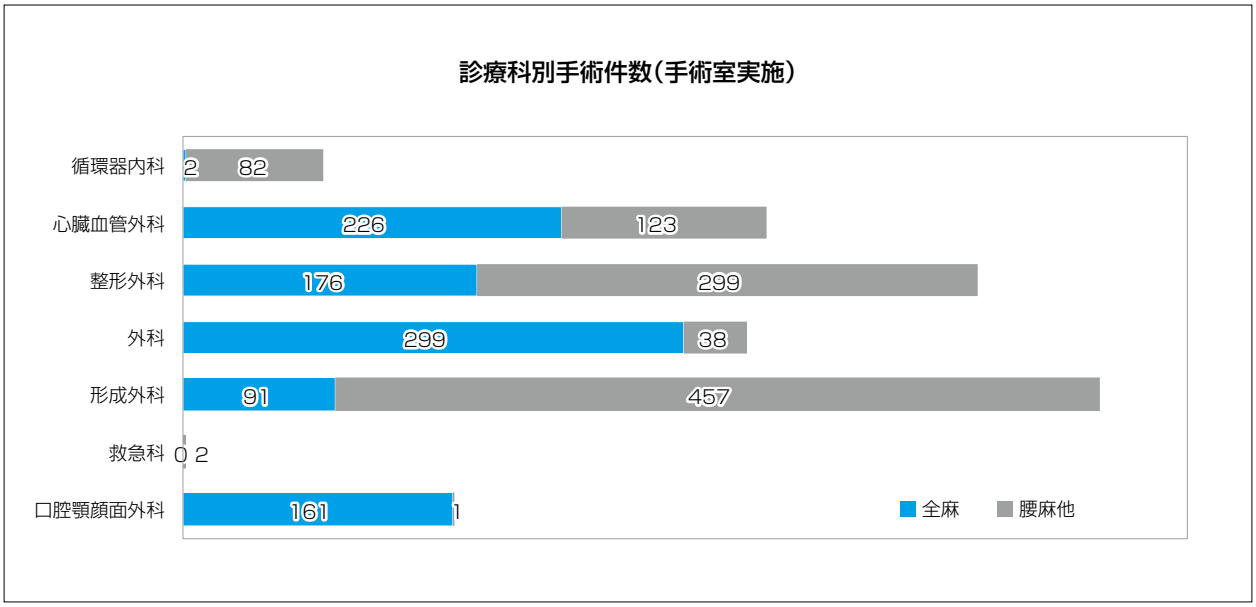




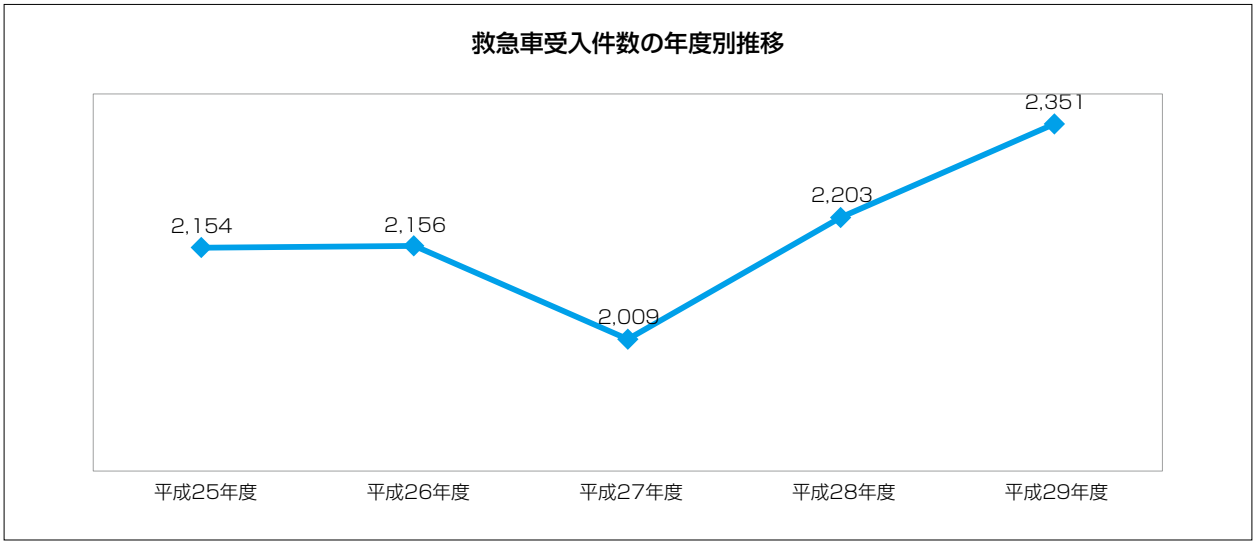


3）手術件数


手術件数の年度別推移（手術室実施）
1,623
1,770
1,793
1,959
1,958
平成25年度
平成26年度
平成27年度
平成28年度
平成29年度


診療科別手術件数（手術室実施）
循環器内科
2
82
心臓血管外科
226
123
整形外科
176
299
外科
299
38
形成外科
91
457
救急科
0
2
口腔顎顔面外科
161
1
全麻
腰麻他

4）救急車受入件数



診療科別救急車受入状況

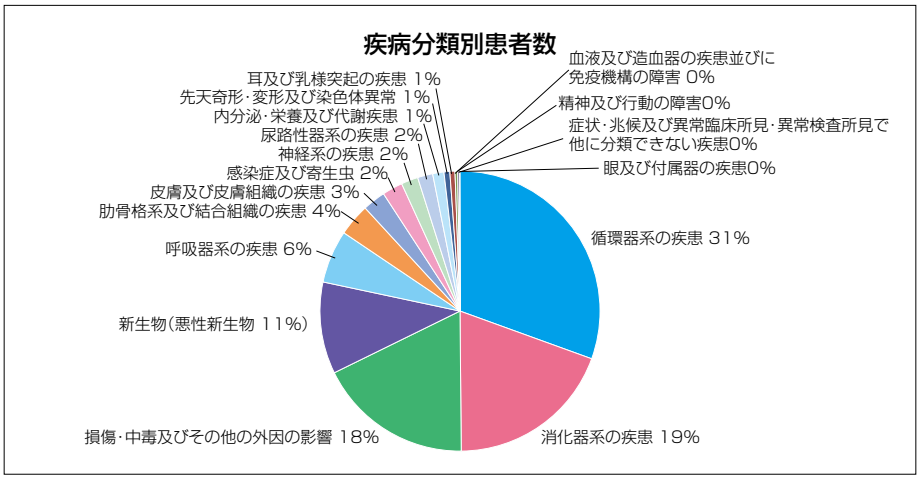
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院全体		188	188	168	229	196	175	204	190	214	220	186	193	2,351
外来		81	96	91	133	94	82	90	94	97	106	100	103	1,167
入院		107	92	77	96	102	93	114	96	117	114	86	90	1,184
入院科別内訳	循環器	26	21	24	32	24	26	37	26	37	36	18	28	335
	心外	6	6	7	5	6	10	7	8	8	6	5	5	79
	整形	13	13	10	9	15	9	11	8	16	7	9	13	133
	外科	14	18	3	15	15	9	15	13	18	14	12	9	155
	形成	7	1	7	12	7	11	9	8	9	12	9	9	101
	救急	41	33	26	23	35	28	35	33	29	39	33	26	381

7 退院患者統計

1）疾病分類別患者数

コード	ICD コード	大分類名称	総数
Ⅰ	A00-B99	感染症及び寄生虫	116
Ⅱ	C00-D48	新生物（悪性新生物）	521
Ⅲ	D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	15
Ⅳ	E00-E90	内分泌・栄養及び代謝疾患	64
Ⅴ	F00-F99	精神及び行動の障害	10
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	96
Ⅶ	H00-H59	眼及び付属器の疾患	1
Ⅷ	H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	29
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	1,501
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	300
ⅩⅠ	K00-K99	消化器系の疾患	950
ⅩⅡ	L00-L99	皮膚及び皮膚組織の疾患	130
ⅩⅢ	M00-M99	肋骨格系及び結合組織の疾患	183
ⅩⅣ	N00-N99	尿路性器系の疾患	86
ⅩⅦ	Q00-Q99	先天奇形・変形及び染色体異常	33
ⅩⅧ	R00-R99	症状・兆候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類できない疾患	2
ⅩⅨ	S00-T98	損傷・中毒及びその他の外因の影響	879
合　計			4,916

循環器系の疾患	1,501
消化器系の疾患	950
損傷・中毒及びその他の外因の影響	879
新生物（悪性新生物）	521
呼吸器系の疾患	300
肋骨格系及び結合組織の疾患	183
皮膚及び皮膚組織の疾患	130
感染症及び寄生虫	116
尿路性器系の疾患	96
神経系の疾患	86
内分泌・栄養及び代謝疾患	64
先天奇形・変形及び染色体異常	33
耳及び乳様突起の疾患	29
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	15
精神及び行動の障害	10
症状・兆候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類できない疾患	2
眼及び付属器の疾患	1



2）疾病分類別診療科別患者数

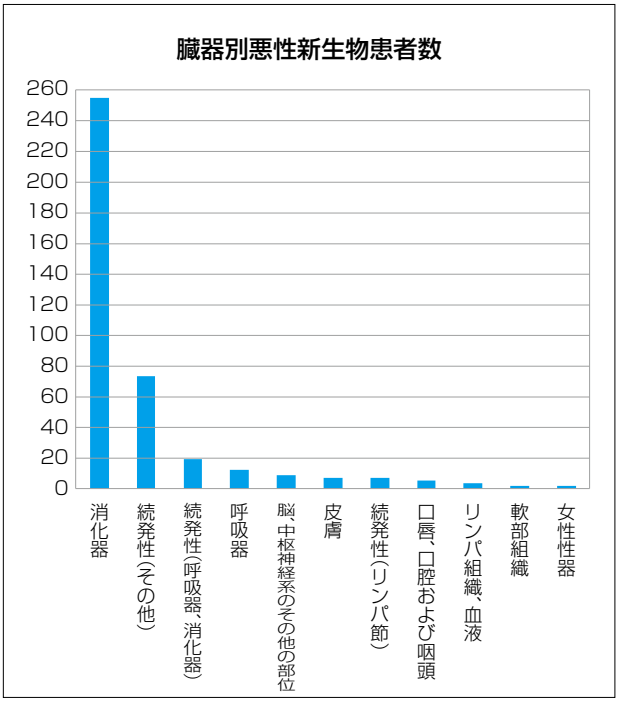
コード	ICDコード	大分類名称	外科	整形外科	消化器内科	形成外科	心臓血管外科	循環器内科	救急科	放射線科	口腔顎顔面外科
Ⅰ	A00-B99	感染症及び寄生虫	43	0	34	11	0	10	18	0	0
Ⅱ	C00-D48	新生物（悪性新生物）	182	3	110	49	1	4	4	161	7
Ⅲ	D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	0	5	1	0	3	3	0	0
Ⅳ	E00-E90	内分泌・栄養及び代謝疾患	6	0	16	4	1	20	17	0	0
Ⅴ	F00-F99	精神及び行動の障害	6	0	3	0	0	0	1	0	0
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	3	8	7	1	2	45	29	0	1
Ⅶ	H00-H59	眼及び付属器の疾患	0	0	0	1	0	0	0	0	0
Ⅷ	H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	2	0	7	1	3	9	7	0	0
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	19	3	24	90	238	1,090	36	1	0
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	25	0	26	2	9	95	140	2	1
ⅩⅠ	K00-K99	消化器系の疾患	498	1	275	2	3	4	7	0	160
ⅩⅡ	L00-L99	皮膚及び皮膚組織の疾患	3	0	1	103	2	4	9	0	8
ⅩⅢ	M00-M99	肋骨格系及び結合組織の疾患	23	96	8	41	4	3	8	0	0
ⅩⅣ	N00-N99	尿路性器系の疾患	17	0	16	2	12	24	15	0	0
ⅩⅦ	Q00-Q99	先天奇形・変形及び染色体異常	0	1	0	2	0	2	0	0	28
ⅩⅧ	R00-R99	症状・兆候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類できない疾患	0	0	0	2	0	0	0	0	0
ⅩⅨ	S00-T98	損傷・中毒及びその他の外因の影響	52	471	7	98	54	101	87	0	9
合　計			882	583	539	410	329	1,414	381	164	214

3）疾病分類別診療科別男女別患者数

コード	ICDコード	大分類名称	性別	外科	整形外科	消化器内科	形成外科	心臓血管外科	循環器内科	救急科	放射線科	口腔顎顔面外科	総数
Ⅰ	A00-B99	感染症及び寄生虫	男	21	0	12	5	0	7	9	0	0	54
			女	22	0	22	6	0	3	9	0	0	62
Ⅱ	C00-D48	新生物（悪性新生物）	男	126	1	76	32	1	2	3	103	3	347
			女	56	2	34	17	0	2	1	58	4	174
Ⅲ	D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	1	0	2	0	0	1	2	0	0	6
			女	2	0	3	1	0	2	1	0	0	9
Ⅳ	E00-E90	内分泌・栄養及び代謝疾患	男	2	0	6	3	0	10	7	0	0	28
			女	4	0	10	1	1	10	10	0	0	36
Ⅴ	F00-F99	精神及び行動の障害	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			女	3	0	3	0	0	0	1	0	0	7
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	男	3	3	4	1	1	33	17	0	1	63
			女	0	5	3	0	1	12	12	0	0	33
Ⅶ	H00-H59	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			女	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
Ⅷ	H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	3	0	3	6	2	0	0	15
			女	1	0	4	1	0	3	5	0	0	14
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	男	12	1	14	58	150	708	16	1	0	960
			女	7	2	10	32	88	382	20	0	0	541
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	男	19	0	18	1	6	51	66	2	1	164
			女	6	0	8	1	3	44	74	0	0	136
ⅩⅠ	K00-K99	消化器系の疾患	男	280	1	153	1	3	2	5	0	61	506
			女	218	0	122	1	0	2	2	0	99	444
ⅩⅡ	L00-L99	皮膚及び皮膚組織の疾患	男	1	0	1	58	1	1	5	0	4	71
			女	2	0	0	45	1	3	4	0	4	59
ⅩⅢ	M00-M99	肋骨格系及び結合組織の疾患	男	5	36	4	28	1	3	2	0	0	79
			女	18	60	4	13	3	0	6	0	0	104
ⅩⅣ	N00-N99	尿路性器系の疾患	男	5	0	6	1	7	8	5	0	0	32
			女	12	0	10	1	5	16	10	0	0	54
ⅩⅦ	Q00-Q99	先天奇形・変形及び染色体異常	男	0	1	0	2	0	1	0	0	19	23
			女	0	0	0	0	0	1	0	0	9	10
ⅩⅧ	R00-R99	症状・兆候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類できない疾患	男	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅨ	S00-T98	損傷・中毒及びその他の外因の影響	男	32	200	4	69	28	47	52	0	8	440
			女	20	271	3	29	26	54	35	0	1	439
合　計				882	583	539	410	329	1,414	381	164	214	4,916

4）臓器別悪性新生物患者数

臓器分類	件数
消化器	254
続発性（その他）	74
続発性（呼吸器、消化器）	19
呼吸器	13
脳、中枢神経系のその他の部位	9
皮膚	8
続発性（リンパ節）	8
口唇、口腔および咽頭	6
リンパ組織、血液	4
軟部組織	2
女性性器	1



5）悪性新生物患者数

ICD	病　名	件数
C02	その他および部位不明の舌の悪性新生物	3
C03	歯肉の悪性新生物	1
C07	耳下腺の悪性新生物	1
C11	鼻<上>咽頭の悪性新生物	1
C15	食道の悪性新生物	4
C16	胃の悪性新生物	61
C17	小腸の悪性新生物	8
C18	結腸の悪性新生物	66
C19	直腸S状結腸移行部の悪性新生物	5
C20	直腸の悪性新生物	29
C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	57
C23	胆のう<嚢>の悪性新生物	3
C24	その他および部位不明の胆道の悪性新生物	9
C25	膵の悪性新生物	10
C34	気管支および肺の悪性新生物	13
C44	皮膚のその他の悪性新生物	7
C48	後腹膜および腹膜の悪性新生物	2
C49	その他の結合組織および軟部組織の悪性新生物	2
C51	外陰の悪性新生物	1
C70	髄膜の悪性新生物	5
C71	脳の悪性新生物	4
C77	リンパ節の続発性および部位不明の悪性新生物	8
C78	呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	19
C79	その他の部位の続発性悪性新生物	74
C85	非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他および詳細不明の型	3
C95	細胞型不明の白血病	1
D04	皮膚の上皮内癌	1

8 疾病統計

診療科別上位疾病分類＜国際疾病分類　ICD10　大分類＞

診療科	順	ICD	病　　名	件　数
全診療科	1	I20	狭心症	271
	2	I50	心不全	189
	3	I48	心房細動および粗動	185
	4	K80	胆石症	161
	5	I70	アテローム<じゅく<粥>状>硬化（症）	154
	6	I25	慢性虚血性心疾患	150
	7	J69	固形物および液状物による肺臓炎	146
	8	S72	大腿骨骨折	131
	9	T82	心臓および血管プロステーシス、挿入物および移植片の合併症	124
	10	K07	歯顎顔面（先天）異常［不正咬合を含む］	116
外科	1	K80	胆石症	114
	2	C18	結腸の悪性新生物	56
	3	K35	急性虫垂炎	47
	3	K40	そけい<鼡径>ヘルニア	47
	5	K63	腸のその他の疾患	42
	6	C16	胃の悪性新生物	37
	6	K57	腸の憩室性疾患	37
	8	K56	麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	36
	9	C20	直腸の悪性新生物	26
	10	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	24
救急科	1	J69	固形物および液状物による肺臓炎	85
	2	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	21
	3	G93	脳のその他の障害	12
	3	J18	肺炎、病原体不詳	12
	5	A41	その他の敗血症	9
	5	E86	体液量減少（症）	9
	5	G90	自律神経系の障害	9
	8	I46	心停止	8
	8	L03	蜂巣炎	8
	8	S06	頭蓋内損傷	8
形成外科	1	I70	アテローム<じゅく<粥>状>硬化（症）	69
	2	L03	蜂巣炎	40
	3	M86	骨髄炎	29
	4	D23	皮膚のその他の良性新生物	27
	5	L97	下肢の潰瘍、他に分類されないもの	24
	6	S02	頭蓋骨および顔面骨の骨折	21
	7	L89	じょく<褥>瘡（性）潰瘍	13
	8	L72	皮膚および皮下組織の毛包のう<嚢>胞	12
	9	S68	手首および手の外傷性切断	11
	10	C44	皮膚のその他の悪性新生物	7
	10	I73	その他の末梢血管疾患	7
口腔顎顔面外科・矯正歯科	1	K07	歯顎顔面（先天）異常［不正咬合を含む］	114
	2	K04	歯髄および根尖歯周組織の疾患	23
	3	Q37	唇裂を伴う口蓋裂	21
	4	L03	蜂巣炎	8
	5	S02	頭蓋骨および顔面骨の骨折	7
	6	K01	埋伏歯	6
	7	K05	歯肉炎および歯周疾患	5
	7	Q38	舌、口（腔）および咽頭のその他の先天奇形	5
	9	K09	口腔部のう<嚢>胞、他に分類されないもの	4
	10	K10	顎骨のその他の疾患	3
	10	K11	唾液腺疾患	3

診療科	順	ICD	病　　名	件　数
循環器内科	1	I20	狭心症	230
	2	I50	心不全	178
	3	I48	心房細動および粗動	177
	4	I25	慢性虚血性心疾患	147
	5	T82	心臓および血管プロステーシス、挿入物および移植片の合併症	75
	6	I21	急性心筋梗塞	72
	6	I70	アテローム<じゅく<粥>状>硬化（症）	72
	8	I47	発作性頻拍（症）	62
	9	J69	固形物および液状物による肺臓炎	35
	10	G47	睡眠障害	34
消化器内科	1	K80	胆石症	46
	2	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	44
	3	K63	腸のその他の疾患	43
	4	K57	腸の憩室性疾患	40
	5	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	24
	5	C16	胃の悪性新生物	24
	7	K55	腸の血行障害	20
	8	K56	麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	18
	9	K83	胆道のその他の疾患	16
	10	J69	固形物および液状物による肺臓炎	15
心臓血管外科	1	I71	大動脈瘤および解離	63
	2	T82	心臓および血管プロステーシス、挿入物および移植片の合併症	46
	3	I20	狭心症	41
	3	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	41
	5	I34	非リウマチ性僧帽弁障害	21
	6	I83	下肢の静脈瘤	14
	7	I70	アテローム<じゅく<粥>状>硬化（症）	11
	7	N18	慢性腎不全	11
	9	I21	急性心筋梗塞	8
	9	I72	その他の動脈瘤	8
整形外科	1	S72	大腿骨骨折	127
	2	S42	肩および上腕の骨折	75
	3	S82	下腿の骨折、足首を含む	59
	4	S52	前腕の骨折	52
	5	S32	腰椎および骨盤の骨折	50
	6	S92	足の骨折、足首を除く	28
	7	M17	膝関節症［膝の関節症］	25
	8	S22	肋骨、胸骨および胸椎骨折	21
	8	S83	膝の関節および靭帯の脱臼、捻挫およびストレイン	21
	10	M20	指および趾<足ゆび>の後天性変形	18
放射線科	1	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	71
	2	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	42
	3	C34	気管支および肺の悪性新生物	9
	4	C77	リンパ節の続発性および部位不明の悪性新生物	8
	5	C78	呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7
	6	C70	髄膜の悪性新生物	5
	7	C71	脳の悪性新生物	4
	8	D32	髄膜の良性新生物	3
	8	D35	その他および部位不明の内分泌腺の良性新生物	3
	10	C49	その他の結合組織および軟部組織の悪性新生物	2

9 手術統計

節	区分	解釈番号	名　称	件数
皮膚・皮下組織	皮膚・皮下組織	K0001	創傷処理（筋肉、臓器に達する）（長径５cm未満）	32
		K0002	創傷処理（筋肉、臓器に達する）（長径５cm以上10cm未満）	43
		K000-21	小児創傷処理（筋肉、臓器に達する、長径2.5cm未満）	5
		K000-22	小児創傷処理（筋肉、臓器に達する、長径2.5cm～５cm未満）	1
		K000-24	小児創傷処理（筋肉、臓器に達する、長径10cm以上）	1
		K000-25	小児創傷処理（筋肉、臓器に達しない、長径2.5cm未満）	49
		K000-26	小児創傷処理（筋肉、臓器に達しない、長径2.5cm～５cm未満）	5
		K0003ロ	創傷処理（筋肉、臓器に達する）（長径10cm以上）（その他）	44
		K0004	創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径５cm未満）	125
		K0005	創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径５cm以上10cm未満）	13
		K0006	創傷処理10cm以上（筋肉臓器に達しない）	2
		K0007	真皮縫合加算	11
		K0008	デブリードマン加算（汚染された挫創）	8
		K0011	皮膚切開術（長径10cm未満）	37
		K0012	皮膚切開術（長径10cm以上20cm未満）	4
		K0013	皮膚切開術（長径20cm以上）	4
		K0021	デブリードマン（100㎠未満）	46
		K0022	デブリードマン（100㎠以上3000㎠未満）	9
		K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm未満）	71
		K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm以上４cm未満）	42
		K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径４cm以上）	18
		K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３cm未満）	33
		K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径３cm以上６cm未満）	34
		K006-21	鶏眼・胼胝切除術（露出部で縫合）（長径２cm未満）	1
		K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径６cm以上12cm未満）	13
		K0064	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径12cm以上）	2
		K006-41	皮膚腫瘍冷凍凝固摘出術（長径３cm未満の良性皮膚腫瘍）	2
		K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	10
		K007-2	経皮的放射線治療用金属マーカー留置術	31
	形成	K0102	瘢痕拘縮形成手術（その他）	4
		K0131	分層植皮術（25㎠未満）	7
		K0132	分層植皮術（25㎠以上100㎠未満）	15
		K013-21	全層植皮術（25㎠未満）	20
		K013-22	全層植皮術（25㎠以上100㎠未満）	9
		K013-23	全層植皮術（100㎠以上200㎠未満）	2
		K0133	分層植皮術（100㎠以上200㎠未満）	3
		K0134	分層植皮術（200㎠以上）	2
		K0151	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25㎠未満）	7
		K0153	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（100㎠以上）	6
		K016	動脈（皮）弁術	5
		K019	複合組織移植術	1
筋骨格系・四肢・体幹	筋膜・筋・腱・腱鞘	K028	腱鞘切開術（関節鏡下によるものを含む）（指）	4
		K0301	四肢･躯幹軟部腫瘍摘出術（下腿）	1
		K034	腱切離･切除術（関節鏡下によるものを含む）	7
		K037	腱縫合術	6
		K037-2	アキレス腱断裂手術	5
	四肢骨	K042	骨穿孔術	4
		K0433	骨掻爬術（足その他）	1
		K0443	骨折非観血的整復術（手）	2
		K0451	骨折経皮的鋼線刺入固定術（上腕）	1
		K0452	骨折経皮的鋼線刺入固定術（下腿）	1
		K0452	骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	5
		K0453	骨折経皮的鋼線刺入固定術（指）	4
		K0461	骨折観血的手術（上腕）	37
		K0461	骨折観血的手術（大腿）	90

節	区分	解釈番号	名　　称	件数
筋骨格系・四肢・体幹	四肢骨	K0462	骨折観血的手術（下腿）	28
		K0462	骨折観血的手術（前腕）	38
		K0463	骨折観血的手術（鎖骨）	15
		K0463	骨折観血的手術（指）	2
		K0463	骨折観血的手術（手（舟状骨を除く））	7
		K0463	骨折観血的手術（足）	11
		K0463	骨折観血的手術（膝蓋骨）	9
		K047-3	超音波骨折治療法	103
		K0482	骨内異物（挿入物を含む）除去術（その他の顔面）	2
		K0482	骨内異物（挿入物を含む）除去術（上腕）	13
		K0482	骨内異物（挿入物を含む）除去術（大腿）	2
		K0483	骨内異物（挿入物を含む）除去術（下腿）	18
		K0483	骨内異物（挿入物を含む）除去術（前腕）	12
		K0484	骨内異物（挿入物を含む）除去術（鎖骨）	13
		K0484	骨内異物（挿入物を含む）除去術（指）	2
		K0484	骨内異物（挿入物を含む）除去術（手）	3
		K0484	骨内異物（挿入物を含む）除去術（足）	15
		K0484	骨内異物（挿入物を含む）除去術（膝蓋骨）	5
		K0493	骨部分切除術（指）	2
		K0493	骨部分切除術（足）	3
		K0503	腐骨摘出術（鎖骨）	3
		K0503	腐骨摘出術（手）	5
		K0503	腐骨摘出術（足その他）	25
		K0543	骨切り術（指）	1
		K0543	骨切り術（足）	2
		K0561	偽関節手術（上腕）	1
		K0591	骨移植術（軟骨移植術を含む、自家骨移植）	3
		K0593ロ	骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	1
	四肢関節・靱帯	K060-31	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（股）	1
		K060-31	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（膝）	2
		K060-32	化膿性又は結核性関節炎掻爬術（足）	1
		K0611	関節脱臼非観血的整復術（肩）	7
		K0611	関節脱臼非観血的整復術（股）	1
		K0612	関節脱臼非観血的整復術（肘）	2
		K0613	関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	5
		K0633	関節脱臼観血的整復術（肩鎖）	1
		K0633	関節脱臼観血的整復術（指）	1
		K066-21	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	3
		K0671	関節鼠摘出手術（膝）	1
		K068-2	関節鏡下半月板切除術	18
		K0701	ガングリオン摘出術（指）	1
		K0702	ガングリオン摘出術（その他）（ヒグローム摘出術を含む）	1
		K0772	観血的関節制動術（足）	1
		K0782	観血的関節固定術（足）	3
		K0783	観血的関節固定術（指）	3
		K079-21	関節鏡下靱帯断裂形成手術（十字靱帯）	2
		K0811	人工骨頭挿入術（肩）	1
		K0811	人工骨頭挿入術（股）	35
		K0821	人工関節置換術（股）	12
		K0821	人工関節置換術（膝）	22
		K082-31	人工関節再置換術（股）	1
		K083	鋼線等による直達牽引	18
	四肢切断・離断・再接合	K0842	四肢切断術（下腿）	7
		K0842	四肢切断術（大腿）	13
		K0843	四肢切断術（指）	87
		K0853	四肢関節離断術（指）	1
		K0871	断端形成術（骨形成を要する）（手指）	2
		K0871	断端形成術（骨形成を要する）（足指）	1
		K0872	断端形成術（骨形成を要する）（その他）	1

節	区分	解釈番号	名　　称	件数
	四肢切断・離断・再接合	K0882	切断四肢再接合術（指）	3
	手・足	K089	爪甲除去術	3
		K0911	陥入爪手術（簡単）	12
		K0912	陥入爪手術（爪床爪母の形成を伴う複雑）	7
		K093	手根管開放手術	7
		K110-2	第一足指外反症矯正手術	12
神経系・頭蓋	脊髄・末梢神経・交感神経	K193-22	レックリングハウゼン病偽神経腫切除術（露出部）２	1
		K193-32	レックリングハウゼン病偽神経腫切除術（露出部以外）２	1
		K193-33	レックリングハウゼン病偽神経腫切除術（露出部以外）３	1
眼	涙道	K206	涙小管形成手術	1
	眼瞼	K2193	眼瞼下垂症手術（その他）	1
	眼窩・涙腺	K227	眼窩骨折観血的手術（眼窩ブローアウト骨折手術を含む）	3
		K228	眼窩骨折整復術	1
耳鼻咽喉	外耳	K285	耳介血腫開窓術	1
	中耳	K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	3
	鼻	K333	鼻骨骨折整復固定術	4
		K333-3	鼻骨骨折徒手整復術	6
		K334-2	鼻骨変形治癒骨折矯正術	1
	咽頭・扁桃	K3691	咽頭異物摘出術（簡単）	2
		K3692	咽頭異物摘出術（複雑）	2
	喉頭・気管	K386	気管切開術	15
		K396	気管切開孔閉鎖術	1
顔面・口腔・頸部	口腔前庭・口腔底・頬粘膜・舌	K408	口腔底膿瘍切開術	1
		K419	舌小帯形成手術	1
	顔面骨・顎関節	K427	頬骨骨折観血的整復術	3
		K428	下顎骨折非観血的整復術	1
		K430	顎関節脱臼非観血的整復術	1
		K4431	上顎骨形成術（単純な場合）	1
		K4442	下顎骨形成術（短縮）	1
		K4445	下顎骨形成術（両側同時加算）	1
胸部	胸壁	K477	胸壁膿瘍切開術	1
		K478	肋骨骨髄炎手術	1
		K483	胸骨骨折観血手術	1
		K483	胸骨切除術	1
	胸腔・胸膜	K494	胸腔内（胸膜内）血腫除去術	1
	気管支・肺	K509-3	気管支内視鏡的放射線治療用マーカー留置術	3
	食道	K522-2	食道ステント留置術	2
		K5223	食道狭窄拡張術（拡張用バルーン）	1
		K526-22	内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	1
		K5293	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（腹部の操作）	1
		K533	食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡）	4
		K533-2	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	1
心・脈管	心・心膜・肺動静脈・冠血管等	K539	心膜切開術（心嚢ドレナージ）	3
		K540	収縮性心膜炎手術	1
		K543	心房内血栓除去術	6
		K5441	心腫瘍摘出術（単独）	1
		K545	開胸心臓マッサージ	1
		K5461	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞）	4
		K5462	経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症）	2
		K5463	経皮的冠動脈形成術（その他）	13
		K5481	経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル）	5
		K5482	経皮的冠動脈形成術（エキシマレーザー血管形成用カテーテル）	1
		K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）	39
		K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	10
		K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	129
		K5521	冠動脈、大動脈バイパス移植術（１吻合）	11
		K5522	冠動脈、大動脈バイパス移植術（２吻合以上）	13
		K552-21	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺不使用）（１吻合）	2
		K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺不使用）（２吻合以上）	46

節	区分	解釈番号	名　　称	件数
心・脈管	心・心膜・肺動静脈・冠血管等	K5523	冠動脈形成術（血栓内膜摘除）併施加算	1
		K5541	弁形成術（１弁）	15
		K5542	弁形成術（２弁）	1
		K5543	弁形成術（３弁）	1
		K5551	弁置換術（１弁）	44
		K5552	弁置換術（２弁）	8
		K5553	弁置換術（３弁）	1
		K5554	心臓弁再置換術加算	1
		K5601イ	大動脈瘤切除術（上行）（弁置換術又は形成術）	3
		K5601ニ	大動脈瘤切除術（上行）（その他）	6
		K5601ロ	大動脈瘤切除術（上行）（人工弁置換を伴う基部置換術）	2
		K560-21	オープン型ステントグラフト内挿術（弓部）	4
		K560-22	オープン型ステントグラフト内挿術（上行･弓部同時、その他）	7
		K5603イ	大動脈瘤切除術（上行･弓部同時）（弁置換術又は形成術）	2
		K5603ニ	大動脈瘤切除術（上行･弓部同時）（その他）	8
		K5603ロ	大動脈瘤切除術（上行･弓部同時）（人工弁置換を伴う基部置換術）	1
		K5604	大動脈瘤切除術（下行）	1
		K5606	大動脈瘤切除術（腹部大動脈（分枝血管の再建））	25
		K5607	大動脈瘤切除術（腹部大動脈（その他））	10
		K5612	ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）	1
		K588	冠動静脈瘻開胸的遮断術	1
		K592	肺動脈塞栓除去術	1
		K5943	不整脈手術（メイズ手術）	14
		K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿刺、心外膜アプローチ）	158
		K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他）	65
		K596	体外ペースメーキング術	1
		K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極）	44
		K597-2	ペースメーカー交換術	6
		K597-3	植込型心電図記録計移植術	8
		K598	両心室ペースメーカー移植術	3
		K5991	植込型除細動器移植術（経静脈リード）	10
		K5992	植込型除細動器移植術（皮下植込型リード）	1
		K599-2	植込型除細動器交換術	3
		K599-3	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術	2
		K599-4	両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	1
		K599-51	経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いる）	1
		K599-52	経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いない）	1
		K6001	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）（１日につき）（初日）	7
		K6002	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）（２日目以降）	52
		K6011	人工心肺（初日）	110
		K6013	人工心肺（逆行性冠灌流加算）	66
		K6013	選択的冠灌流加算（人工心肺）	18
		K6014	人工心肺（選択的脳灌流加算）	29
		K6021	経皮的心肺補助法（１日につき）（初日）	1
	動脈	K6071	血管結紮術（開胸を伴う）	1
		K6072	血管結紮術（その他）	3
		K607-3	上腕動脈表在化法	1
		K6081	動脈塞栓除去術（開腹を伴う）	1
		K6082	動脈塞栓除去術（その他）（観血的）	11
		K608-3	内シャント血栓除去術	12
		K6093	動脈血栓内膜摘出術（その他）	2
		K6103	動脈形成術、吻合術（腹腔内動脈）（大動脈を除く）	1
		K610-3	内シャント設置術	42
		K6104	動脈形成術、吻合術（指の動脈）	1
		K6105	動脈形成術、吻合術（その他の動脈）	2
		K6145	血管移植術、バイパス移植術（下腿、足部動脈）	8
		K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	21
		K6151	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	5
		K6153	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他）	2

節	区分	解釈番号	名　　称	件数
心・脈管	動脈	K616	四肢の血管拡張術･血栓除去術	37
		K616-4	経皮的シャント拡張術･血栓除去術	79
	静脈	K6171	下肢静脈瘤手術1（抜去切除術）	13
		K617-2	大伏在静脈抜去術	3
		K6181	中心静脈注射用植込型カテーテル設置（四肢）	1
		K6182	中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	5
		K620-2	下大静脈フィルター除去術	3
	リンパ管・リンパ節	K6261	リンパ節摘出術（長径３cm未満）	4
		K6262	リンパ節摘出術（長径３cm以上）	1
腹部	腹壁・ヘルニア	K6331	腹壁瘢痕ヘルニア手術	3
		K633-21	腹腔鏡下ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	1
		K633-22	腹腔鏡下ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	1
		K6333	臍ヘルニア手術	1
		K6335	鼠径ヘルニア手術	3
		K6336	大腿ヘルニア手術	1
		K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	44
	腹膜・後腹膜・腸間膜・網膜	K635	胸水･腹水濾過濃縮再静注法	2
		K636	試験開腹術	3
		K637-2	経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	14
		K639	急性汎発性腹膜炎手術	3
		K643	後腹膜悪性腫瘍手術	2
	胃・十二指腸	K647	胃縫合術（大網充填術又は被覆術を含む）	1
		K6531	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ･粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜）	1
		K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ･粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	18
		K653-3	内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	11
		K6534	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ･粘膜切除術（その他）	11
		K654	内視鏡的消化管止血術	60
		K654-31	腹腔鏡下胃局所切除術（内視鏡処置を併施）	1
		K6552	胃切除術（悪性腫瘍手術）	10
		K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	5
		K6553	有茎腸管移植加算	3
		K6572	胃全摘術（悪性腫瘍手術）	4
		K662	胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む）	1
		K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	61
		K664-2	経皮経食道胃管挿入術（PTEG）	2
		K665-2	胃瘻抜去術	1
	胆嚢・胆道	K6711	胆管切開結石摘出術（胆嚢摘出を含む）	1
		K671-21	腹腔鏡下胆管切開結石摘出術（胆嚢摘出を含む）	2
		K672	胆嚢摘出術	7
		K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	114
		K6751	胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局するもの（リンパ節郭清を含む））	1
		K6754	胆嚢悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除を伴う）	1
		K6772	胆管悪性腫瘍手術（その他）	1
		K677-22	肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建なし）	1
		K680	総胆管胃（腸）吻合術	1
		K682-3	内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ENBD）	1
		K6852	内視鏡的胆道結石除去術（その他）	25
		K686	内視鏡的胆道拡張術	2
		K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）	31
		K6872	内視鏡的乳頭切開術（胆道砕石術を伴う）	1
		K688	内視鏡的胆道ステント留置術	70
	肝	K692-2	腹腔鏡下肝嚢胞切開術	2
		K6951	肝切除術（部分切除）	3
	膵	K7022	膵体尾部腫瘍切除術（リンパ節･神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）	1
		K7031	膵頭部腫瘍切除術（膵頭十二指腸切除術）	4
		K7032	膵頭部腫瘍切除術（リンパ節･神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）	1
		K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	9
	脾	K710	脾縫合術（部分切除を含む）	1
	空腸･回腸･盲腸･虫垂･結腸	K714	腸管癒着症手術	1

節	区分	解釈番号	名　　称	件数
腹部	空腸・回腸・盲腸・虫垂・結腸	K714-2	腹腔鏡下腸管癒着剥離術	5
		K7161	小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	4
		K716-21	腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	3
		K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	15
		K718-22	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	8
		K7191	結腸切除術（小範囲切除）	1
		K719-21	腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	2
		K7193	結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）	4
		K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	21
		K7211	内視鏡的大腸ポリープ･粘膜切除術（長径２cm未満）	145
		K7212	内視鏡的大腸ポリープ･粘膜切除術（長径２cm以上）	14
		K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	1
		K722	小腸結腸内視鏡的止血術	8
		K725	腸瘻造設術	4
		K726	人工肛門造設術	1
		K7322	人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）	1
		K735-2	小腸･結腸狭窄部拡張術（内視鏡）	2
		K735-4	下部消化管ステント留置術	10
	直腸	K7391	直腸腫瘍摘出術（経肛門）	1
		K7401	直腸切除･切断術（切除術）	4
		K740-21	腹腔鏡下直腸切除･切断術（切除術）	2
		K740-22	腹腔鏡下直腸切除･切断術（低位前方切除術）	4
		K740-23	腹腔鏡下直腸切除･切断術（切断術）	2
		K7421イ	直腸脱手術（経会陰）（腸管切除を伴わない）	1
	肛門・その周辺	K7433	痔核手術（脱肛を含む）（結紮術）	2
		K7433	痔核手術（脱肛を含む）（血栓摘出術）	1
		K7434	痔核手術（脱肛を含む）（根治手術）	4
		K743-6	肛門部皮膚剥離切除術	1
		K744	裂肛根治手術	1
		K745	肛門周囲膿瘍切開術	2
		K7461	痔瘻根治手術（単純）	5
		K7462	痔瘻根治手術（複雑）	3
		K747	肛門良性腫瘍切除術	1
		K753	毛巣洞手術	1
尿路系・副腎	膀胱	K805	膀胱瘻造設術	1
性器	陰茎	K8282	包茎手術（環状切除術）	1
歯科	歯科	J000	臼歯抜歯	584
		J000	歯の破折片除去	1
		J000	難抜歯加算	181
		J000	乳歯抜歯	25
		J000	抜歯手術（前歯）	165
		J000	埋伏智歯加算	272
		J0004	埋伏歯抜歯	300
		J001	ヘミセクション	3
		J002	抜歯窩再掻爬手術	2
		J003	歯根のう胞摘出手術（歯冠大）	22
		J003	歯根のう胞摘出手術（拇指頭大）	11
		J004	歯根端切除術１	8
		J0042	根切２	1
		J0042	歯の再植術	3
		J006	歯槽骨整形手術、骨瘤除去手術	6
		J008	歯肉、歯槽部腫瘍手術１（軟組織に限局）	4
		J013	口腔内消炎手術（顎炎又は顎骨骨髄炎等）1/3顎未満	2
		J013	口腔内消炎手術（骨膜下膿瘍,口蓋膿傷等）	32
		J013	口腔内消炎手術（歯肉膿傷等）	5
		J013	口腔内消炎手術（智歯周囲炎の歯肉弁切除等）	1
		J017	舌腫瘍摘出術１（粘液のう胞）	6
		J017	舌腫瘍摘出術２（その他）	4
		J018	舌悪性腫瘍手術１（切除）	1

節	区分	解釈番号	名　　称	件数
歯科	歯科	J021	口蓋悪性腫瘍手術１（切除）（単純）	2
		J022	顎・口蓋裂形成手術１（軟口蓋のみのもの）	1
		J022	顎・口蓋裂形成手術２（硬口蓋に及ぶもの）	2
		J022	顎・口蓋裂形成手術３（片側・顎裂を伴うもの）	6
		J0223	顎・口蓋裂形成手術３（両側・顎裂を伴うもの）	2
		J024	口唇裂形成手術（片側）（口唇のみ）	2
		J024	口唇裂形成手術（片側）（口唇裂鼻形成を伴う）	8
		J024-23	口唇裂形成手術（両側）（鼻腔底形成を伴う）	3
		J0243	軟口蓋形成手術	1
		J027	小帯形成術（頬、口唇、舌）	16
		J027	小帯切離移動術（頬、口唇、舌）	3
		J030	口唇腫瘍摘出術１（粘液のう胞）	8
		J030	口唇腫瘍摘出術２（その他）	2
		J034	頬粘膜腫瘍摘出術	6
		J043	顎骨腫瘍摘出術１（３cm未満）	13
		J043	顎骨腫瘍摘出術２（３cm以上）	1
		J044	顎骨のう胞開窓術	1
		J046	下顎隆起形成術	1
		J046	下顎隆起形成術（両側）	1
		J047	腐骨除去手術（顎骨1/3以上）	1
		J047	腐骨除去手術（顎骨1/3未満）	1
		J047	腐骨除去手術（歯槽骨に限局）	9
		J048	口腔外消炎手術（２cm未満のもの）	3
		J051	ガマ腫開窓術	3
		J053	唾石摘出術１（表在性）	2
		J055	顎下腺摘出術	1
		J0632	骨移植術（軟骨移植術を含む）（困難なもの）	10
		J0633	骨（軟骨）組織採取術１（腸骨翼）	1
		J068	上顎骨骨折観血的手術	1
		J069	上顎骨形成術１（単純な場合）	13
		J0693	上顎骨形成術（骨移動を伴う）	3
		J071	下顎骨折非観血的整復術	2
		J073	口腔内軟組織異物除去術（簡単）	1
		J074	顎骨内異物除去術（困難・2/3顎未満）	54
		J075	下顎骨形成術（両側同時加算）	61
		J075	下顎骨形成術１（おとがい形成の場合）	9
		J075	下顎骨形成術２（短縮又は伸長の場合）	61
		J0754	下顎骨形成術（骨移動を伴う）	5
		J077	顎関節脱臼非観血的整復術	6
		J082	歯科インプラント摘出術（人工歯根）	1
		J084	真皮縫合加算	1
		J084	創傷処理（５cm未満、深）	8
		J084	創傷処理（５cm未満、浅）	6
		J0842	小児創傷処理（2.5cm未満、深）	2
		J0842	小児創傷処理（2.5cm未満、浅）	2
		J0842	小児創傷処理（５cm以上10cm未満、深）	1
		J0844	後出血処置	1

10 大分岡病院　診療部活動報告

1）循環器内科

所属医師	立川　洋一（院長） 永瀬　公明（循環器内科部長） 大家　辰彦（循環器内科部長） 宮本　宣秀（循環器内科部長） 脇坂　　収（循環器内科部長） 金子　匡行（循環器内科部長） 浦壁　洋太（循環器内科医長） 石川　敬喜（循環器内科医長） 児玉　　望（循環器内科医師） 藤田　崇史（循環器内科医師）
特徴等 特筆すべき 事　柄	循環器領域のすべての診療を行っており、特に心臓、末梢血管のカテーテル治療には力を入れている。またエキシマレーザーを用いてのリード抜去は県内で当院のみである。当院の特徴として、心臓血管外科と共に心血管センターを構成、また形成外科とは創傷ケアセンターを構成し、合同カンファレンスなどを通じ、チーム医療にて心臓疾患、創傷疾患患者さんにベストの治療を模索、提供している。心臓リハビリテーションにも積極的で、他メディカルスタッフとのチーム医療を構成している。 日本内科学会総合内科専門医（立川、宮本、脇坂、金子、浦壁） 日本内科学会認定内科医（立川、永瀬、大家、宮本、脇坂、金子、浦壁、石川） 日本循環器学会専門医（立川、永瀬、大家、宮本、脇坂、金子、浦壁、石川） 日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医（立川、永瀬） 日本心血管インターベンション治療学会専門医（宮本） 日本心血管インターベンション治療学会認定医（金子、浦壁、石川） 日本不整脈心電学会認定専門医（大家、脇坂） 日本心臓リハビリテーション学会指導士（宮本、金子） 植え込み型除細動器資格医（宮本、脇坂、金子） 心臓植え込みデバイスリード抜去資格医（宮本、脇坂、金子） ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター（金子）
実　績	新入院患者数：1,456名 延べ外来患者数：7,895名 経皮的冠動脈形成術（PCI）：216（うち緊急PCI：52） 末梢血管インターベンション（EVT）：156 シャント血管インターベンション（VAIVT）：89 ペースメーカー植え込み術：47 植え込み型除細動器植え込み術（ICD）：12 心臓再同期療法/植え込み型除細動器（CRT-D）：５ ペースメーカーリード抜去術：２

考　察	循環器内科の全員が循環器専門医を取得し、また総合内科専門医も５名と拡充された。実績については冠動脈や末梢動脈のカテーテル治療、ペースメーカー治療など、いずれも横ばいもしくは減少傾向にあり、特に冠動脈カテーテル治療の症例数（200以上の確保）はロータブレータの認定要件にもつながるため危機感を持つ必要がある。一方で、不整脈専門医の着任にて不整脈診療の幅が広がり、特にカテーテルアブレーション治療においては200件ほどの症例をこなすことができ、県下でも大学に次ぐ規模であり、今後のさらなる発展が期待できる。また、県内で当院しか行っていないレーザーリード抜去などについても広報活動する必要がある。 さらに、近隣開業医への営業活動や地域連携活動を推進し、さらに県南地区への働きかけも行い、症例数の確保を目指す必要がある。すでに24時間365日のオンコール体制を行ってはいるが、PCPS装着など、緊急時の対応力をさらに充実させ、救急隊との連携も深める必要がある。 また、今後、増加が見込まれる高齢心不全患者の対応についても、心臓リハビリテーションチームを中心に地域と連携した取り組みを行う必要がある（心不全地域連携勉強会などの充実など）。 学術面では学会発表に力を入れたが、研究会発表、講演、市民公開講座、医療連携講演なども各人が引き続き進め、当院当科のアピールとともに地域社会貢献を果たしていきたい。
今後の展望	これまでの診療の継続、発展。さらなる地域社会への貢献。 昨年度からは不整脈専門医を２名迎え入れ、これまで多くはできなかったカテーテルアブレーション治療がルーチンで行えるようになり、今後軌道に乗せたい。 メディカルスタッフの育成やペースメーカー管理のスタッフも充実。 心血管エコーラボの発展充実。 高齢心不全患者に対する加療、ACPを含めた対応、緩和ケア、地域医療連携の取組。 また今後を見据えてTAVIなどストラクチャーに対するインターベンションが行えるよう、下地を整えていきたい。 各Dr.それぞれは、自主的に発表や専門資格の取得に励み、自己研鑽に努める。 地域連携としては心疾患などの広域パスの運営を始めたい。

文責：宮本　宣秀

2）外科

所属医師	姫野　研三（名誉院長） 荒巻　政憲（副院長、消化器センター長） 佐藤　　博（主任外科部長） 蔀　　由貴（消化器外科医長） 田邉　三思（消化器外科医員）
特徴等 特筆すべき 事　柄	外科では消化器・一般外科として胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胆嚢癌、胆石、急性虫垂炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、癒着性イレウス、腸管壊死、鼠径ヘルニア等の手術を行っています。1991年に腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入して以来、腹腔鏡下手術に力をいれ、現在では胃癌、大腸癌、急性虫垂炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、癒着性イレウス、鼠径ヘルニア等においても積極的に行っており全手術の約２/３を占めています。 専門医・認定医 日本外科学会指導医（荒巻） 日本外科学会専門医（荒巻・佐藤・蔀） 日本外科学会認定医（姫野） 日本消化器外科学会指導医（荒巻） 日本消化器外科学会専門医（荒巻） 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医（荒巻） 日本内視鏡外科学会技術認定医（佐藤） 日本消化器病学会消化器病専門医（佐藤） 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医（佐藤） 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医（佐藤） 日本消化管学会胃腸科指導医（佐藤） 日本消化管学会胃腸科専門医（佐藤） 日本臨床外科学会特別会員（姫野） 日本肝胆膵外科学会評議員（荒巻） ICD協議会インフェクションコントロールドクター（佐藤） 日本医師会認定産業医（姫野・佐藤） 日本法医学会死体検案認定医（姫野） 日本救急医学会専門医（田邉）
実　績	新入院患者数：854件 延外来患者数：4,964件 手術件数（手術数）：337件
考　察	近年、整容性に優れた低侵襲性手術である単孔式腹腔鏡下手術を胆嚢結石や虫垂炎に対し行っており良好な成績を上げています。また2014年４月からは肝胆膵癌に対する手術を行い徐々に症例数は増加しています。
今後の展望	当科では質の高い医療を目指し、早期から低侵襲性手術である腹腔鏡下手術を導入し現在でも多くの手術を腹腔鏡下に行っています。 消化器センター開設後は消化器癌症例が増加しています。今まで培った治療法を基本に消化器疾患全般に対してより安全、安心な治療を提供していきます。

文責：荒巻　政憲

3）救急科

所属医師	大久保浩一（救急科部長） 鍋田　祐介（救急科医員）
特徴等 特筆すべき 事　柄	当科は２名で構成しており、外傷、ショック、感染症、内科一般の対応をしている。この他の専門治療が必要な救急疾患についても、各専門診療科と連携して対応が可能である。 専門医・認定医 　日本救急医学会救急科専門医（大久保） 　日本DMAT隊員（大久保・鍋田） 　大分DMAT隊員（大久保・鍋田） 　JATECインストラクター（大久保） 　ICLSインストラクター（鍋田）
実　績	延外来患者数：53,965名 2017年度救急車搬入件数：2,355台 新入院患者数：4,873名 平均在院日数：13.8日
考　察	当院は年間約2,300台の救急車を受け入れることで大分市東部地区の救急医療の中核的役割を果たしているが、当科としてはその受け入れの中心的な役割を果たすのみならず、日中のウォークイン患者の対応も行っている。 一般救急業務以外にも災害医療活動や院内急変時対応チーム、呼吸療法サポートチーム、栄養サポートチーム、Infection Control Teamなど、多くのチーム医療に当科医師が参加して病院の効率的な運営に協力している。
今後の展望	2016年４月からは大分市消防局を中心としたドクターカーシステムが運用を開始しており、当院においても要請に対して即時に出動が可能なように準備を行っている。 従来のDMATでの災害現場への出動のみならず、「呼びかけに対して反応がない」、「胸が痛い」などのキーワードに応じて内因性疾患に関しても病院前からの医療介入を行える形となった。 急性期の患者の予後を少しでも良いものにするために、スタッフの知識・スキルの向上を図るとともに、消防や他医療機関との連携を深めていきたい。

文責：大久保浩一

4）整形外科

所属医師	亀井　誠治（整形外科部長） 直野　　敬（非常勤）
特徴等 特筆すべき 事　柄	整形外科は骨、関節、靭帯、末梢神経、筋肉などの運動器に関わる疾患や外傷を治療する診療科である。当院では外傷を主とした一般的な整形外科治療に加え、足の外科専門の常勤医による、専門に特化した診療を行っている。 専門医・認定医 　日本整形外科学会専門医（亀井） 　日本整形外科学会認定リウマチ医（亀井） 　日本リハビリテーション認定臨床医（直野） 　日本体育協会スポーツドクター（亀井）
実　績	新入院患者数：　532名 延外来患者数：4,647名 手術件数（手術室使用）：487件
考　察	診療面では、常勤医１人体制であるが、手術件数や入院患者数は維持できていた。救急患者の受け入れに関して、外傷の大半は対応できていた。入院患者の管理に関しては、整形外科スタッフとの連携が良好に行われており、大きなトラブルなく実行できている。 学術面では、学会発表は年に２～３回ほど行っているが、昨年は論文作成ができていない。 教育面では、研修医が１～２か月の研修を行ったが、手術や診療以外の時間を設けることができず、整形外科の知識を教えることがあまりできなかった。手術見学や手術手技に関しては、比較的経験させることができたと思われる。
今後の展望	入院患者数、手術件数は現状維持を目指すが、常勤医１人体制であり、減少する可能性がある。 看護必要度を考慮すれば、手術患者の入院を増やし、保存的治療の患者は早期に転院させる方針が望ましい。このためには、連携医療機関、整形外科スタッフの協力が不可欠であり、さらに深めたいと考える。 他院と比較して特化した分野とすれば、足の外科疾患と前方アプローチによる人工股関節手術であり、これらの知識、経験を深め、大分における治療促進を図る。 学会発表、論文作成を行う。 整形外科に興味をもつ研修医の指導内容を深いものにする。

文責：亀井　誠治

5）形成外科

所属医師	古川　雅英（形成外科部長・創傷ケアセンター長、副院長） 佐藤　精一（形成外科医員）2016年２月～ 松本　健吾（形成外科非常勤医師） 宗元　碩哲（形成外科医員）2017年８月～2018年３月 澁谷　博美（形成外科顧問）
特徴等 特筆すべき 事　柄	臨床、教育：口腔顎顔面外科および創傷ケアセンターにおける他科とのチーム医療は昨年同様である。大分大学形成外科に協力し、大分県での形成外科専門医習得を目的として2017年８月より2018年３月まで宗元碩哲が在職した。松本健吾は2015年４月以降レスキーという会社を設立し非常勤となったが、福岡大学病院KITTE診療所で毎週月曜日に外来を行い、また遠隔診療ソフトを開発し、旭川医科大学の客員助教としての仕事も始まった。澁谷先生には毎週木曜日午後来院し、困難症例のアドバイスや定期の外来、手術への参加などお願いしている。佐藤精一は2018年１月、日本形成外科学会認定医を更新し、新専門医制度において指導医の仮資格を得た。大分県の形成外科専門医の教育は、別府医療センターを基幹病院として、大分大学形成外科、当院が協力機関として行っているが、2018年度には基幹病院としての準備予定である。 専門医・認定医 　日本形成外科学会専門医（古川、佐藤、松本、澁谷）、認定施設 　日本皮膚科学会専門医（澁谷） 　日本創傷外科学会専門医（古川）、認定施設 　日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医（古川）、認定施設 　日本頭蓋顎顔面外科学会専門医（古川）、認定施設 学会活動、研究：2017年10月に日本下肢救済・足病学会九州地方会を当院が主催したが、院長の立川が会長、古川が事務局長を務めた。400名近い学会参加者と200名の市民公開講座参加者があり、盛会であった。この領域についての当院の取り組みは高い評価を得ており、2018年２月に行われた第16回日本フットケア学会総会においては、会長特別企画３「地域で取り組む足病治療－多職種によるチーム医療と地域連携で医療経営の効率化を図る－」として共催プログラムを組み、２時間30分のセッションを丸ごと任された。また下肢救済のチーム医療ワークショップも継続しており、全国から当院を研修に訪れている。
実　績	NCD提出分資料（2017.1.1～12.31）より　新患数　895名 疾患別手術数　外傷：139（入院分）、先天異常　149、腫瘍　318、瘢痕　21、 　　難治性潰瘍　267、炎症・変性疾患　95、その他　4 ASK治験　カネカ 臨床研究：透析患者の下肢血管病重症化予防をめざす地域包括救肢ネットワーク構築事業 　　OPTIMA委託臨床 厚労科研：足病治療のためのリハビリテーションの後ろ向き研究、 　　足病治療のためのリハビリテーションの前向き研究
考　察	臨床では、当科の患者数は増加している。学会活動においても積極的に演題発表を行い、論文も作成し、日本形成外科学会認定施設として十分な機能を果たした。 また臨床研究を立ち上げ、治験にも参加できるようになった。これまでの臨床面や学会発表が実ってきている。今後も真摯に取り組みたい。
今後の展望	顔面、下肢では九州で屈指の施設として認知されるようになってきており、患者は県境を越えて来院している。マイクロサージャリー、手の外科に関してもドクターヘリでの受け入れも始まり患者数が増加してきた。松本健吾の事業展開により、糖尿病、透析患者の足病変重症化予防の取り組み、遠隔診療による大分県下の透析施設との病診連携、病病連携の構築、ネットワーク化も推進予定である。またパラレルキャリアの育成に関して、フットケアの学校を開設し、創傷ケア4.0として地域連携にもヒトを出せるように準備をしたい。

文責：古川　雅英

6）心臓血管外科

所属医師	迫　　秀則（副院長・心臓血管外科部長・臨床研修センター長） 森田　雅人（心臓血管外科部長） 高山　哲志（心臓血管外科医員） 阿部　貴文（心臓血管外科医員）
特徴等 特筆すべき 事　柄	成人心臓血管外科全般に対する手術を行っています。 冠動脈バイパス手術は全て心拍動下に行っており、成績は極めて良好です。心臓弁膜症に対しては、右肋間小開胸による低侵襲心臓手術を積極的に行っています。単独大動脈弁置換は、右肋間小開胸を第一選択とし、患者さんに喜ばれています。僧帽弁手術は完全内視鏡下手術を第一選択として行っており、他施設からの見学も来るようになりました。心房細動に対する内視鏡下肺静脈隔離手術及び内視鏡下左心耳切除術も少しずつ症例数が増えてきています。循環器内科の医師が南海医療センターからの紹介患者さんを増やしてくれたお陰で、本年度は心臓外科の手術症例が20例程増加しました。
実　績	外来延べ患者数　　2,430名 新入院患者数　　324名 手術件数（手術室使用）　349件
考　察	2017年の心臓手術症例は昨年と比べて大幅に増加し、151例となりました。右肋間小切開による低侵襲手術（大動脈弁置換）、完全内視鏡下心臓手術（僧帽弁手術）の成績が安定してきました。
今後の展望	冠動脈バイパス手術の成績は安定していますが、さらに高品質にしてアピールしていきます。 内視鏡手術、低侵襲手術のパス作成がまだできていないので、今年は作成したいと思います。 低侵襲手術をもっとアピールするために、複合弁手術も右肋間小切開で行うことを積極的に行い、学会発表も多く行います。 大動脈手術に関しては、open stentの成績が安定してきたので、さらに症例数を増やします。 全国学会の発表、論文発表をさらに増やします。

文責：迫　　秀則

7）サイバーナイフがん治療センター

所属医師	香泉　和寿
特徴等 特筆すべき 事　柄	県内唯一のサイバーナイフ治療施設で、2014年より本格的に肝・肺に対する定位照射を開始して約４年が経過した。徐々に治療効果が認知されつつある状況で、癌拠点病院を中心に紹介患者が増加傾向にある。 また2016年11月には最新機種であるサイバーナイフＭ６に更新されており、更なる症例増加や高度な治療が期待されている。
実　績	新入院患者数……160名 外来患者数……590名 サイバーナイフ治療件数……160件 （2016年度 132件　2015年度 141件　2014年度 109件　2013年度 91件）
考　察	現状分析及び外部環境の変化への対応 １　現状について 今年度（2017年度）は最新のサイバーナイフＭ６を導入後、年度を通じて同機器で照射した最初の年度となる（2016年11月導入）。照射件数としてはセンター開設以来、最も多い年間件数160件となった。上記の実績の通りで、順調な件数増加が実現できている。 症例の増加に最も寄与していると思われるのが2014年から新たに取り組んでいる呼吸同期下での追尾照射（肝・肺の照射）である。特に肝臓は呼吸性移動が大きな臓器であり、肝臓癌に対する照射範囲をできるだけ絞るためには呼吸追尾下での照射が最も確実性が高いと考えており、周辺の施設にもそのメリットが評価された結果として件数増加につながっているものと考えている。やはり既存の疾患を対象とするだけでは他施設との競合が発生することになるため、適応拡大が可能であれば積極的に取り組むことが競合のない件数増加への１つの方法ではないかと考える。 前年度に引き続き、近隣の癌拠点病院との連携を丁寧に行っており、当院でも可能な限りfollow upを行っている。結果的に患者の定着や紹介元との良好な連携がとれてきたことが安定的な患者増加に繋がっているものと考える。 当然のことだが紹介患者の増加に伴い、医師を始めサイバーナイフスタッフの労務量が増加している。ただサイバーナイフ看護師は次年度から３病棟と統合される形となってしまっており、事実上の人員削減になってしまっている（１～３月が移行期間だった）。実務能力の高い看護師の充足がなかなか得られない状況である。今後もこのペースでの業務拡大は医療の質の低下を招く可能性があるため、まずはハイリスク患者やADLの低い患者の受け入れから制限をして当面はしのぐしかないと考えている。専門性の高い看護師の配属が急務と考える。来年度からの件数は本年度と同程度あるいはやや減少するかもしれないが当面はやむを得ない。 ２　外部環境の変化について 近年高精度放射線治療の需要は増加傾向にあり、サイバーナイフ以外にも高精度放射線治療が可能な装置が近隣の様々な施設に導入されてきているが、当院の症例のほとんどが院外からの紹介で成り立っている現状は今年度も変わりない。今後、他施設に高精度放射線治療機器の導入や機器更新がさらに進んできた場合には当院への紹介が著しく減少してくる可能性があり、今のうちに院内紹介率を上げるべく当院での癌治療体制を整備する必要がある。ここ最近で特に件数が増加している肝臓癌の定位放射線治療だが、他施設の機器更新がなされた場合には確実に件数が減少すると思われる（各施設で照射できるようになるため）。サイバーナイフセンターだけの問題ではないので病院全体の取り組みとして今後考えていただくしかない。 今のところは『県内唯一のサイバーナイフ施設』という優位性・特殊性を最大限に活用して患者受け入れを行っている状態だが、上記のようなリスクをはらんでいることは注視しておく必要があると考える。
今後の展望	今後も『県内唯一のサイバーナイフ施設』という優位性・特殊性を最大限に活用した診療を継続していく予定ではある。ただ、上記の理由からこれ以上の件数増加は難しいと考えており、来年度の照射件数としては現状維持あるいはやや減少で落ち着くものと考えている。またハイリスク患者の制限によるベッド回転率と看護必要度低下の可能性はあるが当面はやむを得ないものと考えている。 今後、新たな照射適応拡大としては前立腺癌への定位放射線治療があげられる。既に保険収載されているのだが、施行開始に関してはIMRTが可能な施設（当院は施設基準を満たしていない）に限るとの学会要請があることや、現状では泌尿器科医が力を入れているロボット手術（da Vinci）と競合しているので常勤泌尿器科医がいない状況では件数増加が難しいことがある。今後時勢を見ながら開始時期を検討したい。

文責：香泉　和寿

8）放射線科

所属医師	首藤利英子（放射線科部長）
特徴等 特筆すべき 事　柄	放射線科は画像診断という診療科としての業務のほか、画像診断装置を利用した局所治療（IVR）など、病院の放射線部門としての業務を担当しています。さらに地域医療の先生方からの紹介に対しても放射線科専門医師による画像診断、報告書作成を迅速に行っています。 専門医・認定医 日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本核医学会専門医・指導医 日本脈管学会認定脈管専門医 腹部大動脈ステントグラフト指導医（３機種分） 胸部大動脈ステントグラフト指導医（２機種分） 日本核医学PET核医学認定医 日本IVR学会専門医 PET核医学認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
実　績	放射線科専門医による読影、治療件数（2017年度） CT：8,052件 MRI：1,721件 核医学検査：29件 局所治療：51件
考　察	当科の診断医（常勤）は一人で3.5日/週の勤務ではあるが、大分大学からの支援のもと、例年同様、放射線科専門医による迅速な画像診断が可能となっている。また、心臓血管外科医と協力し施行している大動脈ステントグラフト内挿術も、ほぼ同程度の症例数を行い、ステントグラフト実施施設の認定を維持できている。
今後の展望	当院は地域医療支援病院の指定を受けているため、連携施設からの画像診断を推進し、地域への貢献を行っていく予定です。また、当院の消化器病センター立ち上げに伴い、CT/MRI件数やIVR治療の適応患者が増加する可能性がありますので、より良い医療を患者さんに提供していきたいと考えています。

文責：首藤利英子

9）麻酔科

所属医師	帆足　修一（麻酔科部長）
特徴等 特筆すべき 事　柄	当院は心臓血管外科手術・創傷治療を行っており末梢血管疾患患者・透析患者などハイリスク症例が比較的多い。また救急病院の麻酔科として緊急手術への迅速な対応を心掛けている。
実　績	総手術件数1,977件のうち麻酔科管理症例1,509件 （全身麻酔951件　脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔428件）
考　察	大分大学麻酔科からの心臓外科麻酔の支援はあるが、現在常勤麻酔科医１名で麻酔臨床を行っており以前から人員増を計画しているが現状ではなかなか困難である。 また日々の臨床でのインシデントアクシデントの防止のために業務改善にも取り組んでいきたい。最近カフタイプの筋弛緩モニターを１台購入して頂いて筋弛緩回復を確認する症例を増やし安全性の向上を図っている。
今後の展望	１．麻酔科医の増員（まず１名） ２．麻酔科診療技術の向上（エコーガイド下神経ブロック・伝達麻酔など） ３．麻酔診療での医療安全に関する知識ガイドラインの整備 ４．数年後麻酔器モニター更新を予定しており麻酔記録サマリーの電子化にも取り組みたい。

文責：帆足　修一

10）口腔顎顔面外科・矯正歯科

所属医師	柳澤　繁孝（名誉院長） 松本　有史（口腔外科部長） 小椋　幹記（矯正歯科部長） 大田　奈央（口腔外科医員） 中島　康経（口腔外科医員） 古川　雅英（副院長・形成外科部長・創傷ケアセンター長） 佐藤　精一（形成外科医長） 松本　健吾（形成外科非常勤医師）
特徴等 特筆すべき 事　柄	顔を対象に高い水準の医療提供を目的に口腔外科医、矯正歯科医、形成外科医がチェアサイドでのチーム医療に努力している。 対象は頭蓋顔面の発育異常、口唇口蓋裂、顎顔面外傷・炎症、腫瘍と口腔粘膜疾患、顎関節症、顔面痛、睡眠障害治療装置の作製など多様な疾患に対応している。また、病院歯科として、入院患者の応急的な歯科治療、周術期口腔機能管理、摂食嚥下等でもその役割を果たしてきた。昨年度から評価されるようになった栄養サポートチーム加算の歯科医師連携でも役割を果たしている。顎変形症では、大分県内外の矯正歯科医と連携して、紹介患者医療圏は宮崎、福岡に及んでいる。口唇・口蓋裂では出生前の両親へのサポートと出生直後から哺乳装置による栄養管理は他が追随できないシステムを確立している。
実　績	1．外来患者数は、初診1,571名、再診8,061名、新入院患者数210名、入院患者延べ数1,106名であった。全身麻酔手術は220例（前年度176例）で、疾患別内訳は顎変形症147、口唇・口蓋裂31、抜歯16、顎顔面外傷８、口腔悪性腫瘍５、口腔腫瘍関連３、他10であった。 2．周術期口腔機能管理実施患者数は196（前年度184）、その内訳は心臓・血管手術159、消化器外科手術35、消化器内科１、腫瘍内科１であった。 3．学会活動他：原著論文１、学会・研究会等発表15、手術指導３、専門学校での講義１、海外での医療支援活動１
考　察	松本有史部長が復帰し、体制を引き続き整備している。診療収益増加と経費削減が大きな課題である。歯科医師の交替があり、運営への配慮が必要であった。学会活動にもさらに取り組むことができる環境になってきている。
今後の展望	主要な疾患の診療圏拡大を連携医の協力でさらに進めたい。また、インプラント治療の再開、スポーツ歯科、口腔乾燥症、摂食嚥下障害などを加えて顔面領域の形態と機能の維持･向上に努め、社会の要請に応えたい。医療スタッフおよび知識と技術を継承する後継者の養成が重要な課題と考える。

文責：小椋　幹記

11　大分岡病院　部署別活動報告

1）看護部

構成員数	看護師228名　准看護師22名　介護福祉士16名　看護助手23名　事務５名 合計294名（休職者含む）（平成29年４月現在）
2017年度 理念、目標	理念 １．各自が責任を持って適切な看護ケアを行います。 ２．愛情をもって患者さんに接し、あたたかい医療を目指します。 ３．専門職として自己研鑽に努め、看護の質の向上をはかります。 目標 １．受け持ち患者に対し、責任をもち退院支援に向けてのコーディネートをします。 ２．やさしく思いやりのある態度で看護を実践します。 ３．チャレンジ精神を発揮し、自立した看護を目指します。 管理目標 １．安全で質の高い看護の提供 ①退院支援の充実 ②人材確保 ③人材育成 ④認知症患者看護の強化 ２．職場環境改善 ①労働生産性の向上 ３．病院機能評価更新
業務（活動） 内容、特徴等	４月に22名の新人看護師を迎え、各部署に複数名配置することができ入院基本料７：１の時間数確保はできた。 認知症ワーキンググループを昨年立ち上げ、計画の作成やカンファレンスの実施を行い、今年度は加算を取得することができた。 ７月に起こった九州北部豪雨の際には、日田市の避難所に災害支援ナースを派遣し避難所での感染拡大防止等に努めた。 看護管理室所属の看護助手を採用し、部署横断的に退院後のベッドメイキングを実施するチームをつくり、病棟の看護助手が看護補助業務を拡大できるように整えた。また、このチームはパート職員を中心に障がい者雇用も含め、ダイバーシティの活動にも取り組んだ。
実　績	実習受け入れ状況 明豊高校専攻科２年生　11名　統合実習　実習期間　５/15～６/23 藤華医療技術専門学校３年生　34名　成人看護学　実習期間５/９～10/６ 大分県立看護科学大学４年生　３名　統合実習　実習期間６/19～７/７ 大分県立看護科学大学１年生　６名　初期体験実習　実習期間７/10～７/14 大分県立看護科学大学大学院老年NPコース１年生　１名　実習期間７/25～７/28 大分県立看護科学大学大学院老年NPコース２年生　１名　実習期間８/21～12/15 藤華医療技術専門学校３年生　８名　統合実習　実習期間10/16～11/２ 明豊高校専攻科１年生　32名　成人看護学・老年看護学　実習期間11/13～２/２ 藤華医療技術専門学校２年生　５名　基礎看護学Ⅱ　実習期間11/30～12/19 藤華医療技術専門学校１年生　５名　基礎看護学Ⅰ　実習期間１/16～１/24 藤華医療技術専門学校２年生　４名　老年看護学　実習期間２/５～２/23 資格取得 伊藤真由美（４病棟主任）・森三千乃（OP室主任）：認定看護管理者ファーストレベル 山本麻由美（外来師長）・高橋愛子（透析室師長）：認定看護管理者セカンドレベル 佐藤佑佳（ICU主任）・多田美和（４病棟主任）・原田千里（３病棟）： 保健師助産師看護師実習指導者講習会

目標の評価	退院支援に関しては、退院支援看護師、多職種との協働により平均在院日数を１日短縮することができた。退院前カンファレンスや、自宅訪問等は実施できているが、退院後訪問ができていないため、今後の課題とする。 毎年、20名以上の新人看護師の確保はできているが、１年目の退職や、昨年受け入れた中国人看護師１名の退職があったため、受け入れ後の体制について検討していきたい。 認知症看護に関しては、マニュアル作成、患者抽出、計画の作成とワーキンググループを中心に活動が軌道に乗ってきた。10月より、認知症ケア加算２の取得ができたので、今後、更に強化していく。 職場環境では、在院日数の短縮、新規入院の増加により、時間外勤務が増加傾向にある。部署によっても差があるため、それぞれの部署での対応を検討する。 病院機能評価を３月に受審し、看護部は大きな指摘事項はなかったが、項目ごとに見直しをし、看護の質の向上に努めていきたい。
今後の展望	来年度特定行為研修施設に申請予定である。特定行為ができる看護師の育成をし、看護の質の向上に努めていく。いずれは外部からの受講生受け入れも行い、地域へ広めていきたい。 看護補助者の夜勤導入を実施し、患者の安全確保を強化するとともに、看護師の業務負担の軽減、労働生産性の向上に繋げ、職場環境を整え、加算取得を目指す。

文責：吉住　房美

2）医療福祉支援部

構成員数	地域連携室：前方連携（事務３名、社会福祉士１名、介護福祉士１名） 入院支援（看護師４名　内パート２名） 退院支援・後方連携（看護師１名、社会福祉士５名） リンパ浮腫治療室：看護師１名　　戦略広報室：１名　　映像メディア室：１名
2017年度 理念、目標	【部署目標】 １、財務の視点：病院経営に貢献する ・紹介患者の増加　　・退院支援についての加算取得増加 ２、顧客の視点 ・営業活動を強化し、院内の情報発信、啓発活動を行う ・連携医療機関の意見を情報収集、満足度評価を行い、改善活動に繋げる ・一般市民に対し、健康寿命を延ばすための活動を行う ・スタッフのワークライフバランスの調整を行う ・満足していただけるような院内・院外連携に努める ３、業務プロセスの視点 ・標準化された医療の提供に努める　　・働き方改革に努める ・委員会、チームの活動の推進　　・部内の業務を効率よく、標準化を図る ４、学習・教育・研究の視点 ・スタッフ間の情報公開と共有　　・優れた医療人の育成
業務（活動） 内容、特徴等	１に対して ・計画的な営業・実績報告を行い、紹介患者を増加させる ・計画的に患者・家族の要望に沿った支援を行う ２に対して ・積極的な営業（医師同行）活動、医師との面会回数を増やし、実績報告をおこなう ・連携医療機関へアンケート調査を行い、満足度評価を行う ・一般市民に対して、健康寿命を延ばすための情報発信を行う ３に対して ・業務マニュアル、課業一覧等の見直し ・患者用クリニカルパスの作成、地域連携パスの新たな構築 ４に対して ・研修会等積極的に参加、発表により個々の成長目標を計画的に進める

実　績	【前方連携】 ・１月より介護福祉士１名増員 紹介件数：9,135　紹介率：91.6％　逆紹介件数：7,770　逆紹介率：97.4％ 営業件数：1,761（内医師同行件数：93） 連携登録医療機関：254件（医科198、歯科56）　地域医療連携協議会：２回 地域連携研修等：16回　公民館等の健康講座活動：９回 【入院支援】 ・８月より看護師（パート）１名増員 入院支援介入患者数：1,864名 （循環器内科680、心臓血管外科155、消化器外科269、消化器内科101、放射線科90、形成外科172、口腔顎顔面外科185、整形外科210、脳神経外科１、腫瘍内科１） 【退院支援・後方連携】 ・11月より法人内訪問看護ステーションから２時間ほど常駐し、カンファレンスに参加、退院支援の強化体制をとる ・１月より退院支援専従看護師１名増員 退院支援加算：月平均12件　地域連携診療計画加算：月平均3.5件 介護支援連携加算：月平均3.5件 【リンパ浮腫治療室】 ・８月より看護部より医療福祉支援部へ異動　　治療患者数：276件 【戦略広報室】 広報誌Link４回/年発行：６号（春）、７号（夏）、９号（秋）、10号（冬） 敬和会広報誌　敬和の環　毎月発行 市民公開講座２回/年　・世界ハートの日（９/24）　・ハートアタック心臓病教室（１/27） ・小学生対象　夏休み病院探検ツアー（７/22） ・中学生対象　ドクターXプロジェクト春休み病院探検ツアー（３/31） 【映像メディア室】 作成物：523件 （学会支援：38、配布物/掲示物：124、冊子/パンフレット：21、横断幕/垂れ幕：32、職員用サイネージ：54、患者用サイネージ：26、その他：228）
目標の評価	１に対して：計画的な営業、診療機能の情報提供等で紹介患者数も大きく増加した。退院支援に関する介入件数も増え加算に繋がっている。 ２に対して：入院支援、退院支援共に患者、家族の要望を伺い随時情報を提供しながら患者に寄り添った支援が構築されている。 連携医療機関への満足度調査では、回収率が34％程と低い値であったが、総合満足度は前年度より向上した。82.4％（2016年）→91.8％（2017年） 前年度同様、公民館等で一般市民に対する健康講座を開催し、当院の機能を情報提供し、健康寿命を延ばす対策としての関わりができた。 ３に対して：医療版のクリニカルパス完成後に患者用のパスを当部署で作成。外来にて入院予約時に患者へパスを渡し、入院支援介入時に説明できる体制を構築した。 ４に対して：研修会等積極的に参加や発表を行い個々の成長目標を計画的に勧める。 全国学術集会発表：１演題　　地方学術集会発表：４演題 研究会等での発表：２演題　　大分県病院学会発表：１演題
今後の展望	【前方連携】マーケティング範囲を広め、新規の紹介施設を増やす 【入院支援】2018年からの（新）入院時支援加算取得に向けて介入内容を充実させる。患者のプライバシーを確保した介入時の環境整備 【退院支援・後方連携】 病棟の退院支援看護師との情報共有を密にし、協働での退院支援体制を強化する 【リンパ浮腫治療室】治療内容の情報提供、広報活動を行い新規顧客を増やす 【戦略広報室】法人内の情報共有、院外へ積極的に情報発信を行う 【映像メディア室】学会支援、論文支援に重きをおいた体制整備

文責：岡田八重子

3）薬剤部

構成員数	薬剤師８人、調剤助手３名
2017年度 理念、目標	【理念】患者に寄り添い、薬剤師として「今できること」を行う 【目標】①患者一人ひとりに最適な薬物療法をマネージングする ②医薬品の安全供給と適正管理 ③労働生産性の向上（職場環境の整備） ④薬剤師業務の見える化（臨床研究、発表）
業務（活動） 内容、特徴等	【調剤業務】医師の処方に基づき、入院患者に投薬される薬の調剤 【病棟業務】ICUを含む全病棟に専任薬剤師を配置し、医薬品の適正使用推進 【医薬品管理業務】医薬品の適切な管理と安定供給、後発医薬品の導入 【学術・研究活動】一人ひとりが課題を持ち、データを集約し公表する
実　績	2017年４月～３月までの実績 【病棟薬剤業務実施加算１】　13,879件 【病棟薬剤業務実施加算２】　1,265件 【薬剤管理指導料１】　6,426件 【薬剤管理指導料２】　3,444件 【麻薬管理指導加算】　190件 【退院時薬剤情報管理指導料】　1,115件 【無菌製剤処理料１】　306件 【無菌製剤処理料２】　966件 【実習生受入】九州保健福祉大学薬学部　５年生　１名 【学会発表】国内学会５演題
目標の評価	入院患者に対する薬剤管理指導実施率は84.8％（2017年度平均）であり、多くの患者に対して薬剤師が関与し、医薬品の適正使用に貢献できたと考える。また、後発医薬品を積極的に導入し、薬剤費の削減にも貢献できた。学術・研究活動に関しても取り組み内容をまとめ、学会にて発表することができた。 残業時間は50.3時間（前年度）の削減を達成したが、有給休暇の取得率は37.8％（全体取得日数/全体付与日数）にとどまった。
今後の展望	・ポリファーマシー（多剤処方）に対する積極的な介入 ・「薬剤師業務の見える化」に向けた学術活動の活性化 ・業務の効率化（病棟担当薬剤師の増員、外来・手術室への薬剤師配置） ・ワークライフバランスの充実（残業の削減、有給休暇の取得） ・人材育成（教育カリキュラムの作成）

文責：井上　　真

4）臨床工学部

構成員数	臨床工学技士　14名
2017年度 理念、目標	1．医療機器を安全かつ高い信頼性を持って患者さんへ提供する 2．医療機器の適切な使用方法を提供し、修理件数を減少させる 3．優れた医療人の育成 4．迅速な対応、断らない対応を行う
業務（活動） 内容、特徴等	臨床の現場で生命維持管理装置を中心に、病院内にある様々な医療機器の操作・保守点検・管理を行う。 ・透析業務：透析ベッド数31床、透析監視装置33台 ・心臓カテーテル室：循環器カテ　虚血治療、不整脈治療（2017.4月～）月～金曜日 ・手術室・中央材料室：一般手術機器準備、人工心肺操作、滅菌業務、手術介助 ・高気圧酸素治療室：１種（単身用）２機　緊急対応可 ・植込み型デバイス業務：プログラマ操作、遠隔モニタリングシステムの管理 ・内視鏡業務（2016.10月～2017.３月） ・医療機器の管理（中央管理、保守点検の実施） ・各種勉強会開催
実　績	・透析回数：外来6,846回　入院3,191回　　総件数10,037回 ・紹介透析患者数：276症例 ・紹介内容：循環器科（112）　心臓血管外科（51）　形成外科（74）　整形外科（７） 消化器内科（９）消化器外科（16）　放射線科（２）　救急科（５） ・新規透析導入：６名 ・持続緩徐式血液濾過：19症例 ・高気圧酸素治療：救急 72回　非救急 576回　外来 103回 ・体外循環：定例91症例　緊急16症例 ・虚血検査件数：430件　虚血治療：474件　アブレーション治療：226件 ・PCPS：４症例 ・低体温療法：９症例 ・LDLA治験：３症例 ・中央貸出機器（シリンジポンプ、輸液ポンプ等）の電子カルテ管理
目標の評価	1）医療機器保守点検 ・医療機器の保守点検の実施 ・年間計画にそって輸液ポンプ、シリンジポンプ等の定期点検の実施 2）医療機器：職員に対する研修会 ・医療ガス取り扱い研修（１回）　輸液ポンプ・シリンジポンプ新人研修（１回） 人工呼吸器・酸素療法勉強会（７回）　透析療法について（１回）の実施 ・学会参加32回 ・学会発表５回 ・学会座長５回 ・部内発表会開催（演題数14） ・日本DMAT・大分DMAT参加２回 3）実習生受け入れ２校 ・大分文理大学医療専門学校 ・平松学園臨床工学技士専門学校 4）ME機器管理マスター運用開始 ・ME機器台帳の登録、年間計画の作成、点検表記録保存
今後の展望	循環・呼吸・代謝それぞれの分野の専門性を高め、当院独自の高度医療に貢献できる スペシャリストを目指し、日々知識と技術の習得に励む

文責：御手洗法江

5）検査課

構成員数	19名（パート１名・育児短時間勤務２名・嘱託１名・育児休業中１名　含）
2017年度 理念、目標	＜検査部理念＞ １．チーム医療の一員として、専門分野の責任を全うし、常に医療の質の向上に努めます。 ２．患者さん個人の権利を尊重し、地域社会の中で思いやりと信頼ある医療の提供を目指します。 ＜検査部目標＞ １．創意工夫・探究・挑戦し、信頼される検査技師を目指す。 ２．安全第一をモットーに患者さんが安心して最善の医療が受けられる環境を作る。 ３．自己経営できる検査技師を目指す。 ４．日々の検査・行動において予測能力を発揮する。
業務（活動） 内容、特徴等	１．時間内業務…①外来採血・咽頭検体採取　②検体検査（輸血含）　③病理・細胞診検査　④細菌検査　⑤生理・超音波（心臓・血管）検査　⑥心電図モニタリング：負荷心筋シンチ（放射線科）・心臓カテーテル（放射線科）・心肺運動負荷試験（リハビリテーション科）　⑦患者指導…糖尿病教室・心臓病予防教室　等 ２．時間外日当直業務…①外来採血・咽頭検体採取　②検体検査（輸血含）　③生理検査（心電図・ABI・肺機能検査・ホルター装着・アプノモニター装着等）　④病理・細胞診検査の検体処理　⑤細菌検査（検体処理、血液培養のグラム染色） ３．時間外待機業務…主に心臓カテーテル検査 ＊現在、時間外の業務に日当直者１名、待機者１名を配置。 二次救急病院の検査室として、24時間体制で依頼に対応している。
実　績	１．依頼数：検体検査48,051件・病理細胞診検査1,129件・細菌検査9,436件・生理検査20,734件（オープン検査123件含）・輸血（FFP・PLT含）1,004件 ２．実習生受入：３年生　５名・２年生（３日間のみ）２名 ３．資格取得：緊急臨床検査士　１名・二級臨床検査士（臨床化学）１名 ４．学会発表：３題　技師会講師：２回 ５．外来SMBG機種交換開始（2017.４月～） ６．HIV迅速検査結果カルテ入力開始（2017.８月～） ７．自己血貯血業務参加（2017.９月～） ８．テイコプラニン測定開始（2018.２月～）
目標の評価	今年度は、４月のアブレーションの開始と同時に携帯型心電計貸出・１週間心電図等の新規検査開始、及び、12誘導心電図・24時間心電図・心エコー（経胸壁・経食道）等の検査依頼数の急激な増加と、めまぐるしい１年であった。その中で、医療安全委員会からの依頼によるHIV迅速検査結果のカルテ入力開始、感染委員会からの依頼による新たな抗菌薬の院内測定開始、新たな挑戦として自己血貯血業務への参加等で、チーム医療に貢献できたことは、評価に値すると考える。
今後の展望	AIの導入は目前で、特に検査の分野では、個々の機械にAIが搭載されるのは時間の問題だと考える。AIが出来ない事、難しい事（マネジメント・クリエイティブ・ホスピタリティ）を念頭に、色々な事にトライしていく必要がある。

文責：伊東　佳子

6）放射線課

構成員数	診療放射線技師：15名 事務員：３名
2017年度 理念、目標	①患者さんやスタッフに思いやりの気持ちをもって接する。 ②地域支援病院としての役割を果たす。 ③コスト意識の向上や病院経営に貢献する。 ④目的意識をもち、スキルアップに努める。 ⑤敬和会グループとしての役割を果たす。
業務（活動） 内容、特徴等	一般撮影・CT・透視・超音波・MRI・RI・放射線治療（サイバーナイフ）・血管ANGIOで業務マニュアルを順守し、撮影、診断、治療補助を実施。各種装置の保守管理や、放射線従事者の被ばく管理、放射線管理区域の環境管理を行う。敬和会グループすばるの放射線管理区域の環境測定を行い、佐伯保養院の撮影業務を行う。地域支援病院としての役割を果たすため営業活動を行う。
実　績	年間検査件数 一般撮影：23,830件　CT：8,581件　MRI：1,975件　超音波：870件 RI：199件　透視：393件　放射線治療：163件 現在、診療ネットワーク契約施設数15施設 すばる撮影件数：50件　佐伯保養院撮影件数：200件
目標の評価	個々のスキルアップに努めるために、一部ローテーションを行いスタッフの使用できる機器を増やした。技術向上のため、先輩技師が積極的に指導に当たるようにした。 地域支援病院として、営業活動を行いオープン検査数の向上に努めた。 在宅支援すばる月２回、佐伯保養院月１回撮影を行った。
今後の展望	今後、個々に重点を置き技術や質の向上に努めたい。 地域支援病院としての役割を果たし、多くの連携機関に情報を提供していきたい。 脳神経外科血管造影の確立。OP室のＣアーム操作技術習得とローテーションを目指す。在宅支援すばるの撮影機器をCRに変えてデジタル化を目指し画像は岡病院サーバーに保存する。電子カルテから両施設の画像の閲覧を可能にする。 佐伯保養院に岡病院のCRを移設しデジタル化を目指す。 サイバーナイフ関連では、MLCを使用した治療の適用疾患の範囲を広げる事を目指す。また法改正に伴い、簡易的で柔軟性を持たせた放射線障害予防規程の見直しを行う予定である。

文責：小川　　淳

7）総合リハビリテーション課

構成員数	理学療法士29名、作業療法士11名、言語聴覚士５名 クラーク事務１名
2017年度 理念、目標	理念：地域包括ケアに寄与できる、信頼あるリハビリテーション医療を提供します。 目標：１）早期介入により、在院日数短縮・自宅復帰を支援していきます。 ２）診療体制に沿って高い専門性を追求し、実践・研究・教育について研鑽していきます。 ３）法人内でヘルスケアリンクを構築し、切れ目のないリハビリテーションを支援していきます。
業務（活動） 内容、特徴等	今年度は疾患別リハビリテーション体制の強化にむけて、ICU専任理学療法士の配置、透析室専任リハスタッフ介入を開始し多職種協働の取り組みを行いました。また、基本業務の適正化を図るため年２回（上期・下期）の自己他者評価及び面談を実施しています。さらに、一貫したOJT教育と人材育成委員会による年24回の勉強会・ワークショップを行い個々の知識・技術・モチベーションの向上に努めました。また365日リハビリテーションサービスの提供及び重症度の高い患者に対しても少数頻回なリハ提供も定着してきました。
実　績	≪稼働率≫平均取得単位数/年　17.3単位 ≪処方率≫リハビリ処方率70.6％ ≪疾患別年間単位取得数≫ 脳血管疾患（Ⅰ）5,969単位、廃用症候群（Ⅰ）29,383単位、 運動器疾患（Ⅰ）57,551単位、心大血管疾患（Ⅰ）48,467単位、 呼吸器疾患（Ⅰ）11,794単位、摂食機能療法8,166件　口腔筋機能療法243回 がんリハ6,233単位（リハ課システムデータより） ≪総取得単位≫ 2017年度14,631単位/月（前年度比４％増加）
目標の評価	リハビリ開始は起算日（発症日や手術日のことを示す）から運動器1.8日、心大血管2.1日、呼吸器3.1日、がん5.5日と早期に介入が行えています。高い専門性を追求し実践している意識が年間39演題発表（前年度より10演題増加）に表れていると認識しています。法人内ヘルスケアリンクの構築にむけてリハビリ部の症例発表会や合同勉強会を開催し交流を深めています。
今後の展望	地域包括ケアシステムの構築にむけた医療と介護の連携強化は大きな課題であり、患者の入退院を支援するリハビリテーション業務の分掌化「連携セラピスト」の配置を開始します。リハビリ処方のあるなしに関わらずリハ的視点で入院初期の生活マネージメントを行い、転倒しない安心安全な病室・病棟環境の整備を行います。また退院にむけて生活評価や家屋訪問を行い、各病棟の退院支援看護師と社会福祉士との３者カンファレンスで協議しながら適時適切な回復期・生活期へのサービス移行を支援し在院日数の短縮や在宅復帰率に貢献できるよう全力で取り組んでいきたいと思います。

文責：大塚未来子

8）栄養課

構成員数	病院栄養士：７名（８月～１名産休） AIMサービスジャパン：22名（管理栄養士：５名・栄養士：２名・調理師：２名・調理員：13名）
2017年度 理念、目標	≪理念≫ 患者さんを中心に、チーム医療に関わる、全ての英知を結集し、最良の医療サービスを提供します。 １．チーム医療の一員として、専門分野の責任を全うし、常に医療の質の向上に努めます。 ２．患者さん個人の権利を尊重し、地域社会の中で、思いやりと信頼ある医療の提供を目指します。 ≪2017年度目標≫ １．チーム医療の中で専門職としての見識や技能を有することで栄養療法の標準化に取り組みアウトカムを数値化する。 ２．治療に直結するよう安心･安全で美味しい食事を提供し、治療効果の上がる栄養指導を行っていく。
業務（活動） 内容、特徴等	各病棟に管理栄養士１名配置し入院早期から患者の栄養管理を実施するため、患者の身体所見等の確認を直接行っている。その後栄養管理計画書を作成し、NST介入患者の抽出や必要に応じて栄養食事指導・栄養相談を個別で随時行っている。また集団栄養食事指導では心臓病予防教室・糖尿病予防教室を各週で開催、リハビリと協働し、家事訓練を毎月第４土曜に開催した。NSTチームはもちろんのこと、各病棟の診療科に特化したチームの一員として活動を行い、その取り組みや効果など学会発表を行った。施設や病院への退院時においては当院での食種・嚥下分類・栄養管理方法などを記載し、退院後も持続的に栄養管理が行いやすいよう栄養サマリーを作成した。給食管理においては、AIMサービスを中心に衛生面やアレルギーへの配慮を欠かさず、また患者さんが楽しんで美味しく摂取できるよう献立の見直しや年間計画に基づき、行事食の提供を行った。
実　績	【食数】患者食経口：169,851食　患者食経管：14,558食 特別食加算率：53.1％ 職員食：33,073食　病児・保育所：6,146食 【栄養食事指導件数】 入院時栄養食事指導（初回）：1,599件 （２回目以降）：458件 外来栄養食事指導（初回）：34件 在宅訪問栄養指導（居宅）：19件 【栄養サマリー作成件数】373件（NST介入患者以外） 【講師】８/29　第13回心不全地域連携勉強会『心不全患者に対する栄養指導』 10/17　大分エル・エヌ・ジー（株）健康講話『生活習慣病予防を中心とした食事のお話』 10/20　すばる塾『在宅高齢者の栄養管理』 11/22　NST勉強会『経腸栄養の基本的なお話～栄養剤の特徴を含めて～』 12/12　地域連携協議会『高齢者の栄養』 【学会発表】 10/７　第７回日本下肢救済足病変九州沖縄地方会　スポンサードセミナーⅡ 『多職種による症例検討会』 11/19　第35回大分県病院学会『心臓血管外科患者への栄養評価の実施～MNA®を用いて～』 栄養部会座長（口演） １/14　第21回日本病態栄養学会学術集会『胃癌術後食の検討』 １/20　第26回大分NST研究会 『シームレスな栄養管理を目指すための取り組み～急性期から在宅まで』 ２/22　第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 『NST介入患者における口腔内の現状と歯科医師連携による効果』 【試験・資格取得】 11月　大分県糖尿病療養指導士　在永　美穂 【嗜好調査】年３回 【患者行事食・職員ヘルシーナビ】 患者行事食：15回（月１回以上） 職員ヘルシーナビ：６回/年（ストレスチェック４/25・肌年齢６/27・血管年齢９/19・脳年齢10/17・骨チェック11/14・肌年齢１/23）

実　績	【実習生受け入れ】 　　５名（九州栄養福祉大学・熊本県立大学・別府短期大学・溝部学園短期大学部） 【取材】７/14　ヘルスケアレストラン　栄養経営士２名 【立ち入り調査】 　　８/23　九州厚生局 　　12/20　大分市保健所
目標の評価	常駐している病棟及び、NSTについては一部行った栄養療法に対してのデータ蓄積を行い、学会発表へ繋げることができた。しかし、標準化や継続ができていないこともあり、今後も引き続き取り組みが必要。各病棟に管理栄養士を配属していることもあり、摂取状況や病態などから患者個人にあった食事の提供も早期介入により可能となっている。食事提供においては、“安心･安全”を掲げていたが、アレルギーに対するアクシデントが続いたことは残念であるが、実施できる対策をしっかりと立て、再度業務手順を見直す機会となった。
今後の展望	2018年４月より食事療養費の患者負担額が100円増加することにより、さらに食事に対する要望などは増えてくる可能性がある。治療の一環としての食事ではあるが、やはり楽しみや癒しであることを忘れてはならず、AIMサービスと協議し食事内容や提供の在り方を随時検討していきたい。各病棟への管理栄養士配属となったが、それがゴールではなく、疾病の増悪予防や、退院後の食生活改善及び維持に繋げていけるよう、入院中からの栄養管理を徹底して行う必要がある。各病棟に管理栄養士１名しかおらず、その栄養士の知識・技能により栄養管理方法が大きく変わってくる可能性もあり、その診療科に特化した知識の習得や治療に貢献できるよう育成が急務となる。栄養士自身がやりがいを感じ、モチベーションが上がるような仕組みを作っていきたい。

文責：長尾　智己

9）総務・人事部

構成員数	部長１名、次長１名、課長１名、課長補佐１名、主任２名、 臨床研修担当１名、総務・人事担当１名
2017年度 理念、目標	１．より良い医療を提供するための適切な人材の確保・定着 ２．ダイバーシティ＆インクルージョン ・多様性を受容し、様々な個性を持った人材を雇用し育成する ・ワークライフバランス実現のための職場環境改善 ・子育て支援の充実、働きやすい職場環境作り ・職員への情報提供（各種制度・研修の案内など） ・職場環境改善（ラウンド同行） ３．コスト削減 ４．学術研究センターの運営サポート ５．ワークライフバランスの実現に向けて業務改善を行い労働生産性の向上を図る ６．人材育成サポート及び部内スタッフの人材育成 ７．健康経営への参画
業務（活動） 内容、特徴等	１．人材確保を行うため、学校訪問、広報誌送付、院内病院説明会実施、院外病院説明会参加などリクルート活動を継続して行う ２．ダイバーシティセンターで年間計画を策定し活動する 外国人雇用・障がいのある人の雇用 年次有給休暇の取得促進 子育て支援制度周知、研修案内のメール案内 ラウンド時に各部署から挙げられた改善要望事項に迅速に対応する 働き方改革（柔軟な働き方、リモートワーク・パラレルキャリアの導入） ３．労働生産性を向上させ労働時間を削減する 部内スタッフの知識を平準化するために業務をローテーション化する ４．事業報告書作成・研修会の企画・敬和会学会のサポートなど学術研究統括センター運営の事務的サポートを行う ５．残業時間の短縮のためにデータ分析・集約など各部署へ情報発信を行う ６．教育研修委員会とコラボし、課業一覧の集約、資格取得支援規程の見直しを行う また同委員会とコラボしミドルマネジャー研修を企画し開催する 敬和会アカデミーの事務局として活動をサポートする フューチャープロジェクトとコラボし管理者研修の企画・実施 １人１テーマで学会発表を行う 部内ミーティングで勉強会の実施 ７．一次健診受診率100%維持、二次健診受診勧奨 職員保健推進室の事務局として活動する
実　績	１．必要人材のリクルートのための院外就職説明会参加及び院内就職説明会開催 ２．ダイバーシティセンター・ワーキンググループで年間計画を作成し活動実施 各部署に協力を依頼し就労可能な業務を集約、求職者とマッチングを行い障がい者雇用へつなげた、法定人数雇用をクリアし雇用調整金の減額もできている 年次有給休暇取得率の向上、改善要望事項の対応 リモートワークの推進 ３．業務知識の平準化を図るために部内業務のローテーション化の実施継続 ４．事業報告書作成、研修会の企画、敬和会学会の運営サポート ５．人事管理システムより超過勤務時間を集約し部署毎に分析、業務改善を行う 部署ごとの残業時間推移をグラフ化し見える化を行った ６．教育研修委員会とコラボし、課業一覧の集約、資格取得支援規程の見直しを行う 敬和会アカデミーの事務局として各部署と調整し、新人研修のプログラムの見直しを行った フューチャープロジェクトとコラボし管理職（BSC）・新入職員（ワールドカフェ）・フューチャーカフェなど研修会を実施 その他　日本医療マネジメント学会発表１名、九州山口医療マネジメント学会発表１名 ７．職員保健推進室の事務局としてのサポート、毎月１回ミーティングの開催

目標の評価	1．臨床研修医４名マッチング、新卒看護師23名、薬剤師１名など、必要人材の確保ができた 2．外国籍人材の雇用サポート（人事交流のための外国語講座支援） 障がいのある人の雇用のサポート、相談窓口 年次有給休暇取得率の向上（70%→71%） リモートワークの推進（事務管理職で実施） 3．業務のローテーションによって部内スタッフの業務知識の平準化につながった 4．事業報告書の作成、敬和会学会の運営サポート。教育研修委員会とコラボし、資格取得支援規程の見直しを行った 5．人事管理システムのデータを活用し各部署へ情報提供し、各部署への業務改善へつなげた 6．教育研修委員会・フューチャープロジェクトとコラボし各種研修を実施できた 学会発表も積極的に参加できた 敬和会アカデミーの事務局として新人研修の見直しを行った e-ラーニング用動画を作成（就業規則） 7．職員保健推進室の事務局として産業保健師と協力し活動のサポートを行った
今後の展望	必要人材の確保・定着・育成 個々の多様性を活かすダイバーシティ＆インクルージョンの取り組みの継続 労働生産性の向上（超過勤務時間の削減） 年次有給休暇取得の促進 敬和会アカデミーの事務局として教育体制を整備する 職員保健推進室をサポートし職員の健康保持増進を図る

文責：武石　智子

10）経理課

構成員数	スタッフ３名
2017年度 理念、目標	①予算の適正化と管理 ②コスト削減の提案と職員１人１人への意識付け ③月次処理のスピード化 ④医療法改正への対応
業務（活動） 内容、特徴等	大分岡病院の財務管理等
実　績	実績の見える化 見える化によりコスト削減、問題意識の共有 医療法改正による新会計対応及びガバナンス強化
目標の評価	予算の適正な執行と管理については精度があがり、コストの削減や職員１人１人への意識付けは、運営会議や関係者へ数字を共有することにより、職員の方へ周知、意識付けができた。 月次処理は、新規事業等突発的なことの対応、翌月の運営会議報告が可能となった。 医療法改正に伴う新会計対応は、監査法人の監査を前倒しで行い29年度決算において監査証明書をもらうことができた。
今後の展望	安定した経営基盤を築いていくとともに、地域社会へ貢献していくのが大目標であるが、深く財務分析及び予算・資金管理等を行い、経営者へ問題点を指摘できる体制を整えたい。 尚、30年度より始まる医療法改正による会計監査義務付けへの対応を今後の重点課題としたい。

文責：安部　徹也

11）医事課

構成員数	管理者：１名、入院事務：５名、外来事務：11名 コールセンター：４名
2017年度 理念、目標	患者さんを中心に、最良の医療サービスを提供する。 １）自己啓発に努め、習得した知識を病院運営に反映する ２）顧客満足度の向上を目指し、心のこもった対応を常に心がける。 ３）期日、時間の厳守と報告の徹底 ４）労働生産性の向上を目指すとともに、収益の確保及び経費節減につとめる。
業務（活動） 内容、特徴等	・外来患者の受付および会計、診療報酬業務 ・入院患者の請求業務及び診療報酬請求業務 ・病院全体の管理指標の作成および統計 ・コールセンター業務、歯科受付業務
実　績	2017年７月　日本医療マネジメント学会「施設基準管理システムの構築について」
目標の評価	業務改善が進み外来事務の労働生産性においては達成できてきています。入院患者においても、業務改善が進み、取り組みについて発表を行った。
今後の展望	医事課全体の業務の洗い出しや、経験年数の違いに関係なくだれもが同じ業務を行えるようマニュアルの見直しを行っていき、適正人員の把握を行い、労働生産性向上に努めます。また研究会等に出席し、他病院との情報交換を行っていきたい。又、統計分析能力を高め、経営に情報のフィードバックしていきたい。

文責：首藤　稔久

12）購買・物流課

構成員数	２名　課長１名、課長補佐１名
2017年度 理念、目標	①医療材料比率の低下 ②コスト削減（インク、トナーの発注数削減・一般消耗品） ③期限切れ商品の削減 ④SPDシステムを安定させ、スムーズな材料管理及び提供を行える体制を構築する ⑤ワークライフバランスの充実
業務（活動） 内容、特徴等	・2017年２月より外部委託型SPDシステムの導入を行い、６月より診療材料のサンプルを用い検討し、コスト削減に繋げるべく材料変更を行った。 ・８月９月には薬品卸業者と面会し、薬品納入価の見直しを行った。 ・インク、トナーの部署毎の発注リストを作成。 ・以前購入していた診療材料の期限切れ物品を減らすため、各部署へ期限切れ間近の物品リストを配布し、優先的に使用してもらうよう促した。 ・決算時の棚卸終了後、SPDカードの紛失状況を現場にフィードバックし、自部署のカード管理の徹底を依頼。 ・２名の部署だが、事前に連絡し積極的に年次有給休暇取得した。 ・看護部排尿リハケアチームの活動により「おむつ」メーカーを変更した。
実　績	・変更した材料数：24品目　削減金額：759,106円 ・「おむつ」メーカーの変更
目標の評価	・2017年４月より新しい手術手技が始まった事により材料比率は高騰した。材料比率削減は来年度の重要課題とする。 ・インク・トナーの発注状況及び、診療材料の破損、損失届の部署毎にリスト作成を行ったが、各部署へのフィードバック方法を検討する必要がある。 ・９月の棚卸の評価を各部署へ報告したため、３月の棚卸時のSPDカード紛失率は下がった。しかし、紛失を無くすよう更なる対策が必要である。 ・排尿リハケアチームの活動の一環として「おむつ」のメーカーを変更した。おむつの価格の見直しを行ったことにより、患者さんへの販売価格を変更。新しいおむつの院内の評価については、今後も継続し排尿リハケアチームと連携していく。
今後の展望	・診療材料のコスト削減を最重要課題とし、大規模な改革を目指す。 ・地域医療への連携強化として医療機関への医療材料の低コスト販売ツールを確立する。 ・診療材料の破損、損失届を各部署にフィードバックし、再発防止を徹底する。 ・「おむつ」の発注方法をSPDに移行し、各部署に入り数と払出数を明確に行い、評価をすると共に継続を検討する。

文責：髙宮　典子

13）医療情報課

構成員数	診療情報管理士：３名　医師事務作業補助者：15名　システムエンジニア：３名
2017年度 理念、目標	目標：残業時間の削減、学会や研修会への参加、書類作成・学会登録の迅速化・正確性の向上、統計・QI情報の活用・提供、電子カルテやコンピューターの安定利用の継続、業務マニュアルの更新・整頓、省エネ・無駄の削除
業務（活動） 内容、特徴等	診療情報管理士は患者情報や主要な診断名や処置・手術情報等をデータベース化し、各種検索に対応しています。医師事務作業補助者は医師の事務作業の補助を行っている。システムエンジニアは電子カルテ等のシステム管理やコンピューター等の管理を行っている。
実　績	学会発表は５件行いました。医師事務作業補助体制加算２　15：１となった。退院サマリー２週間記載率90％以上を継続し、診療録管理体制加算１を維持している。日本病院会のQIへのデータ提出を継続している。法人内の各種システムの設定や調整、老朽化した端末のリプレースを継続して行っている。大分岡病院の電子カルテの新版への更新、大分リハビリテーション病院への電子カルテ導入、訪問看護ステーションの電子カルテ更新を行い電子カルテデータの統合を実施した。統合されたデータを基にDWHの構築を行い、帳票類の作成自動化を行うためのヒアリングを敬和会内の全部署に行った。
目標の評価	残業時間の削減は目標通り達成できている。学会や研修会への参加者９名、書類作成・学会登録の迅速化・正確性の向上は達成できている。診療情報管理士による統計・QI情報の活用・提供は日本病院会QIへの参加や、情報提供の依頼に対して提供ができている。電子カルテやコンピューターの安定利用は電子カルテの更新があったが継続できている。電子カルテ人事管理システム、Office365の安定稼働は想定したダウンタイム内に収まっている。部署の運用や取り組み、システムの統合に関する学会発表を行った。その他、省エネ・無駄の削除に取り組んだ。
今後の展望	診療情報管理士は診療録管理体制加算１の維持と既存の古い紙カルテの廃棄作業を継続したい。医師事務作業補助者は医師事務作業補助体制加算２　15：１の維持を行いたい。システムエンジニアは、敬和会全体の対応を継続し、豊寿苑とすばるに電子カルテを導入し、大分市内の敬和会全施設の医療・介護データが一元管理される環境を整えたい。部門全体としては、ワークライフバランスへの対応をこれまで通り継続していきたい。

文責：村田　顕至

14）施設管理課

構成員数	課長　１名　主任　１名　スタッフ　１名
2017年度 理念、目標	理念：患者さんを中心にチームに係わる全ての叡智を集結し、最良の医療サービスを提供する。 ・人と環境に優しい職場づくり ・よりよい医療提供のための安定した財務基盤の確立 目標：光熱費削減　前年度対比１％ ・有給休暇の取得向上 ・残業時間削減 ・専門資格取得の推奨 ・２次健診の推奨
業務（活動） 内容、特徴等	・院内設備修繕・設備機器メンテナンス・改修工事案打診 ・省エネ業務・関連施設設備修理・患者搬送・シャトルカー業務 ・施設メンテナンス計画作成・工事及びメンテナンス価格見直し ・院内営繕・病院図面作成・各行事準備（七夕・クリスマス・火災訓練　２回/年・停電点検等）
実　績	病院設備修繕による年間削減額　￥1,875,990 患者搬送件数　345件 年間削減提案 ・電力会社契約変更（九州電力へ変更） 岡病院年間　17.9%削減　30年４月開始（前年対比968.6万円削減） 岡病院除く敬和会施設　30年７月開始（前年対比865.5万円削減） ・廃棄物段ボール・容器見直し（三藤商事へ変更）　14.6万円削減
目標の評価	・光熱費削減は光熱費の単価引き上げ、使用量増により570万円増となったが水道設備の見直しによりメンテナンス費352万円削減出来た。 ・有給休暇72%取得したが目標には届いていない。 前期怪我により長期休暇取得したスタッフがおり、有給が足りなかった為全体の取得率に影響した。 ・残業時間延べ94時間、前年度より４時間の短縮となった。 ・専門資格２名が小規模ボイラー取扱責任者に合格、１名が建築物環境衛生管理技術者に合格している。
今後の展望	専門資格の取得に合わせ、各個人の技術・知識の向上により広く浅くの知識から一歩踏み込んだ専門分野に特化した担当分野の確立を目指したい。 専門分野に特化する事で責任感・モチベーション・知識・技術の更なる向上を目指し、敬和会施設へのフィードバックを行い、削減提案・安全管理・法律遵守などの知識・技術提供を行いたい。

文責：木村　幸輔

15）創薬センター

構成員数	治験コーディネーター（CRC）３名、治験文書管理１名
2017年度 理念、目標	安全で正確な治験の実施。 各治験のプロトコール遵守。 ５プロトコールの治験の新規受託。
業務（活動） 内容、特徴等	SMO（治験施設支援機関）と良好な信頼関係を構築し、多くの新規治験を紹介して貰う。 新規治験のアンケートに正確な回答を行う。 被験者に治験プロトコールの内容を十分に説明し、且つ理解を得て、被験者の知識不足による不用意なプロトコール逸脱を防止する。
実　績	新規治験５プロトコール受託、既存試験の症例追加。
目標の評価	新規受託治験は目標の５プロトコールに達成した。今年もSMO、製薬メーカーに大分岡病院治験センターが一定の信頼は得られていると評価する。
今後の展望	これまでと同様、糖尿病や心不全、慢性皮膚潰瘍などの疾患に力を入れ、より安全で正確な治験を継続して、年間５プロトコール以上の新規治験の受託ができるように努力する。また、連携医療機関と協力して行う方法の確立にも努めたい。

文責：仲野　悦子

12 大分岡病院　委員会活動報告

1）倫理委員会

構成員数	内部委員９名、外部委員３名、事務スタッフ３名
2017年度 目標、方針	大分岡病院において、健常人または患者を対象として医薬品および医療機器等の有効性、安全性、薬理作用を調査・研究することを目的とする臨床研究および未承認薬の臨床使用、その他、人を対象とする介入について、ヘルシンキ宣言の趣旨、各種指針、法令等に沿い総合的に審議することを目的とする。
業務（活動） 内容、特徴等	当該委員会は下記の事項を審議する。 １．臨床研究の目的、方法等の妥当性に関すること ２．被験者の適切な同意と倫理的配慮に関すること ３．臨床研究の科学的妥当性に関すること ４．臨床研究の適切な実施に関し必要と認める事項 ５．未承認薬等の臨床使用に関すること ６．臨床研究の実施状況に関すること ７．その他、臨床研究に関し必要と認める事項 ８．その他、人を対象とする新たな介入に関し必要と認める事項
実　績	2017年度11回（うち迅速審査７回）の倫理審査委員会を開催し、10研究を承認した。 承認の内訳は、新規７、診療に関するもの２、公表原稿１だった。
目標の評価	開催回数は2012年度１回、2013年度２回、2014年度４回、2015年度５回、2016年度11回、2017年度11回と年度毎に増加し、委員会活動は活性化している。 当委員会で審査した臨床研究はヘルシンキ宣言の趣旨、各種指針、関係法令等は適正に遵守されている。
今後の展望	当院の臨床研究が、厚生労働省の定める「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」(2014年版)を逸脱しないように研究開始時だけでなく、研究途中、終了時にも審査出来る体制を継続する。

文責：仲野　悦子

2）治験審査委員会（IRB委員会）

構成員数	内部委員７名、外部委員５名、事務局５名
2017年度 目標、方針	臨床治験に於いて、被験者の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図り、治験の科学的な質及び成績の信頼性を確保することを目的とする。
業務（活動） 内容、特徴等	治験に関する計画、実施、モニタリング、監査、記録、解析及び報告等に関する遵守状況の審査を行う。
実　績	2017年度７回開催 新規審査治験数５プロトコール
目標の評価	審査した治験は医薬品の臨床治験の実施の基準に関する省令を遵守されていた。
今後の展望	臨床治験に於いて、被験者の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図り、治験の科学的な質及び成績の信頼性を確保することを継続する。

文責：仲野　悦子

3）臨床研修運営委員会、臨床研修管理委員会

構成員数	院長、臨床研修センター長、診療部指導医、事務長、メディカルスタッフ
2017年度 目標、方針	臨床研修医の円滑な質の高い研修をめざす。
業務（活動） 内容、特徴等	・臨床研修運営委員会（１回/１ヶ月） ・臨床研修管理委員会（１回/年） 月に一度指導医が集まり、各研修について報告を行い情報共有をする。 円滑で質の高い研修と、より良いプログラムの提供をする為に、様々な面から検討を行う。 ・指導医講習会受講の推進 臨床研修医リクルート活動 ・2017/５/７（日）MEC合同説明会福岡　ブース来場者　22名 ・2017/６/25（日）大分県臨床研修病院合同説明会　ブース来場者　17名 ・2017/８/８（火）大分県臨床研修病院見学バスツアー　参加者　４名 ・2018/３/４（日）レジナビ福岡参加　ブース来場者　16名 ・病院見学受け入れ　11名
実　績	・初期臨床研修医面接者６名、マッチング者４名、二次募集面接者１名 採用者 合計４名 ・大分大学医学部とのたすきがけ（１年間大分岡病院コース）が次年度より開始 ・早期から多くの症例を経験出来る研修プログラム １年目からの日当直トレーニング（17：30－22：00）を行う。 ２月以降は２年目研修医について日当直に一緒に入る。 ・指導医レクチャーの開始 各診療科の指導医が20分程度でレクチャーを行う。 ・基本的臨床能力評価試験の実施 171位/459施設（１年目、２年目の合計点数）
目標の評価	先輩の口コミにより、面接希望者が多く、マッチングにつながった。また、ここ数年地元大学出身者だけだったが、今回他大学もマッチしたことは評価したい。 大分県全体での研修医確保ということで、病院見学バスツアーに参加し、県と連携を行って大分県での研修生活のPRを行った。 早期から当直を出来るように、一年目の終わりから、二年目と一緒に当直へ入る屋根瓦方式を取り入れた結果、双方の研修医より好評を得たため、今後も継続していく。
今後の展望	今後専門医制度により、研修医の獲得が難しくなっていくため、協力型施設と良い関係を築き上げ、たすきがけで他施設の研修医が、長期間当院で研修が出来る様に働きかけを行っていく。また、当院で可能な限り研修ができるよう、診療科の確保や、併せて、プログラム内容の改善・研修内容の質の向上に取り組んでいく。

文責：迫　　秀則

4）教育・研修委員会

構成員数	診療部１名、各部門１名
2017年度 目標、方針	大分岡病院の組織人として自覚と責任ある行動がとれる人材を育成することを目標に、院内研修会の企画・運営・情報発信を行う。職員個々の組織規範の育成・研修の推進、院外への学会発表の支援を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	１．人材育成 新人研修・ミドルマネージャー研修・管理者研修企画開催のサポート ２．研究の推進 ①各学会等の発表推進 ②敬和会学会のサポート ３．資格取得支援規程の見直し ４．敬和会アカデミーの運営サポート
実　績	１．人材育成 ・2017年度ミドルマネージャー研修プログラム実施、サポート ・2018年度ミドルマネージャー研修プログラム作成 ２．研究の推進 ①・大分県病院学会　発表・参加 ・医療マネージメント学会等への発表・参加 ②敬和会学会のサポート 学術研究統括センターとコラボし、敬和会学会運営の事務的のサポート ３．前年度作成した資格取得支援一覧表の見直し ４．2017年12月より発足した敬和会アカデミーとコラボし新人合同研修プログラムの見直し、e-ラーニング用動画作成
目標の評価	１．ミドルマネージャー研修の開催 2017年４月　リーダーシップ ７月　労務管理 11月　KAIZENツール 12月　コーチング 2018年１月　バランススコアカード（BSC）について ２．学会での発表者も年々増えてきている。敬和会学会のサポートも回を重ねるごとに準備の段取りが良くなってきた。今後はこれまで関わったことのない職員も巻き込み学会運営できるスタッフを育成したい。 ３．資格取得支援規程に基づき各部署で運営している。 ４．2018年４月入職新入職員合同研修ではe-ラーニングの導入ができた。
今後の展望	今後は敬和会アカデミーとコラボし、新人研修、プリセプター研修、リーダー研修、メンター研修、幹部研修と教育体系を再構築し、人材育成につなげる。

文責：武石　智子

5）医療安全委員会

構成員数	28名
2017年度 目標、方針	・転倒・転落発生件数減少 ・配薬・与薬エラーゼロ件
業務（活動） 内容、特徴等	1．インシデント・アクシデント報告の確認 2．インシデント・アクシデントの事例分析 3．医療安全委員会用ヒヤリハット集の作成 4．医療安全委員会開催（毎月第３月曜日）16時～ 5．医療安全全体研修の開催（年２回：９月、３月） 6．敬和会新人全体研修/看護部新人研修 7．医療安全地域医療連携カンファレンス（３施設合同：９月、３月） 8．外部からの安全情報の収集及び伝達 9．医療安全対策マニュアル改訂 10．死亡事例調査 11．CVC合併症調査 12．転倒・転落予防対策
実　績	○2017年度インシデント・アクシデント総報告件数767件 ・概要 薬剤関連：325件、医療機器関連：38件、検査・処置関連：119件 転倒・転落：169件、手術関連：42件、事務処理関連：30件、食事関連：44件 ・患者影響レベル レベル０：176件、レベル１：462件、レベル２：93件、レベル３：32件 レベル４-１：０件、レベル４-２：０件、レベル５：０件 ○医療安全全体研修/年２回開催 ・2017/９/15「航空機整備と安全への取り組みについて」 講師：株式会社ソラシドエア　安全推進室長　安倍　英明 出席率：99.8%（DVD研修含む） ・2018/３/23 ①医療保険制度について 講師：医事課課長　首藤　稔久 ②改正個人情報保護法 講師：医療情報課次長　村田　顕至 ③転倒・転落について 講師：総合リハビリテーション課主任　安部　優輝 出席率：99.5%（DVD研修含む） ○2018年度敬和会新入職員合同研修会 ・医療安全の基礎知識（77名） ・看護部医療安全基礎講習実施（27名） ○医療安全地域医療連携カンファレンス ・2017/９/７　テーマ：内服薬の安全な管理方法について 開催場所：河野脳神経外科病院 参加施設：河野脳神経外科病院、大分リハビリテーション病院、大分岡病院 参加人数：26名 ・2018/３/29　テーマ：「食事関連・アレルギー対策について」 開催場所：大分リハビリテーション病院 参加施設：大分リハビリテーション病院、大分岡病院、河野脳神経外科病院 参加人数：31名

実　績	○医療安全対策マニュアル改訂 ・安全管理指針、医療安全管理者の職務規定、医療安全委員会規定 ・医療事故発生時の対応、事故報告規準 ・院内暴力対応マニュアル ・電子カルテレポート報告システム ・医療機器マニュアル（人工呼吸器関連） ○院外医療安全研修会（医療安全推進室） ・６/３　第13回大分県医療コンフリクトマネジメント研修会 （髙橋　美香、井上　真、生野　和徳） ・７/22　第24回VTE医療安全セミナーin大分　（生野　和徳） ・７/28　2017年度第１回CVC研修会　（佐藤　博） ・７/29～30　第５回転倒予防指導士基礎講習会　（安部　優樹） ・９/22～９/23　第１回院内事故調査の指針　事故発生時の適切な対応研修会 （松村　洋、生野　和徳） ・９/30　平成29年度リスクマネージャー交流会　（生野　和徳） ・10/17　大分リエゾンシンポジウム2017　（髙橋　美香、井上　真、安部　優樹） ・12/10　大分県医療コンフリクトマネジメント研究会（生野　和徳） ・2018/３/10　患者安全推進フォーラム （佐藤　博、髙橋　美香、井上　真、松村　洋、生野　和徳）
目標の評価	○転倒転落件数は、前年度と比較し、2.5％に減少している。 転倒対策チーム・各病棟での意識による成果の現れともいえ、医療安全推進室が今後も、活動のサポートを行い院内統一ルールや、アセスメントツールの見直しを行っていく。 ○薬剤関連の報告は、前年度に比べ0.4％の増加であり、内容として、配薬/施行忘れ、投与量間違いが多く報告されている。発生要因としては、確認不足・思い込みからのエラーが大多数を占めている。これは、個人の特性とも言われているが、設備・環境・システムの側面からも推測して対策を立てていかなければならない。薬剤６Rの実施、指さし呼称を含め、今後も配薬・与薬ゼロを目標に活動を行う。
今後の展望	○薬剤関連のインシデントゼロを目標とし、看護部・薬剤部、診療部の協力を得て現状の問題点の抽出・改善し、継続として転倒・転落の重大事故防止に向けた取り組みを転倒対策チームと新たな取り組みを行っていく。

文責：生野　和徳

6）薬事審議委員会

構成員数	副院長、各診療科の部長、看護部長、薬剤部次長、購買物流課長
2017年度 目標、方針	次の事項を審議し医薬品の適正な使用に寄与する。 ・医薬品の採用及び削除に関すること ・購入医薬品の管理に関すること ・使用医薬品の副作用に関すること ・薬剤情報活動に関すること ・その他、医薬品に関すること
業務（活動） 内容、特徴等	①委員会活動 ・定期的な委員会の開催 第１回　平成29年６月14日 第２回　平成29年９月13日 第３回　平成29年12月13日 第４回　平成30年３月７日 ・医療安全委員会との連携による医薬品適正使用の推進 ・委員会資料の事前配布による審議の効率化 ②医薬品の採用及び削除 ・一増一減ルールの周知徹底 ・医療保険制度を考慮した後発医薬品への切替え ・口腔内崩壊錠の採用による調剤、配薬業務の改善
実　績	【新規採用医薬品】 内用 10品目、外用 ４品目、注射 10品目 【削除医薬品数】 内用 ６品目、外用 ２品目、注射 ５品目 【後発医薬品への切替え】 内用 14品目、注射 ５品目
目標の評価	医薬品の適正な採用・削除・切替えを行うことができた。また、本邦の医療保険制度を考慮した後発医薬品への切替えを行うことができた。
今後の展望	さらなる円滑な薬事の運営に寄与する。

文責：井上　　真

7）感染管理委員会

構成員数	22名
2017年度 目標、方針	1．院内感染防止対策活動の推進 2．医療従事者の感染対策に対する意識向上および社会への啓発活動の推進 3．感染防止対策の推進・評価・検討
業務（活動） 内容、特徴等	1．感染防止対策活動の推進 1）感染対策室のメンバー増員 2）心臓カテーテル室でのペースメーカー埋め込みに関する検討 3）HIV予防策の作成、抗HIV薬の院内常備について 4）就業停止期間についての検討 5）AST立ち上げ 2．意識向上および社会への啓発 1）感染対策週間イベントの開催 2）感染管理研修、抗菌薬研修の開催 3．感染防止対策の推進・評価・検討 1）手指衛生サーベイランス 2）SSIサーベイランス 3）ICTラウンドの実施
実　績	1．感染防止対策活動の推進 1）現在、感染対策室のメンバーは看護師３名で構成されているが、各職種の専門性を活かし、対策室の活動の範囲拡大を期待し、薬剤師、検査技師、理学療法士各１名ずつを追加した。メンバーが６名となり、積極的な介入を目指し、手指衛生と抗菌薬適正使用の２つのワーキンググループに分かれ、活動を開始した。 2）心臓カテーテル室でのペースメーカー埋め込みに関する検討 循環器内科（アブレーションチーム）医師が増員され、ペースメーカー埋め込み術をカテ室で実施したいとの相談があった。 ペースメーカー自体は異物を埋め込むこととなるため、できるだけ清浄度の高い手術室で実施することが望まれるが、手術室の確保が難しい場合のみカテ室での実施ということで、以下の対策をとり対応した。 ①カテ室の清浄度を調査（清浄度によってはフィルターの交換） ②ペースメーカーの埋め込みを行う部屋を限定し、その部屋に対しては高性能フィルターを交換する ③フィルター交換後、再度清浄度チェックを行う （結果） ●カテ室１・２ともに清浄度はクラス100,000～200,000 →一般手術室はクラス10,000以下が望ましい 当院のカテ室は、一般のカテ室より清浄度は高いが、手術室としては低くなる ●カテ室２でペースメーカー埋め込みを行うこととし、カテ室２の高性能フィルターの交換を行う （フィルター交換後の清浄度は、クラス10,000） ※清浄度については定期的にチェックをしていく方向で検討する ●またカテ室での実施については、手術室の予約が取れない場合のみの使用に限定し、運用マニュアルを作成した。 （運用マニュアルの内容） ・空調運転開始後１時間以上経過後に器械展開を開始する また１時間経過後の入室者は、患者・執刀医・助手・関係看護師等最少人数とする ・開始後の入退室は原則禁止とする ・手術時手洗いは当院手術室に準ずる（ウォーターレス法） ・その他手袋交換等についても、「院内感染防止対策マニュアル」内の手術部位感染防止対策マニュアルに準ずる 3）HIV予防策の作成、抗HIV薬の院内常備について HIV陽性患者の入院・カテーテル手技が決定したことを受け、HIV予防対策マニュアルを作成した。 本来標準予防策での対応で十分であるが、各関係部署での対策や、万が一曝露した際の対応、特に血液等湿性生体物質に対する対策を記載した。 また、HIVに関することとして、針刺し切創事故時にHIV検査を実施するが、その結果について、受傷者の本人確認ができれば、検査課より本人へ結果を伝えることを可能とし、早急な曝露後対策を実施することができる体制を整備した。 更に今年度から、大分県のHIV感染防止体制整備事業における協力機関として、県の方から抗HIV薬を配置して頂くこととなった。ただし、今年度は１剤のみの配置とし、来年度からは２剤の配置ということとなっている。

実　績	4）就業停止期間についての検討 現状、「播種性帯状疱疹」については“就業停止”としているが、単純ヘルペスについては基準を定めていなかったため、単純ヘルペスと帯状疱疹それぞれについて、就業停止期間を検討し、以下の通りとした。 →「帯状疱疹」は空気感染であり、“痂皮化するまで就業停止” 「単純ヘルペス」は接触感染であり、“ヘルペスができているところを保護して、通常通りの勤務とするが、長引く時は受診をすること”とした。 5）ASTの立ち上げ 薬剤耐性菌問題について、国内においても2016年「薬剤耐性（AMR）アクションズプラン」が発表されている。これによると、成果指標として、2020年までに抗微生物剤の使用量を全体の33%減、静注抗菌薬を20%減としている。 これを受け、当院でも抗菌薬の適正使用に向け、対策室抗菌薬チームを中心に、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を立ち上げ、介入を開始した。 （構成メンバー） ICD：佐藤博、大久保、金子、鍋田（医師はそれぞれ、１病棟を担当する） 薬剤師：遠山 検査技師：尾野 看護師：幸 （介入患者） 特定抗菌薬使用患者、抗真菌薬使用患者、血液培養陽性患者、耐性菌検出患者、ICU入室患者 （フィードバック形式） 電話または対面形式 2．意識向上および社会への啓発 1）感染対策週間イベントの開催 今回で７回目の開催。期間は平成29年10月16日～10月20日の５日間 上記期間は、院内に職員や近隣幼稚園等からの「感染予防に関するポスター」を掲示 この他、出前手洗い指導で、４園に出張し指導を行った。 （カトリック鶴崎幼稚園、別保幼稚園、もりまち幼稚園、高田のぞみこども園） また、感染予防講座については、２施設より希望があり、インフルエンザに関する内容で講演を行った。 （別保公民館、千歳サロン） 2）感染管理研修、抗菌薬研修の開催 ＜感染管理研修＞ １回目：平成29年６月30日 「あ～そうだったのか！と気づいて欲しい感染対策と最近の動向」 講師：NPO法人　日本感染管理支援協会　理事長　土井　英史先生 ※研修参加率98.2%（未受講は９名） ２回目：平成29年12月15日 ①手指衛生サーベイランスの動向について　中村抄保子 ②薬剤耐性菌について　遠山泰崇 ③CD検査について　尾野恵 ※研修参加率97.7%（未受講12名） ＜抗菌薬研修会＞ 平成29年10月２日 例年同様、大手町病院　山口征啓先生を招聘し開催した。 院内からは医師25名、コメディカルスタッフ24名が参加、また院外からは４名の方にご参加頂いた。 3．感染防止対策の推進・評価・検討 1）手指衛生サーベイランス 手指消毒実施回数を（１か月の手指消毒剤使用量ml÷延べ入院患者数÷１回の適切量ml）算出。 2016年度は、リンクナースの取り組みの一環で、手指消毒剤使用量UPを目指し、２病棟をモデル病棟とし、看護師のマイボトル携帯を実施、個人使用量を調査したところ、平均使用量が２～３倍と増加した。しかし今年度は徐々に減少、１患者１日当たりの実施回数が２～３回程度となった。 これは、全スタッフのアルコール使用量を測定することができていないことも一因と考える。 ２病棟以外についても、実施回数は２～３回患者日で増加はなく、例年通りで留まっていた。

実　績	2）SSIサーベイランス （心臓血管外科） 昨年度、心臓血管外科術後の縦隔炎が２例発生（感染率1.8%）したことを受け、対策の見直し、マニュアルの改訂を行い、今年度は感染率1.6%となった。 しかし、昨年課題として挙げていた、術前のMRSAスクリーニングや口腔内除菌等については検討出来ておらず、今後も検討が必要である。 （消化器外科） 昨年感染率が高くなっていた小腸切除術については、感染率28%（2016年）→6.6%と低下しており、JANISデータと比較しても、低値を示している。 小腸手術では、手術時間がT時間以上で感染率が高くなっている傾向である。 しかし、GAST-OでJANISに比べると感染率が高値（当院16.7、JANIS8.4）となっているが、症例数が少ないことが影響していると考える。
目標の評価	1．院内感染防止対策活動の推進 ・感染対策室のメンバーが増員され、看護師以外の多職種で構成されたことで、感染対策について多方面からの介入が可能になったと考える。 ただ専従者は１名であり、その他のスタッフは兼務であることから、負担は大きくなっていると考える。 ・また、カテ室でのペースメーカー埋め込み術については、運用マニュアル等作成し対応しているが、さほど症例はなく、今のところ手術室での実施が可能となっている。 清浄度については、定期的な介入が必要であると考えるが、その頻度については課題が残る。 ・抗HIV薬については、大分県から薬剤を配置して頂けることとなり、昨年に引き続き、職業感染防止としてはよい体制を整えることができたと考える。 しかし、大分県の協力機関として、他施設での針刺し等についても受け入れをし、薬剤を処方しなくてはならないが、その為の体制については明確にできていないため、早急に整備する必要がある。 ・対策室薬剤師を中心に、抗菌薬適正使用チームを発足、平成30年度の診療報酬改定に備え、活動を開始したが、担当医師は週２回担当しなくてはならないとのことで、負担は大きくなっている。 しかし、スケジュール通りに介入を行うことができ、ASTからの提案を受け入れて頂けている医師もおり、フィードバックの方法等課題は残るが、ある程度体制は整備されたと考える。 2．医療従事者の感染対策に対する意識向上および社会への啓発活動の推進 ・全体研修会の研修参加率は97～98%でほぼ参加できているが、昨年に引き続き２～３％が参加できていない状況がある。 3．感染防止対策の推進・評価・検討 ・手指消毒剤の使用に関しては、マイボトルの携帯を始めた２病棟においても、徐々に使用量が減少しており、他部署についても昨年同様２～３回/患者日と増加は見られていない。 手指衛生については対策室の手指衛生ワーキンググループを中心に活動を行っているが、課題としていた直接観察法までは行えておらず、直接的な介入は行えなかった。 ・SSIサーベイランスでは、課題として挙げていたMRSAスクリーニング等については実施までいかず、医師を巻き込んだ対策については課題が残った。
今後の展望	・感染対策室のメンバー増員により２つのワーキンググループで活動を開始している。 手指衛生チームでは、直接観察法を開始、正しいタイミングでの実施についても評価し、遵守率向上に繋げたい。 また、マイボトルの計測を行えていない部署についての介入も行っていく必要がある。 ・ASTについては今後診療報酬改定に関係してくることが予想されるため、フィードバックの方法等再検討する必要がある。また、ラウンド以外の算定条件を早期に察知、対策を検討し改定に備える。 ・全体研修会の参加率についても、例年１～３%の方が受講できていない状況がある。100%の参加率を目指し、対策を講じる必要がある。

文責：幸　　直美

8）褥瘡対策委員会

構成員数	医師・看護師・薬剤師・リハビリ・栄養士・事務
2017年度 目標、方針	①背抜きの徹底を行っていく。 ②初期対応が統一されてないので発見時の初期対応を統一し悪化や予防に努める。 ③褥瘡学会への参加。 ④スキンテアの周知徹底を褥瘡委員が率先して行う。 ⑤褥瘡マットのメンテナンスを行う。
業務（活動） 内容、特徴等	・褥瘡回診（月/週） ・褥瘡委員会（１回/月・第４月曜日） ・新人研修会講義 ・地域褥瘡研修会 ・在職者研修会 ・院外の勉強会への参加
実　績	・４月→新人研修会にて褥瘡について、スキンテアについて、PCの褥瘡管理入力の講義と実技モルテンよりポジショニングと背抜きの講義・実施を施行 ・10月→地域研修会（当院の褥瘡の実際⇒実山） （皮膚科医が感じた褥瘡⇒市川皮膚科医院・市川Dr） ・10月→在職者研修会（OHスケールについて⇒実山） ・３月→褥瘡九州学会（熊本）セミナー受講⇒実山
目標の評価	・昨年行ったアンケートでOHスケール評価＝褥瘡マットの選択がまだ分からない職員が多いので在職者研修会で講義を行った。参加率の高い病棟ではマット選択が正しく行えるようになってきたので、今後も繰り返し伝達していく。 ・アンケートの結果を評価し、褥瘡学会に参加出来るように研究を進める。 ・背抜きについても繰り返し伝達していく。
今後の展望	・OHスケールを理解し、正しくマット選択が出来るように今後も講義等を行っていく。 ・背抜きの徹底を行う。 ・褥瘡学会の参加、セミナーの受講が出来るようにする。 ・スキンテアと褥瘡の違いを理解し予防に努める。

文責：実山　昌代

9）栄養管理（NST）委員会　（栄養サポートチーム）

構成員数	医師：４名、歯科医師：１名、薬剤師：１名、看護師：３名 管理栄養士：２名、臨床検査技師：１名、言語聴覚士：１名、事務：２名
2017年度 目標、方針	【目標】 ・栄養療法の意義を患者、職員に理解してもらう。 ・個々の患者に最適な栄養管理を行う。 ・円滑なNST活動（運営）を行う。 【方針】 医療の最も基本的な栄養管理の重要性と適切な栄養支援を院内に浸透させ、栄養障害のある患者に対し、多職種協働で栄養面からの治療支援を行う。また、委員会としてNSTを組織し、その活動を支援する。
業務（活動） 内容、特徴等	当院では2014年10月に栄養サポートチーム（NST）を立ち上げ、円滑なNST活動を行うために定期的（隔月）に委員会を開催している。2011年11月にはNST加算の算定を開始し、全ての入院患者を対象に栄養状態の評価と栄養支援を行っている。また、院内スタッフを対象とした教育活動やNST専門療法士の育成、学会発表の支援等の取り組みを行っている。
実　績	2017年４月～2018年３月までの実績 【NST支援患者数】737人 【NSTラウンド回数】196回 【NST加算算定件数】1,587件 【栄養管理（NST）委員会開催】５回（５月、７月、９月、11月、３月） 【院内NST勉強会開催】４回（６月、９月、11月、２月） 【院内NSTだより発行】第21号～26号（隔月） 【学会発表】第33回日本静脈経腸栄養学会　発表３演題
目標の評価	全ての入院患者に対して栄養状態の評価を行い、チームによる栄養支援を行うことができた。スタッフの教育を目的とした勉強会の開催やNSTだよりの発行も計画通り実施することができた。また、活動内容をまとめ、学会発表も行うことができた。NSTの栄養支援による具体的な効果について十分な検証を行えていないので引き続き課題として取り組んでいきたい。
今後の展望	・データベースをもとに支援症例を分析し、NST支援の効果を調査する。 ・NST支援の効果を学会などで積極的に発表していく。 ・歯科医師との連携により口腔ケアにも力を入れていく。 ・周術期、緩和、在宅における栄養支援も視野に入れて取り組みを行う。

文責：井上　　真

10）がん薬物療法委員会

構成員数	10名
2017年度 目標、方針	全ての患者へ、有効で、安全、安心ながん薬物療法を提供し､副作用の予防、早期発見に努める。
業務（活動） 内容、特徴等	新規レジメン審査、抗がん剤プロトコルオーダー作成 抗がん剤レジメン整理 院内抗がん剤勉強会の開催
実　績	2017年度新規登録レジメン審査、プロトコルオーダー作成 胃癌：RAM単独療法 抗がん剤レジメン整理：外来・入院で分かれていたレジメンを統一し、同じものを外来、入院で使用出来るよう整理した。 院内抗がん剤勉強会：オプジーボ点滴静注用
目標の評価	ガイドラインに基づいた標準的レジメンの追加、運用を行った。 患者へ、投与前の抗がん剤治療の説明を行い、副作用の予防方法や対策の指導を行う事で、副作用予防や早期発見につながった。
今後の展望	今後も外来、入院患者共に標準的ながん薬物療法が継続出来るように各種ガイドラインに基づいたレジメンの審査、運用を行う。また抗がん剤を取り扱う職員の安全のため、暴露対策と啓発の取り組みを行う。

文責：堀光　愛子

11）栄養改善委員会

構成員数	医師、看護師（各病棟）、言語聴覚士、管理栄養士、給食委託業者
2017年度 目標、方針	・電子カルテ更新に伴い、食種名の変更及びデータ移行をスムーズに行い食事提供に支障のないよう取り組む。 ・職員食の向上、ヘルシーナビの計画的な実施 ・安全な食事提供（異物混入削減、誤嚥防止）
業務（活動） 内容、特徴等	・嗜好調査の実施（年３回） 患者へAIMサービスによる聞き取り調査のため回収・回答率100％ ・行事食の提供（月１回以上実施）、季節の行事毎に時期や行事に合わせて提供 ・食品衛生関連の周知 ・電子カルテ更新に伴う食種の変更、周知 ・職員ヘルシーナビ　６回/年
実　績	・委員会開催：10回（８月以外は毎月開催） ・嗜好調査実施（５月・８月・１月）の３回 ・正月用雑煮餅の代替食品の試食会（12月） ・食種変更、マスタ登録 ・衛生関連注意事項啓発 ・口腔外科術後食の試食会
目標の評価	・行事食及びヘルシーナビ開催、提供については計画通り行うことができた。行事食提供後は患者より、嬉しい便りや感想が書かれたカードが返却され、行事毎にまとめて職員食堂に貼りだした。ただし、ヘルシーナビについては、測定結果の分析が間に合わなかったりと、フィードバックが十分でなかった。電子カルテ更新については、混乱のないように前もって食種名の変更があることは告知していたが、変更直後は問い合わせが生じた。移行そのものはスムーズに行え、食事提供への支障はなかった。
今後の展望	食事提供にあたり、今後も美味しく安心・安全を心掛けていきたい。特にアレルギー食品に関しては、注意深く手順に沿ってチェックを行っていく。行事食においても、季節ごとに楽しんで頂けるよう、定期的に開催予定としAIMサービスと取り組んでいきたい。委員会として構成されているため、もう少し活発な意見等が出ると更に改善されると思われる。 【2018年度ヘルシーナビ予定】 ・６回/年予定（４/24肌年齢・６/26ストレスチェック・８/28血管年齢 10/23骨年齢・11/20肌年齢・１/22脳活性） ・病態や疾患に応じての新食種が必要となってきている現状があり、開発予定。

文責：長尾　智己

12）輸血療法委員会

構成員数	12名（診療部、看護部、薬剤部、検査課、医事課）
2017年度 目標、方針	安全で適正な輸血の実施 ①血液製剤使用指針の遵守 ②血液製剤廃棄率の減少 ③輸血事故「ゼロ」
業務（活動） 内容、特徴等	①輸血依頼から実施マニュアルに沿った対応 　1．必要製剤量の確保 　2．副作用管理 ②血液製剤一元管理 ③FFP/RBC比　指導比0.5以下　遵守 ④アルブミン/RBC比　指導比2.0以下　遵守 ⑤血液製剤廃棄率　1.5％以下 ⑥院内MSBOS用の統計作成 各種の現行方法・手順を検証し必要であれば変更・改善する。また、各委員から出された問題点を解決する。
実　績	1．使用量：RBC 4,292単位/年・自己血 46単位/年・FFP 1,174単位/年・PLT 2,130単位/年・アルブミン 3,362.5単位/年 　＊製剤使用量は、過去最高だった昨年度をやや下回った。 2．輸血患者数（延べ）　638名/年 　＊輸血件数は、昨年度の過去最高を更に上回った。 3．救急車要請回数　８回/年 　＊昨年度は19回/年で、半減した。 4．遡及調査依頼　１件/年（2010年８月施行分） 5．副作用記録　36件/年 　＊血管痛・発赤などで、大きな副作用は無かった。 6．FFP/RBC比　0.27・アルブミン/RBC比　0.78 　＊両方共に、良好であった。 7．血液製剤廃棄率　1.11％ 　＊2015年の0.62％を最少に、昨年は0.69％、そして、今年度は1.11％と増加している。
目標の評価	目標は、達成できていたが、廃棄率は、1.11％で、昨年度の0.81％よりも更に増加していた。昨年度同様、B型RBCの廃棄が目立ち、返品分が転用できず、そのまま廃棄となってしまっている。目標の、「最大1.5％」に徐々に迫っている。来年度はこれ以上にならないように努力する必要がある。 輸血事故は「ゼロ」で、無事に終えることができた。
今後の展望	当院の血液製剤使用量は増加しており、H28年からは大分県で第５位（全製剤の単位数の合計）となっている。使用量は増加しているものの、製剤の納入→検査→使用の流れは、見直されないまま現在に至っており、他院で業務経験のある職員の意見も聞きつつ、見直しを行っていきたい。

文責：伊東　佳子

13）臨床検査適正化委員会

構成員数	12名（診療部・看護部・薬剤部・検査課・医事課）
2017年度 目標、方針	①適正かつ円滑な臨床検査の遂行 （1）正確・精密な結果提供　（2）迅速な結果提供　（3）情報発信　（4）最新検査の導入 ②業務改善 1．検査に関する部署間の問題解決策の提案と実行 2．部署間の協力による検査に関わる業務負担の軽減
業務（活動） 内容、特徴等	①精度管理 1．外部精度管理（多施設で同一試料を測定し、各施設での測定値を集計解析することで正確度を客観的に評価するもの）に参加し、客観的評価を得る。 2．内部精度管理（毎日、同一の試料を測定し、測定値がいつでも一定であるかどうかを評価するもの）を実施し、測定値の精度を確認する。 ②機器の保守管理・試薬の在庫管理により滞ることなく迅速に結果を出す。 ③新しい検査項目について試薬会社や研修会・学会で情報収集しそれを提供する。 ④試薬会社や研修会・学会で情報収集し、臨床医から要望を聞いた上で、新しい検査・試薬・検査機器の導入を行う。 ⑤各種の現行方法・手順を検証し必要であれば変更・改善する。また、各委員から出された問題点を解決する。
実　績	1．迅速管理加算　51,798件/年（4316.5件/月）・外来 時間外の院内検査加算 3,094件/年（257.8件/月） 2．外部精度管理３種参加 3．生理検査　新規：携帯型心電計貸出・１週間心電図 4．検体検査 ①新規：テイコプラニン・トロポニンi（← H-FABP） ②定量化へ変更：FDP・PCT ③測定キットの変更：尿中薬物検査 ④結果単位等の変更：血小板・網状赤血球 ⑤血液培養ボトルの変更 ⑥HIV検査結果 カルテ内「別紙報告」→結果表示 ・院内迅速検査の結果入力 ・外部委託検査のカルテ内への電信入力
目標の評価	３種の外部精度管理の結果は何れも良好。機器の故障で測定が滞った回数は、生化学検査０回・血液検査０回・凝固検査３回・免疫検査２回・血液ガス１回で、主検査の生化学・血液は、滞ることが無かった。検査項目は、新規・変更どちらも多く、テイコプラニンの院内測定開始の他に、トロポニンi・FDP・PCTも定量測定に変更でき、生理検査も含め、各委員会や、診療部の要望に応えることができたのではないかと考えている。
今後の展望	現在、他の薬物濃度測定の導入検討を行っており、「可能な限り導入」という姿勢は変えずに行きたい。また、来年度は「精度保証施設認証」の認証期間が切れるため、新たに取得を申請する予定である。

文責：伊東　佳子

14）RST委員会（呼吸療法サポートチーム）

構成員数	医師：１名、看護師：９名、臨床工学技士：４名、作業療法士・理学療法士：４名
2017年度 目標、方針	・RSTラウンドを実施し、呼吸器使用患者の早期離脱を目指す。 ・VAPバンドルの院内周知を行い、VAP発生率の減少を目指す。 ・院内勉強会を実施し、人工呼吸器管理についてのスタッフのスキルアップを目指す。 ・高流量酸素療法の院内周知。 ・人工呼吸器の安全運用。
業務（活動） 内容、特徴等	・RSTラウンド ・人工呼吸器・呼吸療法関連勉強会の実施 ・病棟別人工呼吸器使用状況の把握 ・人工呼吸関連のトラブル対応、問題解決
実　績	・2017年４月・12月　「人工呼吸器」勉強会　対象：研修医、新人看護師 ・2017年７月　「血液ガスについて」勉強会　対象：看護師 ・2017年８月　「ザビーナ300人工呼吸器について」勉強会　対象：ER看護師 ・2017年９月　「人工呼吸器の基礎＆モードについて」　対象：看護師 ・2017年12月　「呼吸リハビリテーションについて」対象：看護師 ・RST研修単位を新たに設けるため、委員会規定を改訂 ・ER人工呼吸器更新「Tバード→ザビーナ300」 ・RSTラウンド15名実施 ・人工呼吸器使用状況　2016年度308例、2017年度321例。 ・V60（NPPV）使用状況　2016年度71例、2017年度73例で症例数は前年と同等であったが、2017年より院内レンタル待機台数を見直しており、レンタル費用のコスト削減に繋がった。
目標の評価	・看護部基礎教育委員会依頼の勉強会等RST委員が勉強会の講師をする機会が増え、RST委員のスキルアップにも繋がった。来年度も看護部基礎教育委員会と協力し、定期的な勉強会の開催等も行っていきたい。 ・高流量酸素療法の使用が昨年度より62%増加しており、その効果もあってか心臓血管外科の術後挿管時間は12.7時間から9.8時間に短縮。 ・RSTラウンドにおいては委員会開催時の１回/月のみであったため、実績のようなラウンド介入になった。
今後の展望	・RSTラウンド実施の増加、人工呼吸器離脱困難患者への介入。 ・RST委員による定期的な勉強会の開催（看護部基礎教育委員会とタイアップ）。 ・VAPバンドルの評価。 ・人工呼吸器の効率的な運用。 ・人工呼吸器装着患者の管理・評価、呼吸療法のスキルアップを目指す。

文責：中田　正悟

15）RRT（Rapid Response Team）委員会

構成員数	診療部：宮本　大久保　鍋田 看護部：麻生　馬場　阿部　三浦　下川　古澤　玉木　多田　中村　姫野　高山　有田 検査課：志賀 ＭＥ部：安藤　中田 薬剤部：福島 リハビリ：佐藤　川村 医療情報課：村田
2017年度 目標、方針	RRT急変時対応の基本コースの開催 BLS啓蒙活動の継続
業務（活動） 内容、特徴等	RRT急変時対応の基本コースを実施。 　偶数月第３土曜日の午前中（9：00～12：00） BLSの普及活動（院内・院外） PHS：845を用いた院内急変前の対応体制の運用 救急カートの物品の統一
実　績	院内BLS研修・新人研修・急変時対応の基本コースの実施 BLS講習会を実施（中学生病院探検ツアー・岩田学園の体験コース・小学生病院探検ツアー・ハートアタック・おおのがわスマイルランなど） PHS：845を用いた院内急変前の対応体制を構築 救急カートの物品の統一
目標の評価	スキルアップのための研修会を企画し、定期的に開催できている。 BLS講習も院内・院外からの依頼に応じて対応ができている。 本来のRRTの役割として、患者の様態変化に早期に介入するために急変前の段階での患者さんへの処置対応については、PHS845を用いた運用方法の構築が完了し、周知を行った。実際のコール状況は数件あるが、その際に対応できたのは医師だけであり、同時に急変対応できる多職種スタッフの増加が必要である。
今後の展望	技能向上の継続と、BLS活動の継続。 PHS845の利用の向上。 急変対応ができる多職種スタッフの増加。 当院でICLSの開催予定に伴いRRTメンバーも受講し、スキルアップを図り、各スタッフへ還元できるように取り組む。

文責：麻生　百花

16）診断群分類検討委員会

構成員数	10名
2017年度 目標、方針	定期的な委員会の開催 適切なDPCコーディングの推進 特定のDPCにおける適切な治療内容の推進
業務（活動） 内容、特徴等	DPC病名と診療行為が合致しているかの確認 悪性腫瘍をDPC病名とした患者の病理組織結果、他院からの紹介状等による確認 DIC、敗血症をDPC病名とした患者について診断基準に準拠しているか確認 詳細不明コードの使用件数報告 診療科別入院期間別割合グラフ提示
実　績	年４回の委員会開催
目標の評価	委員会、病床運営会議にてDPCコーディングについて検討を行うことができた。 適切なDPCコーディングが行われていることを確認できた。
今後の展望	DPC/PDPS傷病名コーディングテキストに沿って適切なDPCコーディングを行っていく。

文責：栗林亜希子

17）労働安全衛生委員会

構成員数	産業医、産業保健師、衛生管理者、臨床心理士、他各部署１名
2017年度 目標、方針	健診 　職員の健康意識の向上と健康の維持増進 　各種健康診断を確実に実施する 職場環境改善 　月１回職場環境ラウンド実施 　職場での労働者の安全と健康を確保し快適な職場環境をつくる メンタルヘルスケア 　メンタルヘルスケアの体制を整え、組織の風土作りを行う 　ストレスチェックの実施及び高ストレス者のフォロー体制を整備する
業務（活動） 内容、特徴等	健診 　職員の健康管理・二次健診の受診勧奨 職場環境改善 　快適な作業環境の実現と労働条件の改善を行うため各部署をラウンドし現状を把握し改善していく メンタルヘルスケア 　職場メンタルヘルスの保持・増進 　ストレスチェックの実施及び高ストレス者のフォロー
実　績	健診 　定期健診及び各種健康診断の実施、 　二次健診の受診勧奨 職場環境改善 　月１回の院内ラウンドおよびラウンド後の改善の確認 　施設管理による迅速な対応 メンタルヘルスケア 　新入職員に対するオリエンテーション実施 　ストレスチェックの実施及び高ストレス者へのフォロー実施 平成29年12月より職員保健推進室設置 　産業保健師１名配置、労働安全衛生委員会メンバーを中心に各項目に取り組む
目標の評価	健診 　各種健康診断の受診率100% 　二次健診受診勧奨 職場環境改善 　月１回職場環境ラウンドを実施、感染管理・医療安全・労働安全衛生・施設管理の視点から改善を行う メンタルヘルスケア 　ストレスチェックを今年度も８月に実施予定 　中途入職者へは労働安全衛生についてオリエンテーション実施 　新入職員へは集合研修でメンタルヘルスケアの研修実施
今後の展望	平成30年４月より職員保健推進室の本格的な活動開始 推進室は労働安全衛生委員会と協力し、委員はリンクスタッフとして委員会を通じて推進室から情報発信された内容を各部署に周知し、活動していく

文責：武石　智子

18）医療ガス安全管理委員会

構成員数	麻酔科部長：帆足　修一、薬剤師、病棟師長、各部署担当者
2017年度 目標、方針	当院で使用する医療ガスと、その関連施設の安全性と有効性を調査し、医療ガスによる事故を未然に防ぐと共に、診療活動の円滑化を図る事を目的とする 医療ガス（酸素、圧縮空気、吸引、笑気、二酸化炭素、液体窒素）の設備、及び使用状況を確認し、安全性が高く、円滑な医療を提供する
業務（活動） 内容、特徴等	・医療ガス設備保守点検を年１回実施 医療ガス設備点検を行い、故障及び劣化の修繕を速やかに行う ・医療ガス設備の改善 各部署からの要望に対する調査、及び起案書提出、現状調査を行い、問題点の改善案提示、故障及び劣化の修繕を行う ・医療ガス取扱い研修の実施 酸素ボンベ、アウトレットの操作、及び注意点の実施講習
実　績	・医療ガス設備保守点検　（H29.6.21～24　実施） ①液体酸素設備　②予備酸素マニホールド　③窒素マニホールド ④炭酸ガスマニホールド　⑤圧縮空気装置　⑥吸引装置　⑦アウトレット ⑧シャットオフバルブ　⑨警報システム ・医療ガス取扱い研修の実施 新人看護師対象（H29.4）、ワークエイド対象（H29.10） ①酸素ボンベ、アウトレットについて ②CEシステム、マニホールドシステムについて ③酸素ボンベ、アウトレットの操作、及び注意点の取扱い実技講習
目標の評価	・医療ガス設備点検での、不良個所の確認、修理対応の実施 ・酸素ボンベの取扱い研修を行う事で、修理破損件数の減少を図る
今後の展望	・設備点検を毎年行い、さらに日常点検も充実させ、老朽化設備の更新を行い安全な医療ガスの提供に努める ・各部署からの要望に対し、状況調査を行い医療ガス設備の改善を図る ・医療ガスの取扱い研修を行い、酸素流量計、アウトレット等の修理件数の減少に努める

文責：御手洗法江

19）防災・防犯・施設管理委員会

構成員数	責任者：事務長 事務局：購買・物流課長　施設管理課長 各部署代表者　１名
2017年度 目標、方針	・駐車場利用状況調査 ・BCP内容検討 ・火災訓練内容検討と説明会の実施（春・秋）
業務（活動） 内容、特徴等	・防災管理と災害時の対策に関する事項、その他防犯・施設設備の管理及び改善を目的とする
実　績	・駐車場利用場所変更（９月） ・BCP保存物資、飲料水の入替 ・火災時BCP作成 ・火災訓練内容検討と説明会の実施（春・秋） 地震・津波後の火災を想定した訓練実施及びシナリオ検討、説明会の実施 ・夜間防犯体制の強化の為、21：00以降の出入り口を選定し職員専用入り口、患者さん入口の区分け及び管理体制強化の為の入退室記録簿作成と運用
目標の評価	・エリア毎の希望駐車場利用変更を実施 ・BCP保存物資の更新と内容の見直し ・火災時BCPの作成と火災訓練時にBCPの運用確認 ・地震・津波を想定した火災訓練とシナリオ検討 BCPの見直し及び火災時を想定した対策を作成したが既存のBCPとの連動が出来ておらず、内容検討が必要 ・夜間防犯体制の強化とその対策に入退室制限と出入り口の選定実施
今後の展望	・駐車場利用状況調査と違反車両調査 ・BCP内容の検討と更新、現在緊急停電に対する対応策を作成していない為今後の課題となる ・防犯体制強化の為、警備日誌の確認と防犯・防災時の対策強化合同訓練実施

文責：木村　幸輔

20）災害対策委員会

構成員数	診療部：大久保浩一・鍋田祐介 看護部：古賀めぐみ・山村愛・田邉聖子・佐藤朋美・津曲杏菜・姫野ひろみ・ 中村聡・後藤婦士子・森三知乃・竹尾鈴夏 ICU：松田典子 検査課：窪田 栄養課：古屋知子・中野はるひ ME部：安藤昇・中田正悟 施設管理：荒牧俊祐 薬剤部：幸沙和 リハビリ：田中とも・後藤和也 放射線部：松村洋・阿南亮平 医事課：菊池祐紀 医療情報課：村田顕至・衛藤益子 ２階事務室：神矢有太・永井康文
2017年度 目標、方針	災害医療・災害時組織体制の改善
業務（活動） 内容、特徴等	災害研修会を継続的に実施。 奇数月第３土曜日の午前中（9：00～12：00） ・災害について ・START法について ・トリアージタグの取り扱い ・トランシーバーの使い方 ・机上訓練 病院全体の災害対策訓練を年１回行う。 災害対策マニュアルの見直し、災害時組織図・アクションカードの改訂を行う。
実　績	災害研修会第51回（H29.5.20）～第55回（H30.3.17）実施。平成29年度の延べ参加人数54名。第１回からの延べ参加人数572名。
目標の評価	災害研修を毎月開催から奇数月の開催へと変更した。開催回数は減少したが、開始後より572名の修了者となっている。研修内容の見直しを行うため、委員会内で、研修チームとマニュアルチームに役割分担を行い、研修内容の見直しを開始している。災害組織図・アクションカードの見直しも継続しており、バージョンアップを行っている。マニュアルはマニュアルチームを中心に改定を継続中である。
今後の展望	年１回の災害訓練、奇数月の災害研修は継続的に行い、災害対策・災害対応ができる職員を増やしていく。また、災害研修については法人外の受け入れも行いたい。 災害対策委員のスキルアップに努める。 災害時、DMAT出動時のマニュアルの整備、機材の管理、メンテナンスの徹底を継続する。

文責：村田　顕至

21）診療情報管理委員会

構成員数	24名
2017年度 目標、方針	個人情報の適切な管理の継続
業務（活動） 内容、特徴等	・個人情報（データベース）の管理方法の確認 ・新入、中途採用職員の個人情報保護についてのオリエンテーションの開催 ・個人情報保護に関する監査の実施 ・診療録監査の実施
実　績	・新入、中途採用職員のオリエンテーション ・職員に対する個人情報保護に関する研修会 ・個人情報の開示件数…54件
目標の評価	全職員対象の個人情報保護に関する研修会を行い、新入、中途採用職員に対しては入職時に個人情報保護オリエンテーションを行い、個人情報の保護について指導を行うことができた。
今後の展望	今後も引き続き個人情報の適切な取り扱いに努めたい

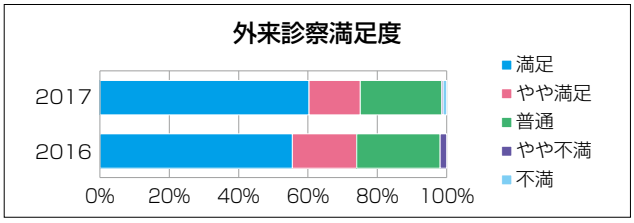
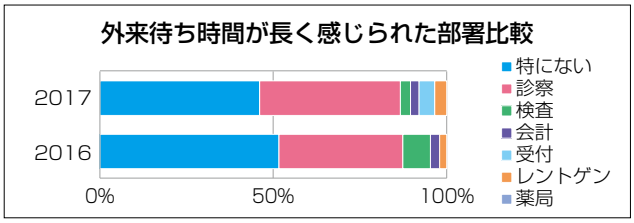
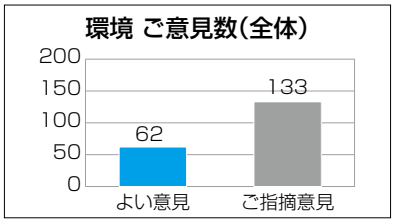
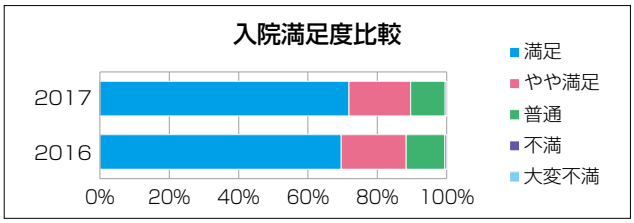
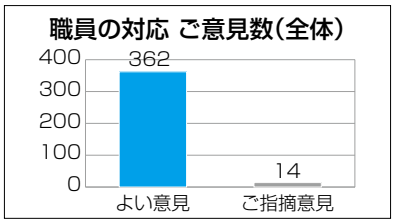
文責：栗林亜希子

22）医療情報システム管理委員会

構成員数	各部署から１～２名：30名
2017年度 目標、方針	新版リプレースした電子カルテの安定運用。 敬和会内で統合された電子カルテの施設間の運用調整を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	電子カルテを安定的に運用できるように各部署と協議し決定内容を伝達する役割を担う。不具合の修正報告や１部署だけでは決定できないような運用変更･電子カルテの設定変更の協議を行う。
実　績	電子カルテの新版へのリプレースへの対応を昨年度から継続し、2017年６月に大分岡病院・大分リハビリテーション病院のリプレース統合運用が開始となった。2017年７月には訪問看護ステーションのシステムリプレースも完了し統合された。毎月１回の全体の合同開催を継続し、大きな問題もなく統合電子カルテの運用ができていることが確認できたため、毎月の開催は６月にていったん終了した。今後は必要があれば適宜開催することとした。
目標の評価	予定通りに大分岡病院の電子カルテリプレース、大分リハビリテーション病院の電子カルテ導入、訪問看護ステーションの電子カルテリプレースが完了し、３施設のデータが統合された状態で運用できるようになった。連携時のデータの閲覧やデータの活用についても施設間での基本的な使用方法が確定され大きなトラブルもなく運用できており、調整の場としての役割は果たせた。
今後の展望	来期は豊寿苑とすばるに電子カルテが導入され大分市内の全施設のデータが統合される。運用調整の会議が必要になれば適宜会を開催したいが、必要がなければ委員会としては休止状態としておきたいと思う。

文責：村田　顕至

23）CS向上委員会

構成員数	委員長１名・各部署より１名（20部署）
2017年度 目標、方針	患者さんへより良い環境の提供 １．患者さんの声を聴く ・外来アンケート実施（１回/年）：回収枚数・回収率の増・要望への改善 ・入院アンケート回収（随時回収）：回収率の増・御褒めの件数増・要望への改善 ・ご意見箱回収（１回/週回収）：御褒めの件数増・要望への改善 ２．職員の教育・対応 ・人材育成：接遇研修の継続 ・対応：季節の行事提供 患者さんの満足度調査をはじめ、よりよい環境を提供するため、必要な事項を検討、立案し実行することを目的とし、昨年度満足度より上昇を目標とする。
業務（活動） 内容、特徴等	外来アンケート・入院アンケート・ご意見箱より、問題と課題の確認。 患者さんの満足度調査を行うとともに、各部署の接遇研修を企画。
実　績	１．患者さんの声を聴く ①外来アンケート年１回（7/24－7/28）232枚回収 回収率26.0%（前年度188枚・回収率20%）　前年度回収枚数比較　123% ②入院アンケート回収（随時）661枚回収　（前年度465枚）前年度比較　142% 回収率は13.9%（前年度10.4%） ③ご意見箱回収（週１回月曜日）48回回収：72枚（前年度48回・59枚）前年度比較122% ２．職員の教育・対応 ①接遇研修（中途採用者含む）：53名受講　受講者よりアンケート実施 メディエーション研修24名（８か月後アンケート実施） ②行事：七夕・クリスマス会開催・３階ガーデンイルミネーション点灯 ③ボランティア活動：ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けよう！ポリオワクチン34.3人分137kg　前年度比較88.9%（38.7人分/154kg） ３階ガーデン清掃・花植え実施 ④各部署よりCSへの取り組みを計画し実施確認できた。 ◎20部署がそれぞれに実施したことで院内のCS向上は上昇していると考えます。
目標の評価	外来アンケートの回収率6.0% UP、満足度60.3%（前年55.6%）4.7% UP、やや不満は0.5%（前年1.9%）1.4%減少した。不満は待ち時間について、紹介型施設・二次救急施設として限界がある。入院アンケート回収枚数42% UP、回収率は3.5% UPと職員の声掛けにより大幅に改善された。今回の入院満足度は71.9%・良いご意見は1.4%減であるが、回収枚数の増加により、110件の「褒めの言葉･感謝の言葉」を頂いた。サイネージに掲載する事で職員のモチベーションの向上に寄与した。ご意見箱の回収回数は同じで回収枚数22% UP。     

今後の展望	○アンケートやご意見箱より以下について、継続や積極的に新規に行う事で患者さんへ更に安心と満足を提供する。 ・待ち時間について、当院は紹介型病院であり二次救急施設として、待ち時間は発生することの説明の周知。 ・待ち時間情報が、タイムリーに電子カルテ上からより詳細に抽出できるようにすることで、業務の見直し改善につなげていく。 ・古くなった施設の環境整備を積極的に計画的に行う。 ・職員の接遇やコミュニケーション研修継続することで、職員も患者さん・ご家族も安心・安全な院内環境作りにつながる。

文責：後藤　　忍

24）ES向上委員会

構成員数	各部署より１名
2017年度 目標、方針	職員がより働きやすい職場環境を構築する 職員間の親睦を深める
業務（活動） 内容、特徴等	福利厚生の職員への周知 各部署からの要望事項を集約し改善案を提案する 職員間の親睦を深めるためにミニバレー大会を開催 クラブ活動のサポート
実　績	福利厚生についての各部署からの疑問点に対応 ミニバレー大会の実施 クラブ活動をサポート
目標の評価	ミニバレー大会を２回実施したが、昨年より参加者も多く、チーム力の向上へつながった クラブ活動は敬和会として活動をサポートする
今後の展望	今後も職員がモチベーション高く、勤務できるよう職員満足へつながる活動をしていく予定である ミニバレー大会は年々参加者が多くなってきており、今後も継続して開催していく

文責：武石　智子

25）からだ情報室運営委員会（図書委員会）

構成員数	委員長：仲野　悦子　　事務局：太田　有美子 医師１名、看護師１名、作業療法士１名、管理栄養士１名、臨床工学技士１名 薬剤師１名、臨床検査技師２名、事務職５名　合計13名
2017年度 目標、方針	患者及び家族の利用促進 職員の利用促進 書籍の貸出促進
業務（活動） 内容、特徴等	院内ポスター更新 発行後５年を経過した医療書籍の整理 利用者へのアンケート開始 サイネージ内容更新
実　績	2016年度 　患者及び家族の利用、71件/月 　職員利用、19件/月 　書籍の貸出、32件/月 2017年度 　患者及び家族の利用、83件/月 　職員利用、16件/月 　書籍の貸出、39件/月
目標の評価	2017年度は2016年度より職員利用件数はほぼ同様であった。患者及び家族の利用件数、書籍の貸出件数は前年を上回った。
今後の展望	「からだ情報室」の日々の管理業務は担当職員が兼務で行っている。 また、運営に関しては委員会を毎月行い、患者さんの要望や書籍の更新などの検討を行っている。 今後も、患者さんからの要望に答えられるように活動を継続していく。

文責：仲野　悦子

13 大分岡病院教育活動

1）講演・ポスター発表・講義・指導・表彰

①診療部

■ 循環器内科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/5/15 PCSK9阻害薬を臨床にてどのように使いこなすか in 別府	**当院におけるPCSK9阻害薬の使用経験** 宮本宣秀
2017/5/27 日本下肢救済・足病学会学術集会	**CLI患者の下肢血流評価　レーザースペックルフローグラフィーの臨床応用** 金子匡行、藤田、児玉、石川、浦壁、脇坂、宮本、大家、永瀬
2017/6/10 大分冠動脈研究会	**LMTの解離に対してbail outできた一例** 宮本宣秀、藤田、児玉、石川、浦壁、金子、脇坂、大家、永瀬
2017/6/10 大分冠動脈インターベンション研究会	**症例発表** 浦壁洋太、藤田、児玉、石川、金子、脇坂、宮本、大家、永瀬
2017/6/24 第122回日本循環器学会九州地方会	**保存的加療にて経過観察できた特発性肋間動脈破裂の一例** 室長祐彰、藤田、石川、浦壁、金子、宮本、永瀬
	大動脈解離起因の腎動脈閉塞に対して、ステント留置術で透析導入を回避できた一例 藤田崇史、石川、浦壁、金子、宮本、永瀬
	滲出性収縮性心膜炎を疑った一例 児玉　望、大家、脇坂
	通常型心房粗動アブレーション後に焼灼ライン近傍より心房頻拍を生じた一例 脇坂　収、児玉、大家
2017/7/6～8 第29回カテーテルアブレーション関連秋季大会	**CAAP-AFスコアはコンタクト・フォースガイドアブレーションでも適応されるか** 大家辰彦
2017/7/7 第26回日本心血管インターベンション治療学会総会	**Two Cases of stents therapy for brunch vessels from abdominal aorta involved with acute aortic dissection** 藤田崇史、石川、児玉、浦壁、金子、脇坂、宮本、大家、永瀬
2017/7/18 Medical Cooperation Meeting of Cardiology	**虚血性心疾患のトータルマネージメント～インターベンション、デバイス、心臓リハビリテーション** 宮本宣秀、藤田、児玉、石川、浦壁、金子、脇坂、大家、永瀬
2017/9/9 第25回日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会	**CLI患者の下肢血流評価　レーザースペックルフローグラフィー（LSFG）を活用できた症例** 金子匡行、藤田、児玉、石川、浦壁、脇坂、宮本、大家、永瀬

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/9/9 第25回日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会	**FFR施行中にLMTの解離を生じbail outできた一例** 宮本宣秀、藤田、児玉、石川、浦壁、金子、脇坂、大家、永瀬
2017/9/14～17 第64回日本不整脈心電学会学術集会	**A case of syncope ad inappropriate therapies from an ICD caused by atrial flutter** 脇坂　収、藤田、児玉、石川、浦壁、金子、宮本、大家、永瀬
	Clinical characteristic in patetns with persistent atrial fibrillation who identified arterial appendage filling defects by cardiac computed tomography 大家辰彦、藤田、児玉、石川、浦壁、金子、脇坂、宮本、永瀬
2017/10/7～8 第6回日本下肢救済・足病学会　九州地方会	**LSFGを活用できた血管内治療症例** 金子匡行、藤田、児玉、石川、浦壁、脇坂、宮本、大家、永瀬
2017/10/12 速水杵築地区医師会講演会	**心房細動とアブレーション治療の進歩** 大家辰彦
2017/10/29 第319回日本内科学会九州地方会	**保存的に加療し得た腹腔内臓動脈解離の二例** 児玉　望、大家、浦壁、金子、脇坂、宮本
2017/11/24～25 CPAC2017	**LSFGを活用できた血管内治療症例** 金子匡行、藤田、児玉、石川、浦壁、脇坂、宮本、大家、永瀬
2017/12/2 日本循環器学会九州地方会	**通常型心房粗動のアブレーション後に右冠動脈閉塞を来した一例** 脇坂　収、藤田、児玉、石川、浦壁、金子、宮本、大家、永瀬
2018/1/18 大分循環器漢方研究会	**胸痛症例に対する漢方の使用経験** 脇坂　収
2018/1/30 高齢者トータルケアセミナー	**高齢者心房細動アブレーションにおける抗凝固療法について** 大家辰彦
2018/2/3 第6回ハートアタック救命教室	**突然起こる心臓発作/BLS（一次救命処置）の方法と実技** 宮本宣秀
2018/2/19 Afエリアセミナー	**心房細動の診断と患者管理の向上を目指して** 大家辰彦
2018/2/21 第14回大分心血管合同カンファレンス	**臨床における脂質管理の重要性** 金子匡行、藤田、児玉、石川、浦壁、脇坂、宮本、大家、永瀬
2018/3/11 第62回JFLサッカードクターセミナー	**循環器疾患におけるスポーツ突然死** 宮本宣秀

■ 整形外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/6/22 第9回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	前十字靭帯脛骨付着部裂離骨折に脛骨プラトー骨折を合併した1例 亀井誠治
2017/11/9 第42回日本足の外科学会	糖尿病性中足部Charcot関節に対してロッキングプレートによるリスフラン関節固定術を施行した1例 亀井誠治
2018/2/23 第48回日本人工関節学会	Hana tableを用いた大腿骨頚部骨折に対するDirect anterior approachによる人工骨頭置換術の短期成績 亀井誠治

■ 形成外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/4/12～14 第60回日本形成外科学会総会・学術集会	一般演題：上下顎骨切り後に 肋軟骨移植による外鼻形成術を施行した右唇顎口蓋裂の1例 古川雅英、佐藤精一、松本健吾、澁谷博美
	Eポスター：チオ硫酸ナトリウムが著効したカルシフィラキシスの1例 佐藤精一、古川雅英、松本健吾
	ポスター：重症下肢虚血に対する遊離組織移植術の検討 佐藤精一、古川雅英、松本健吾
	一般演題：遠隔診療による積極的予防の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/4/17、5/1、5/15 平松学園　言語聴覚士科	形成外科　講義 古川雅英
2017/5/26～27 第9回日本下肢救済・足病学会・学術集会	スイーツセミナー講演：重症化予防とフットケア　ー当院における下肢末梢動脈疾患指導管理加算の影響 古川雅英、佐藤精一、松本健吾
	パネリスト：血行再建・創傷センターの立場から　下肢末梢動脈疾患重症化予防の現状と課題 古川雅英、佐藤精一、松本健吾
	シンポジスト：形成外科医からみた透析患者の下肢病変について 古川雅英、佐藤精一、松本健吾
	ビデオセッション講師：感染創に対するdebridementの実際　～いつ、どこまで開けるか～ 古川雅英、佐藤精一、松本健吾
	シンポジスト：患者にとってのアキレス腱延長術とは 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、亀井誠治
	パネリスト：遠隔連携ソフトをもちいた地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/5/26～27 第9回日本下肢救済・足病学会・学術集会	シンポジスト：創傷治癒を見越したLSFGの臨床応用 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/6/3 宮古島実践フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/6/4 石垣島実践フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/6/23 高知：膝下疼痛への集学的アプローチ	特別講演：脊髄神経刺激装置による下肢虚血痛の治療 古川雅英、佐藤精一、松本健吾
2017/6/30 博多セラピスト研究会	特別講演：巻き爪と下肢重症化予防 松本健吾
2017/7/6～7 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会	シンポジスト：患肢温存のための血行再建戦略　当院におけるバイパス手術の役割 古川雅英、佐藤精一、松本健吾、迫　秀則、立川洋一
	シンポジスト：増え続ける大切断～その適応について～ 佐藤精一、古川雅英、松本健吾、澁谷博美
2017/7/14～21 大分県立看護大学NPコース講義、実習	特定行為　縫合、結紮、NPWT 古川雅英、松　久美
2017/7/21 八条セラピスト研究会	特別講演：巻き爪と下肢重症化予防 松本健吾
2017/7/27 第15回大分実践フットサルページ研究会	座長 古川雅英
	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/7/29 福岡南実践フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/8/19 九州地区腎臓病協議会総会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/8/26 北九州実践フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/9/2 熊本実践フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/9/18 神戸フットケアセミナー	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/10/5 第12回褥瘡地域ケア研修会	座長：特別講演 古川雅英

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/10/7 第6回日本下肢救済・足病学会 九州地方会	座長x3（ファイヤーサイドセミナー、大会長講演、スポンサードセミナー） 古川雅英
	ランチョンセミナー講師：慢性創傷に対する陰圧閉鎖法の適応について 佐藤精一、古川雅英、松本健吾、宗元碩哲
	多職種症例検討会：講師 松本健吾
2017/10/13 第3回日本下肢救済・足病学会 関西地方会	シンポジスト：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/10/24 科研製薬社内研修会	特別講演：爪白癬患者の下肢重症化予防について 松本健吾
	特別講演：陰圧閉鎖療法について 佐藤精一
2017/10/28 佐賀実践フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/11/9 福岡市透析医会	特別講演：透析患者の足を守る大分岡病院の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一
2017/11/11 第105回九州・沖縄形成外科学会	一般演題：カルシフィラキシスにチオ硫酸ナトリウムを使用した1例 宗元碩哲、古川雅英、松本健吾、佐藤精一
2017/11/17 ミレニア研究会	一般演題：大分岡病院チーム医療のトピックス 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、宗元碩哲
2017/11/17 ミレニア研究会	一般演題：大分岡病院チーム医療のトピックス 佐藤精一、古川雅英、松本健吾、宗元碩哲
2017/11/17 第35回日本頭蓋顎顔面外科学会	一般演題：下顎骨形成術（下顎枝矢状分割術）における侵襲軽減の取り組みと現状 古川雅英
	ポスター：上顎骨形成術と下顎骨延長を行ったHemifacial microsomiaの1例 古川雅英
2017/12/8 糖尿病足病変予防手術研究会	死体解剖実習講義 佐藤精一
	死体解剖実習講義 松本健吾
2018/1/27 トキハ アサヒシューズ講演会	特別講演：医学的に正しい靴の選び方 松本健吾
2018/1/30 旭川医科大学外科学講座研修会	特別講演：地域医療連携への大分岡病院の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、宗元碩哲

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2018/2/9～11 第16回日本フットケア学会総会・学術集会	会長特別企画3 「地域で取り組む足病治療－多職種によるチーム医療と地域連携で医療経営の効率化を図る－」 社会医療法人敬和会大分岡病院共催プログラム 座長： 立川洋一、古川雅英 講演： 治療指針 歩いてかえろう、歩きつづけよう 佐藤精一 遠隔医療と地域連携 松本健吾 創傷ケアセンターの現状 古川雅英
2018/2/17 関西形成外科研究会	パネリスト：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、宗元碩哲
2018/3/1 第3回大分の透析患者さんの足を守る会	特別講演：大腎協アンケートまとめ～傾向とその対策～ 佐藤精一、古川雅英、松本健吾、宗元碩哲
2018/3/3 第13回大分実践フットサルベージ研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、宗元碩哲
	特別講演：大分実践フットサルベージ研究会の総括と今後の活動 古川雅英、佐藤精一、松本健吾、宗元碩哲
2018/3/24 神戸フットケア研究会	特別講演：下肢創傷における岡病院の地域医療連携の取り組み 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、宗元碩哲
2018/3/31 第26回神戸ポダイアトリミーティング	特別講演:下肢救済における真（裏）の多職種連携について 古川雅英、佐藤精一、松本健吾、宗元碩哲

■ サイバーナイフセンター

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2018/2/10 日本放射線腫瘍学会第31回高精度放射線外部照射部会学術大会（アフタヌーンセミナー2）	当院におけるサイバーナイフM6シリーズの導入と臨床使用経験 香泉和寿
2018/3/17 サイバーナイフ研究会第12回学術研究会	当院におけるサイバーナイフ更新について 香泉和寿

■ 放射線科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/5/18 第46回日本IVR学会総会	**胸腹部解離性大動脈瘤に対する腹部分枝 debranch併用ステントグラフト内挿術の検討** 大地克樹、本郷哲央、亀井律孝、清末一路、松本俊郎、森　　宣、和田朋之、穴井博文、宮本伸二、首藤利英子
	胸部大動脈瘤に対するTEVAR後type IIエンドリークに対する血管内治療によるマネージメント 本郷哲央、亀井律孝、大地克樹、松本俊郎、清末一路、首藤利英子、宮本伸二、森　　宣
	EVAR後type IIエンドリークの血管内治療：技術的側面とその限界 本郷哲央、亀井律孝、大地克樹、松本俊郎、清末一路、首藤利英子、宮本伸二、森　　宣
2017/6/30 第31回日本腹部放射線学会	**総胆管癌との鑑別を要した好酸球性胆管炎の1例** 首藤利英子、森　　宣、松本俊郎、山田康成、香泉和寿、辻　浩一、荒巻政憲
2017/9/15 第22回大分総合画像診断研究会プログラム	**総胆管癌との鑑別を要した好酸球性胆管炎の1例** 首藤利英子、森　　宣、松本俊郎、山田康成、香泉和寿、辻　浩一、荒巻政憲

■ 口腔顎顔面外科・矯正歯科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/4 2017/5 2018/3	**庄内余目病院手術指導** 松本有史
2017/5 第41回日本口蓋裂学会総会	**片側側切歯欠損に対して顎裂骨移植と空隙閉鎖で対応した片側唇顎裂症例** 小椋幹記、古川雅英、大田奈央、牧　直美、柳澤繁孝
2016/5 平松学園	**言語聴覚士科　講義** 古川雅英
2017/6 オームコ矯正セミナー2017「Muscle Winsの矯正歯科臨床」	**頸部筋の左右差を伴う混合歯列後期のIII級側方偏位症例** 小椋幹記
2017/7 第16回福岡顎変形症研究会	**手術時間短縮の取り組み** 松本有史
2017/9 第35回歯の形態学をめぐる懇話会	**急性期病院入院患者の口腔に関する実態調査** 小椋幹記
2017/10 第76回日本矯正歯科学会大会	**頚椎の脊柱側弯を伴うIII級非対称症例の外科的矯正治療** 小椋幹記、松本有史、古川雅英
2017/10 大鶴歯科医師会学術講演会	**歯・口腔の健康に矯正歯科はどのように貢献できるか** 小椋幹記
2017/10 日本口腔外科学会	**ランチョンセミナー講演：顎矯正手術におけるERAS（Enhanced Recovery After Surgery）プロトコルの適応** 松本有史
2017/11 第35回日本頭蓋顎顔面外科学会	**下顎骨形成術（下顎枝矢状分割術）における侵襲軽減の取り組みと現状** 古川雅英
	上顎骨形成術と下顎骨延長を行ったHemifacial microsomiaの1例 古川雅英
2017/12 第17回福岡顎変形症研究会	**上顎LeFortI骨切り術の合併症ー特にCCSFについて** 松本有史
2017/12 第4回大分県スポーツ医科歯科研究会特別講演会	**閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療** 小椋幹記
2017/12 第21回顎顔面インプラント学会総会・学術大会	**大分岡病院で埋入したアンカースクリューの臨床的検討** 中島康経、小椋幹記、大田奈央、兼子宏一、松本有史、柳澤繁孝
2017/12 ベトナムベンチェ省グエンデンチュウ病院	**海外医療援助（口唇・口蓋裂患者の手術）** 柳澤繁孝
2018/2 第13回九州矯正歯科学会学術大会	**ERAS（Enhanced Recovery After Surgery）プロトコルを応用した顎矯正手術の周術期管理** 松本有史、小椋幹記、古川雅英、大田奈央、中島康経
	金属アレルギー既往のあるI級叢生の成人女性に対するマルチブラケット治療症例 小椋幹記、鴛海牧子

■ 消化器センター外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/5/26～27 第54回九州外科学会	**重症急性膵炎に伴い胃、十二指腸、横行結腸に穿孔を来した1例** 田邉三思、末松俊洋、佐藤　博、荒巻政憲、衞藤孝之、小野英樹、岡　敬二
2017/5/27 第226回大分県外科医会	**後腹膜横紋筋肉腫の1例** 田村裕太郎、田邉三思、佐藤　博、荒巻政憲、岡　敬二、姫野研三
2017/6/24 第29回大分内視鏡外科研究会	**NEWSを行った胃GISTの1例** 田邉三思、蔀　由貴、佐藤　博、荒巻政憲、衞藤孝之、小野英樹、岡　敬二
2017/9/16 第11回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会	**TEP、TAPPメッシュの挿入、展開と固定** 佐藤　博

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/9/30 第227回大分県外科医会	**胆嚢神経内分泌癌の1例** 金江　剛、田邉三思、蔀　由貴、佐藤　博、荒巻政憲、姫野研三
2017/11/23～25 第79回日本臨床外科学会	**上行結腸癌の結腸右半切除後にヘパリン起因性血小板減少症を発症した1例** 和田健史、佐藤　博、田邉三思、末松俊洋、荒巻政憲、佐藤精一、高山哲志、森田雅人、迫　秀則、姫野研三
2017/12/7～9 第30回日本内視鏡外科学会	**下部消化管内視鏡下ドレナージ後に単孔式腹腔鏡下虫垂切除術を施行した膿瘍形成性虫垂炎の1例** 田邉三思、佐藤　博、蔀　由貴、末松俊洋、荒巻政憲、岡　敬二
	上腹部手術既往症例における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 佐藤　博、田邉三思、蔀　由貴、荒巻政憲、佐藤精一、岡　敬二

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/12/16 第228回大分県外科医会	**十二指腸球部癌の1例** 田邉三思、蔀　由貴、佐藤　博、荒巻政憲
2018/2/22～23 第33回日本静脈経腸栄養学会	**当院における胃切除術に対するERASの検討** 佐藤　博、田邉三思、蔀　由貴、荒巻政憲、三浦　綾、田中とも、秋吉友江、古屋知子、後藤幸代、長尾智己、堀光愛子、井上　真、小野英樹、大久保浩一、小椋幹記
2018/2/24 第12回九州ヘルニア研究会	**腹腔鏡下修復術を行った白線ヘルニアの1例** 田邉三思、蔀　由貴、佐藤　博、荒巻政憲
2018/3/24 第229回大分県外科医会	**成人腸重積症の1例** 徳光隆一、荒巻政憲、田邉三思、蔀　由貴、佐藤　博

②メディカルスタッフ

■ 看護部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/4/19 大分県看護協会 平成29年度教育研修	**新人職員研修** **呼吸・循環を整える技術（吸引）** 佐藤圭祐、有田絵梨佳、三浦　綾、萱島順子、阿部昭子
2017/4/19 平成29年度 看護力再開発講習会	**吸引の実際** 佐藤圭祐
2017/5/26 第3回下肢慢性創傷の予防・リハビリテーション研究会	**歩いてかえろう、歩き続けよう** 麻生百花
	診療看護師が係る褥瘡管理 松　久美、藤谷悦子
2017/8/5 日本地域看護学会 第20回学術集会	**自己管理型ノートの改善と地域連携によって心不全の再入院を回避できた1症例（ポスター）** 佐々木史恵、大嶋久美子
2017/10/7 第6回日本下肢救済・足病学会九州・沖縄地方会学術集会	**慢性創傷治療と診療看護師の関わり** 松　久美、藤谷悦子
2017/10/12～30 藤華医療技術専門学校	**成人看護学Ⅱ（内分泌、代謝系の疾患を持つ患者の看護）** 藤谷悦子
2017/11/19 第35回大分県病院学会	**排尿リハビリテーション・ケアチームの活動の実際～排尿自立指導に向けて** 大嶋久美子、岡田秀子、佐藤和子
	尿道カテーテル抜去後の排尿障害患者への介入～排尿自立指導から得た学び～（ポスト） 西川悦子、大嶋久美子、岡田八重子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/11/19 第35回大分県病院学会	**退院支援看護師の取り組み（ポスター）** 藤江郁代、大嶋久美子、吉住房美
2017/12/1 日本医療マネジメント学会 第16回九州・山口連合大会	**排尿リハビリテーション・ケアチームの活動の実際～排尿自立指導に向けての取り組み** 大嶋久美子、岡田八重子、佐藤和子
	救急外来での出向く医療 古賀めぐみ、山本麻由美、藤谷悦子、吉住房美
2017/12/9 平成29年度 専任教員継続研修会	**公開講座取り組み報告** 大嶋久美子
2017/12/21 コンフリクトマネジメント	**急性期病棟における身体拘束の現状** 阿部昭子
2017/12/22～30 第74回ベトナム社会主義共和国ベンチェ省医療援助ならびに学術調査・研究活動・技術移転	**ベトナム診療隊参加** 塚崎ちひろ
2018/2/10 第16回日本フットケア学会年次学術集会	**地域で取り組む足病治療一多職種によるチーム医療と地域連携** 松　久美
2018/2/10 フットケア指導士 九州地区「フットの日」	**フットケアの日　啓発活動** 森　菊代、浜野真里菜
2018/2/10 平成29年度日本手術看護学会九州地区大分分科会看護研修会	**手術室における感染管理** 池田愛美

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2018/2/17 日本医療マネジメント学会第18回大分県支部学術集会	排尿リハビリテーションチームの活動の実際～排尿自立指導に向けての取り組み～ 大嶋久美子、岡田八重子
2018/2/23 日本環境感染学会	感染対策週間イベントの取り組み（ポスター） 大嶋久美子、中村抄保子
2018/3/3 第16回大分実践フットサルベージ研究会	実技指導のファシリテーター 森　菊代、浜野真里菜

■ 医療福祉支援部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/7/7～8 第19回日本医療マネジメント学会学術集会	医療福祉支援部の営業活動の取り組み 黒枝貴洋、岡田八重子、松上　裕
2017/10/6～8 第6回日本下肢救済・足病学会九州・沖縄地方会 学術集会	大分岡病院創傷ケアチームにおけるメディカルソーシャルワーカー（MSW）の役割 麻生　恵
	静脈疾患における弾性ストッキングと弾性包帯による圧迫療法の実技 秋好泉美
2017/11/18～19 第6回「全国医療経営士実践研究大会」 広島大会	医療福祉支援部の営業活動の取り組み 黒枝貴洋、岡田八重子、松上　裕
2017/11/19 第35回大分県病院学会	フューチャーカフェの取り組み 岡田八重子
2017/12/1～2 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	医療福祉支援部の営業活動の取り組み 黒枝貴洋
	入院支援業務の実際～病棟看護師の業務負担軽減～ 岡田八重子、中村抄保子
2018/3/31 第29回Podiatryミーティング～下肢の創傷治療を考える会～	下肢救済における真（裏）の多職種連携について ～大分岡病院での実践を元に語り合おう～ 麻生　恵、古川雅英、加藤恒一、阿南悠希江

■ 薬剤部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/4 大分県病院薬剤師会医療安全対策研修会	大分岡病院における医療安全の取り組み 井上　真
2017/4 第65回日本化学療法学会学術集会	敗血症治療における抗菌薬投与の所要時間の現状と影響因子の検討 遠山泰崇
2017/5 第20回日本臨床救急医学会学術集会	当院における心臓血管外科周術期のヘパリンブリッジの現状 遠山泰崇、井上　真
2017/6 大分県医療コンフリクトマネジメント研究会 第13回定期セミナーシンポジウム	薬剤関連事故の予防と対策～調剤について～ 井上　真
2017/7 地域医療連携協議会	施設におけるお薬のトラブル～配薬のトラブル、誤薬の防止等の取り組みについて～ 井上　真
2017/8 大分県病院薬剤師会新人薬剤師研修会	薬剤師に必要な栄養療法の基礎知識 井上　真
2017/9 第12回敬和会合同学会	敗血症における抗菌薬投与開始までの時間と医療従事者の意識についての検討 遠山泰崇
2017/9 第78回九州山口薬学大会	介護老人保健施設におけるマグネシウム製剤服用患者の血清マグネシウム値の院内測定開始後の状況調査 遠山泰崇、堀光愛子、福島祐子、幸　沙和、新宮裕美、末延裕海、小野友香理、井上　真
2017/10 第9回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会 教育セミナー	薬剤師から見た輸液療法の変遷ー激変する輸液の考え方ー 井上　真
2017/11 大分県病院薬剤師会栄養輸液研修会	薬剤師に必要な栄養製剤の知識～基礎から応用まで～ 井上　真
2018/1 日本病態栄養学会 第2回NSTスキルUP講習会	薬剤師の視点で考える周術期の栄養管理　～血糖管理とOverfeeding～ 井上　真
2018/1 第23回大分県薬剤師学術大会	睡眠薬適正使用に向けた入院前睡眠状態の調査 小野友香理、遠山泰崇、堀光愛子、福島祐子、幸　沙和、新宮裕美、末延裕海、井上　真
2018/2 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	薬剤師が臨床栄養の場で活躍するために～栄養教育の現状と課題～ 井上　真

■ 検査課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/4/21～23 日本心エコー図学会 第28回学術集会	キアリ網が卵円孔を塞ぐ事により右左シャント血流の変動を示したエプスタイン奇形の一例 椎原百合香、後藤　忍、伊東佳子、他Dr
2017/10/29 大分県臨床検査技師会臨床生理部門研修会No.43	心臓超音波検査（講義とハンズオン） 大野主税
	下肢動脈超音波検査（講義とハンズオン） 伊東佳子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/11/19 第6回 九州echocardiography conference（QEC）	【パネルディスカッション】 ハートチームで診る：臨床心エコー図最前線 心筋梗塞の救急心エコー図ステップアップ：責任冠動脈分枝レベルでの責任血管を考える 椎原百合香
2017/12/23 日本超音波医学会 第27回九州地方会学術集会	transvalvular leakedgeが短期間で増悪した一例 大野主税、後藤　忍、伊東佳子、椎原百合香、他Dr

■ 総合リハビリテーション課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/5/1 第41回日本口蓋裂学会	ポスターセッション 舌運動訓練による口蓋裂幼児の異常構音固定化予防についての検討 牧　直美
2017/5/9-10 九州保健福祉大学	講義：臨床特論 佐藤浩二
2017/5/14 第52回日本理学療法学術大会	糖尿病足病変患者の在院日数に与える影響因子 今岡信介
2017/5/19 第32回大分心臓リハビリテーションセミナー	心外術後リハビリテーション 低侵襲心臓手術MICSの特徴 佐藤　明
2017/5/28 第3回下肢慢性創傷の予防・リハビリテーション研究会	下肢慢性創傷を合併した透析症例に対する生活機能への介入～作業療法士の立場から～ 加藤恒一
2017/6/22 大分市介護予防教室	講演 足から健康を考える 大塚未来子
2017/7/15 日本臨床脳神経外科学会	シンポジウム：2025年問題を踏まえて今後のチーム医療の展望 佐藤浩二
2017/7/16 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	術前の栄養状態が術後リハビリに及ぼす影響と今後の介入ついて 吉村有示
	早期復職を希望する急性心筋梗塞患者の運動耐容能に影響を与える因子 皆田渉平
	多彩な背景を持つ心不全合併下肢切断患者の1例 ー急性期病院での職種間連携ー 次山航平
2017/7/18 回復期リハビリテーション病棟協会認定セラピストマネジャー養成研修	地域スタッフとの連携と地域支援体制 佐藤浩二
2017/7/22 第24回日本義肢装具士協会学術集会	講演 下肢慢性創傷のリハビリテーション 大塚未来子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/7/29 長崎地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会研修会	大分県における地域リハビリテーション支援体制整備推進事業の現状と地域ケア会議へのリハ職派遣調整支援 佐藤浩二
2017/7/29 長崎リハビリテーション塾研修会	「その人らしい生活再建」を実現するための回復期リハでの取り組み 佐藤浩二
2017/8/5 日本作業療法士協会重点課題研修	下肢病変（下肢慢性創傷）や合併症の評価 佐藤浩二
2017/8/26 日本作業療法士協会重点課題研修	高齢者・脳卒中者の排尿自立支援の現状と課題 佐藤浩二
2017/9/17 日本フットケア学会神戸セミナー	シンポジウム 医師と理学療法士のコラボレーション 大塚未来子
	下肢慢性創傷患者のリハビリテーションのあり方 今岡信介
2017/10/7 第6回日本下肢救済足病学会九州地方会	一般演題 足圧計及び床反力計を用いた歩行計測における測定値の違いについて 大塚未来子
	スポンサードセミナー2 他職種による症例検討会 「歩行維持のためにどのように介入するべきか」 田中とも
	下腿切断術後の急性期病院における作業療法介入の経験 平石　卓
	地域住民を対象としたフットケア教室実践報告 森田年哉
	多職種による症例検討会 CLI患者の装具，義足による歩行維持 加藤恒一
	若年発症のカルシフィラキシスに対する作業療法介入の経験 ー主婦業の再獲得を目指した事例ー 益田愛海
2017/10/17 大分リエゾンシンポジウム	大分岡病院における転倒・転落の取り組みについて 安部優樹
2017/10/28 日本リハビリテーション医学会第1回秋季学術集会	急性期病院における リハビリテーションマネジメントの有用性 安部優樹
	心リハビリラウンド　活動報告 皆田渉平
2017/10/28 日本心臓リハビリテーション学会第3回九州地方会	心不全増悪予防ポスターの作成、今後の展望 竹本潤季
2017/11/4 第6回日本小児診療多職種研究会	発表 舌運動訓練による口蓋裂幼児の異常構音固定化予防 牧　直美

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/11/11 九州理学療法士・作業療法士合同学会	大腿骨近位部骨折患者のADL・歩行訓練の開始時期へ認知症が与える影響 工藤愛弓
2017/11/14 第33回大分心臓リハビリテーションセミナー	術前の栄養状態が術後リハビリに及ぼす影響と今後の介入ついて 吉村有示
	急性期心臓リハビリテーション 佐藤　明
2017/11/16 大分県作業療法士協会東部地区 事例検討会	抑うつを呈し、治療やリハビリに拒否があった症例 姫野千穂
2017/11/16 大腿骨頸部骨折連携協議会	前方アプローチ後の大腿神経麻痺症例に対するHAL®自立支援用（単関節タイプ）の使用報告 宮川真二朗
2017/11/18 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会	整形外科術後に生じたextension lagに対するHAL®自立支援用（単関節タイプ）の使用効果 宮川真二朗
2017/11/21 大分県難聴言語障害教育研究会	講演 構音障害の評価と指導 牧　直美
2017/11/25 日本臨床バイオメカニクス学会	一般演題 足圧計及び床反力計を用いた歩行計測における測定値の違いについて 大塚未来子
2017/12/2 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	一般演題（口演） 「ダイバーシティ」の意識調査から見えてきたこと 小副川直子
2017/12/3 一般社団法人大分県スポーツ学会 第9回学術大会	一般演題（口演） 大分県スポーツ学会認定スポーツ救護ナース・救護員の派遣の現状 小副川直子
2017/12/17 第20回大分県理学療法学会	早期からの理学療法介入により応用的な動作獲得に至った誤嚥性肺炎患者 工藤元輝
2018/1/21 第21回大分県作業療法学会	一般演題 当院の消化器がんにおけるがんリハビリテーションの現状と展望 荻野一正
2018/1/30 和田病院研修会	回復期リハ病棟入院基本料Iへの進化にエール 佐藤浩二
2018/2/4 日本理学療法士協会非外傷性下肢切断予防の理学療法研修会	講演 糖尿病足病変・重症下肢虚血に対する理学療法の実際 大塚未来子
2018/2/8 大分ブロック症例検討会	THA術後足関節機能に着目して 原田俊吾
2018/2/10 第16回日本フットケア学会年次学術集会	実技指導 身体機能・歩行動作から診たフットケア 大塚未来子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2018/2/11 第16回日本フットケア学会年次学術集会	シンポジウム 足を守るためのフットケアリハビリテーションの実際と課題 大塚未来子
	歩行維持の取り組み 今岡信介
	実技講師 装具処方に必要なバイオメカニクス検査と異常歩行へのアプローチ 森田年哉

■ 栄養課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/8/29 第13回心不全地域連携勉強会	心不全患者に対する栄養指導 在永美穂
2017/10/7 日本下肢救済足病変九州沖縄地方会	スポンサードセミナー 多職種による症例検討 長尾智己
2017/10/17 大分エル・エヌ・ジー株式会社衛生講話	生活習慣病予防を中心とした食事のお話 坪田尚美
2017/10/20 すばる塾	在宅高齢者の栄養管理 長尾智己
2017/11/19 大分県病院学会	心臓血管外科患者への栄養評価の実施　～MNAR-SFを用いて～ 江藤　咲
2017/11/22 院内NST勉強会	経腸栄養の基本的なお話～栄養剤の特徴を含めて～ 後藤幸代
2018/1/14 第21回日本病態栄養学会学術集会	胃癌術後食の検討 長尾智己
2018/1/20 第26回大分NST研究会	シームレスな栄養管理を目指すための取り組み～急性期から在宅まで～ 在永美穂
2018/2/22 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	NST介入患者における口腔内の現状と歯科医師連携による効果 後藤幸代

■ 総務・人事部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/7/7 第19回日本医療マネジメント学会学術総会	敬和会におけるダイバーシティの これまでの取り組み 武石智子
2017/7/21 平成29年度第1回九経連大分地域委員会	敬和会におけるダイバーシティの推進 武石智子
2017/9/17 大銀経済経営研究所研究会	ワークライフバランスの取り組み 坂本修一
2017/10/19 おおいた働き方改革トップセミナー	敬和会における働き方改革の取り組み 武石智子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/12/2 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	敬和会における働き方改革 女性職員の働き方改革からダイバーシティマネジメントへ 武石智子

■ 経理課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/12/2 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	働き方改革 ～リモートワーク導入に向けて 河野裕子、武石智子、栗秋良子、森　照明

■ 医療情報課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/10/7 第6回日本下肢救済・足病学会　九州・沖縄地方学術集会	下肢創傷患者さんの外来診療ホスピタリティ向上への取り組み 衛藤益子
2017/12/2 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	医療情報課の新人教育研修への関わりの一例 村田顕至、森　照明、栗秋良子、武石智子、井本洋子
	クラークによるカテーテルアブレーション症例登録体制の構築支援 衛藤貴絵
2018/2/17 日本医療マネジメント学会第18回大分県支部学術集会	敬和会電子カルテ統合事例報告 村田顕至

2）投稿・著書・雑誌掲載

①診療部

■ 形成外科

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本フットケア学会雑誌・15（4）・179-187・2017	下肢末梢動脈疾患重症化予防の現状と課題（血行再建・創傷治癒センターの立場から） 古川雅英、松本健吾、立川洋一
日本フットケア学会誌・15（4）・188-194・2017	遠隔連携ソフトを活用した下肢末梢動脈疾患重症化予防の取り組み 松本健吾
寄稿 大分県腎医協機関誌ゆふ　2017	透析足病とは? 松本健吾、古川雅英、佐藤精一、宗元碩哲

■ サイバーナイフセンター

誌名・巻・頁・年	題名・著者
『臨床外科』　2017年11月号（2017年10月23日発行）（アキュレイ社提携のインタビュー記事掲載）	地域医療連携による肝癌に対するサイバーナイフ治療の現状 大分岡病院 放射線科 医長 香泉和寿 大分赤十字病院 肝胆膵内科部長 成田竜一

■ 口腔顎顔面外科・矯正歯科

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本有病者歯科学会雑誌・26（4）・288-294・2016	舌部分切除後に摂食嚥下障害を認めた重度アルツハイマー型認知症患者の1例 永井悠介、松本重清

■ 消化器センター外科

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本内視鏡外科学会雑誌 23：247～251 2018	白線ヘルニアに対する腹腔鏡下メッシュ修復術後の胆嚢結石症に対し3DCTでメッシュの存在範囲を確認して単孔腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った1例 佐藤　博、末松俊洋、田邉三思、荒巻政憲、岡　敬二

②メディカルスタッフ

■ 看護部

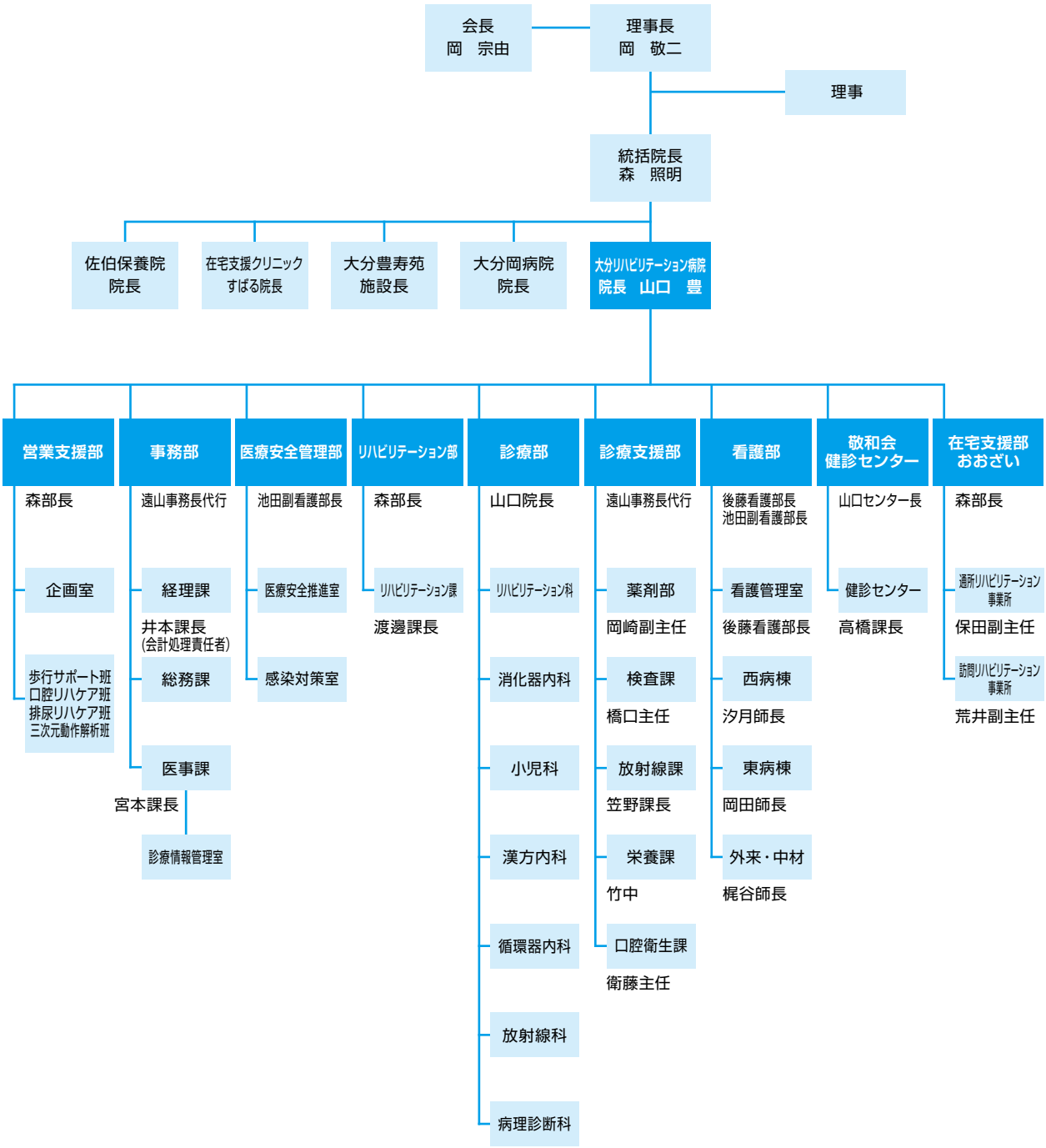
誌名・巻・頁・年	題名・著者
作業療法ジャーナル Vol.52No.5　P438 ～ P444	下肢慢性創傷の集学的治療における看護師と作業療法士の協働 麻生百花、古川雅英

■ 総合リハビリテーション課

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本医療マネジメント学会誌　Vol.18,No2,2017	急性期病院における誤嚥性肺炎患者へのリハビリテーション介入が在宅復帰に与える影響 今岡信介、佐藤浩二、森　照明
大分県理学療法学 Vol.11,2017	DPC病院におけるリハ対象患者の在院日数に関連する因子の検討 今岡信介、佐藤浩二
作業療法ジャーナル Vol.52,No.2,2018	作業療法の視点で支える下部尿路機能障害 佐藤浩二

大分リハビリテーション病院

1 病院組織図



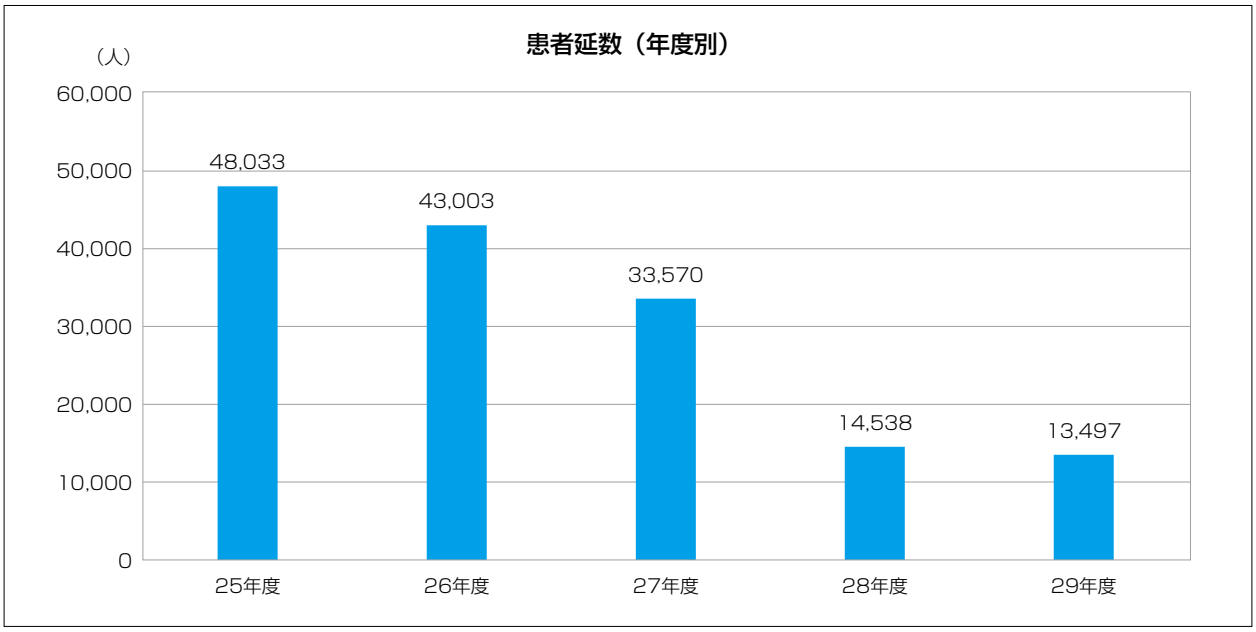
平成29年2月1日
平成29年4月1日改定
平成29年8月1日改定
平成30年2月1日改定

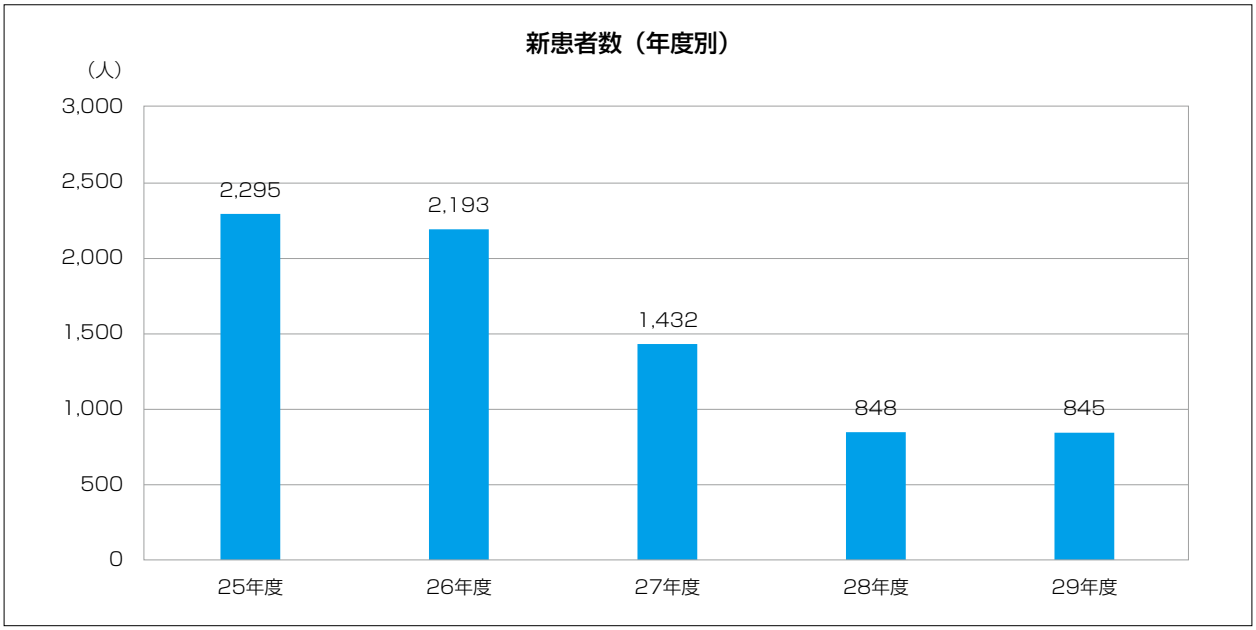
2 委員会組織図

法令事項	医療安全管理委員会	毎月第3火曜　16:00
	感染管理委員会	毎月最終金曜　16:00
	労働安全衛生委員会	毎月第3月曜　16:00
	臨床検査適正化委員会	毎月第1月曜　16:00
	診療情報管理委員会	毎月第4火曜　16:00
	個人情報保護委員会	必要時
	褥瘡対策委員会	毎月第2火曜　16:00
	給食・栄養管理委員会	毎月第2火曜　16:00
	医療ガス安全管理委員会	1回/年
特定事項	倫理委員会	幹部会/必要時・1回/年
	防災・省エネ・施設管理委員会	1回/6ヶ月
	薬事審議委員会	最終水曜　8:15/奇数月
	教育委員会	毎月第2月曜　16:00
	広報委員会	毎月第1金曜　16:00
	サービス向上委員会	毎月第3金曜　16:00
	NST委員会	毎月第2・4火曜　15:30

3 統　計

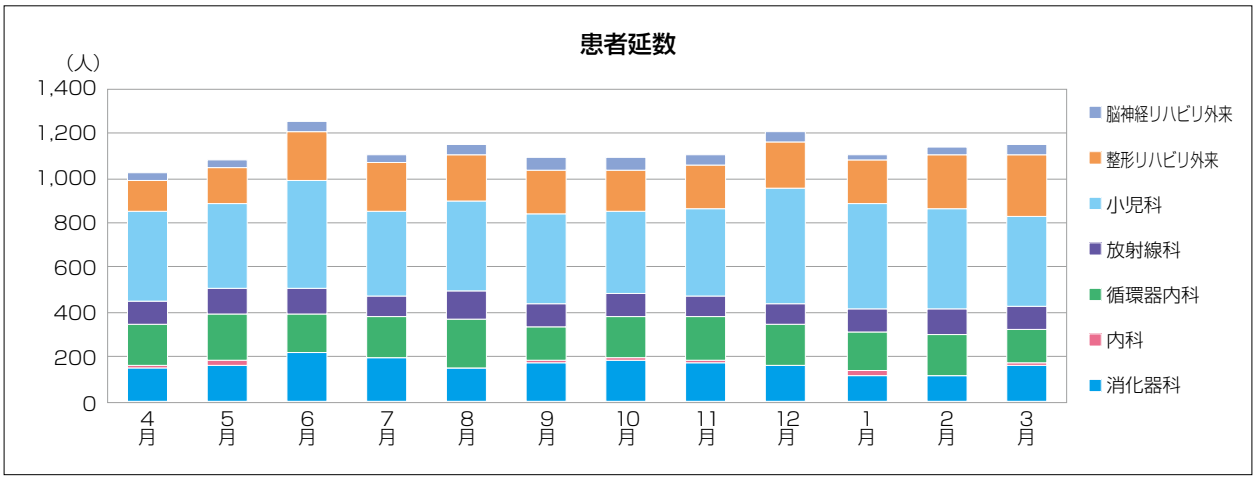
1）外来患者数

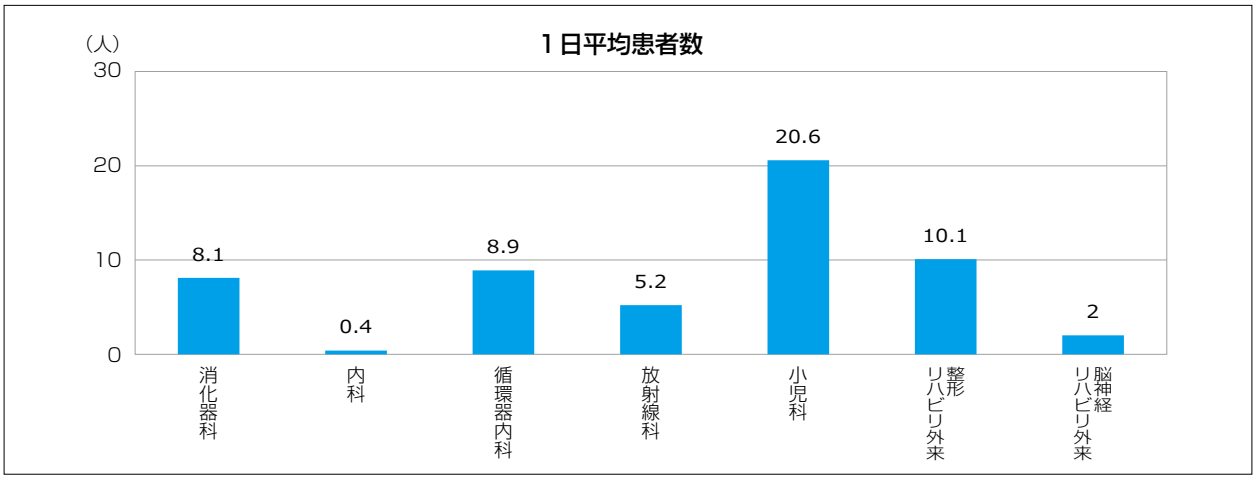

患者延数（年度別）
（人）
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
48,033
43,003
33,570
14,538
13,497
25年度
26年度
27年度
28年度
29年度


新患者数（年度別）
（人）
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
2,295
2,193
1,432
848
845
25年度
26年度
27年度
28年度
29年度

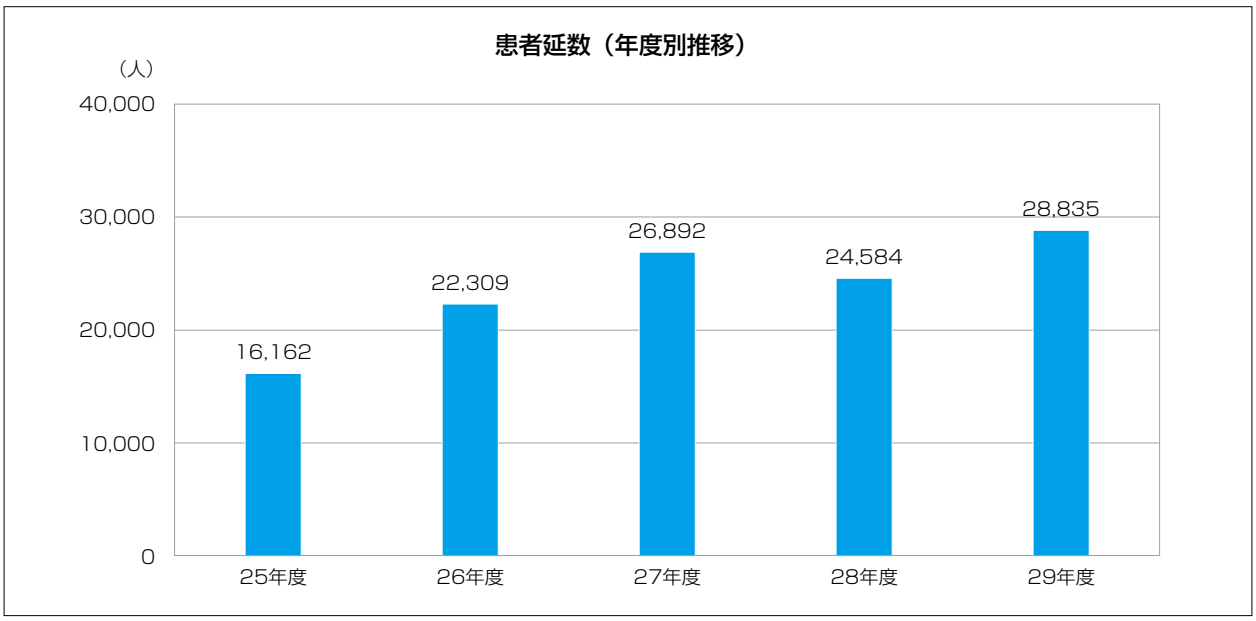
外来患者延数（診療科別）

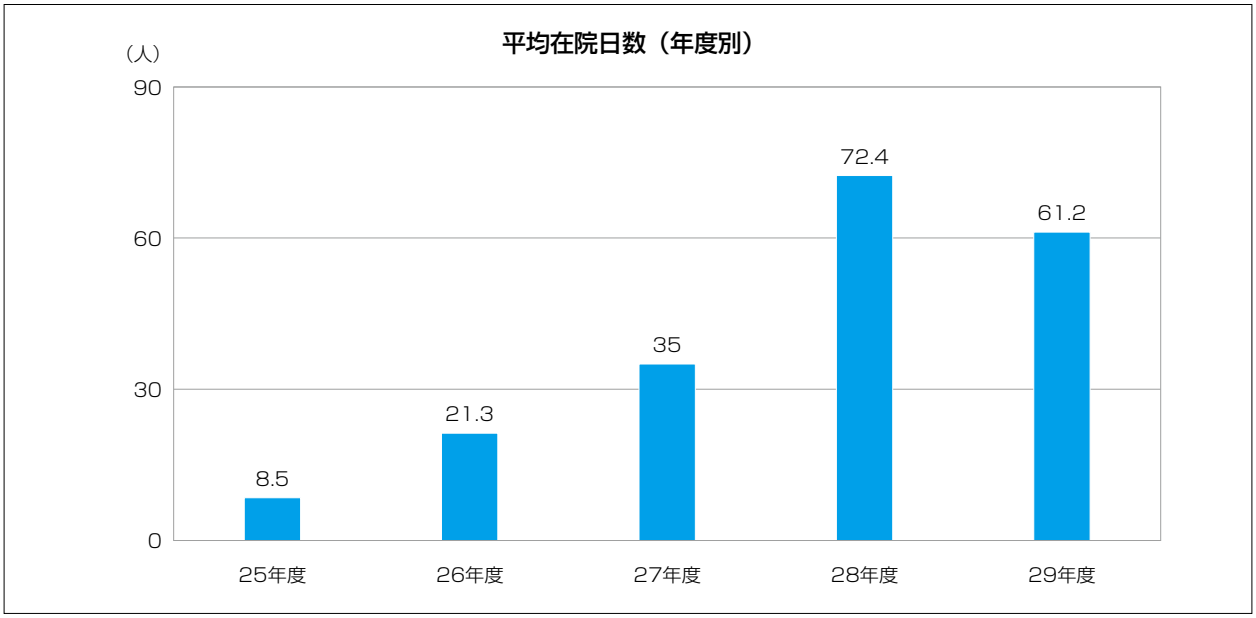
診療科		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
実日数		20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21	244
消化器科	延数	153	165	217	198	153	175	188	179	161	118	114	165	1,986
	1日平均	7.7	8.3	9.9	9.9	7.0	8.8	9.0	9.0	8.1	6.2	6.0	7.9	8.1
内科	延数	6	26	2	4	4	6	6	6	5	18	7	7	97
	1日平均	0.3	1.3	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.9	0.4	0.3	0.4
循環器内科	延数	183	202	170	179	207	155	191	199	184	172	176	147	2,165
	1日平均	9.2	10.1	7.7	9.0	9.4	7.8	9.1	10.0	9.2	9.1	9.3	7.0	8.9
放射線科	延数	111	114	119	90	128	103	102	92	86	107	117	103	1,272
	1日平均	5.6	5.7	5.4	4.5	5.8	5.2	4.9	4.6	4.3	5.6	6.2	4.9	5.2
小児科	延数	395	379	482	380	404	400	363	386	519	470	448	402	5,028
	1日平均	19.8	19.0	21.9	19.0	18.4	20.0	17.3	19.3	26.0	24.7	23.6	19.1	20.6
整形リハビリテーション科	延数	144	159	218	217	204	197	190	197	209	195	244	286	2,460
	1日平均	7.2	8.0	9.9	10.9	9.3	9.9	9.0	9.9	10.5	10.3	12.8	13.6	10.1
脳神経リハビリテーション科	延数	32	40	42	31	45	55	56	47	39	28	34	40	489
	1日平均	1.6	2.0	1.9	1.6	2.0	2.8	2.7	2.4	2.0	1.5	1.8	1.9	2.0
小計	延数	1,024	1,085	1,250	1,099	1,145	1,091	1,096	1,106	1,203	1,108	1,140	1,150	13,497
	1日平均	51.2	54.3	56.8	55.0	52.0	54.6	52.2	55.3	60.2	58.3	60.0	54.8	55.3

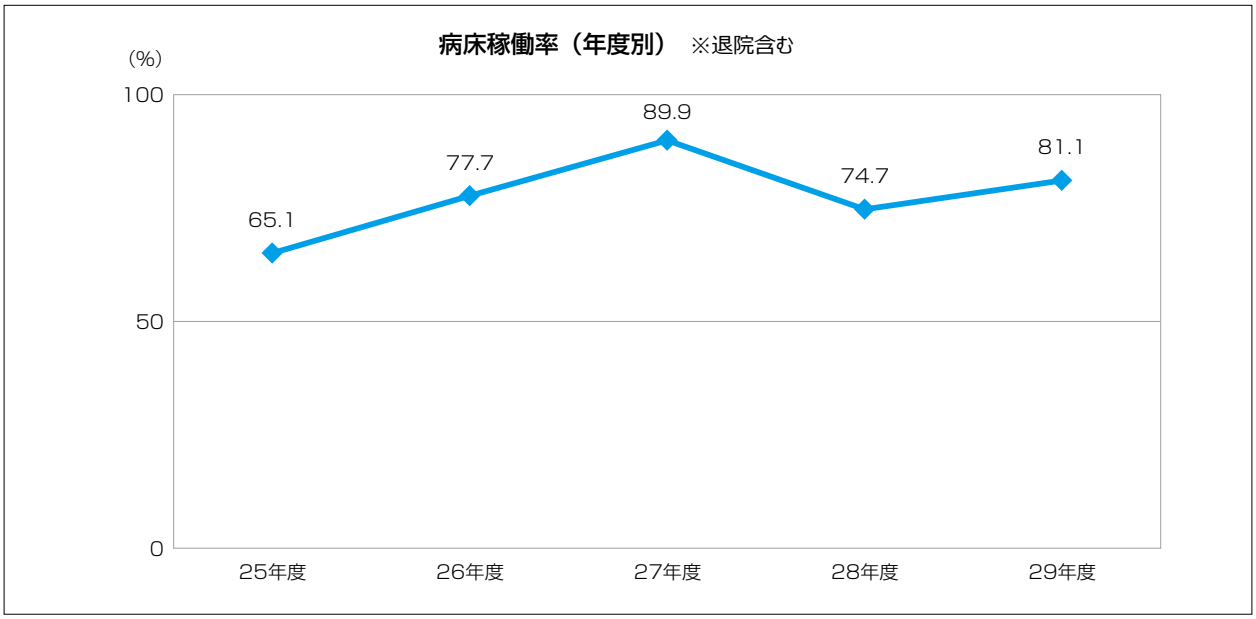




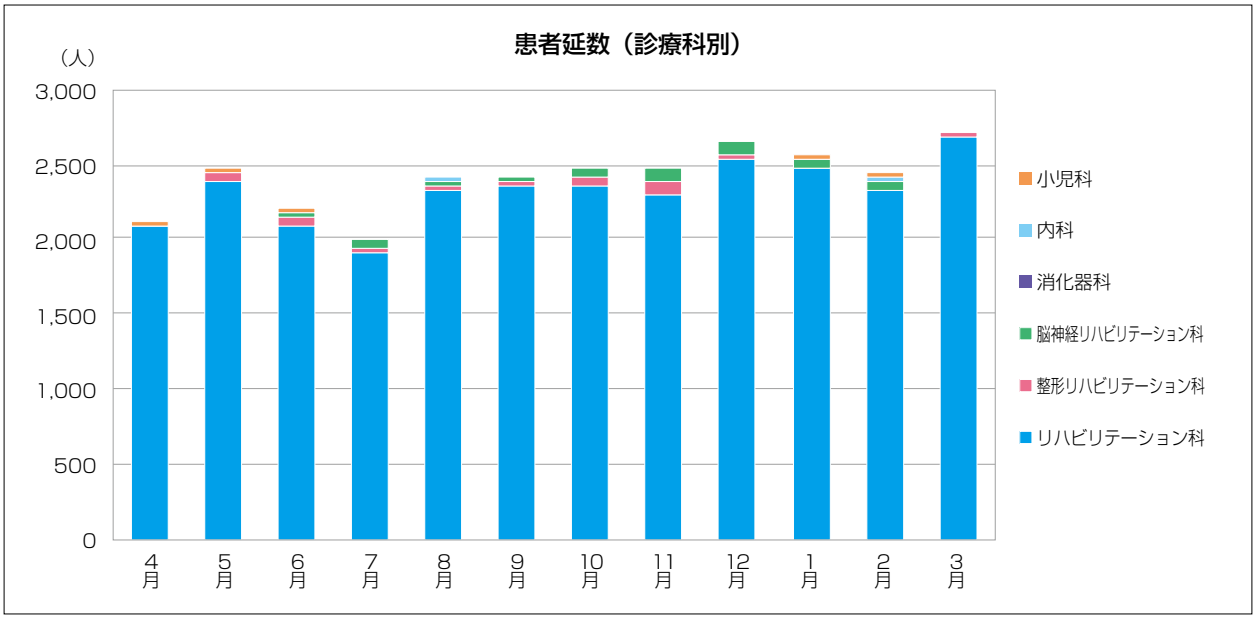
2）入院患者数

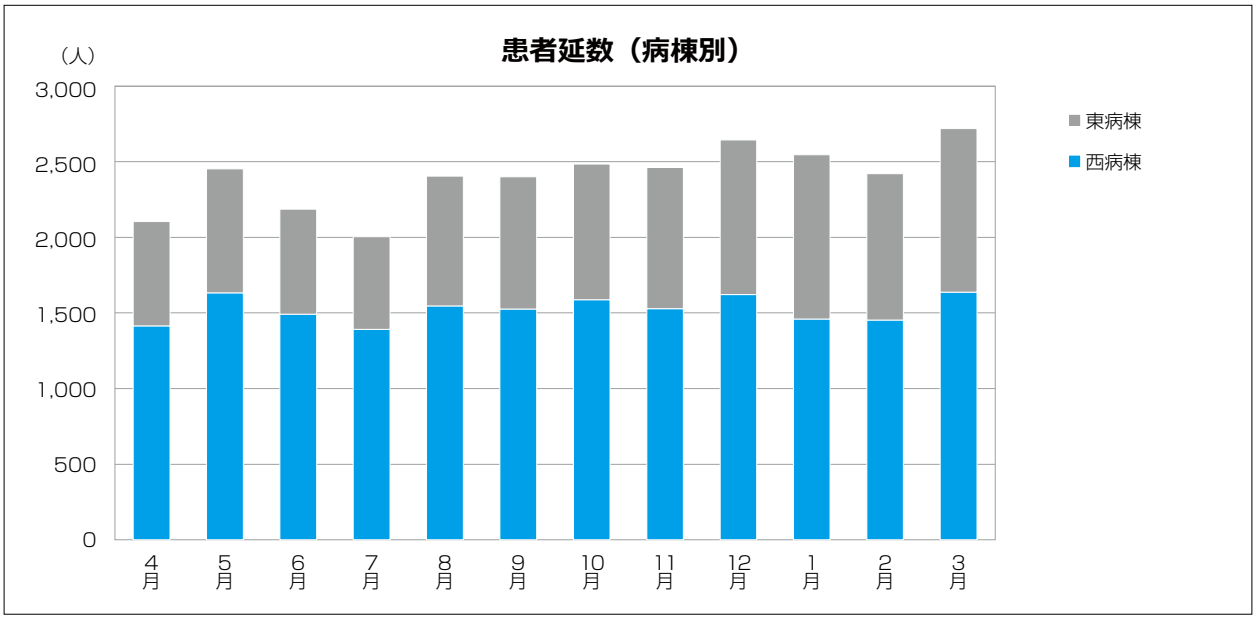

患者延数（年度別推移）
（人）
40,000
30,000
20,000
10,000
0
16,162
22,309
26,892
24,584
28,835
25年度
26年度
27年度
28年度
29年度

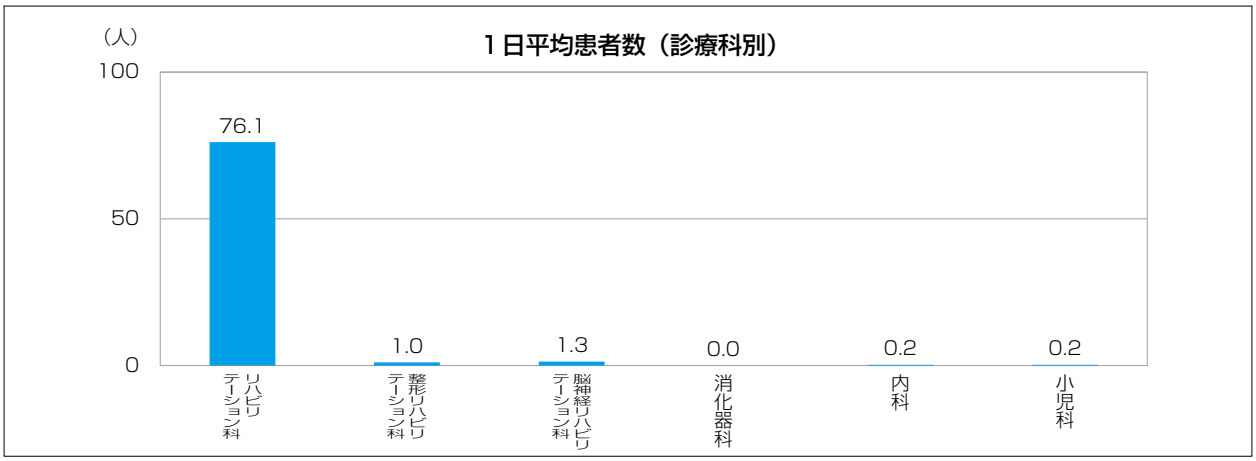

平均在院日数（年度別）
（人）
90
60
30
0
8.5
21.3
35
72.4
61.2
25年度
26年度
27年度
28年度
29年度

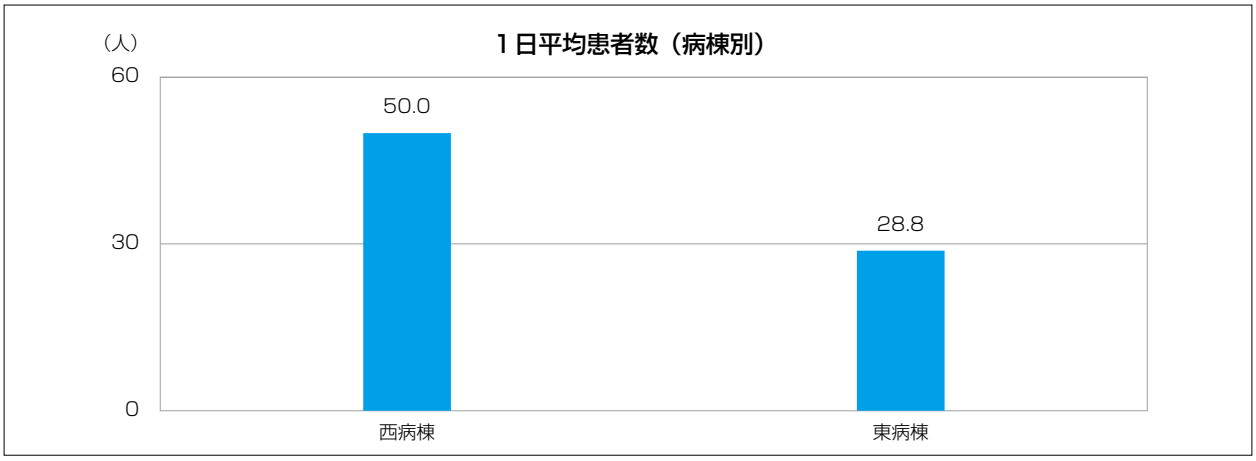

病床稼働率（年度別）　※退院含む
（%）
100
50
0
65.1
77.7
89.9
74.7
81.1
25年度
26年度
27年度
28年度
29年度

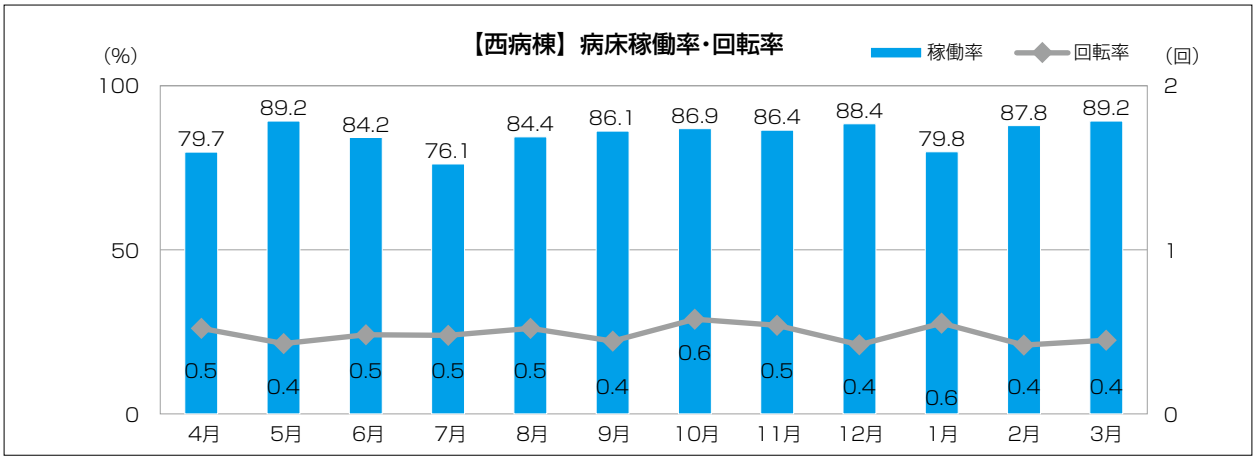
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
西病棟	病床数	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	
	在院延数	1,414	1,633	1,492	1,392	1,547	1,527	1,588	1,528	1,621	1,460	1,453	1,637	18,292
	入院患者数	29	18	25	20	29	22	31	27	21	27	20	21	290
	退院患者数	20	27	23	23	23	23	28	28	23	25	22	22	287
	病床稼働率	79.7%	89.2%	84.2%	76.1%	84.4%	86.1%	86.9%	86.4%	88.4%	79.8%	87.8%	89.2%	84.9%
	平均在院日数	57.7	72.6	62.2	64.7	59.5	67.9	53.8	55.6	73.7	56.2	69.2	76.1	64.1
東病棟	病床数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	
	在院延数	690	820	695	612	859	873	898	934	1,023	1,087	969	1,083	10,543
	入院患者数	13	11	12	14	21	12	19	19	17	17	18	17	190
	退院患者数	12	12	18	11	11	16	17	15	18	14	21	16	181
	病床稼働率	60.0%	68.8%	60.9%	51.5%	72.0%	76.0%	75.7%	81.1%	86.1%	91.1%	90.7%	90.9%	75.4%
	平均在院日数	55.2	71.3	46.3	49.0	53.7	62.4	49.9	54.9	58.5	70.1	49.7	65.6	57.2
全入院患者	病床数	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	
	在院延数	2,104	2,453	2,187	2,004	2,406	2,400	2,486	2,462	2,644	2,547	2,422	2,720	28,835
	入院患者数	42	29	37	34	50	34	50	46	38	44	38	38	480
	退院患者数	32	39	41	34	34	39	45	43	41	39	43	38	468
	病床稼働率	71.9%	81.2%	75.0%	66.4%	79.5%	82.1%	82.5%	84.3%	87.5%	84.3%	88.9%	89.9%	81.1%
	平均在院日数	56.9	72.1	56.1	58.9	57.3	65.8	52.3	55.3	66.9	61.4	59.8	71.6	61.2

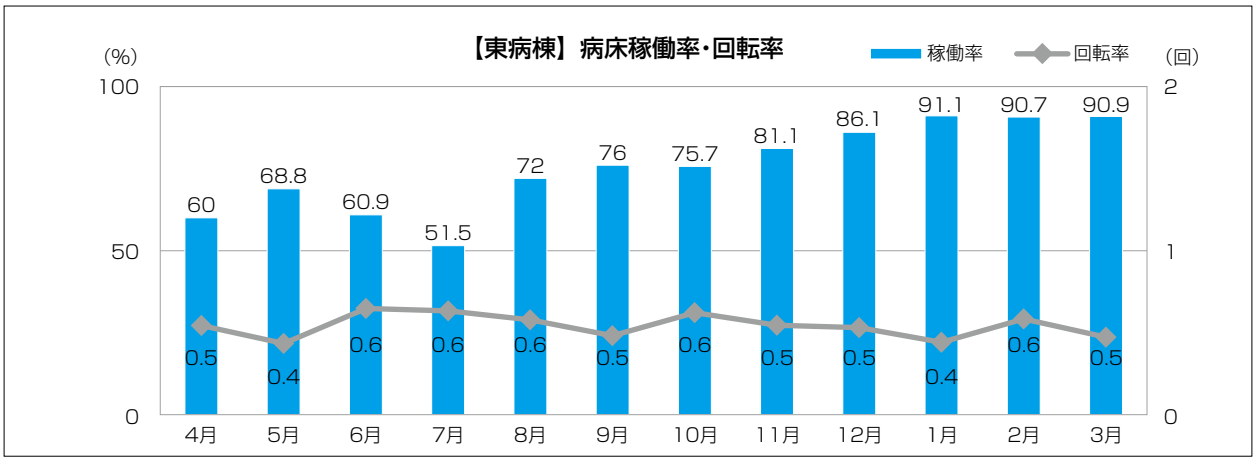





1日平均患者数（診療科別）
（人）
100
50
0
76.1
1.0
1.3
0.0
0.2
0.2
リハビリテーション科
整形リハビリテーション科
脳神経リハビリテーション科
消化器科
内科
小児科

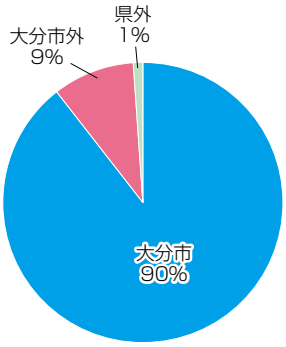

1日平均患者数（病棟別）
（人）
60
30
0
50.0
28.8
西病棟
東病棟


【西病棟】病床稼働率・回転率
稼働率
回転率
（%）
（回）
100
50
0
2
1
0
79.7
89.2
84.2
76.1
84.4
86.1
86.9
86.4
88.4
79.8
87.8
89.2
0.5
0.4
0.5
0.5
0.5
0.4
0.6
0.5
0.4
0.6
0.4
0.4
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

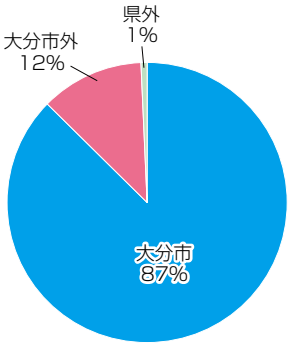

【東病棟】病床稼働率・回転率
稼働率
回転率
（%）
（回）
100
50
0
2
1
0
60
68.8
60.9
51.5
72
76
75.7
81.1
86.1
91.1
90.7
90.9
0.5
0.4
0.6
0.6
0.6
0.5
0.6
0.5
0.5
0.4
0.6
0.5
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

3）診療圏

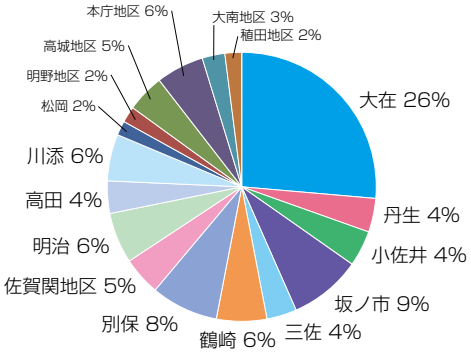
【外来】



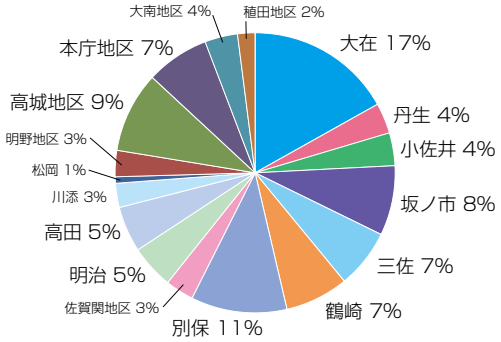
【入院】



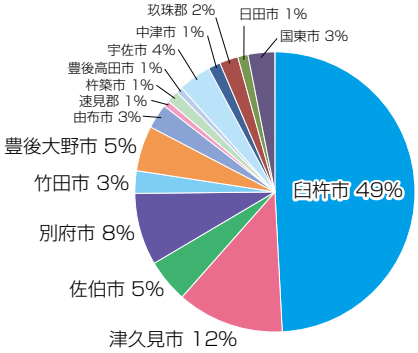
【外来】大分市内



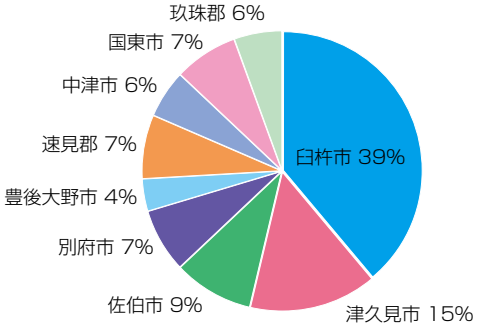
【入院】大分市内



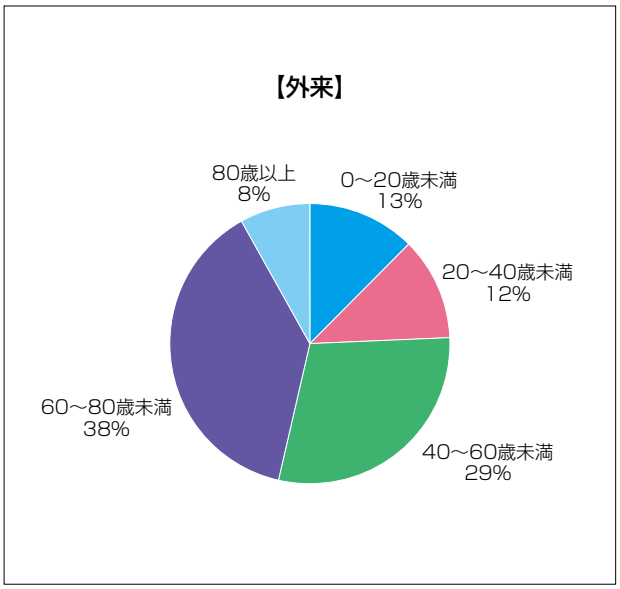
【外来】大分市外

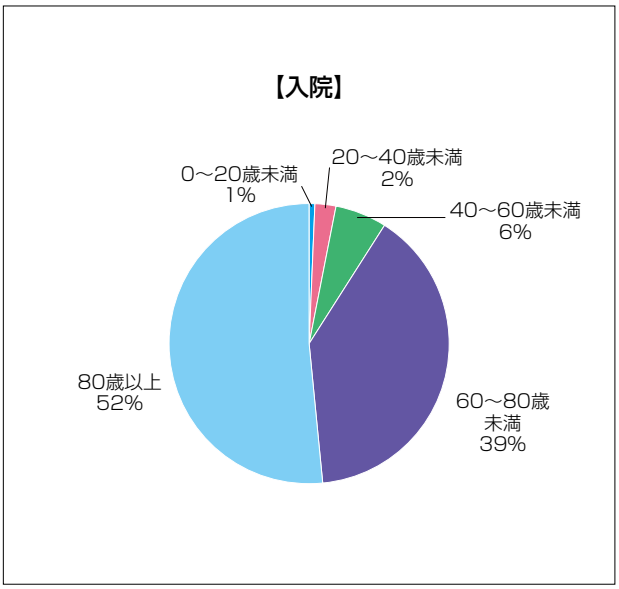


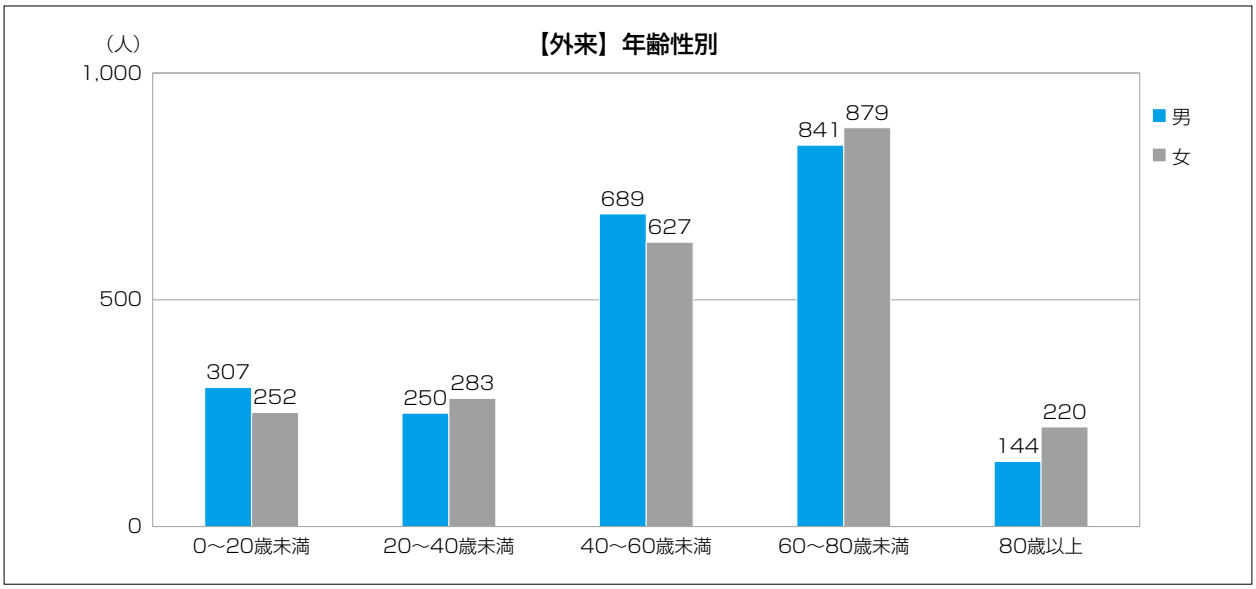
【入院】大分市外

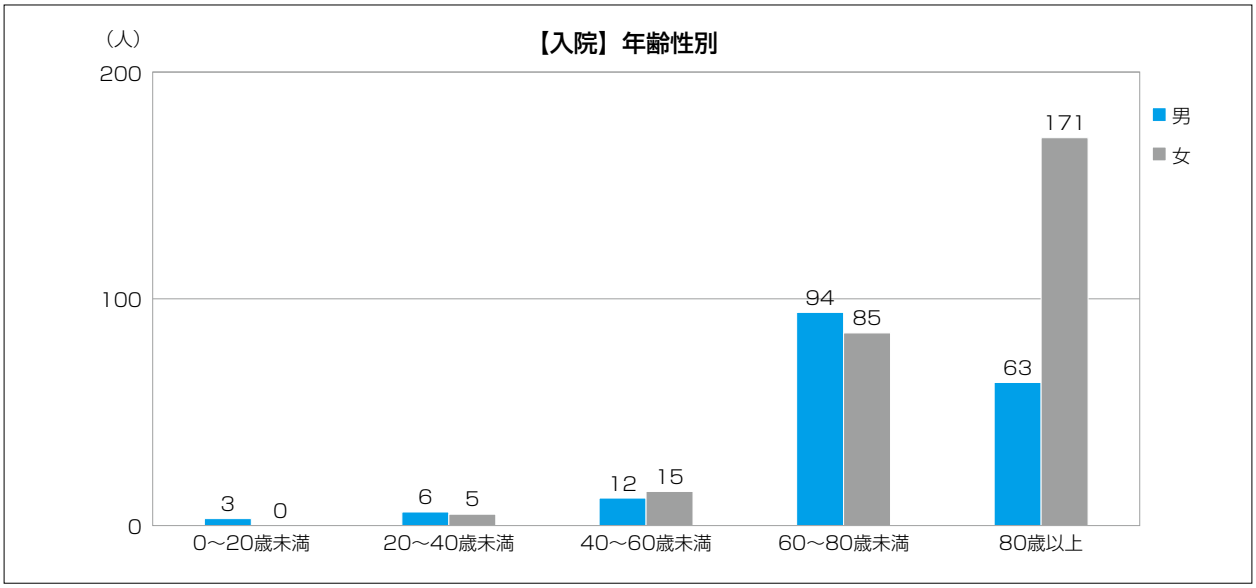


4）年齢性別


【外来】
80歳以上
8%
0～20歳未満
13%
20～40歳未満
12%
40～60歳未満
29%
60～80歳未満
38%


【入院】
0～20歳未満
1%
20～40歳未満
2%
40～60歳未満
6%
60～80歳
未満
39%
80歳以上
52%


【外来】年齢性別
（人）
1,000
500
0
307
252
250
283
689
627
841
879
144
220
0～20歳未満
20～40歳未満
40～60歳未満
60～80歳未満
80歳以上
男
女

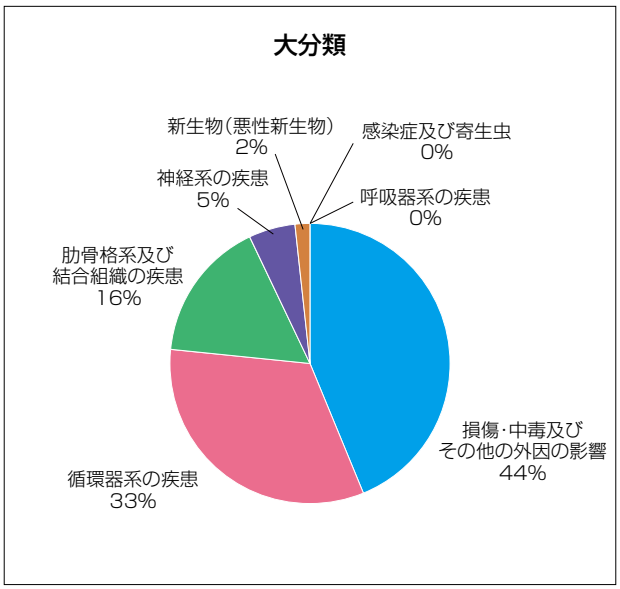

【入院】年齢性別
（人）
200
100
0
3
0
6
5
12
15
94
85
63
171
0～20歳未満
20～40歳未満
40～60歳未満
60～80歳未満
80歳以上
男
女

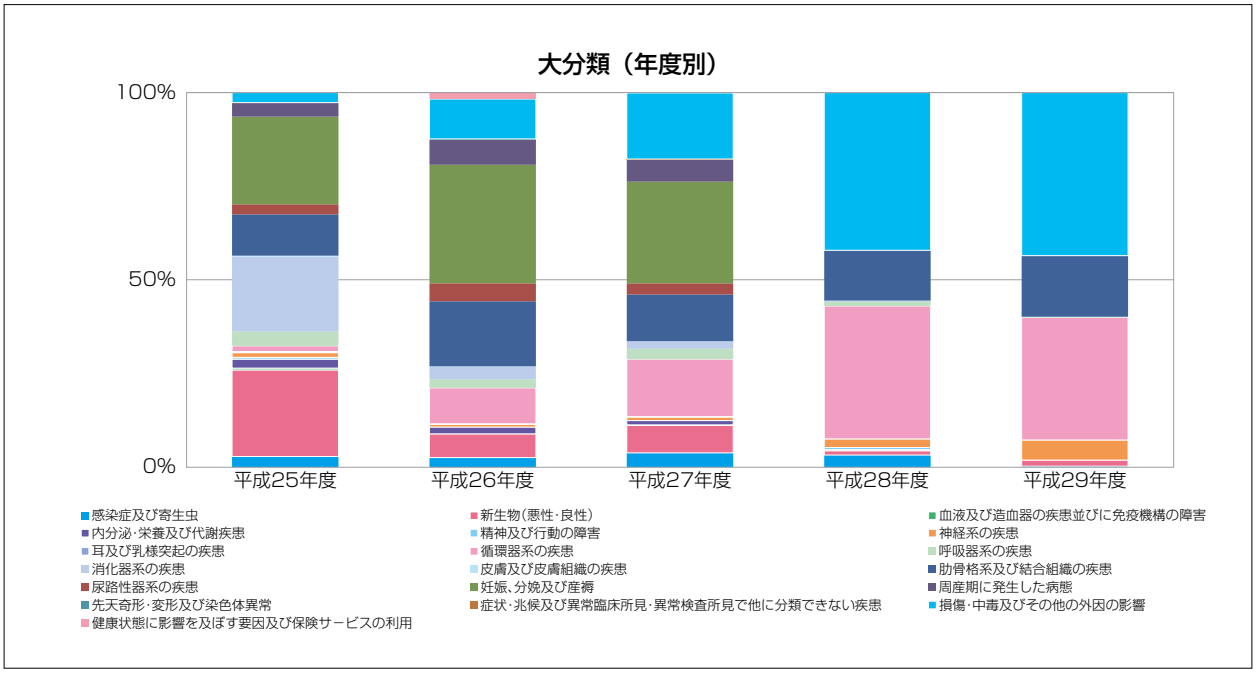
5）疾病統計

■ 大分類統計（診療科別）

コード	ICDコード	名　称	総数	リハビリテーション科	整形リハビリテーション科	脳神経リハビリテーション科	内科	小児科
Ⅰ	A00-B99	感染症及び寄生虫	1					1
Ⅱ	C00-D48	新生物（悪性新生物）	8	8				
Ⅵ	G00-G99	神経系の疾患	25	18	1	6		
Ⅸ	I00-I99	循環器系の疾患	153	145		6	2	
Ⅹ	J00-J99	呼吸器系の疾患	1					1
ⅩⅢ	M00-M99	肋骨格系及び結合組織の疾患	76	66	6	2	1	1
ⅩⅨ	S00-T98	損傷・中毒及びその他の外因の影響	204	195	3	4	1	1
合　計			468	432	10	18	4	4

※統計データは「医療資源を最も投入した傷病名」とする。





中分類統計（診療科別） 病名上位順および在院日数（H29.6～30.3）

上位順	ICDコード	病名	総数	在日数	在平均	最高在日数	最低在日数	中央在日数	平均年齢
リハビリテーション科									
1	I63	脳梗塞	87	7,768	89	180	3	84	77
2	S72	大腿骨骨折	73	2,835	39	76	1	41	82
3	S32	腰椎および骨盤の骨折	49	1,931	39	90	4	36	83
4	M62	その他の筋障害	30	2,048	68	90	18	79	81
5	I61	脳内出血	29	2,806	97	180	5	86	75
6	S 22	肋骨、胸骨および胸椎骨折	20	777	39	79	13	35	83
7	M16	股関節症	10	391	39	80	23	34	66
8	S06	頭蓋内損傷	9	1,010	112	173	28	121	71
9	M17	膝関節症	8	319	40	89	19	33	79
10	G46	脳血管疾患における脳の血管（性）症候群	5	468	94	136	38	112	77
整形リハビリテーション科									
1	M48	その他の脊椎障害	3	81	27	32	21	28	80
2	G56	上肢の単ニューロパチー	1	37	37	37	37	37	44
〃	M13	その他の関節炎	1	25	25	25	25	25	87
〃	M16	股関節症	1	37	37	37	37	37	25
〃	M17	膝関節症	1	30	30	30	30	30	91
〃	S22	肋骨、胸骨および胸椎骨折	1	32	32	32	32	32	77
〃	S82	下腿の骨折、足首を含む	1	89	89	89	89	89	30
〃	S86	下腿の筋および腱の損傷	1	33	33	33	33	33	82
脳神経リハビリテーション科									
1	I69	脳血管疾患の続発・後遺症	5	118	24	28	21	22	60
2	G12	脊髄性筋萎縮症および関連症候群	2	36	18	22	14	18	49
〃	G20	パーキンソン病	2	59	30	30	29	30	80
〃	M62	その他の筋障害	2	92	46	56	36	46	62
〃	S06	頭蓋内損傷	2	55	28	33	22	28	65
6	G40	てんかん	1	8	8	8	8	8	63
〃	G93	脳のその他の障害	1	29	29	29	29	29	29
〃	I61	脳内出血	1	24	24	24	24	24	74
〃	S00	頭部の表在損傷	1	48	48	48	48	48	91
〃	T88	外科的および内科的ケアのその他の合併症	1	50	50	50	50	50	79
内科									
1	M62	その他の筋障害	1	101	101	101	101	101	94
〃	I63	脳梗塞	1	31	31	31	31	31	64
〃	I69	脳血管疾患の続発・後遺症	1	25	25	25	25	25	70
小児科									
1	M62	その他の筋障害	1	17	17	17	17	17	89
〃	S32	腰椎および骨盤の骨折	1	32	32	32	32	32	67

6）実績

■ 内視鏡

胃･十二指腸内視鏡検査	541件
内視鏡的消化管止血術（上部）	2件
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	3件
大腸内視鏡検査	321件
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（直径２cm以上）	247件
内視鏡的結腸異物摘出術	1件
内視鏡下生検法（上・下部）	247件

■ リハビリテーション

脳血管リハビリテーション（１）	142,622単位
廃用リハビリテーション（１）	21,732単位
運動器リハビリテーション（１）	69,197単位
初期加算（リハビリテーション料）	1,330単位
早期リハビリテーション加算	20,136単位
退院時リハビリテーション指導料	378件
入院時訪問指導加算	106件
退院前訪問指導料	173件

■ 画像

MRI	998件
CT	810件
単純撮影	2,010件
MMG	80件
骨塩定量検査	46件
超音波検査（胸腹部）	340件
超音波検査（その他）	169件
超音波検査（心エコー）	111件

■〈介護〉通所リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
日数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
新規利用者数	3	4	5	4	5	6	5	6	7	6	6	4	61
修了者数	0	0	1	1	2	4	2	2	2	3	7	5	29
リハマネⅡ算定数	2	4	8	9	11	15	15	19	21	22	25	21	172
延利用者数	3	7	12	16	20	24	25	29	34	38	41	38	287
延利用日数	22	44	86	130	153	181	200	235	268	281	323	299	2,222
1日あたり利用者数	1	2	4	7	8	9	10	12	13	14	16	15	9.3

■〈介護〉訪問リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
日数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
新規利用者数	4	6	6	0	5	6	4	7	7	8	5	3	61
修了者数	1	2	8	4	4	2	9	0	3	4	8	4	49
リハマネⅡ算定数	1	2	4	3	2	4	4	4	6	10	11	10	61
延利用者数	4	9	14	6	7	9	11	9	16	21	25	20	151
延利用日数	17	34	85	34	40	49	80	28	82	110	109	119	787
1日あたり利用者数	1	2	4	2	2	2	4	1	4	6	6	6	3

■ 回復期病棟

一日平均患者数（全病棟）	入院患者数	80.3
	回復期リハビリテーション対象患者	77.5
	①）脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、脳神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態、又は義肢装着訓練を要する状態	8.4
	①*）高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頚髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	39.0
	②）大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は２肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	18.9
	③）外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	7.7
	④）大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	1.0
	⑤）股関節または膝関節の置換術後の状態	2.6
	回復期対象外患者	2.7

①	退院患者数	390
(1)	他の保険医療機関へ転院した患者等を除く患者数	331
②	在宅復帰率　(1)/①	84.9%
③	新たに入院した患者数	421
④	上記③のうち、入院時の日常生活機能評価が10点以上であった患者数	171
⑤	新規入院患者における重症者の割合　④/③	40.6%
⑥	退院患者のうち、入院時の日常生活機能評価が10点以上であった患者	153
⑦	上記⑥のうち、退院時（転院時を含む）の日常生活機能評価が、入院時に比較して４点以上改善していた患者	93
⑧	日常生活機能評価が４点以上改善した重症者の割合　⑦/⑥	60.8%

①	回復期リハビリテーションを要する状態の患者の延べ入院日数	28,305
②	上記患者に対して提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	224,004
i	心大血管疾患リハビリテーションの総単位数	0
ii	脳血管疾患リハビリテーションの総単位数	139,216
iii	廃用症候群リハビリテーションの総単位数	21,242
iv	運動器リハビリテーションの総単位数	63,546
v	呼吸器リハビリテーションの総単位数	0
③	１日当たりリハビリテーション提供単位数　②/①	7.91

FIM実績指数	45.40

7）健診センター実績

総受診者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	177	165	147	79	77	68	100	60	56	44	45	42	1,060
がん・生活習慣病健診	380	439	566	989	561	500	688	810	673	581	574	713	7,474
その他（ワクチン等）	3	0	11	14	17	8	3	62	8	22	7	6	161
総受診者数	560	604	724	1,082	655	576	791	932	737	647	626	761	8,695

検査件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡	290	321	396	351	354	264	352	376	300	298	286	356	3,944
大腸内視鏡	42	37	48	49	37	33	38	48	39	36	48	75	530
胃透視	35	53	62	75	71	42	71	48	34	25	30	28	574
マンモグラフィー	59	60	97	167	142	121	187	175	119	142	140	104	1,513
子宮頸部細胞診	35	40	59	102	102	87	120	139	105	88	86	62	1,025
上腹部・下腹部エコー	212	264	260	183	151	120	181	147	112	90	117	111	1,948
乳腺エコー	49	61	90	150	126	133	173	189	130	138	124	115	1,478
甲状腺エコー	1	3	2	1	0	0	2	2	1	0	4	1	17
心臓エコー	1	2	1	0	0	2	0	0	1	0	2	0	9
頚動脈エコー	3	4	4	7	4	2	1	7	4	5	7	6	54
胸部CT	44	72	62	36	35	28	30	47	48	42	62	69	575
腹部CT	59	50	53	31	28	26	18	44	32	35	56	61	493
頭部MRI+MRA	38	36	31	25	17	19	20	38	39	40	49	38	390
頚部MRA	6	3	5	14	3	3	4	3	5	3	6	2	57
心電図検査	379	471	579	552	499	441	512	520	377	370	359	356	5,415
肺機能検査	181	168	151	96	95	82	114	74	69	61	70	50	1,211
眼底カメラ	194	209	177	133	111	94	164	95	81	63	78	65	1,464
眼圧測定	178	166	147	84	78	74	104	68	55	46	48	45	1,093
ABI	30	60	41	38	39	38	46	43	47	40	61	55	538

二次検診		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象人数		246	285	317	279	265	211	335	325	246	202	207	204	3,122
対象件数		375	423	450	389	379	315	469	444	340	269	282	266	4,401
返信数（受診件数）		219	232	272	216	179	170	232	207	144	108	95	88	2,162
受診内訳	大分リハ	18	20	15	28	15	9	18	24	9	8	8	5	177
	岡	8	2	17	8	9	12	14	15	11	10	10	5	121
	他院	193	210	240	180	155	149	200	168	124	90	77	78	1,864

特定保健指導（初回面談）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
動機づけ支援	1	1	1	2	0	3	1	0	2	1	1	0	13
積極的支援	1	1	1	1	1	2	0	2	2	3	0	1	15
合　計	2	2	2	3	1	5	1	2	4	4	1	1	28

4　大分リハビリテーション病院　診療部活動報告

1）整形外科・リハビリテーション科

所属医師	山口　豊、中元　和孝、佐藤　崇史、井上　敏
特徴等 特筆すべき 事　柄	平成29年度より、病床数99床の稼働となり新入院患者数も増加した。 脳神経リハ、整形リハによる外来リハの開始。
実　績	＜入院＞ 新入院患者数446人、平均在院日数63.5日 FIM効率45.50（前年度36.08） ＜外来＞ 一日平均12.1人（１人１回２単位）
考　察	入院に関しては、患者数が増えたにも関わらず、在院日数は以前より短縮されリハの効果としてのFIM効率も大幅にアップしており、リハの質が確実に向上していると評価できると考える。このことにより他職種、特にソーシャルワーカーの負担は増大しており、患者の満足度を維持改善するためには今後増員が必要と考える。 外来リハに関しては着実に増えてはきているが、多くは入院から継続する患者で、まだ地域に浸透していないためか大幅な患者増には至っていない。
今後の展望	●入院に関しては90％以上の稼働、FIM効率を維持しての回復期１の継続。 ●外来に関しては、当法人の地域での役割上大きな宣伝等は行えないが、下記のような項目を検討し患者増を図っていきたい。 ・外来リハスタッフを増員させリハ枠を増やし外来リハ患者の増加を図る。 ・当院の検査機器（骨密度）などを生かした骨粗鬆症治療。 ・週何回かの時間外枠などを設けスポーツ診療を積極的に行っていく。

文責：井上　　敏

2）消化器内科

所属医師	松井照一郎 沖田　　敬
特徴等 特筆すべき 事　柄	今年度、上部消化管内視鏡、全大腸内視鏡検査、生検、大腸polypectomy、EMRに伴う大きな合併症はなく、偶発症も穿孔０例、出血０例であった。今年度は内視鏡治療後の後出血は幸い０例であり、内視鏡治療後の予防的clippingの効果が十分に発揮された結果と思われる。大分リハビリテーション病院での内視鏡検査及び治療は、例年通り高い安全性が担保されていると考えられる。
実　績	平成29年度の実績は、上部消化管内視鏡検査 4504例、下部消化管内視鏡検査971例であり、総内視鏡検査数は5,475例であった。大腸ポリープのpolypectomy及びEMRは253例であった。
考　察	内視鏡検査数は5,804（H28年度）→5,475（H29年度）例とやや減少したが、やはり外来患者の内視鏡検査数が減少したことに起因していると考えられる。ただ当院が回復期リハビリの専門病院となり、今まで機械的に行われていた、いわゆる保険診療での定期検査が大幅に減少したことは、医療経済的にも病院本体にとっても好ましいことである。健診の内視鏡検査数をいかに維持、そして増加させていくかが今後の最大の課題と考える。内視鏡治療後の予防的clippingは効果なしとの意見もあるが、昨年度の結果から、明らかに効果的であると思われた。
今後の展望	新年度は健診、人間ドックの内視鏡検査数を更に増やす努力が必要なことに加えて、二次検診をより多く拾い上げる努力も必要と考えられる。H28年度より内視鏡検査は、完全に消化器内視鏡専門医２人体制が確立しており、今後も安全でより質の高い内視鏡検査及び治療が提供可能である。今年度も慢心することなく、初心を忘れず日々の診療に従事していきたいと考えている。

文責：松井照一郎

3）漢方内科・小児科

所属医師	立花　秀俊
特徴等 特筆すべき 事　柄	漢方内科・小児科として平成26年４月から新規開設され、４年半が経過した。現代医学的検査は充分に行い、治療は漢方薬を主体に、必要な西洋薬を併用していくというスタンスで治療を行っている。またてんかんの100％発作抑制を目指している。
実　績	てんかん外来も98％の抑制に至っている（世界的にみても70%が限度である）。漢方外来も多くの患者さんで症状の改善を認めている。
今後の展望	漢方薬治療も重要であるが、食生活等の生活指導も重要で、今後簡便で分かりやすい指導内容をまとめていきたい。28年５月に新しい抗てんかん薬が発売され、１年が経過したので、発作抑制されている方の変更減量を行う。 さらに、今後てんかん協会等にその治療結果をまとめ、説明して、難治てんかんの発作抑制に貢献したい。

文責：立花　秀俊

4）放射線科

所属医師	髙司由理子
特徴等 特筆すべき 事　柄	敬和会内での機能分化により、当院はリハビリテーションと健診部門を担うことになった。それにより放射線科としては、外来の縮小に伴いCT/MRIに関しては他院からの紹介検査（いわゆるオープン検査）による検査件数が増えている。また健診に関しては病院併設型であるためCT/MRIなどの装置が充実していることに加え、常勤医師による迅速な画像診断が可能である。
実　績	平成29年度は単純写真　8,412件（うち健診6,402件）、MMG　1,578件（うち健診1,498件）、CT　1,922件（うち健診1,067件）、MRI　1,445件（うち健診447件）、透視検査　599件（うち健診574件）であった。他院からの検査依頼件数はCT　384件、MRI　833件、DEXA　５件であり、各検査数に占める割合は、CT　19.9%、MRI　57.6%、DEXA　1.1%であった。
考　察	当院の外来部門の縮小に伴い外来検査はオープン検査の占める割合が増えている。今後さらに紹介数を増やすために、各紹介医のニーズに合わせて放射線課部門だけでなく、検査課部門の検査なども加えてメニューを提案していく。 また、健診部門に関しても受診者の年齢や生活習慣に合わせて多様なメニューの中から最適な検査を組み合わせて提案することでドックの受診者数を増やすことが出来るよう、健診部門との連携も強化する必要がある。
今後の展望	オープン検査あるいは健診数の増加に対応できるよう放射線技師との連携を密にし、読影に関しても認定技師の育成および取得を経て対応数を増やせるようにしていきたい。また、健診において女性受診者の減少傾向が続いており、婦人科研修終了後に子宮がん検診の再開を予定している。

文責：髙司由理子

5）循環器科

所属医師	宮本　涼子
特徴等 特筆すべき 事　柄	月曜日から水曜日午前中の外来１人体制。当方赴任後より長期継続受診されている患者が多く、心理的サポートを含めた包括的な外来診療を心がけている。
実　績	生活習慣病の管理が中心であり、外来看護スタッフと協力しながら、問診重視の診察を行っている。 外来患者はのべ2178名。 心臓エコーは91件（うち健診９件。当方外来患者以外の検査オーダーに関しては放射線科　甲斐技師が対応している）。 ホルター心電図11件。
考察と 今後の展望	外来日の制限がある中ではあるが、微力ながら地域医療にどのように貢献できるか考えていきたい。 外来待ち時間の更なる短縮や外来待合における生活習慣病に対する配布可能な資料の充実など、今後も努力していきたい。

文責：宮本　涼子

5　大分リハビリテーション病院　部署別活動報告

1）看護部

構成員数	95名（H30.3.31時点） 助産師２名　保健師３名　看護師 57名　准看護師６名 介護福祉士15 名　検査技師１名　看護助手８名　MSW２名　事務１名
2017年度 目標、方針	［理念］ 患者・家族の笑顔と安心・安全を守るため、私たち自身も笑顔・思いやり・自己研鑽を忘れずに努力し、質の高い看護を提供します ［目標］ Ⅰ．安全で質の高い看護を提供する Ⅱ．多職種とのチーム医療推進に取り組む Ⅲ．電子カルテ移行がスムースにできる Ⅳ．病院機能評価受審準備を整える
業務（活動） 内容、特徴等	１．人材確保 ○看護師確保：産休・育休取得者の増加に伴い夜勤者確保が難しく、採用活動実施。 今年度は新卒看護師１名を採用したが、適応できず退職となった。 ○介護福祉士確保：必要数が充足しない状態は前年度より継続。採用活動とともに処遇等の改善について要望した。募集活動は継続していく。 ２．業務改善 １）業務改善プロジェクト（PJ）活動の継続 ○多職種による主体的チームアプローチを実践するため、今年度よりスタッフファシリテーター（SF）の導入を検討し、７月より開始。患者の目標達成や課題解決に向け、評価を加えながら実践中である。チーム医療推進の機能も果たしている。 ○診療報酬改定に向け、関連事項について協議し、必要書類等の改訂を事務部、リハ部とともに実施した。 ２）病院全体としての取り組み ○看護師、介護福祉士不足により病棟通常業務の遂行に支障が生じ、病院長を中心に全職種で業務の見直し、協力体制について検討。９月より検査課による病棟採血を開始した。また、夜勤者への処遇改善として12月より夜食配布を開始した。 ３．看護部会の開催 ○病院・看護部の動向を共通理解すること、働きやすい職場環境を整えることを目的に今年度より開始。多くの看護職員の参加を考慮し同じ内容で２回開催した。 ４．病院事業・活動への参画 １）新規事業の開始・協力 リハマルシェ：10月/患者・家族会：９月、12月/産業フィットネス：12月～ ２）稼働アップに向けた活動 ○入院調整会議（平日毎日）の開始：11月より院長、看護部長、病棟師長、連携担当事務で開始。 ５．電子カルテ稼働 ○前年度より稼働に向けて活動し、６月に稼働開始。患者IDも岡病院と統一化。
実　績	１．看護職員離職率６％（28年度10.4％、27年度25.2％）。前年より大幅減。 介護福祉士不足は継続し、応募も少なく苦慮している。 ２．研修参加数：延べ84人（42研修）　前年度は121人（47研修） ３．転倒発生率：4.22‰（前年度4.06） ４．褥瘡発生率：1.497％と高値（H29.６月－H30.３月） ５．インシデント・アクシデント報告数：266件（前年度211件） ６．平均稼働率：81％（前年度77.4％） ７．症状悪化による転院：39名（８％：退院患者数に占める割合）

目標の評価	Ⅰ．安全で質の高い看護を提供する 認知症ケア加算取得に向けて、ケアマニュアル作成、学習会を実施。マニュアル完成し、次年度へ継続する。人材育成の一環として主任・副主任会を中心に中途採用看護師支援マニュアルを完成させた。 Ⅱ．多職種とのチーム医療推進に取り組む 新たにSF導入について検討・実践し、評価等を行いながら実践。 また、今年度は院内でハリーコール訓練を多職種合同で実施できた。 Ⅲ．電子カルテ移行がスムースにできる 担当副部長を中心に取り組み、大きなトラブルなく稼働開始となった。 Ⅳ．病院機能評価受審準備を整える 病院方針として、H31.２月に延期となり、一旦保留とした。次年度の課題である。
今後の展望	リハビリテーション病院としての機能と質の向上および職場環境の整備 ○目標Ⅰ・Ⅱの継続による質担保 ○病院機能評価受審体制の整備 ○人材確保（CW、看護助手）によるケアの充実と職場環境整備

文責：後藤美貴代

2）リハビリテーション部

構成員数	73名（平成29年４月現在）
2017年度 目標、方針	＜リハビリテーション部　理念＞ 私たちは、地域から求められるリハビリテーションニーズに応え、そして地域包括ケアの充実に寄与するために、リハビリテーション医療の知識と技術をもってチーム医療に徹し、 １．尊厳を守るリハビリテーション ２．人間らしくいきいきと過ごしていただくためのリハビリテーション ３．新しい生活と人生を見据えたリハビリテーション ４．心が通い笑顔の生まれるリハビリテーション を提供し、患者さんやご家族のご意見ご希望を大切にした目標に向け最善のリハビリテーションを実践します。 ＜平成29年度　リハビリテーション部目標＞ １．法令順守の徹底と効果的・効率的な単位取得による安定した収益確保 ２．地域リハビリテーション拠点への準備 （ア）患者・利用者の役割と出番の実現と、責任と品格あるリハビリテーションサービスの提供 （イ）入院期間短縮（実績指数確保）への対応強化 ①根拠に基づく高い専門性に裏打ちされたリハビリテーションの提供 ②１人１テーマの実践による高い専門性確保 ③医療－介護の連携強化と在宅支援部門実績確保 ④介護領域の定期的な研修会開催の道筋作り （ウ）患者家族会の設立と活動開始 （エ）三次元動作解析システム運用の道筋作りと開始 （オ）支援学校との連携強化（ボランティアと実習生受け入れなど） （カ）小児リハビリの道筋作り ３．確実な電子カルテの運用と病院機能評価取得に向けた準備・整備 ４．転倒・転落インシデントの前年度比１割減少と感染対策の徹底

業務（活動） 内容、特徴等	1．回復期リハ病棟施設基準１の確保 2．アウトカム指標「実績指数27」を上回る成果実現 3．新訓練棟効果的活用 4．休日提供体制加算取得と365日リハの継続 5．早出、遅出の継続とこれによる病棟ADL強化 6．ロボティクスリハビリテーション（ロボットスーツHAL®、HONDA歩行ASSIST、足こぎ車椅子、メンタルコミットロボット“パロ”など）の運用継続と推進 7．排尿リハビリテーション・ケアの推進継続 8．摂食・咀嚼・嚥下センター活動継続と推進 9．歯科医師会との医科歯科連携締結と訪問歯科診療の推進 10. 急性期病院（主に河野脳神経外科）との事例検討会を通した連携強化 11. スタッフ数と職種に応じた役職及び組織作り 12. 回復期リハビリテーション病棟の取り組みの対外的な研究発表 13. スタッフ各自の研究成果等の研究発表（１人１テーマ） 14. 有給休暇の計画的取得と各スタッフのフォローアップ意識の醸成によるワークライフバランス実現に向けた取り組み
実　績	新訓練棟（リハパーク）と電子カルテ導入の滞りない運用が行えた。その効果的な設備利用もあって回復期リハ病棟施設基準１の継続した確保ができた。急遽の人員不足もあったが、予定取得単位を確保できた。夏場の患者数減少の影響もあったが、患者数が少ない時期に有休消化し、多い時期に人員が不足しないようにする等、取り組みの効果が予定単位取得につながったと考える。平成28年度に回復期リハ病棟を退院した患者390名（内、日常生活機能評価が10点以上の重症患者の割合が40.2％）、在宅復帰率85.7％、実績指数45.8といずれも高水準を確保できた。また、リハ部内での対外的な発表･研究報告も昨年度と同様に高水準であった。排尿リハケア、歩行サポート、摂食・咀嚼・嚥下の各チームも活発な活動を行い、当院の県内外への周知度を上げることができたと考える。
目標の評価	小児領域リハの道筋作りはできなかったものの、実績確保及び対外活動も含め経営への貢献ができ目標は達成できたと考える。
今後の展望	大分県地域リハ広域支援センター指定の責任を果たすべく、セラピスト83名体制で回復期リハ、外来リハ、及び在宅支援機能の更なる充実を図る。特に、スタッフの品格向上を前提とした専門性向上のための人材育成を敬和会アカデミーともタイアップして推進する。回復期リハ病棟施設基準１の継続、入院患者及び介護部門利用者の確保に努める。また、リスク管理能力向上と患者１人当たり８～９単位（年間取得単位266,000単位）を目指す。アウトカム評価である実績指数の安定的確保と、質の向上を目的に、ワークライフバランス実現に向けた徹底した業務改善を行う。まずは、重症患者も含め、早期に受け入れ、状態改善や在宅復帰をできるだけ短期間で実現し、在宅生活の継続性を確保することに邁進する。また、地域活動としてリハマルシェ、家族会、産業リハの推進及び公民館や老人クラブ活動への参画や、地場企業とも積極的に連携した医療介護領域の「もの作り」等にも貢献する。そして、これらのことを通して地域からあってよかったと言われる病院作りに貢献する。

文責：森　　淳一

3）健診センター

構成員数	医師２名、保健師３名、看護師３名、事務７名
2017年度 目標、方針	安心、安全な健診の提供と、効率的かつ受診者のニーズに対応した運用を目指す。 １、財務の視点：経費節減と費用対効果を常に意識し安定経営を目指す。 ２、顧客の視点：受診者の視点で検討・判断・行動し、受診者満足度向上を目指す。 ３、業務プロセスの視点：効率的かつ効果的な業務体制を常に意識して構築する。 ４、学習・教育・研究の視点：各種研修会・勉強会へ積極的に参加しスキルアップを目指す。
業務（活動） 内容、特徴等	健診センターでは、人間ドックを始め各種がん検診・生活習慣病健康診断・法定健康診断・特殊健康診断などを行う。 ＜トピックス＞ ４月：さゆりレディースクリニック　子宮がん検診委託契約 子宮がん検診受診者　プレゼントサービス開始 人間ドック受診者　翌年受診勧奨ハガキ送付開始 ６月：電子カルテ・新健診システム稼働 ７月：第58回　日本人間ドック学会学術大会　口述発表：高橋 企業健康講話「早くわかれば手が打てる！」～がん検診のすすめ～：小西 ９月：LOX－Index、MCIスクリーニング検査開始 受診者限定アロママッサージ割引券設置 10月：浜中サロン　施設見学・健康講話「認知症について」：小西・浦山 ジャパン・マンモグラフィーサンデー実施 12月：カフェボード設置 ３月：大分先端画像診断センター健康診断業務提携（PET-CTミニ学習会開催） みえ病院　保健師３名施設見学来訪 日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価受審 ＜健診勉強会＞ ４月　「経営強化セミナー研修会報告」：高橋 ５月　「ビジネスにおけるコミュニケーションマナー」：大城 ６月　「予防接種とワクチンについて」：高橋あ ７月　「協会けんぽ健診について」：橋本 ８月　「接遇とクレーム対応に活かせるコミュニケーションスキル」：浦山 ９月　「検体の取扱について」：橋口（検査科） 10月　「乳がん検診・アンケート結果」：後藤 11月　「安全に放射線検査を受けるために」：笠野（放射線科） 12月　「口腔と全身の関係」：衛藤（口腔衛生士） １月　「個人情報保護について」：足立 ２月　「心不全について」：小野 ３月　「洗浄・消毒・滅菌」：多々良
実　績	受診者数：8,689人 ＜内訳＞人間ドック：1,059人、がん・生活習慣病健診：7,474人、その他：156人
目標の評価	健診センター創設以来、過去最高の売上となったが、2017年度の数値目標を達成することができなかった。特に子宮がん検診委託に伴う女性受診者の減少が前年を大きく上回り、子宮がん検診、乳がん検診が共に減少した。またインフルエンザワクチンの供給不足に伴う受診制限も大きく影響した。一方でMRI検査、CT検査のキャンペーンや冬季オプションキャンペーン等を実施し一定の効果をあげ受診単価のUPへと繋がった。 保健師活動については、人間ドック受診者への保健指導は100％行った。しかし、特定保健指導については、年々減少傾向にあり今後受診勧奨などの工夫や努力が必要である。各WGの定期開催や勉強会、各種研修会等に参加し健診全体の質向上をはかる事ができた。
今後の展望	受診者の増加と社会環境の変化や企業のニーズに対応すべく、子宮がん検診の院内再開を目指すと共に、人間ドック機能評価受審を活かし、さらに健診業務の標準化と効率化、職員のスキルアップ（知識、技術、接遇等）をはかり、健診全体の質向上を行い、最良かつ質の高い健診を提供していく事とする。

文責：高橋　秀好

4）放射線課

構成員数	診療放射線技師６名（うち育児休業１名、パートタイム１名）
2017年度 目標、方針	＜理念＞ 地域医療に携わる放射線の専門家としての誇りと責任を自覚する ＜目標＞ １）財務の視点 ・撮影装置の稼働率向上を目指し収益性の向上に努めます ・コスト意識の向上に努めます ２）顧客の視点 ・撮影技術の偏りを無くし待ち時間の減少に努めます ・オープン検査の受入れを積極的に行い、紹介元医師の満足度を高めます ３）業務プロセスの視点 ・医療の質を高め、安心できる医療サービスの提供を行います ・他部署との連係を強めチーム医療を推進します ４）学習・教育・研究の視点 ・研修会に積極的に参加しスキルアップを目指します ・資格取得に励み技術向上を図ります
業務（活動） 内容、特徴等	平成29年度は技師６名でスタートし、一般撮影、CT、MRI、透視撮影、マンモグラフィー、骨密度測定、超音波検査の業務に従事する。業務内容として、健診撮影業務を中心に行なう他、他院からの紹介検査（オープン検査）の受け入れおよび佐伯保養院での撮影業務などを行なう。また、健診受診者数の増加および受診単価の向上を目標に、健診部門と協力し新規オプションの提案および勧奨などを行う。それに伴いエコー部門の補強を行ない（１名⇒２名）、エコー検査の受入れ拡大および待ち時間の減少に努める。さらにエコー部門では人材育成が進行中であり、今後２名⇒３名を目標としている。 撮影装置の稼働率を向上させるため、岡病院の医療福祉支援部と協力し紹介元医療機関へ営業活動を行い、オープン検査を積極的に受け入れた。
実　績	前年度　今年度 一般撮影　8,002 ⇒ 8,412 CT　2,014 ⇒ 1,922 MRI　1,078 ⇒ 1,445 マンモグラフィー　1,996 ⇒ 1,578 透視撮影　604 ⇒ 599 骨密度測定　360 ⇒ 460 腹部超音波検査　2,415 ⇒ 2,288 乳腺超音波　1,686 ⇒ 1,586 うち紹介件数（オープン検査）　929 ⇒ 1,222
目標の評価	昨年度に比べ外来検査数は減少したものの、健診受診者数およびオープン検査件数は増加した。その結果、年間総撮影件数は前年度と比較し103％と増加している。また、健診部門と協力しオプション強化などを行ったことで、受診単価の高いCT検査やMRI検査数を増やすことができた。撮影担当技師も撮影後に、健診受診者のニーズに合わせたオプション勧奨をするなど、一人一人が行動・実行したことも検査数増加につながったと考える。次年度も引き続き取り組んでいきたい。
今後の展望	オープン検査の獲得および健診受診者数増加に向け、引き続き他部署と協力し、オプションメニューの企画や営業活動に取り組んでいきたい。また、医療の質を高め、安心で満足な医療サービスが提供できるよう、個々人の知識と技術の習得にも努めていきたい。

文責：笠野　祐樹

5）検査課

構成員数	臨床検査技師３名
2017年度 目標、方針	＜目標＞ 診療部門・健診部門と連携しそれぞれのニーズに沿った検査技師を目指す ＜基本方針＞ １．患者さんが安心して検査を受けられる環境作り ２．迅速かつ正確な検査結果を報告する ３．目的意識を持ち、業務の効率化を図る
業務（活動） 内容、特徴等	健診・外来・入院の心電図、肺機能、眼底、眼圧、ABI検査を行う 検体検査、採血業務 月１回検査課ミーティングを行う 精度管理への参加（日本医師会、日臨技、大分県医師会） 検査機器メンテナンスの実施
実　績	生理検査 心電図関連：6,159件（健診5,419件、保険診療740件） 肺　機　能：1,219件（健診1,212件、保険診療７件） 眼 底 検 査：1,467件（健診1,465件、保険診療２件） 眼 圧 検 査：1,095件（健診1,094件、保険診療１件） ＡＢＩ検 査：　616件（健診538件、保険診療78件） 採血業務　3,007件
目標の評価	今年度は人事異動や電子カルテの導入といった新しい事があり慌ただしい状況で慣れる事に手いっぱいであった。その為、結果報告の遅延や環境整備が疎かになる事もしばしばあった。 精度管理では良好な結果を得る事が出来た。 健診センターと業務の見直しを行う事も出来、効率化を図る事が出来た。
今後の展望	新規検査機器の導入に伴い健診受診者の検査数増加につながるように検査情報の提供を行う。 一部病棟採血に関わり適正な検体採取、結果報告に努めていく。

文責：橋口　マリ

6）薬剤部

構成員数	２名
2017年度 目標、方針	１．患者さんの安心・安全を守るため、最適な薬物治療を提供する ２．常に最新の知識を習得するため、継続的な自己研鑽を行う ３．働きやすい職場環境を整える ４．病院経営に参画し、収益の維持、コスト削減に努める
業務（活動） 内容、特徴等	薬剤部２名とも病棟・調剤兼任とし積極的に病棟業務を行っている。 病棟業務は、入院してきた患者さんの持参薬鑑別、初回面談を行う他、病室へ訪問し薬剤管理指導を行っている。また初回カンファレンスにもほぼ全例参加し、薬剤師の視点からの情報提供等を行っている。調剤業務では、薬剤の管理方法や患者さんへの投薬方法によって一包化や粉砕調剤などの対応を行っている。持参薬の管理も行っており、なるべく持参薬を利用することでコスト削減に繋げている。
実　績	【調剤業務】（平成30年３月31日時点） 入院　　外来 処方箋枚数：　11,076　　院内処方箋枚数：　691 調剤件数：　25,460　　院内調剤件数：　1,115 注射箋枚数：　1,205　　注射箋枚数：　865 注射調剤件数：2,514　　注射調剤件数：　1,105 【薬剤管理指導業務】（平成30年３月31日時点） 指導料１：61　　麻薬管理加算：０ 指導料２：52　　退院時薬剤情報管理指導料：19 薬剤総合評価調整加算：２
目標の評価	１．今年度はポリファーマシー対策にも力を入れて活動してきた。医師らとの協議のもと、可能なものは減薬し、患者さんの負担軽減や医療費削減に寄与できたと考える。薬剤総合評価調整加算も、少ない件数ではあるが算定することができた。 また定期処方の支援入力、ワルファリンの検査オーダー等の支援業務も引き続き行い、定期調剤の効率化、医師の負担軽減、安全な薬物治療に寄与できたと考える。 ２．各個人で院外の勉強会へ月１回以上は参加しており、職員の知識向上と自己研鑽に努めることができた。 ３．業務の効率化に取り組み、無駄な作業を減らすことができた。 ４．積極的に後発医薬品への切替えを行い、期限切迫品の交換等岡病院に協力してもらい薬剤廃棄金額の削減ができた。
今後の展望	2018年度から摂食機能療法を算定するため、コアメンバーとして活動に参加することとなった。嚥下機能向上に向けて、薬剤の観点からリスクの評価等行うことで活動に貢献したい。また、引き続き後発品への変更や採用医薬品の整理等を行い、経費削減にも努めていく。

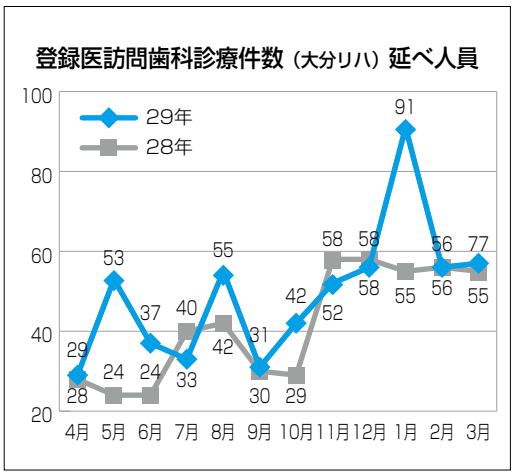
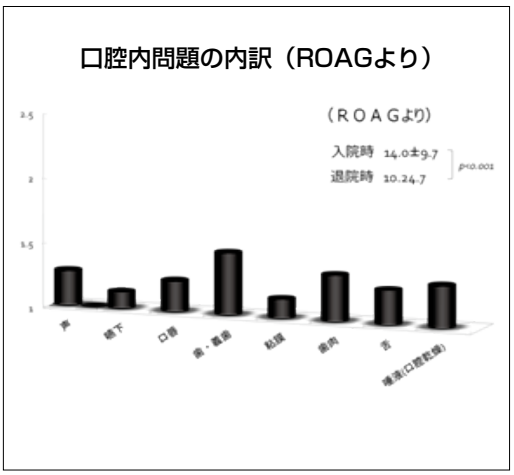
文責：岡崎　　愛

7）在宅支援部

構成員数	【通所リハビリテーション事業所】 理学療法士２名 言語聴覚士１名（リハビリテーション部と兼任） 看護師１名 介護福祉士３名 介護助手 【訪問リハビリテーション事業所】 理学療法士１名 作業療法士１名（リハビリテーション部と兼任） 言語聴覚士１名（リハビリテーション部と兼任）
2017年度 目標、方針	回復期病棟退院直後の在宅生活定着と心身機能、活動・参加における残された当面の課題を解決し、その人らしい新たな生活を獲得する基盤作りの支援をする
業務（活動） 内容、特徴等	１．リハビリテーションマネジメント加算Ⅱ取得に向けたリハビリテーションマネジメント会議の開催 ２．次年度、社会参加支援加算取得に向けての実績作り ３．事業所交流会の開催 ４．部署内、院内での勉強会の開催 ５．複数担当制の画一 ６．デイサービスとの合同勉強会の開催と顔の見える関係づくり ７．地域ケア会議の参加 ８．平成30年度介護保険診療報酬改定に向けての滞りない準備 ９．有給休暇の計画的取得とワークライフバランス実現に向けた取り組み
実　績	【通所リハビリテーション事業所】 平成29年度62名の利用者の内、29名47％が目標達成に伴い、修了となっている。修了者の平均利用期間は159日。修了後の移行先としては、デイケア９名・デイサービス13名・デイケア/デイサービス併用者４名・地域サロン/サービスなし３名であった。 【訪問リハビリテーション事業所】 平成29年度に65名の利用者利用があり、45名の方が修了し、89％が目標達成であった。平均訪問期間は、48日で訪問回数は12回であり、短期集中的な目標達成が図れた。 【在宅支援部】 地域居宅支援専門員向けの事業所発表を２回（６月と９月）、事業所交流会を１回（３月）に開催し、多くの地域スタッフとの交流を行った。近隣居宅支援事業所や地域包括支援センター、介護保険事業所などへの周知度を上げることができたと考える。 デイサービスとの合同勉強会を半年に渡り開催し、運動機能評価機能方法や介助指導を実施し顔のみえる関係作りを図ることができたと考える。
目標の評価	当院回復期リハビリテーション病棟とのシームレスな連携や地域との連携や顔の見える関係作りは行え、利用者に対して必要な時期に必要なサービスを提供し短期集中的に関わることができた。月々の利用人数に関しては、ばらつきがあり、今後より多くの利用者に利用して頂けるよう院内からの連携や広報的な活動に対して課題がある。
今後の展望	通所・訪問リハビリテーション事業所の安定的な利用者人数の確保に向け、事業所交流会や地域の介護保険サービス事業所との合同勉強会を通し、在宅支援部が利用者へ行っている支援について周知を図っていく。 また、院内でも定期的に事例紹介や勉強会を通し、在宅退院後の利用者の生活状況の変化や支援方法について情報交換を行い、大分リハビリテーション病院の質の貢献に寄与し、質の高いリハビリテーションの提供を通所・訪問リハビリテーションの視点から行う。

文責：荒井　　藍

8）口腔衛生課

構成員数	２名
2017年度 目標、方針	歯科保健指導、口腔衛生管理、口腔機能向上を、医科歯科連携を通じ、誤嚥性肺炎の防止と一人でも多くの方の笑顔のある生活をサポートする。
業務（活動） 内容、特徴等	歯科保健指導 口腔衛生管理 口腔機能向上 歯科疾患の予防 医科歯科連携調整業務 入院患者・家族への口腔ケア・リハビリの助言 職員への口腔ケア・リハビリ技術の助言 地域住民への口腔に関する啓発
実　績	口腔ケア研修５回 口腔ケア実施述べ件数3,333件 大分リハビリテーション病院　訪問歯科診療件数　（　）内は対前年度割合 　敷戸グリーン歯科　実人員136人（106％）　述べ件数320回（111％） 　おかはら歯科　実人員119人（100％）　述べ件数280回（100％） 対外的な活動　講演４件、発表１件、投稿２件　大分県福祉保健部高齢者福祉課 自立支援型ケアプラン相談会６件　資格取得２件 まとめ 口腔ケア件数及び訪問歯科診療件数は前年度に比べ増加しており（下図）、入院患者及び入所利用者の口腔問題の多さとそれにかかる歯科診療へのニーズの高さがうかがえた。口腔衛生課としては、これらのニーズに対応ができ一定の成果が上げられた（下図）ものの、歯科衛生士のマンパワー不足から入院患者への口腔ケア・リハの実践には量的な面で課題があり更なる口腔ケアなどのアプローチの必要性が窺えた。医科歯科連携については歯科医院との橋渡しとしての役割を果たすことができ良好な関係を継続できている。  
目標の評価	口腔ケア・リハ、訪問歯科件数、発表や講演など対外的な活動も前年度に比べ伸びており、また摂食嚥下の認定取得も行えたこと等から目標は達成できたと考える。
今後の展望	医科歯科連携の推進を基盤とし、口腔に問題を抱える患者や利用者の口腔環境を改善させることに努め、そのための知識・技術の更なる習得を行う。摂食嚥下の認定資格を生かし摂食機能療法算定に向けその道筋の確保と積極的な算定に向け他部署とも協業する。また、地域活動にも参画し口腔への関心（口腔リテラシー）を高める事など歯科保健領域の活動においても、講演だけでなくあらゆる機会を利用して実践する。

文責：衛藤　恵美

9）栄養課

構成員数	管理栄養士３名 株式会社エームサービス　栄養士２名、調理師２名、調理員６名
2017年度 目標、方針	院内における給食サービスに関する事項や栄養管理に関する事項について積極的に検討し、サービスの向上、栄養の適正化を図り、患者や家族、職員が笑顔になれる栄養サポートを実践する。 多職種と連携、情報共有し、よりよいチーム医療を目指す。 適切な栄養管理、指導を実践するため、専門性を向上させる。
業務（活動） 内容、特徴等	病棟での栄養管理（栄養管理計画、栄養評価、栄養指導、カンファレンスへの参加、食事内容や形態の検討・提案等） 給食管理（食数管理、衛生管理、献立確認、検食、補助食品や濃厚流動食の発注・管理、食事アンケート、行事食の提供） 入院患者個々に対し栄養評価を行い、嗜好や栄養状態を確認し、その都度他職種と連携、調整を行い、患者満足度をあげるよう努める。
実　績	一般食数　46,840食 特別食数　22,438食 濃厚流動食数　15,178食 入院時食事栄養指導件数（非算定）　41件
目標の評価	電子カルテ導入に伴って業務改善を行い、病棟業務時間の増加へつなげることができ、病室訪問や栄養評価（再評価）の件数が増加した。病棟で業務する時間が増えたことで、他職種と患者の食事や栄養状態について相談する機会も増加した。 NSTが開始したことで、低栄養患者を早期に対象として挙げ、介入できるようになった。 給食委託業者の変更や電子カルテ導入があったが、部署内で協力し、患者に影響することなく食事提供ができ、さらに行事食等で満足度向上にも繋げることができた。
今後の展望	来年度は、診療報酬改定により病棟専任の努力義務や入院栄養食事指導の包括範囲からの除外等が予定されており、実績を出していかなければならない大事な１年であると考えている。当院でも病棟専任へ取り組みや栄養指導件数の増加、定期カンファレンスへ参加し栄養管理計画についての情報共有を図る等、業務改善に努めていきたい。 通所リハビリテーションにおいても、栄養改善加算算定に向けて取り組んでいく。 また、給食委託会社エームサービスが入って１年が経つため、今年度あまり取り組めていない献立の定期的な見直しや改善ができるよう献立会議の実施やイベント食の実施を行っていきたい。

文責：竹中　智子

10）医事課

構成員数	６名
2017年度 目標、方針	財務の視点：人的・物的資源を有効活用し、業務改善を行います 顧客の視点：笑顔を絶やさず、接遇の向上を目指します 業務プロセスの視点：チーム医療を実践し、他部署との連携を強化します 学習・教育・研究の視点：向上心と向学心を持ち、スキルアップを目指します
業務（活動） 内容、特徴等	スタッフ構成／課長１名、外来係３名（診療情報管理室１名兼務）、入院係２名 業務内容は総合案内、受付業務、カルテ管理業務、入院時案内業務、診療報酬算定・請求業務、会計業務、診断書業務、相談窓口業務、未収金管理業務、診療情報管理業務、統計業務、施設基準届出業務など多岐にわたる。
実　績	入院患者延数：28,835人/年（79.0人/日　稼働日365日）　前年度比　117.3% 外来患者延数：13,497人/年（55.3人/日　稼働日244日）前年度比　92.8%
目標の評価	昨年度のリハビリ棟・病棟増改築、全病棟の回復期リハビリテーション病棟の最上位基準取得を受け、稼働率向上に寄与する資料作成や施設基準対応、部門間調整などについて業務分配を行うことで各職員のスキルアップが出来たと考える。 今年度より当院で初めての介護事業所（通所リハビリ・訪問リハビリ）立上げを通し、介護請求業務能力取得に取り組んだ。 また、６月に実施された電子カルテの導入においては、大きな不具合も発生せず、他部門とも事前調整を行いつつ対応が出来たと考える。 学習面については、来年度の診療報酬改定を見据えた研修はもちろんのこと、接遇研修、医事（事務）研修などへ各職員が自発的な参加を行うなど、向上心を持ちスキルアップを目指している。
今後の展望	来年度４月に医療・介護報酬の同時改定に向け、当院の状況を踏まえた施設基準取得の提案を行うとともに、実際の業務運用に向け他部門と十分な調整を行いたい。 また、今年度導入された電子カルテの更なる効率的利用方法を検討しつつ、職員配置については業務量の変化・偏在と適材適所を考慮しつつ、効率化と職員の能力向上を併せて可能とするような、フレキシブルな対応を目指したい。

文責：宮本恵一郎

11）経理課

構成員数	２名
2017年度 目標、方針	１．財務の視点 収入・支出の迅速・的確な状況分析を行います 健全経営のため、問題意識をもち、あらゆる提案、施策を講じます 経営上の戦略を高めます ２．顧客の視点 笑顔、おもいやりの接遇で安心を与えます 金銭に係るミスをなくし、信頼を勝ち得ます ３．業務プロセスの視点 正確・迅速・適正・安全な処理を行います 財務・管理会計の見える化を図ります 透明性の確保に努めます ４．学習・教育・研究の視点 会計・経理の専門性を向上させます 業務の枠にとらわれず、積極的に病院運営に携わります 人材育成を通して、人としての成長を促します
業務（活動） 内容、特徴等	経理業務として、出納業務、日計業務、伝票業務、銀行業務、支払集計、売上集計、未収管理、決算業務などを主に実施。 また、経営管理業務として、予算作成・管理、財務管理、管理会計、経理報告、各種シミュレーション・資料作成などを行う。 その他、電話交換や非常勤医師報酬計算、401K・マイナンバー関連、出張手配・旅費の管理、入職時諸対応、ユニホームの管理など、総務、人事など事務全般におよぶ。
実　績	１．電子カルテ導入に伴う業務見直し ２．事業計画に基づいた予算管理の実行 ３．公認会計士指摘による会計処理の変更 ４．介護事業の経理処理開始 ５．人間ドック機能評価対応　など
目標の評価	１．財務の視点 ほぼ計画に基づいた予算管理が行えた。リアルタイムに経営状況を提示し、収益確保への対策を促すことができた。 ２．顧客の視点 引き続き接遇の面では十分な対応が図れ、院内の環境整備にも力を入れた。金銭に係るミスもなく、目標は十分達成できた。 ３．業務プロセスの視点 電子カルテの導入、介護事業の開始、公認会計士監査に伴う会計処理の厳格化等業務環境の変化はあったが、スムーズに対応することができた。 ４・学習・教育・研究の視点 それぞれ研修の機会を設けることができた。人材育成の観点から、継続的かつ計画的な研修の場を設けていきたい。
今後の展望	１．中長期計画の３年目。過去２年は順調に計画を実行。2018年度は、中長期計画の転換点となる重要な年度。事業計画の計画的な遂行に万全を期す。 ２．手書き伝票レス、出張業務の電子化等により、業務の効率化、生産性の向上を図る。

文責：井本　裕之

12）総務課

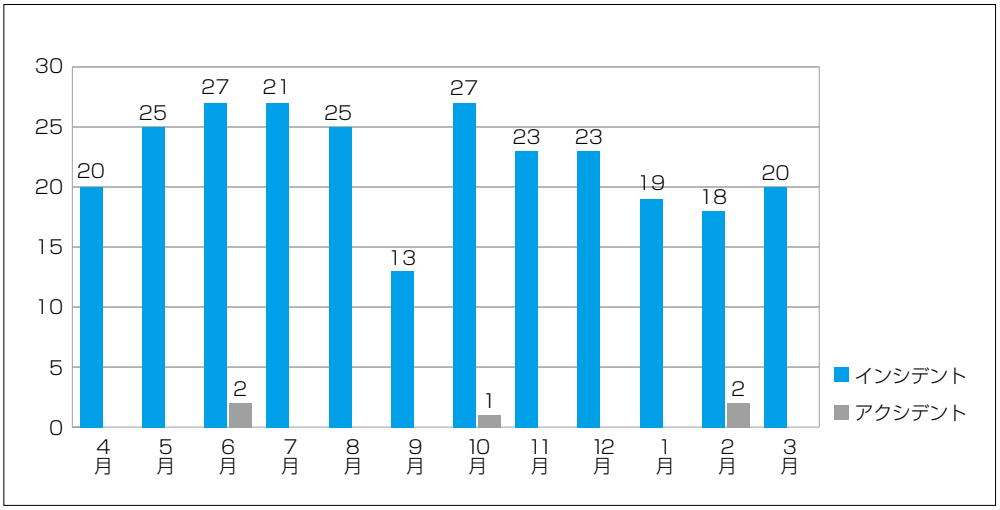
構成員数	２名
2017年度 目標、方針	１．財務の視点　病院経営に貢献できるコスト削減の提案をする ２．顧客の視点　患者・職員の環境をより良いものに整備する ３．業務プロセスの視点　業務改善・効率化を行いムダを省く ４．学習・教育・研究の視点　業務に必要な知識の向上につとめ年１回研究発表を行う
業務（活動） 内容、特徴等	・医療品、一般物品、備品、購入及び管理　・施設管理全般 ・システム管理　・総務・人事管理　・医師名簿、従業員名簿の作成 ・標榜診療科、医師等の変更に伴う届出　・当直の依頼、調整 ・大学医師委嘱届の作成　・月間予定表の作成　・麻薬関係書類手続き、管理 ・郵便物管理　・電話交換業務　・機器、メーター、省エネラウンド
実　績	・設備更新＆修繕工事 （社用車・吸引機・栄養課床修繕・言語聴覚室間仕切り作成・旧救急入口施錠更新等） ・カーテンリース見直し（６年間で約1,471,000円削減+増収見込み） ・大口使用者等特別料金制度（水道料金）導入　1,090,606円/年の削減 ・エレベータ保守点検契約の見直し・変更　894,240円/年の削減 ・備品発注先の見直し（コピー用紙・ポリ袋・ラベルシール等）100,000円/年削減 ・機器、メーター、省エネラウンドの実施　・ガソリンカード業者変更 ・NTT固定電話機リース見直し
目標の評価	設備面の更新修繕ではスムーズな入れ替え対応や新設対応ができた。機器選定や業者選別で今後も経費削減に努めていく。 また、リース更新の見直しや契約種別更新、物品発注先変更等で大幅な削減を得る事ができた。経費削減に向けての各部署への呼びかけを総務課発信で行う体制を構築し、病院経営に少しでも寄与できるよう来年度以降の取り組みを再検討していく必要がある。
今後の展望	●コスト削減 購入物品の見直しやコピー代削減、委員会・会議のペーパーレス化、使用電力の抑制等経費の削減を総務課発信で各部署へ呼びかけ、コストの削減を行っていく。 また、電力や機器・備品の運用ルールについて部署間の連絡手段見直しや話し合いを行うと共に、法人全体で情報の共有を行い各種契約の変更・見直しを適時行っていく。 ●業務効率化、病院環境の整備 本館の建物竣工から18年が経過しており、空調設備の経年劣化が進んでいる。故障した際に修理不可能な空調機も多く、空調設備の入替を来期予定している為、スムーズに実施できるよう総務課として取り組んでいく。 また、備品の管理・修繕等を早急に行うことや意見集約で他部署との連携を強化し、患者さんや職員が利用しやすい環境づくりに努めていく。 部署内でも仕事の共有化を進めていくとともに、仕事内容の見直し･変更をこまめに行っていく。

文責：後藤奈津実

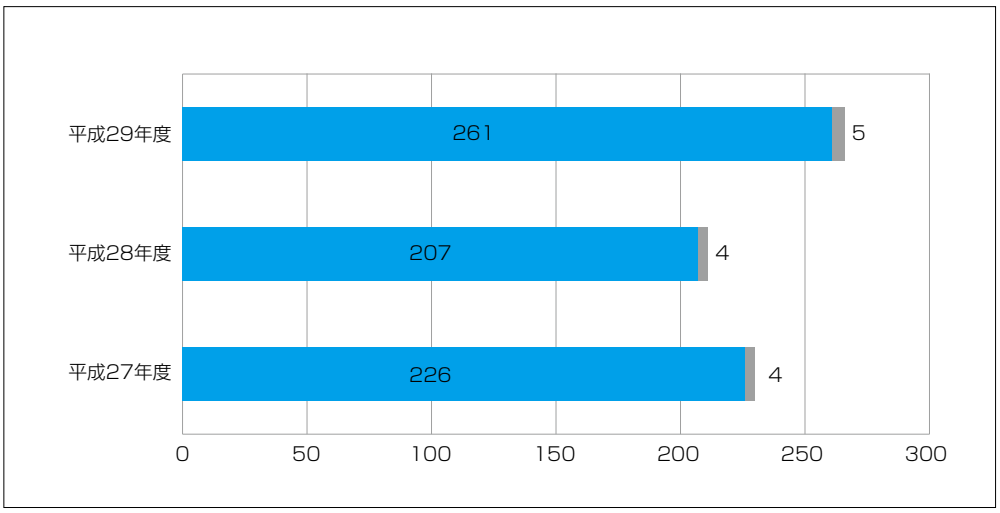
6 大分リハビリテーション病院　委員会活動報告

1）医療安全管理委員会

構成員数	院長（医療安全管理者）、看護部長、事務長代行、医療安全管理部室長、各部門代表者、計18名で構成。
2017年度 目標、方針	患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整え、良質な医療を提供する。
業務（活動） 内容、特徴等	・定例委員会の開催　（１回/月　第３火曜日　16：00～） ・医療安全必須研修の開催（２回/年） ・医療安全地域連携カンファレンスの参加・開催（２回/年） ・緊急時ハリーコールシミュレーション訓練
実　績	■医療安全必須研修 ・第１回　H29年７月19日（補講　８月３日・８月９日） 【テーマ】:「転倒予防意識を高め、転倒予防を充実させよう。」 転倒予防特殊グッズ（センサーベッド）の取扱い方法、部屋の環境整備について 【講　師】:転倒・転落チーム 参加率100％（DVD補講含む。産・育休者除く。） ・第２回　H30年２月22日（補講　３月５日・３月９日） 【テーマ】:「身体拘束の現状」 【講　師】:大分岡病院　医療安全推進室　室長　生野和徳氏 参加率100％（DVD補講含む。産・育休者、退職予定者除く。） ■医療安全地域連携カンファレンスの参加・開催 ・第３回医療安全地域カンファレンス参加 日時：H29年９月７日（木）14：00～16：00 開催場所：久真会　河野脳神経外科病院 テーマ：『内服薬の安全な管理方法について』 ・第４回医療安全地域カンファレンス開催 日時：H30年３月29日（木）14：00～16：00 開催場所：大分リハビリテーション病院　３F　会議室 テーマ：『食物関連・アレルギー対策について』 参加状況：大分リハビリテーション病院13名、大分岡病院７名、 河野脳神経外科病院11名　　合計31名 ■平成29年度インシデント・アクシデント報告 ①H29年度インシデント・アクシデント月別報告集計



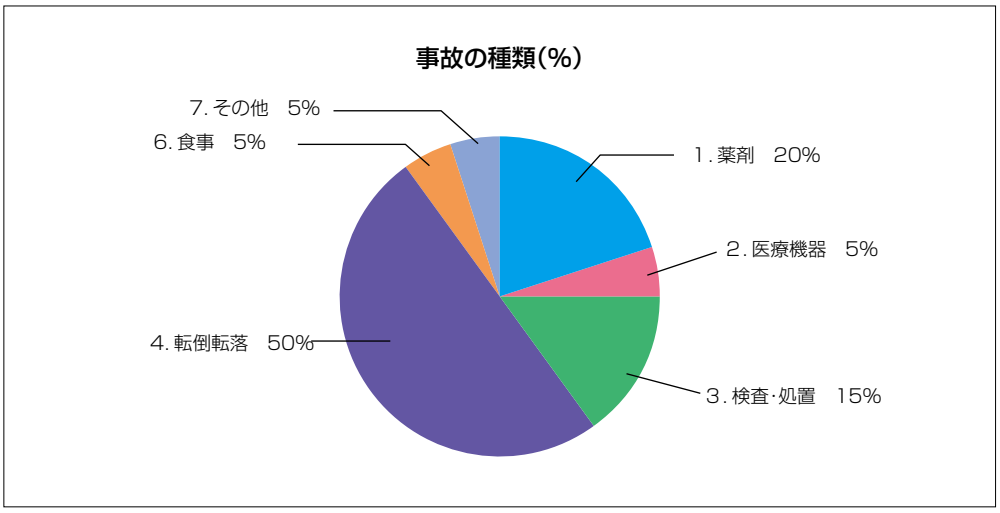
②年度別インシデント・アクシデント件数



③アクシデント詳細（５件）

・訓練中の転倒：右大腿骨骨折（転院：岡病院）
・病室ベッドからの転倒：左肋骨骨折（リストバンド固定にて保存療法）
・昼食時の誤嚥による窒息（転院：岡病院）
・病室内での転倒：左大腿骨骨折（転院：岡病院）
・病室内での転倒：硬膜下血腫（転院：河野脳神経外科病院）

④事故の種類



⑤転倒率

・H27年度：5.68%　・H28年度：4.09%　・H29年度：4.37%

■緊急時ハリーコールシミュレーション訓練実施

【日時】：H29年11月30日（木）　16：00～16：20
【場所】：西病棟
【参加者】：院長、医療安全委員会メンバー、西病棟職員、リハビリテーション部他

目標の評価	H29年度は、過去２年間を超えインシデント・アクシデント件数が増加している。入院患者数の増加や重症患者の受け入れが多くなったことなどが要因の一つと考えられる。収集された医療事故事例を分析・評価し、医療事故再発防止の為の職員への指導や原因の究明、院内の管理システムの見直しを医療安全管理委員会が中心となり検討していく必要がある。
今後の展望	H30年度から、インシデント報告が電子カルテシステム管理となる。医療安全管理に必要な情報収集及びシステムや業務改善に向け各部門と組織横断的に連携した医療安全活動を推進し、職員の医療安全意識を高め安全な職場環境と良質な医療提供を行っていきたい。

文責：梶谷　純子、池田　智美

2）感染管理委員会

構成員数	院長、事務長代行、看護部長及び各部門の代表を構成員とする計24名 （委員長：佐藤崇史医師　　副委員長：看護師　田中紀子）
2017年度 目標、方針	・医療関連感染防止対策マニュアルに沿って適切な感染予防策を行い、院内感染を予防する ・感染症の発生に対して、早期対策を行いアウトブレイク予防に努める
業務（活動） 内容、特徴等	1．月１回　委員会の開催（最終週の金曜日16時開催） 2．感染管理全体研修　２回/年 3．全職種を対象にした手洗い、手指衛生の実技研修 4．中途採用者研修４回/年 5．感染管理ニュース発行 6．感染管理実務者協議会 7．感染管理統括センター活動及びカンファレンス参加　１回/月 8．院内感染管理ポスター類作成・管理・掲示 9．感染環境ラウンドの実施　１回/週
実　績	1．委員会 ・感染防止策マニュアル追加・改訂（針刺し・切創・咬傷事故発生マニュアル） ・感染レポート ・抗菌剤使用状況 ・擦り込み式手指消毒剤使用量のサーベランス・手指衛生の５つのタイミング実施遵守の取り組み ・院内、大分市内、全国の感染発生状況の報告、検討 2．感染管理全体研修開催（７月・10月　職員全員参加） ①１回目…テーマ「あ～そうだったのか！と気付いてほしい感染対策と最近の動向」 講師：NPO法人日本感染管理支援協会　土井英史氏 ②２回目…「医療関連感染の予防策の基本」 講師：佐藤崇史医師（感染管理委員会委員長） 3．中途採用者研修（７月５名・10月５名・１月４名・４月７名受講） 4．感染管理ニュース発行（２回発行） 5．感染管理実務者協議会参加（日赤・医療センターにて協議４回/年・当院ラウンド１回/年） 6．ベストプラクティス研修参加　口腔・鼻腔吸引の手順書作成。院内手技を統一
目標の評価	今年度は全面的な感染防止策マニュアル追加・改訂作業を行い、法人統一を行った。 年４回の感染管理実務者協議会の取り組みでは、新たにMRSA、ESBL発生率・有病率を算出し、病棟における感染保有率の動向を行った。 インフルエンザ院内発生（患者４名、職員11名　２月にアウトブレイク認定）はあったが、感染報告後速やかな対策会議を行い、患者の隔離、濃厚接触者に対してのタミフル予防投与等速やかに対応。集団感染や重症化する事無く経過する事ができた。
今後の展望	手指消毒の５つのタイミング調査において各部署ともに患者に触れた後の手指衛生が出来ていない傾向であることが分かった。今後も適切なタイミングでの手指消毒指導を行っていく。 冬季感染症の流行期の面会について、ポスター掲示、直接声掛けしお願いしても手洗い、手指消毒しない、乳幼児を連れての面会や、面会禁止時期に職員に許可を得ず面会をされる家族がいた。感染症流行期の家族の面会時の感染対策教育のあり方どう行うべきかが課題となった。

文責：田中　紀子

3）労働安全衛生委員会

構成員数	院長、産業医他16名
2017年度 目標、方針	・健康診断の実施、職員の健康意識向上 ・ストレスチェックの実施 ・メンタルヘルス体制の確立
業務（活動） 内容、特徴等	・毎月第３月曜日の16時より委員会の開催 ・各種ワクチン接種の実施 ・職員健康診断の実施 ・ストレスチェックの実施 ・針刺し事故発生後のフォロー ・メンタルヘルス研修の実施 ・職員ご意見箱の管理
実　績	・ワクチン接種　B型肝炎30名、麻疹１名、風疹２名、ムンプス６名、水痘０名 ・職員健康診断の受診率　100％ ・ストレスチェック受検者203名、受検率99％ ・針刺し事故５件、皮膚粘膜汚染２件 ・職場環境のご意見箱３件 ・労働基準監督署の監査後の改善
目標の評価	・ワクチン接種、健康診断については例年通り運用が出来たが、２次検診受診率が低かった。 ・ストレスチェックの受検率を前年度より上げる事が出来た。 ・メンタルヘルス研修を２回実施した。
今後の展望	・職員健康診断の２次検診受診率の向上を目指す。 ・メンタルヘルス研修の実施。 ・各種ワクチン接種、健康診断の管理体制を確立する。 ・針刺し事故・皮膚粘膜汚染への声かけの徹底。

文責：橋口　マリ

4）臨床検査適正化委員会

構成員数	医師、臨床検査技師、看護師（西、東、外来、健診）　事務　以上７名
2017年度 目標、方針	正確な検査結果の報告。迅速な結果報告を遂行する。 他部署との連携による業務の効率化を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	・毎月１回の委員会の開催 ・外部精度管理、内部精度管理を実施し状況報告を行う ・業務の効率化を行う為の見直しを行った ・輸血後３カ月フォロー検査の実施
実　績	・外部精度管理（日本医師会、日臨技、大分県医師会）に参加 ・電子カルテ導入に伴い、細菌培養検査を大分岡病院にて実施し報告日数が短縮されいつでも結果の確認が出来るようになった ・検査に関する変更の案内
目標の評価	・外部精度管理・内部精度管理共に問題なく実施できた。 ・検査機器のトラブルにより結果報告に時間を要し遅延してしまう事があった。 ・他にも結果を遅延してしまう事があったので改善に努めていく。 ・輸血後フォローシートの運用が徹底されなかった。 ・業務の効率化は健診センターとの作業分担の見直しを行った。
今後の展望	・検査機器の点検を確実に行うことでトラブルを回避し報告時間の短縮を目指す。 ・正確な検査結果の報告が出来るように技術の統一化を図る。 ・部署間の情報の共有化が行えるようにする。

文責：橋口　マリ

5）診療情報管理委員会

構成員数	診療部、看護管理室、外来、西病棟、東病棟、リハビリテーション課、薬剤部、事務部 （必要時）検査課、放射線課、栄養課、健診センター 【委員長】井上医師 【副委員長】丹生
2017年度 目標、方針	診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理に関する事項の検討を行い、改善を図る。
業務（活動） 内容、特徴等	・毎月１回の定期的な委員会開催 ・診療録帳票類の新規申請又は改訂に関する審議と承認 ・診療録記載方法についての検討 ・診療録の管理と運用方法についての検討 ・個人情報保護に関する管理　等
実　績	・医師退院サマリー完成率の報告、作成促進 ・診療録帳票類の新規申請、運用変更申請（８件） ・文書管理内の書類の整理（電子カルテ移行分） ・診療録管理・記載方法についての検討、注意事項等の報告 ・個人情報保護の研修会開催 ・画像取込依頼の運用変更
目標の評価	診療録の帳票類の見直し、様式統一を行い適正な診療録保管管理を行えている。
今後の展望	電子カルテ導入後の、診療録管理の構築や効率的な運用に向けて検討し取り組んでいく。 診療録の記載方法と記録の重要性等について啓発活動を行い、診療録の質の向上を目指す。

文責：丹生　恵子

6）褥瘡対策委員会

構成員数	診療部、看護部（管理室･東病棟･西病棟）、薬剤部、栄養課、口腔衛生課、リハビリ･在宅支援部、事務部の代用者。　合計：18名
2017年度 目標、方針	1．褥瘡発生件数の把握、及び褥瘡発生率の算出 2．褥瘡対策用具の選定 3．研修会の開催 4．褥瘡対策マニュアルの見直し
業務（活動） 内容、特徴等	1．定例の委員会開催（1回/月　毎月第2火曜日　16時～） 2．褥瘡発生率、対策、処置内容等の情報共有 3．褥瘡対策マニュアルの見直し・改訂 4．院内研修実施 5．褥瘡対策用具の導入
実　績	1．定期委員会で患者状況報告を実施し対策を検討した。 褥瘡発生率（H29年6月～H30年3月）：1.497％ 2．電子カルテ導入に伴い、マニュアルを改訂し委員会で通達した。褥瘡処置内容とドレッシング材の見直しを行った。 3．研修会の実施 ①H29年11月28日17：30～「トランスファー研修会」参加者数：38名 移乗時の皮膚トラブルを予防するため、重介助者のベッド～車椅子の移乗のレクチャー、移乗機器の紹介を行った。 ②H29年12月4日17：45～「褥瘡勉強会」東・西病棟Ns対象：参加率43％ 褥瘡分類、評価、処置方法、褥瘡計画立案方法等の内容で実施した。 4．褥瘡対策用具の導入については、ストレッチフィット、アルファープラアンテ等患者状態にあったマットレスの追加購入を行った。
目標の評価	6月より電子カルテ運用が開始となり、スタッフ間でもデータの共有が行えるようになった。褥瘡対策マニュアルの見直しと改訂内容については、院内学習会で伝達を行い、褥瘡対策チーム・委員会メンバーが中心となり褥瘡対策用具の選定や処置方法について部署内で検討されていた。
今後の展望	今後、入院患者の高齢化、重症化に伴い褥瘡発生リスクが高まる可能性があり、入院時からの褥瘡対策は重要となる。そのためには、入院患者に対して褥瘡予防・治療を円滑に行うために、さまざまな職種で構成される褥瘡対策委員会の活動と看護職中心に構成された褥瘡対策チームが連携した活動を行う必要がある。また、職員の知識と技術の向上を目指し職員研修の計画・実施を行っていく。

文責：池田　智美

7）医療ガス安全管理委員会

構成員数	10名
2017年度 目標、方針	病院で使用する医療ガス（酸素、吸引）とその関連施設の安全性と有効性を調査し、医療ガスによる医療事故を未然に防ぐとともに、診療活動の円滑化を図ることを目的とする。
業務（活動） 内容、特徴等	1）医療ガス安全管理委員会 開催日：平成30年３月13日 2）日常点検 各部署によるアウトレットバルブ等の点検。 3）総合安全点検 九州エアウォーター㈱による医療ガス設備保守点検を平成29年12月22日に実施。
実　績	総合安全点検で５箇所のアウトレットバブルからの漏れを発覚。２箇所に関しては現在使用していない場所なので保留。残り３箇所については早急の交換を行った。
目標の評価	各部署とも毎月定期的に点検表の提出を行っていただいた。今後も実施していただくよう声掛けを行う。
今後の展望	常日頃の点検をかかさず行い、より安全に運用できるよう努める。 また厚生省より機器点検を病院として取り組まなければならない通達があり、現時点での罰則はないので今回は周知のみとした。今後義務化の可能性や厚生局監査に向け法人として取り組む必要がある。 法人会議や委員会で、敬和会・大分リハ・施設管理（総務）課・委託（九州エアウォーター等）としての取り組みのあり方を今後議論していくものとする。

文責：後藤　陽介

8）防災・省エネ・施設管理委員会

構成員数	15名
2017年度 目標、方針	防災管理業務及び防災応急計画について検討し、火災、地震及びその他の災害の予防並びに人命の安全、災害の防止を図ることを目的とする。また、院内の省エネルギーの徹底、改善を促し、患者さんや職員が利用しやすい施設作りを目指す。
業務（活動） 内容、特徴等	夜間を想定した訓練を秋に実施し、昼間を想定した訓練を春に実施した。 省エネや施設面に関しては所属長を通じ、全体に情報共有を行っていただいた。
実　績	夜間の火災を想定した避難・通報・総合訓練。実施要綱を基にしたマニュアル訓練。設備会社の指導による消火訓練。新入職員など訓練未経験の職員をはじめ最大40名が参加。
目標の評価	消防訓練で、夜間帯の災害に際しての通報・避難の手順を再確認した。重症患者の避難誘導の方法等、応援がより必要不可欠な部署の把握や搬送物資の必要性など再検討が必要な事項を職員間で共有することができた。 また、全職員に対して、空調、照明の無駄遣いをしないように声掛けを行い、省エネを意識してもらうように努め、今後の方針や敬和会省エネ委員会での取り組みについて報告を行った。
今後の展望	災害時の避難方法等を再検討して、より実戦的な内容で訓練に組み込んでいきたい。近年では南海トラフ地震が懸念されている。地震を見越した防災訓練についても今後検討していきたい。 また、省エネについての取り組みを強化し、機器の効率的な運用を目指し、経費削減につなげることができるよう努める。

文責：後藤　陽介

9）薬事審議委員会

<table>
<tr><td>構成員数</td><td>診療部常勤医師・事務長代行・看護部長・薬剤部副主任・医事課課長</td></tr>
<tr><td>2017年度
目標、方針</td><td>１．薬剤費のコスト削減に向け、後発医薬品への採用変更を積極的に行う
２．岡病院との採用医薬品の統一化を図り、廃棄額の削減に努める</td></tr>
<tr><td>業務（活動）
内容、特徴等</td><td>当委員会は、院内における医薬品の採用可否の検討を行い、新規採用、採用削除、採用変更と同時に、後発品への採用変更検討も積極的に取り組んでいる。
２ヶ月に１回開催しており、今年度も昨年同様、医療費の削減を目的に積極的に後発医薬品の採用検討を行った。</td></tr>
<tr><td>実　績</td><td>○院内採用医薬品数（2018/４/10時点）
<table>
<tr><th>全ての医薬品
採用品数</th><th>後発医薬品
採用品数</th><th>後発医薬品
採用率（%）</th></tr>
<tr><td>521</td><td>160</td><td>30.7%</td></tr>
</table>
○2017年度医薬品採用状況
【新規採用医薬品数】　10品目
【削除医薬品数】　３品目
【後発医薬品への変更品数】　５品目</td></tr>
<tr><td>目標の評価</td><td>後発品への積極的な変更と共に、岡病院との採用薬の統一化も進めることができた。さらに、採用削除により不動在庫の整理もすることができた。</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>病院の体制や患者層の変化に対応し、採用医薬品の整理をすすめる。
来年度から後発医薬品使用体制加算１を算定予定である。また、引き続き岡病院との採用の統一化・期限切迫品の交換等を行い、コスト削減に努めていく。</td></tr>
</table>

文責：岡崎　　愛

10）給食・栄養管理委員会

<table>
<tr><td>構成員数</td><td>医師１名、西病棟４名、東病棟３名、薬剤部２名、リハビリテーション部１名、在宅支援部１名、事務部１名、栄養課１名、エームサービス</td></tr>
<tr><td>2017年度
目標、方針</td><td>給食サービスや栄養管理における改善点等の検討を行い、安全で美味しい食事を提供できるよう努める。</td></tr>
<tr><td>業務（活動）
内容、特徴等</td><td>食事アンケートの実施と結果について検討
勉強会の開催
行事食や食育の日についての報告
NSTについての検討</td></tr>
<tr><td>実　績</td><td>食事アンケートは、４回（６、９、12、３月）実施し、結果を検討した。月１回寿司の日の実施や、カレーライスの日の増加等の改善を行った。
４月よりエームサービスの取り組みとして19日を「食育の日」とし、毎月委員会でテーマの食材、献立の紹介、報告を行った。
９月に株式会社クリニコに講師を依頼し、「リハビリテーション栄養と嚥下調整食分類について」のテーマで勉強会の開催を行った。
その他、用途に応じた補助食品の紹介、補助食品や濃厚流動食の一覧作成と情報共有を適宜行った。</td></tr>
<tr><td>目標の評価</td><td>今年度は、前半は主にNST活動開始に向けた話し合いに多く時間をとり、運用方法等の確認を行った。
４月に委託業者の変更があり、給食サービスの検討が難しい状況であったが、食事アンケートの実施と結果についての検討を行い、献立に反映させることができた。</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>今後も食事アンケートの定期的な実施を行い、食事に対する患者満足度向上に繋げる
イベント食の実施
嚥下調整食の定期的な見直し
栄養に関する知識向上のための勉強会の開催</td></tr>
</table>

文責：竹中　智子

11）教育委員会

構成員数	リハビリテーション部　事務部　外来　東病棟　西病棟　放射線課 健診　栄養課　看護管理　医局　　各１名　10名で構成
2017年度 目標、方針	職員に求められている研修の企画・実施と参加の促進 BLS研修の実施 接遇研修の実施
業務（活動） 内容、特徴等	院内研究発表会の開催 敬和会合同学会の開催協力・準備 研修会の企画・実施（接遇研修・BLS研修） 事業報告書取りまとめ 学術・研究統括センターとの橋渡し
実　績	院内研究発表会　７月11日、13日の２日に分けて17：40以降の時間に実施 敬和会合同学会（平成29年９月10日（日）大分市コンパルホール） BLS研修２回（平成29年12月18日　32名、平成30年３月22日　16名） 　各部署より選抜した研修未修職員に対して実施　大分岡病院RRTより指導応援 接遇研修（平成29年11月９日　27名　平成30年３月８日　17名） 　各部署より選抜した研修未修職員に対して実施　17：45より90分 　講師　大分岡病院　検査課顧問　後藤部長
目標の評価	院内研究発表会は昨年度より日勤後に分割して行うようにした。 昨年度の経験を生かし、よりスムーズな運営を行えた。 敬和会合同学会では昨年度当番の経験より各担当業務を円滑に行うことができた。 BLS研修は院内スタッフの指導経験を積むことが出来た。また、岡RRT主催ハートアタックにも２名スタッフとして参加した。 接遇研修も各部署より選抜し年２回行えた。
今後の展望	平成30年９月　敬和会合同学会（すばるが当番） 院内研究発表会兼敬和会合同学会予選会の開催（７月頃） BLS研修実施・指導者育成 　年２回を目標に、まず職員一巡をめざす 　年度末時点でBLSヘルスケアプロバイダー養成講習受講済み　７名 　各部署のバランスを見て、院内に15名程度のスタッフを養成し院内での 　指導ができる体制を整える 接遇研修 　昨年同様、大分岡病院　検査課顧問　後藤部長に講師を依頼する 　年２回を目標に、まずは職員一巡を目指す。一巡したら職員同士や家族への対応など設定を変 　更し継続していく

文責：甲斐　秀明

12）広報委員会

構成員数	庶務・経理１名、外来１名、東病棟２名、西病棟１名、リハビリテーション課３名、 放射線課１名、健診センター２名　計11名
2017年度 目標、方針	医療啓発を目的とし、地域の皆さまに最新の情報を発信する 院内の情報を敬和会で共有する
業務（活動） 内容、特徴等	・合同広報誌（Link）の原稿依頼・原稿作成・編集・校正・配布 ・メディカルリンクセンター会議の参加 ・敬和の環（大分リハビリテーション病院分）の原稿依頼、原稿作成、編集・校正・配布 ・月に１回の委員会
実　績	・「Link」原稿作成・配布 　第８号（大分リハ病院担当ページ） 　第９号（大分リハ病院担当ページ） 　第10号（大分リハ病院担当ページ・フォーカス・レシピ） ・「敬和の環」平成29年４月～平成30年３月発行分（大分リハ病院部分）の作成・配布
目標の評価	・Linkは８号では通所･訪問リハビリテーションのスタートの情報共有、９号では、健診センターの新しい検査の取り組み、10号ではリハビリテーション病院のJRATの支援活動やフォーカス･レシピの紹介などができた。 ・敬和の環では月に一度の会議で、記事の選抜や内容の検討ができた。
今後の展望	・Linkおよび敬和の環は、担当部署以外にも協力を仰ぎ、どの部署も携わって情報共有が円滑にでき、計画的に進めていく。

文責：首藤　陽子

13）サービス向上委員会

構成員数	医師１名・看護部７名・放射線課１名・検査課１名・薬剤部１名・栄養課１名 口腔衛生課１名・リハ部＆在宅支援部１名・健診センター１名・事務部１名
2017年度 目標、方針	１．患者サービス向上を図る ２．職員の親睦を図る ３．病院の環境改善を図る
業務（活動） 内容、特徴等	１．夕涼み会およびクリスマス会の企画と開催 ２．「ご意見箱」に対する対応 ３．患者満足度調査（外来患者）の実施 ４．職員を対象としたレクレーションの企画・開催 バレーボール大会・バスハイク・ボーリング大会 ５．院内美化活動の実施
実　績	１．夕涼み会：７月26日（水）　外部ボランティアによるフラダンス、職員による ダンスを実施。七夕飾りを７月初旬より設置。 ２．クリスマス会：12月21日（木）　外部ボランティアによるコーラス、職員による ギター演奏と歌を実施。クリスマスツリーを12月初旬より設置。 ３．「ご意見箱」回収数：12件（27年度46件、28年度17件） 約７割が対応や設備面に関する不満の意見であった。 ４．外来患者満足度調査：12月４日～19日調査。回収数300枚。 職員の説明・対応は約98%が「満足」「普通」と回答。 待ち時間は23%の患者が「待った」と回答。 調査結果を外来ロビーに掲示するとともに、ミニ学習会で職員へ周知した。 ５．職員レクレーション バレーボール大会：６月24日予定だったが、参加数が少なく中止。 バスハイク：９月16日予定で準備したが、台風の影響で中止。 ボーリング大会：３月９日実施。 ６．院内美化活動（外構ゴミ清掃）を11月に実施。
目標の評価	１．夕涼み会、クリスマス会、「ご意見箱」を通し、患者サービスの提供、改善に取り組み、概ね患者からは好評であった。しかし、対応に関する不満の意見も一部あり、今後もサービス向上に努めていく必要がある。 ２．職員の親睦では２行事が中止となった。参加しやすい内容について検討していく。 ３．院内美化活動が積極的にできず、次年度、強化していく。
今後の展望	患者サービス向上は病院の質評価として位置づけられる。次年度は病院機能評価を受審予定であり、委員会としても役割を果たしていく。 特に、入院患者を対象とした患者満足度調査の実施、療養環境の整備、接遇の改善に取り組んでいく。

文責：後藤美貴代

14）NST委員会

構成員数	医師１名、西病棟４名、東病棟３名、リハビリテーション部１名、在宅支援部１名、薬剤部２名、口腔衛生課１名、事務部１名、栄養課２名
2017年度 目標、方針	リハビリテーション栄養をチームで実践し、入院患者の栄養状態の改善や栄養管理上のトラブル防止を図り、リハビリの効果を最大限発揮できるよう努める。
業務（活動） 内容、特徴等	低栄養患者にチームで介入し、低栄養状態の改善、訓練効果のアップを図る。 栄養状態に見合った訓練量か、または訓練量に見合った栄養量かの確認を行う。 その他、食事摂取量低下や消化器症状、排便状況等を改善するための栄養介入の検討を行う。
実　績	９月よりNST活動を開始。 介入人数14名。 14名中６名が改善、７名が退院により介入終了となったが改善もみられている。１名が悪化により転院となった。
目標の評価	今年度は、NST開始のための話し合いを数回行い、９月より開始することができた。 少人数の介入から開始し、一人一人少し時間をかけて検討を行った。 運用方法についても開始後、少しずつ改善を行いながら取り組んでいる。 各部署の協力もあり、出席率良く継続することができている。
今後の展望	今年度は、NST活動の開始、継続、運用方法の改善が図れたので、来年度は実績を出していきたいと考えている。そのため、運用方法や栄養介入に関するマニュアル作成に取り組んでいきたい。また、知識向上のため、勉強会の開催や参加も行っていきたい。そして、始まったばかりであり、院内に周知できていないため、活動や栄養管理についての周知や浸透も図っていきたいと考えている。

文責：竹中　智子

7 大分リハビリテーション病院教育活動

1）講演・ポスター発表・講義・指導・表彰

①診療部

■ 整形外科・リハビリテーション科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/6/17 大分県小学生陸上競技連合会 指導者研修会	子どものスポーツ障害について 井上　敏
2017/11/13 スポーツ少年団 外傷・障害防止担当者養成講習会	下肢のスポーツ外傷・障害とその予防 井上　敏

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/12/9 大分県スポーツ医科歯科研究会	大分県テニス協会医科学委員会の取り組み 井上　敏
2018/1/22 大分県体育協会医科学講習会	テニスにおける外傷・障害とその予防について 井上　敏

②メディカルスタッフ

■ 看護部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/9/16 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（幕張メッセ）	回復期リハビリテーション病棟における入退院時の口腔の変化～ROAG評価から～ 松本みなと、甲斐久美、汐月真由美、衛藤恵美、森　淳一、後藤美貴代

■ リハビリテーション部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/6/23～24 第18回日本言語聴覚学会	生きがいの再獲得を目指して、家族と共にレストランで外食練習を行った一例 久多良木茜
	自立支援における、言語聴覚士の資質向上の取り組み～個別地域ケア会議の助言内容の分析からの後方視的検討～ 佐藤俊彦
	社会参加・役割獲得に向けたアプローチにより対人関係における能動性が向上した症例 谷脇志織
	座長：地域リハ 佐藤俊彦
2017/6/27～29 第20回日本医療マネジメント学会学術総会	脳卒中片麻痺患者における歩行トレーニングの効果 渡邊亜紀
2017/7/2 歩行リハビリテーション研究大会	脳血管片麻痺患者におけるHonda歩行アシストの有効活用法の検討 川井康平
2017/7/29～30 電気刺激療法活用促進セミナー	足関節機能の再建に向けた電気刺激療法の効果 鴨川孝介
2017/8 26～27 日本作業療法協会重点課題研修	講師：高齢者・脳卒中者の実用的ADL向上に向けた排尿障害の評価と対応 太田有美

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/9/15～16 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	健常者における嚥下時の口唇圧について 児玉将人
2017/9/15～17 第33回ライフサポート学会	大腿骨頚部骨折術後患者の歩行開始動作時の逆応答現象と体幹運動 安藤将孝
2017/10/6～8 全国作業療法研修会	講演：高齢者の下部尿路機能障害に対する評価とアプローチ～排尿自立支援・転倒予防を目的として～」 太田有美
2017/10/14 第4回大分県医療介護ロボ・HAL研究大会	当院における中・重度歩行障害を有する症例のHAL介入戦略～脳卒中片麻痺患者における歩行再建～ 中原浩喜
2017/10/19～21 リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米2017	回復期リハ病棟におけるFIMとFOISの食事能力評価の比較検討 佐藤俊彦
	下部尿路機能と外出機会について 安部美咲
	チームで共有利用できる実用的動作自立判定指標作成の試み 蓑田もと子
	座長：摂食嚥下 佐藤俊彦
2017/11/3～4 日本神経理学療法学会SIG	シンポジスト：歩行再建 渡邊亜紀
2017/11/4～5 第38回バイオメカニズム学術講演会	大腿骨頚部骨折術後患者の歩行開始動作時の逆応答現象と体幹運動および股関節機能の関連 安藤将孝
2017/11/10～12 西日本泌尿器科学会	シンポジスト：多職種医療人による超高齢時代の排尿管理 太田有美

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/11/18～19 第7回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会	当院における中・重度歩行障害を有する症例のHAL介入戦略～脳卒中片麻痺患者における歩行再建～ 中原浩喜
2017/12/1 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	特性疾患を考慮した介入を行ない嚥下機能が改善し早期に自宅退院した症例 山村千尋
	脳血管障害における歩行アシストの有効な活用方法について 川井康平
2018/1/20～21 第4回歩行リハビリテーション研究大会	脳血管障害における歩行アシストの有効な活用方法について 川井康平
2018/2/2～3 回復期リハビリテーション病棟協会第31回研究大会in岩手	気管カニューレ患者に対する回復期の役割～回復期リハにおける気管カニューレの抜去と経口摂取の動向～ 坂西麻美
2018/2/3～4 第16回大分県言語聴覚士協会学術研究会	嗜好品の自力摂取を目標とした認知症の一例～原始反射への取り組み～ 久多良木茜
	「失語症のある方の家族に対する心理的不安軽減を図った一例」-当事者家族との交流を通して- 後藤槙吾
2018/2/8 平成29年度 大分ブロック症例検討会	認知機能低下のある脳卒中患者に対するHALを用いた歩行練習の効果 若林祐士
2018/3/3 第12回大分県排泄リハビリテーション・ケア研究会	認知機能が及ぼす排尿管理への影響 安部美咲
2018/3/9～10 第27回フロンティア講演会	大腿骨近位部骨折術後患者の歩行開始動作の特徴 安藤将孝

■ 敬和会健診センター

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/8/24 第58回日本人間ドック学会学術大会 大宮	子宮がん検診を委託先医療機関へ移行した1年の現状と今後の課題 高橋秀好、首藤陽子

■ 放射線課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/9/22～24 第33回日本診療放射線技師学術大会	胃X線検診によるピロリ菌感染判定の検討 甲斐秀明
2017/12/2 日本医療マネジメント学会第16回九州・山口連合大会	障がいのある人々への支援 笠野祐樹

■ 口腔衛生課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/8/6 口のリハビリテーション医科歯科連携インストラクター講習会	受講（資格取得） 衛藤恵美 半澤かおり
2017/8/17 大分県福祉保健部高齢者福祉課 自立支援型ケアプラン相談会 医師・歯科医師等の多職種が参加する地域ケア会議 大分東公民館	専門職として助言 衛藤恵美
2017/8/22 大分県福祉保健部高齢者福祉課 自立支援型ケアプラン相談会（大分市個別地域ケア会議） 大在公民館2階研修室	専門職として助言 衛藤恵美
2017/8/24 社会福祉法人大分県社会福祉事業団 大分県糸口第2厚生園 講義・実技実習	口腔ケア・口腔リハビリについて講演 衛藤恵美
2017/9/13 大分県社会福祉協議会 食のリハビリテーション研究会 摂食・嚥下Ⅱ	摂食・嚥下Ⅱ ～口腔ケアの実際～ 講演 衛藤恵美
2017/9/14 日本摂食嚥下リハビリテーション学会	回復期リハビリテーション病棟における医科歯科連携と口腔環境について～かかりつけ歯科の有無による口腔環境（ROAG）の違いについて～ 衛藤恵美
2017/11/11 自立支援型ケアプラン相談会（大分市個別地域ケア会議） 鶴崎市民行政センター	専門職として助言 衛藤恵美
2017/11/12 全国訪問歯科研究会	大分リハビリテーション病院での取り組み～医科歯科連携を通して～ 講演 衛藤恵美、是永弘子、小野幸代
2017/11/30 大分県福祉保健部高齢者福祉課 自立支援型ケアプラン相談会（大分市個別地域ケア会議） 大在	専門職として助言 衛藤恵美
2017/12/19 大分県福祉保健部高齢者福祉課 自立支援型ケアプラン相談会（大分市個別地域ケア会議） 鶴崎市民行政センター	専門職として助言 衛藤恵美
2018/2/3 杵築市在宅医療・介護連携推進協議会	「医療・介護現場で食べることを支える専門職の関わりについて」 講演 衛藤恵美
2018/2/13 大分県福祉保健部高齢者福祉課 自立支援型ケアプラン相談会（大分市個別地域ケア会議） 大在	専門職として助言 衛藤恵美

2）投稿・著書・雑誌掲載

■ リハビリテーション部

誌名・巻・頁・年	題名・著者
回復期リハビリテーション 第16巻第4号（通巻63号）	歯磨きの自立を支援ー義歯を片手で洗える洗浄用ブラシの作製 太田有美
作業療法ジャーナル Vol.52 No.2 2018	下部尿路機能障害を踏まえた作業療法士介入の具体例 回復期リハビリテーション病棟での実践 太田有美

■ 口腔衛生課

誌名・巻・頁・年	題名・著者
PROGRESS IN MEDICINE 2017.10月	医科歯科連携システム運用の実際 衛藤恵美
食べる喜びを支える歯科医療のためのデンチャースペース義歯 P177 2018.3	在宅医療における総義歯治療 衛藤恵美（写真掲載）

3）資格取得

■ 口腔衛生課

取得日	資格名・資格取得者名
2018/3/1	日本歯科衛生士会 摂食嚥下リハビリテーション認定歯科衛生士 取得 衛藤恵美

■ 医局

取得日	資格名・資格取得者名
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 佐藤崇史
2017/6/4	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 山口　豊
2017/12/17	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 髙司由理子

■ 看護管理室

取得日	資格名・資格取得者名
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 池田智美
2017/6/30	認定医療メディエーターB 池田智美

■ 西病棟

取得日	資格名・資格取得者名
2017/4/21	正看護師免許　取得 萱嶋朋子
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 汐月真由美
2017/6/9	介護福祉士免許　取得 渡邉望美
2018/1/1	回復期リハ看護師　認定 山﨑嘉恵
2018/3/11	BLS provider 笠野和代

■ 東病棟

取得日	資格名・資格取得者名
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 岡田清美

■ 外来

取得日	資格名・資格取得者名
2017/4/13	内視鏡認定技師　認定 荒木千春
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 梶谷純子

■ 検査課

取得日	資格名・資格取得者名
2017/6/4	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 橋口マリ
2017/7/30	検体採取並びに味覚検査及び嗅覚検査の実施に必要な知識及び技能取得講習会修了 棚成由起

■ 在宅支援部

取得日	資格名・資格取得者名
2017/7/17	介護福祉士実習指導者講習会　修了 谷口浩司
2017/12/17	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 榎本拓也
2017/12/17	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 谷口浩司
2018/3/11	BLS provider 榎本拓也
2017/4/7	介護福祉士免許　取得 川越ひとみ

■ 事務部

取得日	資格名・資格取得者名
2018/3/4	日本コミュニケーション能力認定協会　コミュニケーション能力2級 遠山文子
2017/4/1	診療情報管理士認定試験　合格 久保田秀奈美
2017/6/4	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 宮本恵一郎
2017/11/9	平成29年度障害者職業生活相談員資格認定講習　修了 小松由紀江

■ 放射線課

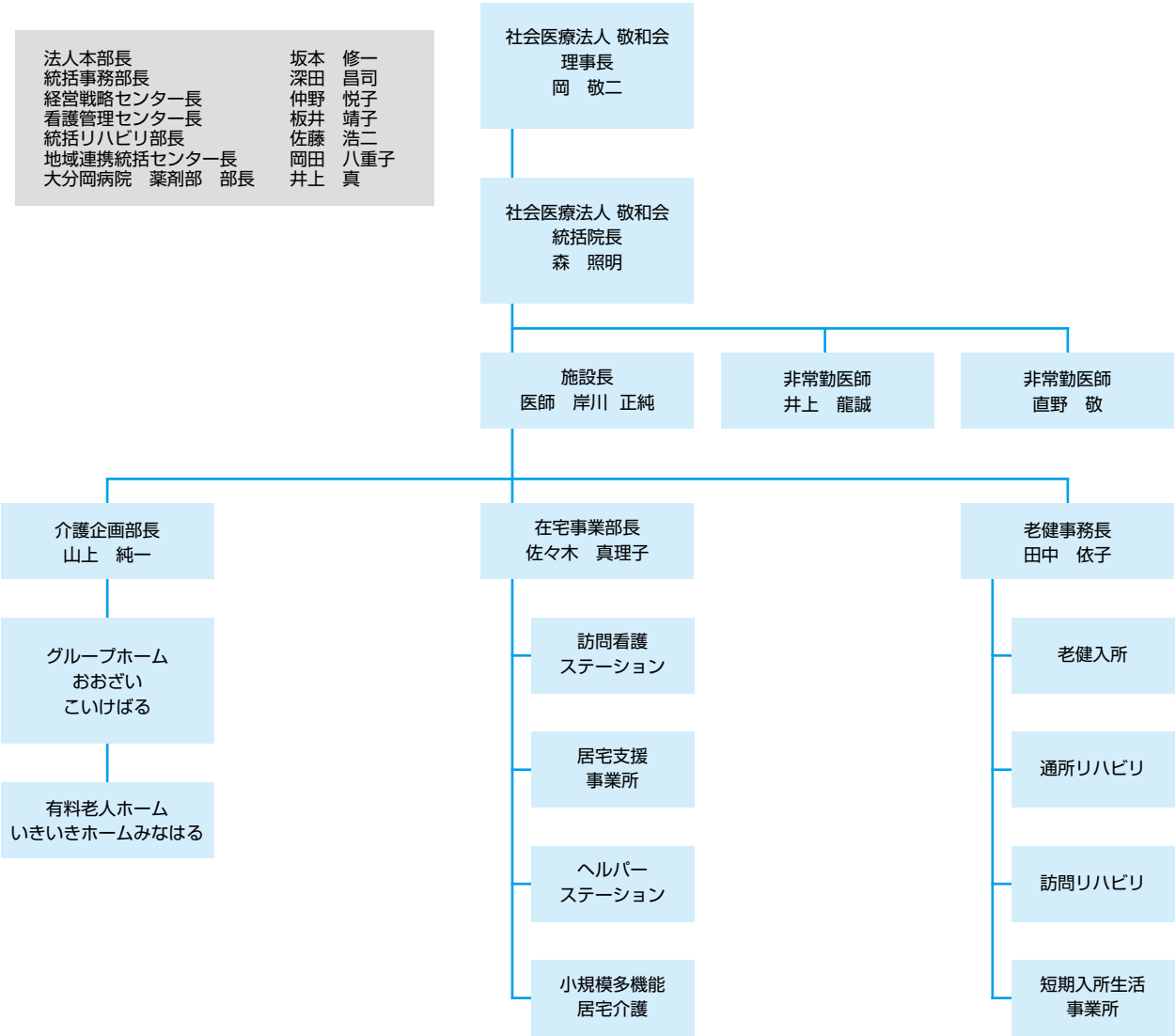
取得日	資格名・資格取得者名
2017/4/1	肺がんCT検診認定技師　認定 笠野祐樹
2017/12/17	コミュニケーション能力　2級認定 （日本コミュニケーション能力認定協会） 甲斐秀明

■ リハビリテーション部

取得日	資格名・資格取得者名
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 太田有美
2017/5/14	医療メディエーション基礎編研修　修了 佐藤俊彦
2017/1/1	3学会合同呼吸療法認定士 蓑田もと子
2017/9/3	公益財団法人テクノエイド協会 福祉用具プランナー研修　修了 樋口貴之
2017/9/3	公益財団法人テクノエイド協会 福祉用具プランナー研修　修了 長尾夏音
2017/11/17	回復期セラピストマネジャー 河野奈緒美
2018/3/4	日本コミュニケーション能力認定協会 コミュニケーション能力2級 佐藤俊彦
2018/3/4	日本コミュニケーション能力認定協会 コミュニケーション能力2級 河野奈緒美
2018/3/4	日本コミュニケーション能力認定協会 コミュニケーション能力2級 金丸詩織
2018/3/11	BLS provider 西山幸太郎
2018/3/11	BLS provider 赤野将貴

大 分 豊 寿 苑

1 大分豊寿苑組織図


法人本部長 坂本 修一
統括事務部長 深田 昌司
経営戦略センター長 仲野 悦子
看護管理センター長 板井 靖子
統括リハビリ部長 佐藤 浩二
地域連携統括センター長 岡田 八重子
大分岡病院 薬剤部 部長 井上 真
社会医療法人 敬和会
理事長
岡 敬二
社会医療法人 敬和会
統括院長
森 照明
施設長
医師 岸川 正純
非常勤医師
井上 龍誠
非常勤医師
直野 敬
介護企画部長
山上 純一
グループホーム
おおざい
こいけばる
有料老人ホーム
いきいきホームみなはる
在宅事業部長
佐々木 真理子
訪問看護
ステーション
居宅支援
事業所
ヘルパー
ステーション
小規模多機能
居宅介護
老健事務長
田中 依子
老健入所
通所リハビリ
訪問リハビリ
短期入所生活
事業所

2 委員会組織図

委　員　会

施設長

施設看護部長

事務長

介護企画部長

在宅事業管理部長

地域交流委員会	全職種の職員が参加し、地域住民の方々に対し、イベントの企画・開催、相談等を実施し、健康増進、介護予防についてのサポートを行う。
エコ委員会	水道・電気・ガス等のエネルギーをいかに効率的に使用するかを検討し、節電・節水を図ることを目的とする。
労働安全衛生委員会	業務の効率化、残業の短縮に力を入れる。また、メンタルヘルス対策や職員アンケートを通じ、生の声をひろいあげ、職場環境の整備と改善を行う。
褥瘡委員会	褥瘡の早期発見と予防のため、各職種と連携を図る。また、褥瘡形成者には、改善策を講じる。
感染対策委員会	苑内の感染防止対策の推進。職員の感染対策に対する意識向上促進。感染防止対策の推進・評価・検討を行う。
安全対策委員会	年度の目標、月間目標を掲げることにより、職員に常に安全に対する意識を高める。 同時に、ヒヤリハット・事故報告・身体拘束についての集計を行い、対策の検討と改善を行う。
サービス向上委員会	利用者及びその関係者の、苦情や意見を集約し改善策を講じる。また、利用者満足度調査を行うことにより、利用者側からの視点を重視する。

部　活　動

施設長

施設看護部長

事務長

在宅事業管理部長

介護企画部長

学　術　部	施設内研修の実施、介護教室の開催、職員の研究発表支援のための研修を行う。
レ　ク　部	施設全体の行事を主催し、利用者、ご家族、職員との連帯感を強めることを目的とする。
広　報　部	「豊寿苑だより」「施設内壁新聞」「通所リハだより」を作成し、苑内の様子をご利用者、ご家族に知って頂く。
園　芸　部	利用者と園芸活動を行うことにより自然と親しむ。また、施設内の草取りを行い、苑内の観葉植物を育て緑あふれる施設にする。
福　利　部	職員の忘新年会、歓送迎会、レクレーションを企画立案し、職員相互の親和性を強める。

3 年間行事

	行　事	その他（研修・見学・学会・地域行事等）
4月	・大分豊寿苑 お花見（4/2） ・豊寿苑新人歓迎会（4/28）	
5月	・大分東地区安全運転協議会総会（5/23） ・鶴崎カトリック幼稚園 マリア祭来苑（5/29）	・ミニむつき庵開設説明 京都（5/24） ・全老健基礎・中堅研修 東京（5/29）
6月		・九州ブロック老健大会 長崎ハウステンボス（6/1-2） ・大分市総合事業（C型通所）開始（6/7） ・有料老人ホーム実地指導（大分市）（6/15） ・北九州リハビリ学院施設見学　（6/29）
7月	・夏の事故ゼロ運動 街頭活動（7/14）	・大分南高校就職ガイダンス（7/6） ・日本ヘルスケアダイバーシティ学会レセプションパーティー ホテル白菊（7/28） ・日本ヘルスケアダイバーシティ学会 ビーコンプラザフィルハーモニアホール（7/29）
8月	・慰霊祭（8/14）	・福祉のしごと就職フェア 介護研修センター（8/6） ・皆春夏祭り 皆春児童公園（8/6） ・別保校区盆踊り大会（8/16） ・三育保健大学（韓国）看護科学生見学（8/17） ・本場鶴崎踊り大会（8/19） ・介護男子フォトコンテスト撮影（8/28） ・介護サービスクオリティー向上事業調査説明（8/29） ・H30年新卒採用試験（8/30） ・EPA 第1次マッチング開始（8/31）
9月	・大分豊寿苑 夏祭り 1Fホール（9/3） ・敬和会合同学会 コンパルホール（9/9） ・交通安全運動（街頭指導）（9/29）	・大分市シェイクアウト訓練 実施（9/1） ・むつき庵平田氏来苑（9/14） ・新卒介護職採用試験（9/19） ・オーラルリハケア研究会一周年記念講演会 アイネス（9/23） ・紙尾先生・黒岩先生 実技実習 1Fホール（9/24） ・下鶴崎グランドゴルフ大会 鶴崎グランド（9/28） ・介護サービスクオリティー向上事業 5S活動視察（9/28）
10月	・大分リハマルシェ バザー 大分リハHP（10/7） ・大分豊寿苑介護教室 1Fホール（10/22）	・ブルックリンリハビリHP視察来苑（10/3） ・障がい者就労セミナー オアシスタワー（10/11） ・5S活動キックオフ講習会 1Fホール（10/13） ・JICWELS巡回訪問（10/16） ・不在者投票（10/18） ・北九州リハ学院見学来苑（10/23） ・ホースセラピー 乙津川河川敷（10/23） ・老健協会事務・看介護部会 ホルトホール大分（10/25） ・大分支援学校見学会（10/26）
11月	・SQCハプティックセミナー リハパーク（11/1） ・消防避難訓練（11/14）	・喜楽園見学来苑（11/1） ・春日サロンコーラス合唱（11/1） ・リレーフォーライフ（11/3-4） ・別保あんしんサポートセンター見学会（11/3-5） ・ホースセラピー 乙津川河川敷（11/6） ・第３回5Sラウンド・講習会 介護研修室（11/9） ・第４回5S研修会・ラウンド（11/24）
12月	・敬和会忘年会 レンブラントホテル（12/14） ・豊寿苑クリスマス会（12/17） ・交通安全街頭活動 駐車場前（12/20） ・大掃除（12/28） ・御用納め式 地域交流センター（12/28）	・EPA介護福祉士候補者 ブラザン ジャネッサ デラクルーズさん 辞令交付（12/6） ・大分市地域おこし協力隊 来苑（12/11） ・大分市温泉調査 来苑（12/12） ・第５回5S研修会・ラウンド（12/15） ・男の調理実習 別保あんしんSC（12/22） ・第６回5S研修会・ラウンド（12/25）
1月	・御用始式 地域交流センター（1/4） ・通所リハビリ（初詣）（1/21）	・ラクニエ メーカーデモ 地域交流センター（1/9） ・電子カルテ取扱説明 訪問看護サテライト（1/9）
2月		・工芸教室 別保あんしんSC（2/1） ・原井土病院視察 福岡（2/8） ・黒岩先生ラウンド、口腔ケアセミナー、ラウンド（2/10-11） ・福祉のしごと就職フェア 大分県福祉介護研修センター（2/10） ・地域包括支援センター職員研修（2/21） ・5S発表会 1Fホール（2/22） ・地域リハブロック大会（2/24）
3月	・防災訓練（3/16）	・入所家族会 地域交流センター（3/10-11） ・通所家族会 地域交流センター（3/17-18） ・大分市地域包括連絡会議 大分市役所（3/22）

4 地域交流・講演　実績表

	依頼元	人数	内　容	対応部署・対応者
平成29年4月12日10時	東陽地域包括（皆春グラウンドゴルフクラブ）	15	皆春公民館で健康講話（認知症予防）と定期の健脚度測定	OT洲上・PT洪
4月16日8時半	皆春自治会		皆春神社清掃	小規模多機能　相良・土田
4月26日10時～	豊府地区 健康いきいき館参加会	14	脳トレを用いた認知症予防、認知症予防の運動	「ふれあい保健室」PHN淵野・PT橋本
5月18日13時	杵河内サロン	10	シルバーリハビリ体操	ＰＴ定別當・ＯＴ松田
5月22日10時	東陽地域包括（種具公民館）	25	種具公民館で健康講話（包括：木下）とめじろんBIG４（洲上）	OT洲上
5月24日13時	（株）STKテクノロジー ヘルスケア事業部 →敬和会ふれあい保健室	40	（株）STKテクノロジーで「腰痛予防について」の講義	OT洲上
5月31日13時	（株）STKテクノロジー ヘルスケア事業部 →敬和会ふれあい保健室	40	追加（株）STKテクノロジーで「腰痛予防について」の講義	OT洲上
6月14日11時	いきいき鶴崎	15	楽しいゲーム等	小規模多機能　石堂・鹿野
6月17日10時	東陽地域包括支援センター　依頼	計38	森町自治会介護予防教室	OT谷口・OT洲上
6月19日	東陽地域包括支援センター　依頼	30	森町コスモスサロン 健脚度測定	OT洲上・PT渡邊
6月23日10時～12時	古国府東老人クラブ　睦会	約30	健康に暮らして行きましょう	「ふれあい保健室」 佐々木部長・PT橋本
7月7日13時30分	鶴崎徳島サロン	50	シルバーリハビリ体操・健康講話（夏の健康）	「ふれあい保健室」 淵野・OT谷口
7月9日10時	花の木団地長寿会	30	認知症について（免許返還時期について）・脳トレ	小規模多機能　相良・土田
7月27日10時～	丹生　元気いきいき教室	13	認知症予防と運動	「ふれあい保健室」 淵野・PT保田
7月29日夕方	花の木団地夏祭り	大勢	錯覚ダンス	大分豊寿苑　有志
8月6日	皆春夏祭り	大勢	出店	大分豊寿苑　有志
8月16日	別保校区盆踊り大会	大勢	盆踊り	大分豊寿苑　有志
8月18日	豊府地区花園サロン	35	健康講座　秋バテについて・健康体操	「ふれあい保健室」 淵野・PT保田
10月17日	森町サロン		めじろん体操、健康講話	OT笠置・OT谷口・斎藤CM
11月8日11時	いきいき鶴崎	15	楽しいゲーム等	小規模多機能　髙橋・鹿野
11月10日10時～	丹生　元気いきいき教室		脳トレ、健康運動について	「ふれあい保健室」 淵野・PT保田
11月11日10時	東陽地域包括（森町自治会）		森町自治会介護予防教室 （再評価）	OT谷口・PT洪
11月14日14時～	ケアマンション花園入居者・地域の高齢者	40	認知症予防・認知症予防の運動、体操	「ふれあい保健室」 淵野・PT橋本
11月22日	角子原公民館サロン		めじろん体操、健康講話	OT谷口
12月22日14時～	山上サロン	10	認知症予防について、介護・健康相談	「ふれあい保健室」淵野
平成30年1月8日10時～12時	花の木団地長寿会	40	施設の種類について　脳トレ	小規模多機能　土田・石堂
1月29日13時半～	東陽地域包括依頼（関門公民館ヘルス＆トーク）	35	レクリエーションボッチャの体験会	OT洲上
2月25日10時	皆春西老人会	約30	認知症について・脳トレ	小規模多機能　相良・土田
3月7日10時～	いきいき健康館	15	春の体調管理について	「ふれあい保健室」淵野
合計		472		

5 統　計

介護老人保健施設

老健）入所

平均利用者数（人/日）		86.7
稼働率（短期入所を含む）		97.1%
平均在宅復帰率		61.4%
回転率		16.9
新規入所者数（人）		164
内訳	居宅	49
	岡病院・大分リハビリテーション病院	63
	その他の医療機関	40
	介護保険施設	5
	その他	7
退所者数（人）		165
内訳	居宅（有料老人ホームを含む）	54
	岡病院・大分リハビリテーション病院	46
	その他の医療機関	10
	介護保険施設	16
	死亡	3
	その他	36
利用延べ人数（人）		30,214
平均要介護度		3.0

老健）短期入所療養介護

稼働日数（日）	365
平均利用者数（人/日）	4.8
利用延べ人数（人）	1,764
空床充足率	69.7%
平均要介護度	3.2

老健）通所リハビリテーション

稼働日数（日）		314
平均利用者数（人/日）		79.4
平均登録者数（人/月）		258
平均要介護度		1.9
利用延べ人数（人）		24,943
時間別	2時間未満	18
	2時間以上～ 3時間未満	4,414
	3時間以上～ 4時間未満	810
	4時間以上～ 6時間未満	3,825
	6時間以上～ 8時間未満	15,876

老健）訪問リハビリテーション

稼働日数（日）	272
平均登録者数（人/月）	45
開始利用者数	26
終了利用者数	34
延べ訪問回数	2,632
平均要介護度	2.7

有料 いきいきホームみなはる

平均利用者数（人/日）	9.0
利用延べ人数（人）	3,293
稼働率	89.2%
平均要介護度	3.3

総合在宅ケアセンター

訪問看護ステーション

稼働日数　（日）		295
医療	延べ訪問回数	15,039
	看護師（再掲）	9,828
	リハビリスタッフ（再掲）	5,211
介護	延べ訪問回数	12,332
	看護師（再掲）	9,378
	リハビリスタッフ（再掲）	2,954
	平均要介護度	2.8
	緊急時訪問加算算定数	178
	ターミナルケア加算算定数	43
時間帯	標準（ 8:00-17:59）	26,566
	早朝・夜間	744
	深夜（22:00- 5:59）	61

居宅介護支援事業所

介護計画作成数	3,025
平均要介護度	2.4
予防プラン作成数	311
開始利用者数	170
終了・休止利用者数	114

ヘルパーステーション

稼働日数　（日）		365
平均登録者数（人/月）		78
延べ訪問回数		13,979
内訳	介護給付	10,529
	予防給付	552
	総合事業	337
	障害者支援	2,561
平均要介護度		3.7
開始利用者数		32
終了・休止利用者数		28

陽だまりの郷みなはる

稼働日数　（日）		365
平均登録者数　（人/月）		28
稼働率		96.3%
平均要介護度		2.4
提供内容	訪問	5,647
	通い	2,081
	泊り	4,971

おおざい憩いの苑

利用延べ人数　（人）	6,398
平均利用者数　（人/日）	17.3
入院延べ日数	68
稼働率	96.3%
平均要介護度	3.3

こいけばる憩いの苑

利用延べ人数　（人）	6,329
平均利用者数　（人/日）	17.2
入院延べ日数	96
稼働率	95.3%
平均要介護度	2.7

6　大分豊寿苑　部署別活動報告

1）療養棟

構成員数	看護師　13名　　介護士　34名　　リハビリスタッフ　７名　　歯科衛生士　２名 介護支援専門員　２名　　【合計　58名】
2017年度 理念、目標	利用者の尊厳を守り、専門職としての知識・技術に基づいた安心、安全に配慮した質の高いケアを提供する。在宅復帰、在宅支援の強化とともに老健の多様な機能を発揮し地域包括ケアシステムの中核施設としての役割を果たす。
業務（活動） 内容、特徴等	１．多職種が協働し自立支援、在宅復帰への支援を行う ２．利用者・家族に信頼されるような高品質で充実したケアの提供 ３．利用者・家族に寄り添った看取りケアの実践 ４．質の高いケアを提供するための職員教育の実施 ５．余暇活動により生活の質の向上を図る ６．業務改善 ７．地域貢献
実　績	１．在宅復帰率　61.1％　稼働率　96.8％　入所目的によりフロアを分け、意識的に介入できるように配慮した。 ２．医師・看護師を中心とした健康管理および医療的ケアの提供。 入所早期よりカンファレンスを開催しケアプランに基づいたケアの実践。 SSEC：口腔機能評価からケア介入、歯科医師への連携がスムーズに実施できた。 ミールラウンド、ミール会議による介入方法、食事形態の検討。 排尿リハケア：排尿日誌、リリアムαによる膀胱機能評価、泌尿器科往診、自立支援。 ３．４名に看取りケア実施。カンファレンスを適宜開催し、家族の意思決定を支援。 ４．新人教育計画に基づいた勉強会の実施。プリセプターによるOJT。 ５．初任者・中堅研修、医療的ケア研修、実習指導者講習会、コンチネンス基礎研修、紙屋克子先生、黒岩恭子先生の研修、SQC研修参加。 ６．大分県介護サービスクオリティ向上事業として５S活動の実践。 ７．家族会、地域の夏祭りへの参加、企画運営。介護サポーターの受け入れ。
目標の評価	入所目的でフロアを分けたことで、入所者・家族だけではなく職員の意識づけができ早期から在宅復帰を視野に入れた介入が可能となり、自宅退所者がわずかだが増加した。SSEC、排尿リハケアの活動は誤嚥性肺炎発症率の減少、膀胱留置カテーテルの離脱など効果をあげている。また、５S活動に取り組み職場環境改善ができ、業務の効率化の意識づけができたことは今後の業務改善をすすめるうえで有益であった。
今後の展望	在宅復帰、在宅支援をより一層強化し、退所後も安心して生活できるよう支援していく。また、多様化するニーズにこたえられるような人材の確保、育成の推進。 ５S活動の継続、電子カルテ、介護ロボット等の導入による業務の効率化を図り、職員の働きやすい職場環境の提供を進めていきたい。

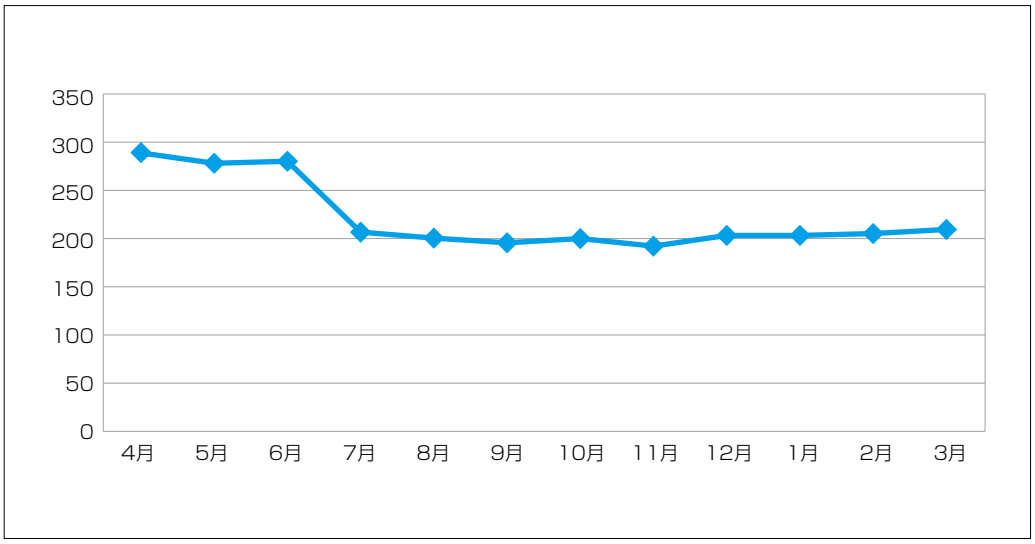
文責：渋谷　智子

2）栄養室

構成員数	施設管理栄養士２名（常勤２名）業務委託先 日清医療食品株式会社11名
2017年度 理念、目標	2017年度　理念・目標 ＜理念＞『食』を通じて利用者のＱＯＬを維持・向上させ在宅復帰を支援する。 ＜目標＞ ①日々の給食や行事食やイベントの実施により食べる楽しみを提供し心身を元気にする。 ②適切な栄養管理を実施し在宅支援を行う。 ③ 他職種と連携し経口摂取の支援と安全な食事の提供を行う。 ④ 日々の業務で学んだことを社会貢献に役立てる。
業務（活動） 内容、特徴等	嗜好調査（１回/年）　行事食（１回/月） ４月：花見　５月：春祭り　６月：散らし寿司　７月：七夕・そうめん流し ８月：行事弁当　９月：夏祭り　10月：季節のメニュー　11月：握り寿司 12月：クリスマス会　１月：正月料理　２月：節分・おでん　３月：雛祭り 栄養管理、喫食調査、衛生管理、食数管理、給食会議、地域サロン健康教室参
実　績	＜年間食数＞ 老健　25,187食 短期入所　1,317食 通所リハビリテーション　18,375食 いきいきホームみなはる　1,837食 ひだまりの郷　3,084食 ＜加算＞ 栄養マネジメント加算　29,632食 経口維持加算　226件 経口移行加算　54件 通所栄養改善加算　55件
目標の評価	・学童保育と連携したイベントを企画し、利用者のQOL向上に貢献 ・施設内での健康講話を実施し自立支援のための栄養教育の実施 ・栄養ケア・マネジメントにより在宅復帰のための適切な栄養管理を提供 ・ミールラウンドの回数を増加させ誤嚥性肺炎の予防や低栄養の早期発見・介入について他職種と連携。 ・軟菜食の導入 食具・食環境の見直しを実施 ・残菜減少へ向けて委託業者と連携し、財務改善に努めた
今後の展望	１．　嚥下調整食分類2013（摂食･嚥下リハビリテーション学会）に基づいた食形態の提供を行う。 ２．　他職種連携を積極的に行うためのシステムを向上させる。 ３．　研修会・学会へ積極的に参加する。 ４．　地域へ向けて情報を発信する。

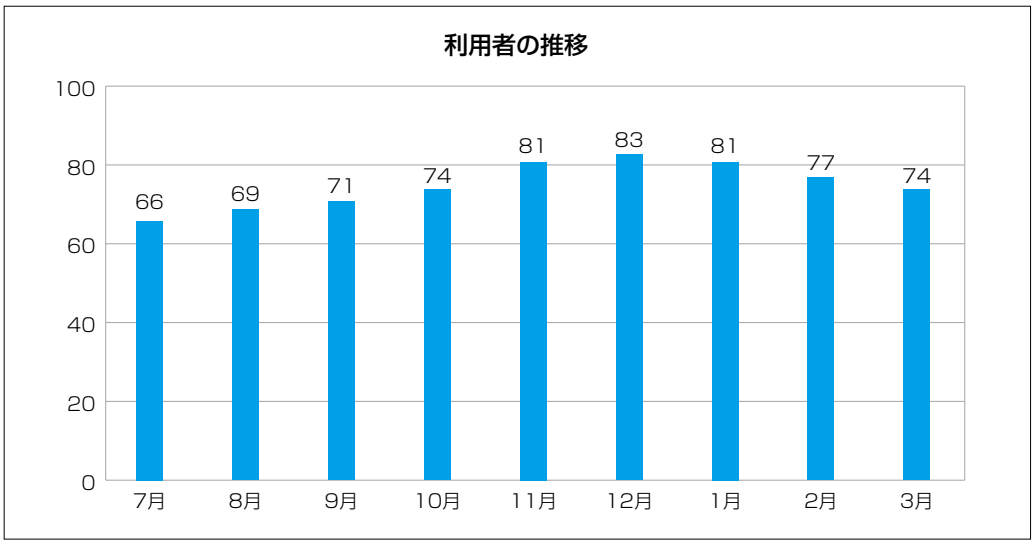
文責：高橋　綾奈

3）居宅介護支援事業所（特定相談支援事業所）

構成員数	管理者１名　　介護支援専門員８名
2017年度 理念、目標	1. 自立支援の強化 2. 在宅重視の支援 3. 公益性を地域社会に明確にする
業務（活動） 内容、特徴等	（業務） ・要介護認定申請及び介護保険関連の様々な手続きの代行 ・障害者福祉サービスの相談と計画作成 ・介護保険サービスを利用するための居宅サービス計画（ケアプラン）作成 ・介護サービスを提供する事業者との連絡調整 （特徴） ・地域包括支援センターや主治医との連携強化 ・病院を訪問し、広報活動の実施 ・地域で顔が見えるケアマネとなるべく、サロン活動へ参加 ・研修に参加しスキルアップ体制の確立
実　績	 利用者の推移の状況 ・30年度の介護報酬改定の情報収集と分析 ・入院時連携と退院、退所時連携を充実し加算算定の増加を目指す ・特定相談支援事業の相談件数増加 ・ケアマネレベルアップ研修、訪問リハビリテーション制度の研修会 自立支援に向けた生活機能の評価　法令遵守・ケアプランの点検について ・地域ケア会議への事例提供と積極的な参加 ・居宅支援事業所　こいけばるの開設を行う。みなはる事業所より職員３名と利用者80名程移行する。
目標の評価	・地域ケア会議への積極的な参加と事例提供を行い地域課題の把握や新たな資源の模索を行う 介護保険の対象者だけではなく障害者の方の支援も開始する。初年度は主に制度の概要や支援の流れ等のノウハウの取得に努めた。 ・自立支援については、ケアマネの基礎資格である看護師、社会福祉士、介護福祉士等と様々な専門知識を生かしつつ、各サービス事業所とも連携を図りながら、現時点でその方が持つ力を最大限に発揮できるよう支援が行えた。 ・自宅で生活したいという本人の気持ちに寄り添い、様々な介護保険のサービスを紹介するとともに、主治医との連携、早期の医療サービス介入を図るなどし、できるだけ長く在宅生活が送れるための援助を行った。
今後の展望	利用者の介護保険からの卒業や地域の活動への参加を可能にするべく、社会資源の把握、連携に努めていき、慣れ親しんだ地域で生活を続けられる支援の実践。 障害者の方の支援をしてくことで、共生型の地域ケアシステムの構築に努めていきたい。

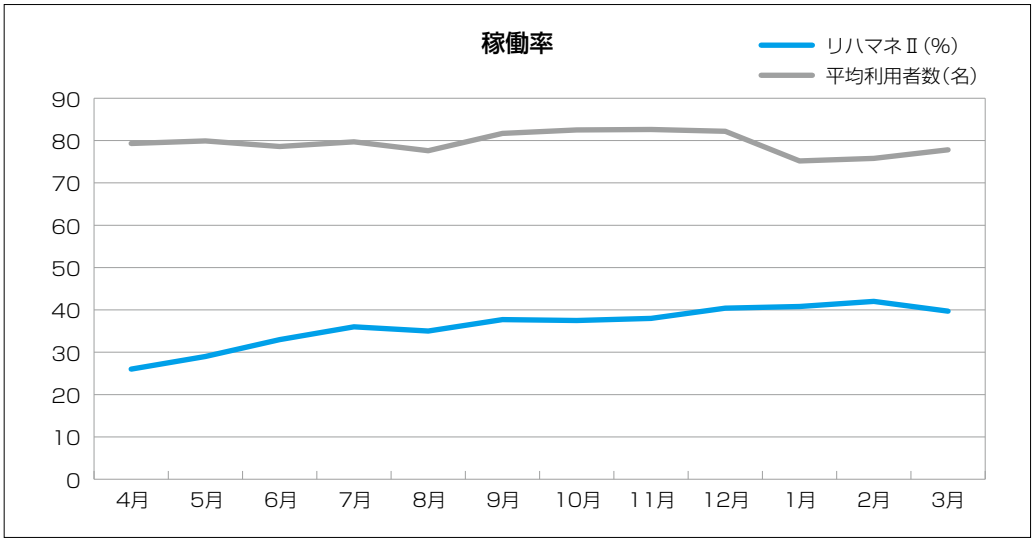
文責：斉藤　卓也

4）居宅介護支援事業所こいけばる

構成員数	管理者１名　　介護支援専門員２名
2017年度 理念、目標	1．自立支援の強化 2．在宅重視の支援 3．地域資源の開発
業務（活動） 内容、特徴等	（業務） ・要介護認定申請及び介護保険関連の様々な手続きの代行 ・介護保険サービスを利用するための居宅サービス計画（ケアプラン）作成 ・介護サービスを提供する事業者との連絡調整 （特徴） ・地域包括支援センターや主治医との連携強化 ・病院、包括支援センター、サービス事業所を訪問し、広報活動の実施 ・研修に参加しスキルアップ体制の確立
実　績	 ・入院時のカンファレンスに、積極的に参加し、家族の同意をえられた時は、医師からの病状説明の同席をおこなった。 ・研修参加（研修参加者から伝達講習）： ケアマネレベルアップ向上研修、訪問リハビリテーション制度の研修会 自立支援に向けた生活機能の評価、包括支援センター主催の研修参加 保険者からの自立ケアプランの点検
目標の評価	・H29.7月　新規開設。介護保険制度より、全ての利用者様は新規扱いとなり、一連の流れの作業を行った。同年９月にケアプランチェック指導を受けた。 自立支援に基づいた支援及び必要書類に、不備はなかった。 ・自立支援については、ケアマネの基礎資格である看護師、介護福祉士、歯科衛生士と異なる専門知識を生かしつつ、各サービス事業所とも連携を図りながら、現時点でその方が持つ力を最大限に発揮できるよう支援が行えた。 ・自宅で生活したいという本人の気持ちに寄り添い、様々な介護保険のサービスを紹介するとともに、主治医との連携、積極的に情報提供を早期から、医療サービス介入を図るなどし、安心して在宅生活が送れるための援助を行った。 ・月１回地域資源発掘の為、職員であいさつも兼ねて、訪問を行った。
今後の展望	・圏域に、同法人の地域包括支援センターができた事により、連携を強化し利用者様が住み慣れた地域で、安心して生活が送れる支援作りに努める。 ・社会資源発掘の為、病院、サービス事業所等への訪問を継続する。 ・訪問看護を利用している利用者様を支援することで、医療ニーズの高い方の在宅生活を長期で支援できる体制作りに努める。

文責：山下　理佳

5）通所リハビリテーション

構成員数	介護士　23名　　看護師　２名　　運転手　８名
2017年度 理念、目標	・通所リハビリの役割である自立支援を目指します。 ・リハマネ会議を活用し多職種でご自宅での生活を重視し、日常生活動作に視点を向けた個別ケアの提供に力を入れて行きます。 ・趣味活動の継続や行事への参加を通して活動範囲の拡大を図る。
業務（活動） 内容、特徴等	クラブ活動 （詩吟・短歌・生花・麻雀・囲碁・将棋・書道・カラオケ・手芸） 行事 （初詣・花見・節分・夏祭り・クリスマス会・餅つき・ボランティアによる歌と踊り・社会参加型のリハビリ外出）
実　績	リハマネⅡ算定率と平均利用者数 
目標の評価	リハマネ会議を行い目標に向け個別ケアを行った事で、ご利用者様のできることが増えご家族の負担も軽減できたと思います。又、クラブ活動を中心に生き生きと、楽しんで利用して頂きました。
今後の展望	リハマネ会議に多職種で参加し、質の向上・目標達成を目指します。 状態に合わせたケアを充実させていきます。 スポーツをとりいれ大会等に参加し活動を地域に広げる。 要支援者には短時間でのプログラムで集中的にリハビリを行います。

文責：安東　昌彦

6）訪問看護ステーション

構成員数	看護師34名　理学療法士４名　作業療法士４名 言語聴覚士２名　介護福祉士２名　事務員４名
2017年度 理念、目標	・在宅療養者が住み慣れた地域で安心して生活するために、看護・リハビリテーションの専門的知識・技術を提供し、地域包括ケアの要となる事業所を目指す。 ・地域の医療関係機関と連携し、機能強化型訪問看護ステーションとしての役割を遂行することで地域貢献を果たす。
業務（活動） 内容、特徴等	１、医療依存度の高い療養者の受け入れ ２、在宅医療関連機関からの相談対応（コンサルテーション） ３、病院の医療関係職種に対し、在宅医療の理解を深めるための研修受け入れおよび、教育機関からの実習生受け入れ ４、地域住民に対して、在宅療養に関する情報提供及び相談対応 ５、大分市内訪問看護ステーションの新規受け入れ可能状況を情報集約し、医療機関や居宅介護支援事業所へ情報提供する。また、近隣ステーションの教育の質向上のための研修会を開催する ６、看護の質向上を目的に、外部研修、学会に参加する ７、大分県訪問看護ステーション連絡協議会及び大分県看護協会、大分県認定看護師研究会（訪問看護、緩和ケア）と連携を密に行い、県内の訪問看護ステーションの質向上に努めると共に、訪問看護事業の普及・啓発を図る
実　績	１、新規受け入れ利用者数238名/年　利用者総数539名/年　延訪問件数28,101件/年（医療保険対象者15,235件、介護保険対象者12,766件）であった。 ２、コンサルテーション依頼は医療機関等の専門職20件　介護・福祉関連機関25件 ３、訪問看護体験研修および訪問看護実習受け入れ総数75名（11医療機関47名、３教育機関28名） ４、地域住民からの相談対応40件 医療施設・介護事業所からの相談対応32件 ５、新規受け入れ可能状況を２週間に１回情報更新し、病院の退院支援や訪問看護サービス導入時の情報として活用していただいた。近隣ステーションに呼びかけ、大分大学看護学科の教授を招聘し（年３回）学習の機会を提供した。 ６、精神科訪問看護療養費算定研修修了者２名 在宅ホスピスケア研修修了者１名、訪問看護基礎研修修了者２名 日本地域看護学会のシンポジストとして招聘された。 大分県看護研究学会で示説発表した。 ７、大分県訪問看護ステーション連絡協議会実務者委員長として会の運営に携わった。大分県下保健所等や大分県看護協会の依頼で、在宅療養支援に関係する専門職に対する教育を担った。大分県下で開催された地域ケア会議のアドバイザー（豊後大野市・佐伯市・大分市）として参加した。大分大学および大分県立看護科学大学、藤華医療技術専門学校の外部講師を担い県内看護学生の育成に寄与した。
目標の評価	・医療依存度の高い利用者の受け入れに関しては機能強化型訪問看護療養費Ⅰの算定維持及び体制維持ができたことから、重症者に対応できるステーションとして評価できると考える。 ・地域の医療保健福祉機関や住民からの相談件数の増加や、医療福祉の専門職や地域住民に対する研修等の増加から在宅療養推進に資する役割を果たしていると評価する。また、行政機関から県内および市内訪問看護ステーションの機能強化を目的に会議等の出席依頼があり、研修の企画や事業推進を協働したことで社会貢献できたと考える。
今後の展望	機能強化型訪問看護ステーションの機能維持、拡大をすることで、地域での療養体制を強化できる。地域住民が望む場所で住み続けられることを目的に、看護小規模多機能型居宅介護事業所の開設を目指す。

文責：佐々木真理子

7）介護企画部

構成員数	１名
2017年度 理念、目標	各部署が目標に掲げる在宅及び施設において安心して生活を送れるサービス提供の整備を行う上で、社会医療法人として公益性を保ち、地域ニーズにあった事業の展開を実施するとともに共生型サービスの提供を行い、地域のヘルスケアリンクの構築を目指し、地域福祉･医療に貢献する。
業務（活動） 内容、特徴等	・老健及び医療機関からの在宅復帰者を24時間365日、複合的に支えることのできる在宅サービスの整備を行うことにより、老健における在宅復帰率の維持・向上ならびに医療機関における在院日数の短縮に貢献。 ・在宅医療との連携による在宅看護・介護の拠点づくり。 ・予防から要介護、終末期までをトータルで支える体制の整備。 ・各種制度の融合（共生型社会の実現） 高齢者や障がい者、子どもといった既存の制度の垣根を越えて、困難を抱える人を一体的に支えることのできる事業を展開、行政機関及び関係機関と折衝及び手続き等全般、また、最新情報の収集による国の方針及び地域ニーズに沿った効率的かつ効果的な事業の展開や経費削減を行い、安定した事業経営を構築。
実　績	共生型サービスの提供に向けた事業の実施。 ・介護予防に向けた事業への取り組み 大分市が行う委託または指定事業である総合事業で、訪問型サービスC･通所サービスC（パワーアップ教室）の継続受託（５月10日～）。 ・在宅の重度患者・要介護者を支える環境の整備。 「看護小規模多機能型居宅介護」事業指定（日常生活圏域：明野）、建築を含むハード及びソフト面の整備、平成30年４月１日開設に向け可能となる。 ・障がい者の受入れについて 自立訓練（機能訓練）地域生活サポートセンターけいわ（事業所指定:５月１日付）にて開設。 在宅医療との連携による在宅看護・介護の拠点づくり。 ・訪問看護の本部移転（明野圏域）に伴う、居宅介護支援事業所こいけばるの併設開設（事業所指定：７月１日付） 保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援。 ・地域包括支援センターの運営を大分市より受託、平成30年４月１日より明野圏域にて活動開始。
目標の評価	相乗効果が生まれる共生型サービス事業の実施に向け順調に各種事業の整備・調整が行われる。 ・高齢者福祉と障がい者福祉の融合による一部共生型サービス提供が可能となる。 地域包括支援センターの受託に伴い、これまで培ったノウハウで行政機関との連携のもと保険医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する体制が可能となる。
今後の展望	介護予防事業（保険外事業含む）の実施により地域住民による自助・互助力の向上に寄与し、地域密着型事業所としての役割を構築。 地域住民との交流スペースの確保、各地域のニーズに沿った共生型サービスの提供。

文責：　山上　純一

8）事務室

構成員数	事務長１名、事務職員５名 （平成29年７月１名退職、平成30年３月１名入職）
2017年度 理念、目標	「地域に信頼され、利用者のニーズに応える」 「安心して生活が送れる地域づくり」
業務（活動） 内容、特徴等	・利用者の方に対する窓口対応（面会、お支払い、入所契約等） ・請求業務 ・電子カルテ、利用者情報管理業務 ・経理業務（日計、月報、決算、諸払い・買掛、起票、入力） ・入職、退職に関わる人事業務 ・冠婚葬祭に関する業務 ・制服の手配 ・苑内の設備、営繕に関わる業務 ・社用車の定期点検、車検に関わる業務 ・職員の出張手配 ・豊寿苑日報の作成と送信 ・物品発注業務と業者選定 ・大分岡病院への薬剤の引取等外回り業務 ・電話交換 ・売店業務 ・朝礼・終礼 ・朝掃除 ・日曜・祝日の窓口当番 「利用者の方・ご家族」「職員・施設」に関わる業務全般を担う。
実　績	平成29年７月に１名退職後は５名体制で移行。法人内の各種センターの役割も果たしながら、それぞれの業務を効率よく遂行してきたが、地域包括支援センターの開設、電子カルテ導入など平成30年度の事業に向けて３月に１名採用を行い、それぞれの準備に取り掛かった。
目標の評価	地域行事への参加など地域交流、地域貢献活動へ積極的に関わっている。 利用者やその家族、豊寿苑に訪れるすべての方に対して、受付、売店、問い合わせなど、明るく、親切、丁寧を常に心がけている。
今後の展望	※事務職員の働き方改革と業務改善 ・事務室の環境は接客や電話対応など外部との接触が多く、作業途中での中断があるため、一時的にでも各人が業務に集中できる環境を検討。それにより残業を減らしワークライフバランスを尊重した働き方への改善を模索する。 ・担当業務にとらわれず、敬和会の中で広くキャリアを重ねる機会を提案。 ・電子カルテ導入に合わせて、連絡体制や書類の電子化などに取り組み、作業の効率化を推進する。 ・業務環境改善については、５Ｓ活動を強化する。

文責：田中　依子

9）支援相談室

構成員数	支援相談員 ８名
2017年度 理念、目標	ミッション）地域に信頼され、利用者のニーズに応える ビジョン）安心して生活が送れる地域づくり
業務（活動） 内容、特徴等	①在宅強化型老健として在宅復帰に向けた取り組み、在宅での生活が安心して行なえるよう多部署・多職種での支援体制 ②地域に向けた介護予防や広報活動（サロンや行事の参加、研修会の案内） ③各居宅介護支援事業所・医療機関・施設等との連携強化と広報活動
実　績	① 支援相談室担当事業所年間実績 ★老健入所（短期入所療養介護含む） ・平均稼働率：96.8% ・在宅復帰率:61％（退所内訳　自宅:35.3％　有料老人ホーム等:26.3％　介護老人保健施設・特別養護老人ホーム：2.6％　病院：32.9％　永眠・看とり：2.9％） ・短期入所緊急受け入れ：１名 ★通所リハビリ ・平均稼働率（定員120名）：66.17％ ・リハビリマネジメントⅡ算定率：67名/175名（要介護）39.7％ ・社会参加支援（卒業・サービス移行）：11名/109名（終了者）11％ ・中重度者ケア体制：33.3％ ②地域に向けた広報活動 ふれあい保健室の同行、サロン活動、施設見学会・介護教室の開催、夏祭り等行事への参加 ③連携強化と情報提供 ・居宅介護支援事業所、地域包括ケアセンターへの営業活動：月１回 ・医療機関、クリニックへの挨拶、パンフレット配布：３ヶ月に１回 ・居宅介護支援事業所向け内覧会の開催：６回 ・東陽圏域勉強会への参加：２ヶ月に１回
目標の評価	①支援体制の構築 ★老健入所 新たな利用者確保の難しさや今後を見据えて入所独自で取り組むのではなく、入所と在宅（通所リハビリ）のスムーズな流れが図れるようこれまで以上に多事業所・多職種と協力して情報交換、同行訪問、利用休止者の状態確認等を行った。 また、29年度も入院の重なる時期や、インフルエンザの流行により稼働率（入退所制限）、在宅復帰率へ影響した為、引き続き感染症予防、体調管理が課題となった。 ★通所リハビリテーション 通所リハビリ年間稼働率は66.17％となった。例年とほぼ変化はない。１月～３月に利用者の入院による利用休止が相次ぎ稼働率低下の原因となった。 リハビリマネジメントⅡの算定率は、３月で39.7％。２月には42.0％まで算定率を上げることができた。しかし、他職種の積極的な会議への参加が実施できず次年度の課題となった。 社会参加支援や中重度者ケアも引き続き算定可能となる。 ②広報活動 地域の方との交流や老健の機能、大分豊寿苑の情報発信ができ、その後のサービス利用に繋がった。 ③連携強化と情報提供 事業所向けの内覧会を29年度も引き続き開催し、実際のサービスを見て頂くことやスタッフ間の交流にもなった。また、各事業所への営業活動を行うことで確実に顧客確保や関係作りに繋がる為、今後も継続していきたい。
今後の展望	H30年４月の介護報酬改定においてこれまで以上に在宅復帰、在宅生活維持に向け多職種での取り組みや介護・医療の連携、地域貢献等が重要視されている。H29年末より相談室が担当している通所、入所については週１回会議を設け入退所調整やその後のフォローについて相談、訪問指導等に同行して関わる機会を作り始めた。 また現在、居宅介護支援事業所向けに実施している内覧会を医療機関（ソーシャルワーカー、セラピスト、看護職員など）に向けても展開していき、大分豊寿苑の取り組みを広報していきたいと考えている。

文責：吉岡真理子

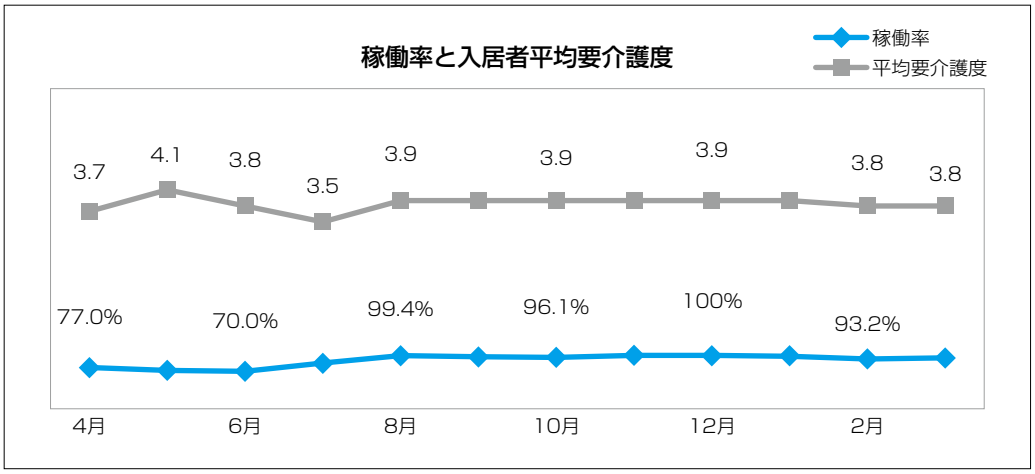
10）リハビリテーション課

構成員数	理学療法士：８名 作業療法士：10名 言語聴覚士：４名（内１名訪看兼務） 鍼灸師：１名 介護パート：１名
2017年度 理念、目標	「地域と繋がる老健機能の構築」 ・老健退所者が在宅生活を、その人らしく送れるように支援する。そのための、「通所リハ」「訪問リハ」の機能を発揮していく。 ・専従的なスタッフ配置から流動的な役割共有が可能となる配置の再検討。
業務（活動） 内容、特徴等	入所：在宅復帰強化型老健としての機能強化。１日を通しての活動に着目し、多職種協働で介入を行う。 通所：在宅支援強化型通所リハの枠組み作りに取り組む。目的を持った通所リハの利用となるようプランニングを重点的に介入する。 訪問：短期集中型の訪問リハとしての実績を積む。
実　績	入所：在宅復帰率　61.4％（2017年度平均） 通所：リハマネⅡ算定率　42％（2018.３時点） 訪問：平均利用日数　80日（2018年開始者）
目標の評価	・老健退所者のその後の生活を踏まえた入所での介入となるよう、活動性の維持･向上に努めた。 ・老健機能を活かした通所リハ、訪問リハの機能を強化することに対しては入所からの繋がりを持った活用が提案できた。実績としては、利用者の一部であるが、今後も拡大を進める必要がある。 ・訪問兼務可能なスタッフの育成ができた。（入所・通所２名）。
今後の展望	リハサービスの実施において、老健内のみならず、敬和会及び地域の多種多様なサービスとの連携を図っていく必要がある。 昨年に引き続き、単一事業所内での活動に留まらない人材の育成に努めたい。

文責：谷口　理恵

11）有料老人ホームいきいきホームみなはる

構成員数	常勤准看護師 １名　　非常勤看護師　１名 ヘルパーステーションスタッフ（兼務）12名
2017年度 理念、目標	・家族のつながりと利用者の自立をささえる『すまい』の提供 ・最期まで地域で生きる暮らしの空間
業務（活動） 内容、特徴等	○有料老人ホーム入居者の受け入れ ○介護保険給付対象外のサービス提供 ○行事の開催にて交流や季節を感じられる機会の提供 ○スタッフの人材育成
実　績	○運営状況



新規入居者数	入居前施設		退居者数	退居先	
9名	大分豊寿苑	6名	7名	大分豊寿苑	4名
	大分岡病院	1名		看とり	2名
	在宅	2名		入院	1名

※現在、待機者６名

○介護保険給付対象外のサービス

①身体介護　②身の回りの生活援助　③健康管理　④食事の提供

⑤生活相談、アドバイス、各種書類準備

○開催行事

・お誕生日会・お雛祭り等の行事

・いきいき運営懇談会の開催

○スタッフの育成

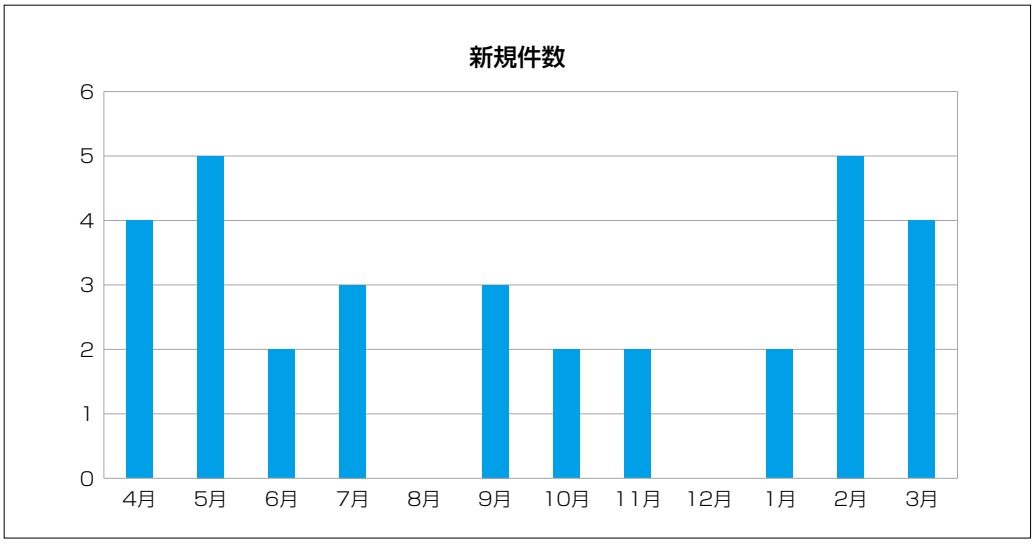
・喀痰吸引研修　12名修了

毎月のミーティングにてご利用者様の現状の確認や各種サービスの情報共有を行なうことで今後のケアの見直しを実施

目標の評価	有料老人ホーム開設より１年経過。定員10名の中で要介護度１～５、認知症の方、精神疾患のある方、医療依存度の高い方…様々な方が入居されているが、多部署の協力を得ながらスタッフ一丸となって幅広いケアが展開できた。
今後の展望	入居者は、各種在宅サービスを利用される為、ご本人・ご家族が安心して過ごせるよう引き続き各部署への情報提供、連携は密に図っていきたい。 また、快適に過ごせるよう居室の環境整備、ホールで過ごし他者との交流や身体機能を維持できる取り組みを検討。 喀痰吸引研修については、第１号取得のため、経鼻経管栄養注入の対象者の同意と実地研修を調整し、指導看護師と連携をとり随時研修を行う。（第２号→第１号） H29年度は入居相談も多く頂いたが、限られた部屋数である為に空室のタイミングと入居希望、サービス調整のタイミングを合わせていくことが今後の課題である。

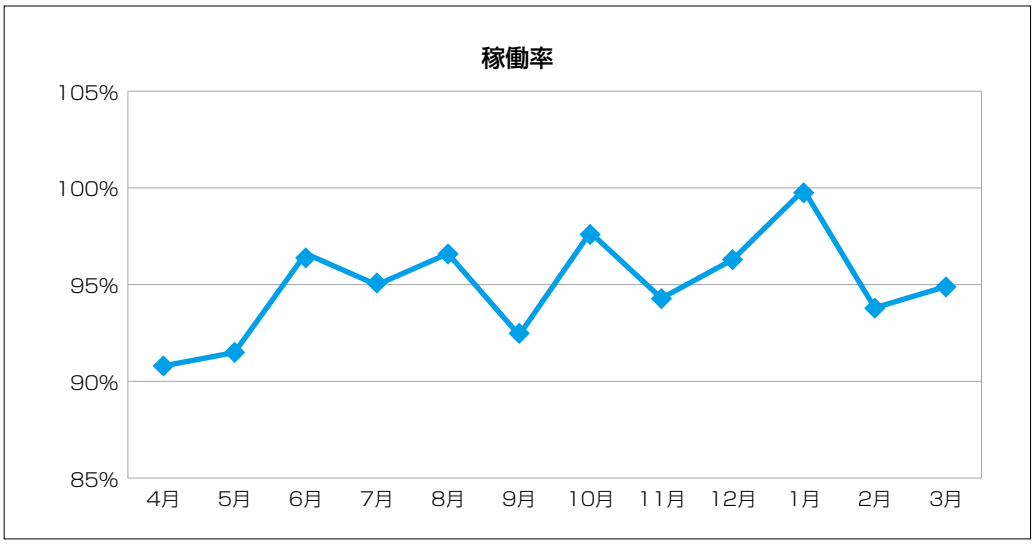
文責：松村　智恵

12）ヘルパーステーション

構成員数	介護福祉士　14名（常勤） 　　1名（非常勤）
2017年度 理念、目標	利用者に寄り添い、各関係機関と連携を深め、自立支援と生活意欲を引き出せるよう日々の支援に取り組む。
業務（活動） 内容、特徴等	①多職種間との連携を図りながら在宅サービスの提供 ②喀痰吸引の必要な利用者宅の訪問 ③重度者へのサービス提供 ④障害福祉サービスの拡大 ⑤兼務事業所、有料老人ホーム「いきいきみなはる」の運営
実　績	 ※年間訪問件数：14,452件　年間稼働率：79.6％
目標の評価	・訪問先での緊急時、体調不良時の連携の強化。 ・喀痰吸引の３号研修修了者が新たに２名増加。 ・障害福祉サービス利用者の訪問依頼の増加。 ・有料利用者の日常のケア、体調不良時の対応、各機関との連携。
今後の展望	・重度の利用者の増加に伴い、精神疾患の利用者も増加。個々の特徴に応じた知識とサービスを提供していきたい。 ・障害児の入浴介助等の依頼の問い合わせが増加。対応できる職員を増やす。 ・ターミナルケア依頼の訪問開始の円滑化。

文責：赤坂くみこ

13）小規模多機能型居宅介護事業所陽だまりの郷みなはる

構成員数	管理者　１名（計画作成担当兼務）　常勤介護従事者　10名 非常勤介護従事者　３名　常勤看護師　１名　非常勤看護師　１名
2017年度 理念、目標	理念：１人１人の思いや願いを尊重し、その人らしい生活を大切に、家族や地域の結びつきのもとに、住み慣れた地域でこれまでの暮らしを継続できるように支援します。 ミッション：「なじみの関係」を大切に、１人ひとりの思いに寄り添う →サロンや地域行事に参加する ビジョン：在宅の安全・安心を提供し、在宅の限界を高めるサービス →稼働率の安定
業務（活動） 内容、特徴等	業務内容：「通い」「泊まり」「訪問」を臨機応変に提供しながら、自宅でこれまでの暮らしを続けられるように訪問を重視した支援を行う。 送迎時間を７時半～19時半の対応とし、仕事をしている家族でも介護をしながら仕事を続けられるように環境設定している。また介護者が体調を壊された時などすぐに宿泊支援に移行出来るように訪問時等に本人だけでなく家族の様子も観察し、情報共有を行っている。 特徴：①くもん学習療法を行い、脳の活性化をはかり認知症予防に努めている。 ②洗濯・草取り・料理作り等の生活リハビリを勧め、自宅での自立した生活を目指している。 ③地域の行事に参加し、地域の人にとって身近な事業所を目指している。
実　績	登録利用者の推移  スタッフ研修 ・オムツフィッター３級修得　・SQC初級講座終了　・医療メディエーター研修 ・喀痰吸引研修　・接遇指導者研修　・コミュニケーション能力２級認定講座 ・認知症キャラバンメイト研修　　他　介護部会　学術部主催の研修に参加
目標の評価	・毎月28～29名の登録定員となり、業績も安定していた。 ・管理者中心で参加していた地域行事にも、他のスタッフが参加し、地域の人達との結びつきがより一層深くなった。 ・法人外からの紹介が多く、他の事業所との連携も図れている。 ・認知症の勉強会を行い、対応力の強化を図る事で困難事例の受け入れが可能となっている。
今後の展望	・要介護者の高い方の受け入れ ・介護保険の仕組みを理解し地域行事等に参加出来るスタッフを増やす

文責：相良　円香

14）グループホームおおざい憩いの苑

構成員数	管理者：１名　看護師：１名　准看護士：１名　介護支援専門員：２名 介護福祉士：８名　介護職員：３名　介護パート：１名　以上17名
2017年度 理念、目標	理念：家庭的な雰囲気の中で、いきがいと一人一人の尊厳を重んじ、地域社会との交流を図りながら、住み慣れた地域で、安心した生活が過ごせる環境を提供する。 目標：入居稼働率100％を目指す。 こいけばる憩いの苑との合同研修を行い、人事交流、知識・技術の向上を図る。
業務（活動） 内容、特徴等	①地域行事参加 ４月：志村神社神幸祭　５月：大在地区体育祭　６月：大野川コスモスの種まき 10月：大分リハマルシェ　11月：ホースセラピー ②苑内行事…季節の行事（お花見、そうめん流し、夏祭り、敬老会、 クリスマス会、初詣、おやつ作り等） ③外出…誕生日、食事、買い物、ドライブ等 ④毎日の行事…ラジオ体操、食前の嚥下体操、個別リハビリ、個別レク等 ⑤ボランティアの慰問…津留芸能協会（３回）、スコップ三味線、大正琴等
実　績	入居者数：97.2％ 看取り死亡者数：７月/１名　８月/１名　30年２月/１名　３月１名
目標の評価	・大分市認知症家族介護支援事業を受託し、６月・７月・８月に実施する。 ・こいけばる憩いの苑との合同研修を７月（人事交流）　10月（介護保険制度、重要事項の確認、問い合わせに説明出来るようにする）　11月（親睦会）　30/３月（虐待･記録について）開催する。 ・前年度インフルエンザの流行にて、当苑の入居者も多数の感染者を出したが、岡病院の大久保Ｄｒをはじめとする感染委員の方々の指導や助言を頂き、今年度は感染者０だった。
今後の展望	１．介護職による喀痰吸引等研修の受講 ２．入居待機者の確保 ３．こいけばる憩いの苑との合同研修の継続 ４．入居者数18名の安定 ５．制服の導入

文責：篠田恵美子

15）グループホームこいけばる憩いの苑

構成員数	管理者：１名　看護師：１名　介護支援専門員：１名　介護福祉士：６名 介護職員：１名　契約介護職員：２名　介護福祉士パート：１名 介護パート：３名　　合計16名
2017年度 理念、目標	理念：家庭的な雰囲気の中で、生きがいと一人一人の尊厳性を重んじ、地域社会との交流を図りながら、住み慣れた地域で安心した生活が過ごせる環境を提供する。 目標：入居稼働率100％を目指す おおざい憩いの苑との合同研修を行い、人事交流、知識、技術の向上を図る。
業務（活動） 内容、特徴等	①苑内行事・季節行事 （お花見、そうめん流し、夏祭り、敬老会、クリスマス会、初詣、おやつ作り等） ②外出　　誕生日、食事、買い物、ドライブ等 ③毎日の行事　　体操、食前の嚥下体操、個別リハビリ、個別レク等 ④ボランティアの慰問　　津留芸能協会慰問、しいのみ保育園、ウッドストック ⑤実習生受け入れ　　医大学生、中学生職場体験
実　績	入居者稼働率：95.8％ 看取り死亡者数：平成29年７月/１名、８月/１名、平成30年１月/１名
目標の評価	（勉強会・交流会等） 平成29年７月　人事交流としておおざい憩いの苑との合同研修会を実施 10月　介護保険制度重要事項の確認（問い合わせに説明出来るように） 11月　親睦会 平成30年３月　虐待・記録について （課題） 事故等についての入院等はなかったが、脳梗塞等の入院、またその後退所等に繋がり稼働率に影響があった。今後、入居待機者の確保が出来る様努力が必要。
今後の展望	1　介護職による喀痰吸引等研修の受講 2　入居待機者の確保と共に、稼働率100％を目指す 3　大分市認知症支援事業実地 4　おおざい憩いの苑との合同研修の継続 5　看護学生実習の受け入れ 6　地域行事の参加と交流 7　制服の導入

文責：谷口　孝枝

7　大分豊寿苑　委員会活動報告

1）労働安全衛生委員会

構成員数	22名
2017年度 目標、方針	職員の健康管理および労働環境の整備促進 ①業務の効率化とワークライフバランスの促進 ②健康管理とメンタルヘルスで健全な職場づくり ③職場環境分析と改善に向けての意識づけ
業務（活動） 内容、特徴等	①時間外労働短縮にむけての各部署の取り組みを共有し効果的な活動実施 有給消化実績報告　時間外労働時間の実績報告 ②健診、ストレスチェックの実施による健康管理 ２次健診受診促進活動 B型肝炎ワクチンプログラムの実施 ③職場環境分析のためのアンケート調査実施 現状を把握し改善に活かす
実　績	①時間外労働削減にむけ、月１回（第３水曜日）、ノー残業デイの導入 残業時間は前年により減少傾向 有給休暇取得率　平均71.1％ ②職員の健康管理 ストレスチェックを全職員対象に実施 B型肝炎ワクチンプログラムを48名に実施 就業時間後に短時間通所施設を週１回（水）開放し職員向けフィットネスの実施 ③平成29年11月職員アンケート実施
目標の評価	①各部署での業務改善の取り組みにより、時間外労働の削減、有給休暇取得率の向上につながった。また、部署間の格差も是正傾向がみられる。 ノー残業デイの職員への周知が不十分であった。 ②２次健診受診率が33％と、前年よりやや改善しているものの、まだ低い状況のため、引き続き意識付けが必要である。 ③アンケート結果を取りまとめることで、職場環境の分析、職員の意見なども含め報告することができた。
今後の展望	①電子カルテ、介護ロボットの導入による業務の効率化促進および時間外労働削減、有給休暇取得率向上に向けた取り組みを継続し、職員が笑顔で働ける労働環境の整備に繋げる。 ②健康管理、感染管理、メンタルヘルスの徹底。 ③職員アンケートを継続的に実施し、課題の分析、問題解決、改善に繋げる。

文責：渋谷　智子

2）褥瘡対策委員会

構成員数	14名（看護師・介護福祉士・栄養士・PT）
2017年度 目標、方針	褥瘡の早期発見・予防に努める。 褥瘡形成者の改善策を立案する。
業務（活動） 内容、特徴等	毎月１回委員会の開催。 褥瘡に関する用具の管理、整理整頓。 週２回（15・30日）写真にて経過管理。 全体会議の際、褥瘡形成者・要注意者の周知。 各職種と連携を図り早期発見に努める。 褥創対策に関する計画書作成。
実　績	体圧分散マット等の管理について使用状況把握、適切な使用が行えるよう管理。 状況にあわせ必要性の見直しを行う。褥瘡形成の恐れ、悪化などあれば褥瘡委員会への報告･連絡･相談等の連携を図る。
目標の評価	介護職との連携もあり、早期に褥瘡発見し治療を行えた事例もあったが、そうではない事例もあり、褥瘡に対する危険性の認知・判断・観察・予測能力など個人差が見られ、褥瘡予防や対策以前に職員の知識・技術の向上に努める必要がある。 入所の時点で状況に応じ体圧分散マットの使用など褥瘡形成・形成の恐れのある方など事前情報収集により早期に対応できた。 多職種との連携を深め専門的な関わりを図ることができた。
今後の展望	褥瘡予防対策の継続。 褥瘡に関する勉強会開催・メンバーの院外研修などの参加。 ブレーデンスケールを用いた褥瘡予防対策。 褥創対策に関する計画書の評価、継続。

文責：小堀　美香

3）感染対策委員会

構成員数	15名
2017年度 目標、方針	1、苑内感染対策 2、職員の感染対策に対する意識向上 3、感染防止対策の推進・評価・検討
業務（活動） 内容、特徴等	1　苑内感染防止対策活動の推進 感染統括センター（以下KICC）と連携し衛生物品や感染対策関連物品の検討 2　職員の感染防止対策に対する意識向上促進 ・感染症流行期の利用者、職員に対する注意喚起 ・職員研修（インフルエンザについて：大久保医師） ・針刺し事故防止に向けた職員教育 3　感染防止対策の推進・評価・検討 ・利用者・職員の感染発生状況報告、検討 ・定例会議の開催　毎月第一金曜日
実　績	1　職員研修　11月：インフルエンザについて　講師：大久保医師 11月：各部署で吐物処理の勉強会 2　アルコールの手指消毒剤の使用量増加に向けた取り組み。 3　部署ごとの感染症流行状況の確認、注意喚起 4　療養棟でのインフルエンザ流行（入退所制限・面会制限・予防内服等検討→KICCの介入） 5　マニュアルの作成、見直し（KICC介入）
目標の評価	前年度療養棟において疥癬とインフルエンザのアウトブレイクを経験。今年度もインフルエンザのアウトブレイクがあったが前年の経験を活かし早期に対策がとれた。入所者２名の発症段階でアウトブレイクとし、前年度改定したマニュアルを用いて対策をとった。KICCへの報告と早期からの介入で入退所の制限なども必要最小限の期間でシーズンを終えることができた。今年度早期に対策を取ったにもかかわらずアウトブレイクとなった原因として共有スペースでの活動など環境面の問題も考えられた。来年度に向け委員会内で検討すべき課題である。
今後の展望	感染対策マニュアルの見直しを行っている。今後も引き続きKICCとの連携を強化し、マニュアルの整備を継続予定。 手指衛生のさらなる確立に向けた取り組み、アルコールポシェットの定着で擦式アルコール剤の使用量アップを図る。 アウトブレイクの経験を無駄にすることなく、感染率の低減に努めたい。

文責：小野　幸代

4）サービス向上委員会

構成員数	16名
2017年度 目標、方針	①接遇の向上や良質のサービスが提供できるように努める。 ②安心してサービスを利用して頂けるように法令遵守の周知、徹底を図る。 ③快適な環境で過ごして頂けるように５Ｓ運動の推進（クリンリネスの実施）。
業務（活動） 内容、特徴等	適切な接遇指導、接遇パトロールの実施 満足度調査の実施 苦情や意見の改善策を検討 法令遵守の周知 自己評価の実施 個人情報保護の職員への周知、マニュアルの見直し ５Ｓ運動の推進（クリンリネスの実施）
実　績	・クリンリネスの実施（３ヶ月１回） ・苦情や意見の改善策を検討（毎月） ・マニュアルの見直し、個人情報保護の周知（５月） ・自己評価の内容検討（７月） ・利用者満足度調査実施（11、１月）
目標の評価	・５Ｓ運動の一環としてのクリンリネスは、ラウンドを年４回とした。委員から各部署に呼びかけを行い、整理整頓を心がけてもらうことで、徐々に浸透してきたが、職員の異動・新入社員の増加により改めて５Ｓ運動の周知が必要だと思われる。 ・定例会議では、ご意見箱や各部署の苦情について検討し、返答内容が閲覧できるように掲示する対応をとっている。10月頃より苦情や意見の件数が減少している為、利用者様・家族様へのご意見箱の周知を各部署に依頼している。 ・満足度調査の実施後、委員会内で報告を行い、調査結果を各部署から利用者様･家族様に報告。 ・マニュアルや自己評価については、各部署で業務マニュアルや、個人情報保護に関する書類などを見直す機会を設け、法令に則った業務が遂行できているかを確認した。マニュアル見直し等については、委員会でのチェック機能の強化の必要性がある。
今後の展望	2018年度も同様の目標を掲げ、サービスの質の向上に努めるとともに、職場環境にも引続き着目し、５Ｓ運動を推進する。また、接遇パトロールやあいさつ運動等の取り組みも継続して行う。

文責：佐藤　　駿

5）安全対策委員会

構成員数	18名
2017年度 目標、方針	毎月のヒヤリハット・事故・身体拘束の件数を見直し、対策案を各部署にフィードバックし、再発を防ぐ。
業務（活動） 内容、特徴等	・毎月１回会議を開催。ヒヤリハット報告、事故報告、身体拘束者の件数と発生状況、対策の見直しと状況把握を行い、各部署へのフィードバックを行う。 ・ヒヤリハットの発生内容の分類化を行い、当月発生の多かったものについて、会議にてディスカッション、対策の再検討を実施。 ・ヒヤリハット報告書提出の啓発。 ・安全管理指針の周知（インシデント・アクシデントの区分、安全管理の基本的な考え方等） ・転倒予防ワーキンググループ（FP隊）の発足。活動開始。
実　績	・ヒヤリハット報告、事故報告、身体拘束者、身体拘束予備軍の年間件数

	ヒヤリハット報告	事故報告	身体拘束者	身体拘束予備軍
H29年4月	30	8	3	10
5月	41	11	4	9
6月	65	11	4	8
7月	38	10	3	10
8月	23	12	2	9
9月	47	12	2	9
10月	34	7	1	10
11月	46	12	3	11
12月	50	17	3	13
H30年1月	49	6	3	13
2月	43	6	3	15
3月	42	10	3	13

目標の評価	・昨年に引き続きヒヤリハット報告書提出の啓発活動を行ってきたが、報告書提出月平均42.3件と昨年より若干の減少傾向となった。（昨年月平均46.3件）その為か事故発生件数が増加傾向にある。啓発活動の一環としてH30年１月より、ヒヤリハットの前段階での報告書提出（気づき報告書）を始めており、徐々に報告が上がってきているが、事故発生件数減少には結びついていない。 ・昨年末のインフルエンザ感染拡大予防の為に実施していた、入所利用者の居室対応等の為、転倒・転落事故が多く発生していた。環境の変化に伴うリスクの周知が徹底できていなかった為と思われる。 ・ヒヤリハット発生内容の分類化と検討を行うことで、多発事象の内容を把握する事ができ、重点的な対策検討を行うことができた。 ・転倒予防ワーキンググループ（FP隊）を発足、転倒･転落事故が多く発生している部署（入所･通所･小規模）のラウンドを開始。また、入所全利用者の環境シートを作成し活用することで、転倒予防の為の環境整備を行ったが、依然として、転倒・転落等が発生件数の上位を占めており、詳細な状況の把握と検討が課題。
今後の展望	・引き続きヒヤリハット報告書提出の啓発活動の継続、気づき報告の周知を行うことにより、現場スタッフの「気づき」の視点の強化を行い、事故へと結び付かないよう各部署での対策を取っていく。 ・インフルエンザの感染拡大予防の為の居室対応等により、身体状況の変化による転倒・転落が多く発生していた為、季節や状況にも配慮したリスクの把握と対策を行う。 ・FP隊の活動内容、防止対策の周知と、入所者環境シートの活用の徹底を行い、同一内容事故の発生を防止する。

文責：今村　真弓

6）エコ委員会

構成員数	14名
2017年度 目標、方針	・水光熱のコスト、使用量の削減 ・省エネ推進
業務（活動） 内容、特徴等	・最大デマンド抑制（空調デマンドでデマンド抑制） ・エアコンの稼働時期の定時チェック（９時、14時、17時） 集中リモコンでの管理を実施、異常な設定温度、風量を早めに気付き改善する。 ・エコ委員会の隔月開催での水光熱の使用量報告、問題点を共有し改善策を検討する。
実　績	・最大デマンド抑制　178kWh⇒190kWhへ上昇 空調デマンド活用で制御していたが、制御でも追いつかず温度調整実施したが設定デマンド値超え発生。平成30年１～２月期間中５日間178ｋWh超 ・水光熱各前年差　電気△1,14,840円　使用量△35,730ｋWh 水道▲874,635円　使用量△404㎥ ※大口使用者等特別料金制度申請にて料金の減額あり ガス△136,890円　使用量△396㎥ 重油△52,989円　使用量▲677L　※重油価格の高騰（平成29年10月以降） 重油を除き、各項目で使用量増。特に電気使用量が毎年増加している。 ・エコ委員会は隔月開催を実施し、委員会メンバーへ省エネへの取り組みを協力依頼、問題点の報告の場とした。
目標の評価	・デマンド抑制は前年度設定参考にし、実施。 空調温度の温度設定を集中リモコンにて設定し空調調和に取り組めた。 ・水光熱の各項目に関して、使用量減は難しく重油以外達成できず。 コスト削減に関して、新電力の契約内容の見直し、水道は大口使用者特別料金制度の申請を実施し、コスト削減に努めた。 ・委員会の定期開催は実施できたが、部署により参加状況の差があり全体に省エネへの取り組みは徹底できず。
今後の展望	・ピーク電力の平準化は継続課題、就業開始時間にピーク発生することが大半な為、出勤後の空調使用への工夫が必要。 ・空調調整は日々実施できているが、24時間空調稼働している部署への時間帯における温度、風量調整の理解と協力をしていく。 ・空調の調整だけに頼らない温度抑制の方法を検討していく。

文責：首藤　　功

7）地域交流委員会

構成員数	13名
2017年度 目標、方針	これまで培った地域との繋がりや地域交流のノウハウを生かしながら、事業所や部署の垣根を越えて全部署で地域交流・地域貢献に取り組む体制を構築する
業務（活動） 内容、特徴等	①地域の方への健康増進の為の活動 ②地域住民の方への相談窓口 ③地域イベントへの参加や企画
実　績	①介護予防教室への参加呼びかけ 　出張地域サロン（サロンや長寿会に参加し、健康体操や認知症予防の講話などを行う） ②別保あんしんサポートセンターの開設 　認知症カフェ「カフェきちょくれ」・ミニむつき庵　ほほえみ 　料理教室・クラフト教室・手芸同行会　等の取り組み 　認知症家族介護支援事業の開催 ③地域の夏祭り・盆踊りの参加 　ホースセラピーの開催
目標の評価	・一年を通して24のサロンや長寿会に参加させて頂き、健康講話を行う事が出来た。 ・認知症カフェでは学びの場として勉強会を開催し、地域で開業している先生を招いて「高齢者の病気の理解とその予防について」の講話を頂き、受診中には聞けない悩みごとなどで話しが弾んでいた。 ・地域の行事に参加する事により大分豊寿苑がより身近な物になっているとのお声を頂いている。介護サービスを選択するうえで幅を広げるきっかけ作りが出来ている。
今後の展望	・認知症カフェが広まる事で、地域の介護拠点を目指したい ・むつき庵ほほえみの存在を広げ、介護者の負担軽減等に努めたい ・サロン等に参加し、地域の人達の介護予防の意識を高める事に貢献したい ・地域の事に興味を持つスタッフを育成したい

文責：相良　円香

8　大分豊寿苑　部会活動報告

1）学術部

構成員数	20名
2017年度 目標、方針	・職員が幅広い事柄に関心を持ち、新たな知識を獲得していく機会を提供する。 ・職員の学術レベルの向上を図る。
業務（活動） 内容、特徴等	・月１回の学術勉強会の開催。 ・年１回の介護教室の開催。 ・年１回の災害研修の開催。
実　績	４月：高次脳機能障害について ５月：栄養サポートセンターについて ６月：介護保険制度について ７月：ＢＬＳ ８月：敬和会学会演題苑内発表会 ９月：人権・虐待防止 10月：コンプライアンスについて　／　介護教室 11月：感染対策 12月：転倒転落防止について １月：認知症について ２月：介護保険改定について ３月：災害研修　／　接遇について
目標の評価	・学術勉強会、介護教室、災害研修は予定通り実施できた。 ・開催月によって参加人数の増減があるため、参加の呼びかけが必要である。
今後の展望	・より質の高い勉強会を企画するために、登壇する職員の育成やサポート体制を構築していく。 ・働き方に応じて聴講できるようビデオ撮影を行っているが、より視聴し易いよう工夫していく。

文責：松田　和也

2）広報部

構成員数	21名
2017年度 目標、方針	・ホームページやfacebook、新聞等を通し、大分豊寿苑の活動を地域に発信していく
業務（活動） 内容、特徴等	・ホームページやfacebookの更新を行い、活動報告や行事などの案内を行う ・各部署の広報用の新聞の制作及び配布、展示を行う ・行事の写真撮影
実　績	・ホームページやfacebookの更新 ・壁新聞の作成及び展示、ホームページへの掲載 ・行事、イベント時の写真撮影
目標の評価	・壁新聞の作成、展示は定期的に実施できており利用者含めご家族にも関心をもっていただけている。 ・Facebookの更新が少なく、情報発信の不足あり。 ・イベント、行事への広報部の参加が確実ではなく情報の発信の機会損失あり。
今後の展望	・法人ホームページのリニューアルがあり、更新作業の一部ができるようになった。更新方法を広報部において共有する。 ・広報部のメンバーが、行事に積極的に参加し情報発信していく。

文責：首藤　　功

3）レクリエーション部

構成員数	部長１名 副部長１名 部員27名
2017年度 目標、方針	レク･各行事を通して、利用者に気分転換や季節を感じる楽しみを提供し、刺激のある生活を送って頂けるように努める。
業務（活動） 内容、特徴等	行事の年間作成、及び準備と実施。物品の管理。 療養棟でのレクリエーション週間計画の作成と準備 ※花見、鯉のぼり、七夕、夕涼み会（ソーメン流し）、スイカ割り、縁日、運動会、クリスマス会、鍋パーティー、節分、ひな祭り
実　績	４月お花見（天候の都合で河川敷までの花見散歩　老健利用者約90名。ボランティア（鶴崎中学生約50名と教員数名の協力があった。） ８月 夏祭り（場所１階ホール。鶴崎踊り愛好会の生演奏のもと鶴崎踊り。フラダンス鑑賞） 12月クリスマス会（職員の出し物、ビンゴ大会等 老健利用者90名 通所利用者120名）
目標の評価	・季節の行事に関しては天候によって左右されたこともあり、季節を感じにくかった可能性はあるが、気分転換ができ楽しい時間を提供できたと考える。 ・老健のレクリエーション週間計画、誕生日会、外出については再度検討の場が必要である。
今後の展望	・全体的に事前検討、反省の機会を多く設けて質の向上に努めていきたい。 ・天候に左右される行事については、柔軟に対応できるよう、情報収集・伝達を強化し、事前の検討を行い、質の高いものを提供していきたい。

文責：五十嵐竜二

4）福利部

構成員数	部長１名　副部長１名　部員15名
2017年度 目標、方針	各部署の枠を超えた職員同士の親睦を深め、働きやすい環境とする。
業務（活動） 内容、特徴等	・新入職員の歓迎、親睦を深める行事等の企画・運営 ・各行事の出欠確認、行事当日のご案内等
実　績	４月：新入職員歓迎会 11～12月：親睦会（バスツアー） 12月：敬和会忘年会
目標の評価	４月：新入職員歓迎会　カルチアパーク 初めて使用する市街中心部会場で、昨年度よりも人数が多く131名の参加。鉄道やバスが活用でき、飲酒した職員も帰宅しやすい立地であったことも、参加増の要因と考えられる。 11～12月：親睦会（バスツアー）　鳥栖アウトレット→キリンビール工場見学 かなり以前には実施したようだが、ここ数年ではない試みとなった。参加希望者が多数であったが、秋の行楽シーズンと重なってバスが多く確保できず、参加を制限して頂く事態となった。 12月：敬和会忘年会　レンブラントホテル大分 例年とほぼ変わらない参加者であった。 職員数が多くなったため、企画する側も参加する職員の把握や催しの準備等負担が大きくなっている。
今後の展望	あまり接する機会のない職員が交流することで、通常業務での連携の図りやすさにも繋がると考える。年々職員数が増加しており、企画のご案内等で漏れがないよう、今後も注意したい。また、職員の声を伺い、ご希望に添えるものを提供して普段の業務とは違った時間を過ごして頂きたい。 可能な限り、職員に経済的な負担を被らない方法を、福利厚生として取り組む必要があると考える。

文責：工藤　智之

5）園芸部

構成員数	14名
2017年度 目標、方針	・四季を通しての植物の管理 ・環境整備としての一環として、草取り及び清掃
業務（活動） 内容、特徴等	・花、野菜の種まき、苗の植え付け。 ・植木の水やり。 ・敷地内、建物周辺の草取り。
実　績	８月　本館裏の草取り。 ８月　本館玄関横の花壇にコスモスの種を撒き発芽するが、その後生育せず。 ８月～12月　新館４階ベランダの植木に水やり。
目標の評価	・種まきからの生育は難しく失敗した。今後は苗の植え付けを基本にしていく。 ・草取りは夏場に一括してするのではなく、春先から数回かけてこまめにしていく。
今後の展望	花壇を中心に四季折々の花を植えて充実させていきたいと思います。

文責：中野圭史郎

9 教育活動

1）講演・ポスター発表

■ 訪問看護ステーション

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/ 4/27・7/27・12/7 大分県介護労働安定センター	講義　<医療的ケア教員講習会> 制度の概要/医療的ケアの基礎 佐々木真理子 痰吸引等のケア実施/経管栄養ケア実施 安部寿美
2017/5/17 住宅型有料老人ホームステーション常行	講演　「ターミナル期における身体の変化とターミナルケアのエビデンス」 稲生野麦
2017/6/1・9/13 大分県看護協会	講義　<プラチナナース生き活きプロジェクト研修> 訪問看護ステーションの実践 佐々木真理子
2017/6/13 大分県介護労働安定センター	講義　<短期専門講習> 介護のための医学の基礎 佐々木真理子
2017/6/15 大分県介護労働安定センター	講義　<ケアサポート講習> 観察と緊急時対応 佐々木真理子
2017/6/29 大分大学医学部看護学科	講義　<在宅看護論> 訪問看護活動の実際 佐々木真理子
2017/7/8・7/29 大分県看護協会	講義　<訪問看護ステーション管理者育成研修> SWOTクロス分析 アクションプラン作成 佐々木真理子
2017/8/5 日本地域看護学会 第20回学術集会	シンポジウム「実践者のパワーアップに向けた地域看護の新展開」 演題「地域ケア」の看護力発揮の心得－医療と生活をつなぐ訪問看護の視点－ 佐々木真理子
2017/8/19・26 大分県社会福祉介護研修センター	講義<介護支援専門員専門研修・更新研修　課程I> 看取り等における看護サービスの活用に関する事例 佐々木真理子 演習ファシリテーター 稲生野麦 淵野万希子
2017/10/2 大分県立看護科学大学	コメンテーター　<看護スキルアップ演習> 退院調整・在宅（終末期）におけるロールプレイ 佐々木真理子
2017/10/12 藤華医療技術専門学校看護学科	講義　<在宅看護論> 訪問看護における看護活動の実際 佐々木真理子
2017/10/19 東陽地域包括支援センター	講演　<東陽圏域事業所交流会・勉強会> 在宅糖尿病療養者を地域で支える 佐々木真理子
2017/ 10/26・11/8・11/16 大分県社会福祉介護研修センター	講義　<介護支援専門員専門研修・更新研修　課程II> 看取り等における看護サービスの活用に関する事例 佐々木真理子 演習ファシリテーター 稲生野麦 淵野万希子
2017/10/26 大分県看護協会	講義　<在宅ターミナルケア研修> 看取り時の支援と遺族ケア 稲生野麦
2017/11/4 2018/1/21 大分県社会福祉介護研修センター	講義　<介護支援専門員更新研修> ケアマネジメントの展開・看取りに関する事例 佐々木真理子 演習ファシリテーター 稲生野麦
2017/11/27 大分県立看護科学大学看護学部 小児看護学研究室	講義　<小児の訪問看護実践力向上のための研修会> 訪問看護ステーションにおける小児訪問看護の実際 佐々木真理子
2017/12/5 大分県立看護科学大学	講義　<在宅看護論> 在宅における緩和ケアの看護 稲生野麦
2017/12/9 第16回大分県神経難病地域支援ネットワーク研修会	口演　「やりたい事は無限大～我が家で過ごす人工呼吸器装着療養者のチャレンジを紹介する～」 オカナ絵里子
2017/2/3 第40回大分県看護研究学会	ポスター演題「訪問看護師による家庭教育が褥瘡ケアの改善効果があった1事例」 三浦清美、安東由美子、北村洋子
2018/2/17 日本医療マネジメント学会 第18回大分県支部学術集会	シンポジウム「多職種連携による在宅医療の推進」 演題「看護師の立場で考える在宅療養を推進するための多職種連携とは‼」 佐々木真理子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2018/3/10 大分大学 がんプロフェッショナル教育講演	演題「訪問看護が支えるがん患者の実際」 佐々木真理子
2018/3/12 大分県北部保健所	平成29年度医療機関と在宅を結ぶ相互交流体験事業報告会における講演 演題「看護師の役割」 佐々木真理子

■ リハビリテーション課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/6/1～2 第18回九州ブロック介護老人保健施設大会in長崎 ハウステンボス	失禁がなくオムツを着用している者へのオムツ外し 児玉貴雅
	回復期リハ病棟の課題を引き継ぐ入所者支援の取り組み 松田和也
2017/6/3～4 第10回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in北海道 札幌市教育会館	時間に主軸を置いた業務改善のための取り組み 橋本　卓
2017/6/9～10 第30回日本老年泌尿器科学会 ソラシティカンファレンスセンター	在宅療養の場における排尿リハビリテーション・ケア-多職種で尿道留置カテーテル抜去に介入し，生活の質が改善した一症例 樋口ちひろ（OT）
2017/7/27～28 全国介護老人保健施設大会 愛媛 ひめぎんホール	リハマネ加算2の理念に沿った通所リハ改革 谷口理恵（OT）

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2017/10/15 第11回大分県排泄リハビリテーションケア研究会 大分大学医学部附属病院	自宅で過ごす利用者の排泄リハケアーゆーりん研事例検討会をきっかけに排泄行為や生活に変化が見られた症例 樋口ちひろ（OT）
2017/10/19～21 リハビリテーション・ケア合同研究大会　久留米2017 久留米シティプラザ	リハマネ加算Ⅱを通したリハケアサービス向上への取り組み 谷口理恵（OT）
	入院から在宅へ円滑な生活移行に向けて～入院中から多職種との連携を通して～ 毎床秀朗（OT）
2017/11/11～12 2017年全国訪問歯科研究会「加藤塾」つくば大会 つくば国際会議場	口から食べる～介護予防から咽頭ケアまで。黒岩恭子先生から学んだこと、Ns・ST・DHの視点から～ 是永弘子（ST）
2018/2/16 九州先端リハビリテーション・ケアクラスター推進機構 ニーズ・シーズ意見交換会 大分県男女共同参画プラザ アイネス	日常生活を支援する補助具について 渡邊裕也（PT）
2018/3/18 大分県訪問リハ・通所リハ研究会 第22回研修会：発表 別府B-Conプラザ 小会議室31	当ステーションにおける小児訪問リハの現状について 橋本　卓（PT）

2）投稿・著書・雑誌掲載

■ 訪問看護ステーション

誌名・巻・頁・年	題名・著者
地域リハビリテーション第12巻第8号2017年8月	特集　高齢者の下肢病変と在宅支援「下肢病変を持つ在宅療養者に対する訪問看護の役割」

3）講師・サロン他

開催年月・場所	講師・サロン活動名・活動実施者
2017/4/12 皆春公民館	**第4回皆春グランドゴルフクラブ健脚度測定** 洲上祐亮（OT）/洪　泰英（PT） 東陽地域包括支援センター 依頼
2017/4/26 いきいき健康館	**豊府地区サロン 健康教室：講師** 橋本　卓（PT） 古国府東老人クラブ睦会 秋吉会長より依頼/淵野保健師同行
2017/5/22 種具公民館	**種具公民館 健康教室：講師** 洲上祐亮（OT） 東陽地域包括支援センター 依頼
2017/5/24 STKテクノロジー	**腰痛予防体操：講師** 洲上祐亮（OT） すこやか保健室 依頼/佐々木部長同行
2017/5/31 STKテクノロジー青崎工場	**腰痛予防体操：講師** 洲上祐亮（OT） すこやか保健室 依頼
2017/6/17 森町公民館	**森町健康教室（前期）** 洲上祐亮（OT）/谷口理恵（OT） 東陽地域包括支援センター 依頼
2017/6/19 森町団地公民館	**第2回森町コスモスサロン健脚度測定** 洲上祐亮（OT） 東陽地域包括支援センター　依頼
2017/6/23 古国府東自治公民館	**古国府地区サロン 健康教室：講師** 橋本　卓（PT） 古国府東老人クラブ睦会　秋吉会長より依頼/佐々木部長同行
2017/7/27 丹生公民館	**丹生地区サロン 健康教室：講師** 保田由来子（PT） 丹生サロンより依頼/淵野保健師同行
2017/9/5 花園公民館	**花園地区サロン 健康教室：講師** 保田由来子（PT） 花園サロンより依頼/淵野保健師同行

開催年月・場所	講師・サロン活動名・活動実施者
2017/9/10 別府B-Conプラザ 中会議室	**大分県訪問リハ・通所リハ研究会第21回研修会：座長** 橋本　卓（PT） 大分県訪問リハ・通所リハ研究会より依頼
2017/10/14 高田公民館	**在宅医療と介護に関する市民講演会：講師** 橋本　卓（PT） 大分市長寿福祉課　依頼
2017/10/19～21 久留米シティプラザ	**リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米2017：座長** 谷口理恵（OT）
2017/10/21 久留米シティプラザ	**リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米2017：座長** 橋本　卓（PT）
2017/11/11 森町公民館	**森町健康教室（後期）** 谷口理恵（OT）／洪　泰英（PT） 東陽地域包括支援センター 依頼
2017/11/14 ケアマンションはなぞの 6F	**大在地区サロン 健康教室：講師** 橋本　卓（PT） 大在地域包括支援センター 越智さんより依頼／淵野保健師同行
2017/11/22 角子原公民館	**角子原公民館サロン** 谷口理恵（OT） GH 衛藤師長より依頼
2018/1/29 関門公民館	**関門公民館 ヘルス&トーク ボッチャ大会** 洲上祐亮（OT） 東陽地域包括支援センター 依頼

4）資格取得

取得日	資格名・資格取得者名
2017/7/28	**介護支援専門員** 洲上祐亮
2017/8/1	**認定訪問療法士** 橋本　卓
2017/8/14	**認知症ライフパートナー検定2級** 松田和也
2017/8/14	**認知症ライフパートナー検定2級** 谷口理恵
2018/3/3	**上級救命救急講習修了** 洲上祐亮
2018/3/26	**防災士** 洲上祐亮

在宅支援クリニック　すばる

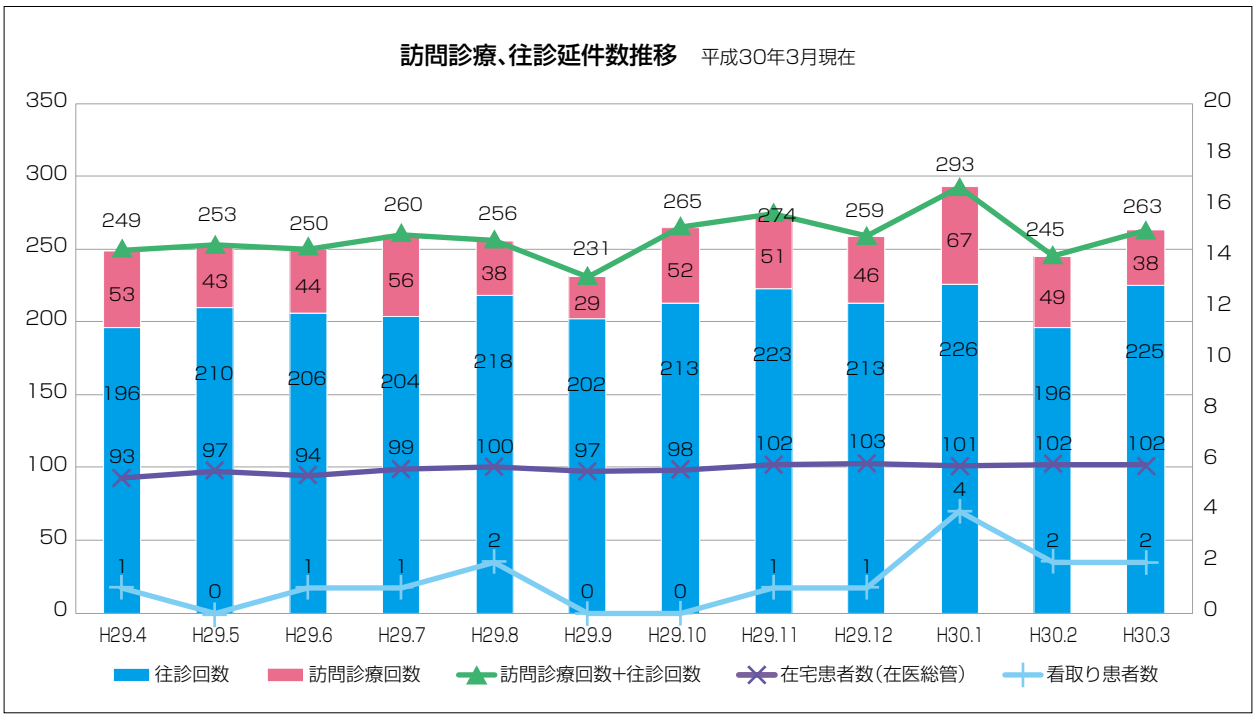
1 統　計

指標管理

項　目		H29.4	H29.5	H29.6	H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3	合計・平均
外来	外来延患者（人）	330	324	323	315	326	289	339	335	330	360	303	303	3,877
	1日平均患者（人）	14	14	12	13	13	12	14	14	13	14	12	13	13
	在宅患者（人）	93	97	94	99	100	97	98	102	103	101	102	102	99
	※在宅患者のうち重症者	26	23	21	19	20	20	22	24	21	22	19	22	22
	初診数（人）	9	12	2	8	5	6	9	4	8	7	9	5	84
	初診のうち新患数（人）	5	2	0	0	1	2	1	0	1	2	0	3	17

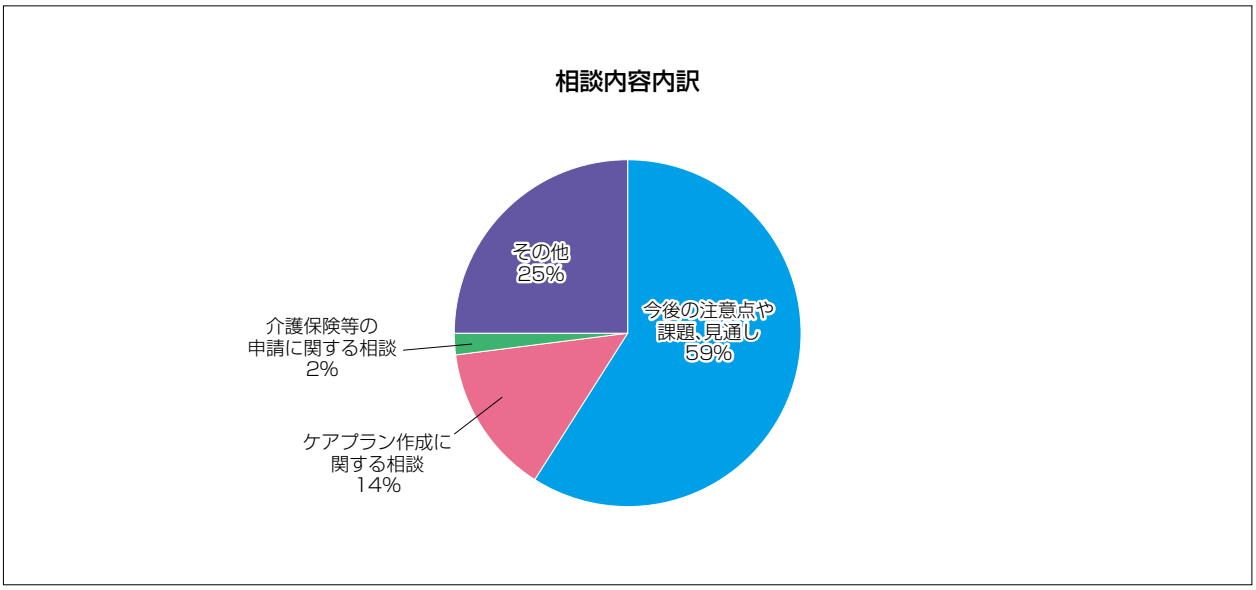
項　目		H29.4	H29.5	H29.6	H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3	合計・平均
主要項目	訪問診療回数	196	210	206	204	218	202	213	223	213	226	196	225	2,532
	往診回数	53	43	44	56	38	29	52	51	46	67	49	38	566
	訪問診療回数+往診回数	249	253	250	260	256	231	265	274	259	293	245	263	3,098
	在宅患者数(在医総管)	93	97	94	99	100	97	98	102	103	101	102	102	平均　99
	増患数（在宅）	5	8	3	9	5	4	4	5	8	2	7	8	68
	脱落者（在宅）	6	4	6	4	4	7	3	1	7	4	6	8	60
	看取り患者数	1	0	1	1	2	0	0	1	1	4	2	2	15
	重症者の割合　※	28%	24%	22%	19%	20%	21%	22%	24%	20%	22%	19%	22%	平均　22%
	在宅患者診療単価/日	24,888	22,319	22,720	23,935	25,082	24,549	24,372	24,562	25,176	24,445	26,288	24,803	平均 24,428

※　重症者（次のような状態又は処置を実施していること）
状態：末期の悪性腫瘍、指定難病、後天性免疫不全症候群、脊椎損傷、スモン、真皮を超える褥瘡
処置：人工呼吸器の使用、気管切開の管理、気管カニューレ使用、ドレーンチューブの使用、留置カテーテルの使用、人工肛門・人工膀胱の管理、在宅自己腹膜灌流の実施、在宅血液透析の実施、酸素療法の実施、在宅中心静脈栄養の実施、在宅成分栄養経管栄養法の実施、在宅自己導尿の実施、植込み型脳・脊髄電気刺激による管理、携帯型輸液ポンプによるプロスタグランジンＩ2製剤の投与



患者構成	
自宅患者	29%
施設入所患者	71%

ケアマネ意見交換会開催状況	H29.4	H29.5	H29.6	H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	H30.3	合計・平均
開催数	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	15
ケアマネ参加者数	7	7	5	3	2	2	2	3	1	5	2	3	42
相談件数（相談対象患者数）	12	7	6	4	2	2	2	3	1	5	2	3	49



2　在宅支援クリニック すばる　活動報告

すばる塾開催状況

開校の目的

・施設入所患者は増加する一方で、介護職の医療的知識を教育する研修の場所が少ない。
敬和会ヘルスケアリンク及び地域包括への貢献として寺子屋的研修の場を提供、平成29年７月に開校した。

講義内容

講義内容は開催前のアンケートの多数意見を反映、講師陣は敬和会スタッフで開催。

	講義内容	講師
第１回	看取りを通して考える医療と介護の倫理	在宅支援クリニックすばる 院長　姫野浩毅
第２回	高齢者によく見られる症状の観察ポイント （循環器・呼吸器・脳神経）	大分豊寿苑訪問看護ステーション 看護師長　安部寿美
第３回	高齢者によく見られる症状の観察ポイント （消化器・泌尿器・整形）	在宅支援クリニックすばる 看護師　佐藤辰枝
第４回	栄養管理	大分岡病院　管理栄養士 長尾智己
第５回	看取りケア	大分豊寿苑訪問看護ステーション 看護師　河野まどか

参加状況（H29年7月～平成30年3月）

参加者職種	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	合計
ヘルパー資格	6	6	3	3	4	22
介護福祉士	15	12	11	11	13	62
看護師	8	4	6	1	4	23
実務経験者	1	1	1	0	1	4
生活相談員	1	1	2	0	0	4
ケアマネ	0	0	0	0	1	1
作業療法士	0	0	0	0	1	1
その他	2	1	1	3	1	8
合　計	33	25	24	18	25	125

講義に対するアンケート

1　研修内容は分かりやすかったですか

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	合計	構成
①とても理解できた	11	8	12	4	5	40	39%
②理解できた	19	16	7	4	7	53	51%
③やや理解できた	2	0	5	0	0	7	7%
④どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0%
⑤あまり理解できなかった	0	2	0	1	0	3	3%
⑥理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0%
⑦全く理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0%
回答数	32	26	24	9	12	103	

2　あなたの今後の活動に役に立ちますか

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	合計	構成
①とても役に立つ	16	6	16	4	9	51	49%
②役に立つ	15	18	9	4	2	48	46%
③やや役に立つ	2	2	0	1	1	6	6%
④どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0%
⑤あまり役に立たない	0	0	0	0	0	0	0%
⑥役に立たない	0	0	0	0	0	0	0%
⑦全く役に立たない	0	0	0	0	0	0	0%
回答数	33	26	25	9	12	105	

佐 伯 保 養 院

2017年４月から2018年３月までの診療実績を報告します。

1 外来実績

外来延べ患者数 …… 12,586人
１日平均外来数 …… 41.1人
新患数（年間） …… 307人

2 入院実績

入院延べ患者数 …… 62,423人
１日平均患者数 …… 171人
病床稼働率 …… 95.1％
平均在院日数 …… 572.7日
新入院数（年間） …… 105人
新退院数（年間） …… 112人
在宅復帰率（年間） ……75％

今後もご指導ご鞭撻をお願いします。

資　　料

第１２回 敬和会合同学会

学会テーマ：「together」－地域とともに－

開 催 日 時　平成29年９月10日（日）

開 催 場 所　コンパルホール 1F 文化ホール

口演演題

第１部　9：05～9：55

座長：大分リハビリテーション病院 看護部長　後藤美貴代、大分岡病院 放射線課 次長　小川　　淳

	演　題　名	所　属　部　署	発　表　者
1	敗血症における抗菌薬投与開始までの時間と医療従事者の意識についての検討	大分岡病院 薬剤部・感染対策室	遠山　泰崇
2	失禁がなくオムツを着用している入所者へのオムツ外し	大分豊寿苑 リハビリテーション課	児玉　貴雅
3	マンモグラフィーと乳腺エコーの併用について	大分リハビリテーション病院 放射線課	佐藤　里奈
4	最新MRIソフトQISS（非造影下肢血管撮影）について（患者さん第一のより良い検査をめざして）	大分岡病院 放射線課	松崎　祐介
5	大分リハビリテーション病院 職員健診における二次検診受診率の経過報告	大分リハビリテーション病院 敬和会健診センター	高橋　あゆ
6	認知症患者に対する回想法の効果 ～活動性の高まりがあった事例～	佐伯保養院 診療支援部	甲斐みゆき
7	大分岡病院入院患者の口腔の問題点とその対応について	大分岡病院 口腔顎顔面外科・矯正歯科	藤田　峰子

第２部　10：10～10：55

座長：訪問看護ステーション 在宅事業管理部長　佐々木真理子、大分岡病院 総合リハビリテーション課 課長　大塚未来子

	演　題　名	所　属　部　署	発　表　者
1	退院支援看護師の取り組み	大分岡病院 看護部　４病棟	藤江　郁代
2	在宅復帰支援の更なる強化に向けた療養棟の取り組み	大分豊寿苑 療養棟	五十嵐竜二
3	視覚障がいのある高齢者へのケア	大分リハビリテーション病院 西病棟	太田　宏樹
4	介護福祉士国家試験合格に向けて ～私の夢の実現へ～	大分豊寿苑 療養棟	ｶｻﾌﾞｴﾅ･ｼﾞｮﾍﾞﾘﾝ･ﾗﾏﾀﾞ
5	クリニカルパスの効果的な運用について	大分岡病院 看護部　４病棟	森　由佳里 山口　莉央
6	五感に響け ～伝えたい それぞれの想い～	大分豊寿苑 陽だまりの郷 みなはる	小間　和美

ポスター演題

【大分岡病院】

	演　題　名	所　属　部　署	発　表　者
1	排尿自立指導から見えた学び	看護部　4病棟	西川　悦子
2	診療看護師が係わる慢性創傷（褥創）治療	看護部 外来	松　　久美
3	CK活性値とCK-MB活性値が逆転する症例	検査課	志賀　若菜

【大分豊寿苑】

	演　題　名	所　属　部　署	発　表　者
4	終末期ケアにおける訪問看護師と 有料施設スタッフの連携を考える	訪問看護ステーション	二ノ宮明穂
5	通所リハビリ大規模事業所での 自立を支援する環境づくりへの取り組み	支援相談室	甲斐　若菜
6	老健の営業を考える	支援相談室	吉岡真理子
7	下剤に頼らない排便ケアを目指して	栄養部	吉良　明代

【大分リハビリテーション病院】

	演　題　名	所　属　部　署	発　表　者
8	短期間に転倒転落した事例を振り返って ～心理的視点からの一考察～	東病棟	古庄　美鈴 石上　真由
9	ポリファーマシーに対する取り組み	薬剤部	岡崎　　愛
10	下部尿路機能と外出機会について	リハビリテーション部	安部　美咲
11	電子カルテ導入による内視鏡センターと 健診センターの連携の見直し	消化器外来	大西　勇紀

【佐伯保養院】

	演　題　名	所　属　部　署	発　表　者
12	佐伯保養院における SST（社会生活技能訓練）の取り組み	B・C病棟	増永さおり 高橋賀代子 安藤留美子

社会医療法人敬和会　2017年度事業報告書

発行日：2018年11月30日

発行所：社会医療法人敬和会　学術・研究統括センター
〒870-0192 大分県大分市西鶴崎３-７-11
Tel.097-522-3131

印　刷：有限会社中央印刷
〒870-0025 大分県大分市顕徳町２丁目２-38
Tel.097-532-3805